四国横断自動車道建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第二十二冊

川西北・七条II遺跡
川西北・鍛冶屋遺跡

1996.3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日本道路公団

四国横断自動車道建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第二十二冊

川西北・七条II遺跡
川西北・鍛冶屋遺跡

1996.3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日本道路公団

序　　文

四国横断自動車道は，高松～善通寺間が平成４年５月に開通しました。これにより，瀬戸大橋と香川県の高速道路が結ばれることになり，香川県は本格的な高速交通時代を迎えることになりました。

香川県教育委員会では，四国横断自動車道（高松～善通寺間）の建設に伴い，昭和63年度から財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して，用地内の埋蔵文化財の発掘調査を行ってまいりました。３年６か月の期間を要して28遺跡の発掘調査を実施し，平成３年９月に発掘調査を終了いたしました。また，平成３年度からは同センターにおきまして発掘調査の出土品の整理を順次行っているところであり，平成４年度からは発掘調査報告書の刊行を開始いたしております。

このたび「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第二十二冊」として刊行いたしますのは，丸亀市川西町に所在します川西北・七条II遺跡および川西北・鍛冶屋遺跡についてであります。川西北・七条II遺跡の調査では，中世の建物跡や条里型地割に関連する溝跡が検出され，また，川西北・鍛冶屋遺跡の調査では，旧石器のほか弥生時代以降の遺構や遺物が検出されています。これらの調査資料は，この地域の成り立ちを解明していく基準資料になるものと考えられます。

本報告書が，本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間，日本道路公団及び関係機関並びに地元関係各位には多大の御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに，今後ともよろしく御支援賜りますようにお願い申し上げます。

平成８年３月

香川県教育委員会

教育長　　田　中　壮　一　郎

例　　言

1．本報告書は，四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第二十二冊で，香川県丸亀市川西町北字七条に所在する川西北・七条II遺跡（かわにしきたしちじょうIIいせき）と丸亀市川西町北字山の側・鍛冶屋に所在する川西北・鍛冶屋遺跡（かわにしきたかじやいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会が日本道路公団から委託され，香川県教育委員会が調査主体，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

川西北・七条II遺跡

予備調査　期間　昭和63年11月

担当　金丸真明，大谷伸一，山下平重，森下英治，岡野順

本 調 査　期間　平成元年2月2日～平成元年3月31日

担当　片桐孝浩，中野昇一，大前智司

川西北・鍛冶屋遺跡

予備調査　期間　昭和63年11月

担当　金丸真明，大谷伸一，山下平重，森下英治，岡野順

本 調 査　期間　平成元年4月10日～平成元年8月11日

担当　藤川善規，大谷伸一，和田素子，山下平重，香川敏美，片山恭子

4．調査にあたって，下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同，敬称略）

香川県土木部横断道対策室，善通寺土木事務所横断道対策課，丸亀市土木部高速自動車道担当，四国横断自動車道建設丸亀市川西地区対策協議会，各地元自治会

5．本報告書の作成は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

本報告書の執筆・編集は片桐孝浩，山下平重が担当した。

6．報告書の作成にあたっては，下記の方々の御教示を得た。記して謝意を表したい。
堺市立埋蔵文化財センター　白神典之・續伸一郎，明石市立文化博物館　山下俊郎・稲原昭嘉

7．本報告書で用いる方位の北は，国土座標系第Ⅳ系の北であり，標高はT．P．を基準としている。

また，遺構は下記の略号により表示している。

SB	掘立柱建物跡	SD	溝状遺構	SE	井戸	SK	土坑
SP	柱穴	SR	河川跡	SX	不明遺構		

8．川西北・鍛冶屋遺跡出土の土器及び陶磁器については，遺物番号の横に産地及び種類を以下のように表示した。ただし，表示のないものは弥生土器，土師器及び土師器系の土器である。

須	須恵器	黒	黒色土器	黒A	黒色土器A類	瓦	瓦器
瓦質	瓦質土器	緑	緑釉陶器	亀	亀山焼	備	備前焼
唐	唐津焼	京	京焼風陶器	陶	陶器	青	青磁
白	白磁	染	染付	磁	磁器	色	色絵
鉄	鉄釉	灰	灰釉	青緑	青緑釉	褐	褐釉
天	天目釉						

また，石器実測図の網目及び輪郭線回りの実線は摩滅痕を，輪郭線の回りの点線は潰れ痕を表す。剥離面のうち，濃く黒く塗り潰したものは現代の欠損によるものであることを，また淡く黒く塗り潰したものは現代よりは古い剥離面であるが，他の剥離面に比べると新しい剥離面であることを示す。

9．挿図の一部に国土地理院地形図　丸亀（1／25,000）及び丸亀市都市計画図を使用した。

本 文 目 次

第１章　調査の経緯
第１節　調査にいたる経過 …… 1
第２節　調査の経過 …… 5

第２章　立地と環境
第１節　地理的環境 …… 9
第２節　歴史的環境 …… 9

第３章　川西北・七条II遺跡の調査の成果
第１節　調査の方法 …… 18
第２節　土層序 …… 18
第３節　遺構と遺物
１。平安時代以降 …… 20
２。包含層出土遺物 …… 53
第４節　川西北・七条II遺跡の調査のまとめ …… 55

第４章　川西北・鍛冶屋遺跡の調査の成果
第１節　調査の方法 …… 78
第２節　土層序 …… 78
第３節　遺構と遺物
1　弥生時代以前 …… 83
2　弥生時代 …… 85
3　古墳時代終末 …… 85
4　平安時代 …… 99
5　鎌倉時代 …… 103
6　近世以降 …… 105
7　時期不明遺構 …… 130

8　包含層出土の遺物 ……132
第4節　川西北・鍛冶屋遺跡の調査のまとめ
1　遺構の変遷 ……135
2　川西北・鍛冶屋遺跡周辺の条里型地割について ……136

挿 図 目 次

第１章

第１図　四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地（高松～善通寺）　……　2

第２章

第１図　遺跡位置図 (1)　……　11

第２図　遺跡位置図 (2)（１／5,000）　……　12

第３図　周辺の遺跡（１／25,000）　……　13

第３章

第１図　Ｉ区西半土層断面図　……　18

第２図　遺跡位置図　……　19

第３図　ＳＢ01出土遺物実測図　……　20

第４図　ＳＢ01平・断面図　……　21・22

第５図　ＳＢ02平・断面図　……　21・22

第６図　ＳＴ01平・断面図　……　23

第７図　ＳＫ01平面図　……　24

第８図　ＳＫ01出土遺物実測図　……　24

第９図　ＳＤ01出土遺物実測図　……　25

第10図　ＳＢ01周辺平面図　……　26

第11図　ＳＤ04・05・06土層断面図　……　28

第12図　ＳＤ04出土遺物実測図　……　28

第13図　ＳＤ05出土遺物実測図①　……　29

第14図　ＳＤ05出土遺物実測図②　……　30

第15図　ＳＢ07平・断面図　……　33・34

第16図　ＳＤ07上層出土遺物実測図①　……　35

第17図　ＳＤ07上層出土遺物実測図②　……　36

第18図　ＳＤ07上層出土遺物実測図③　……　37

第19図　ＳＤ07上層出土遺物実測図④　……　38

第20図　ＳＤ07上層出土遺物実測図⑤　……　39

第21図　ＳＤ07上層出土遺物実測図⑥　……　40

第22図　ＳＤ07上層出土遺物実測図⑦ …… 41
第23図　ＳＤ07下層出土遺物実測図 …… 43
第24図　ＳＤ09土層断面図 …… 44
第25図　ＳＤ09出土遺物実測図 …… 44
第26図　ＳＤ10土層断面図 …… 45
第27図　ＳＤ11土層断面図 …… 45
第28図　ＳＤ11出土遺物実測図 …… 45
第29図　ＳＤ13出土遺物実測図 …… 46
第30図　ＳＤ13土層断面図 …… 47
第31図　ＳＤ14土層断面図 …… 48
第32図　ＳＤ14上・中層出土遺物実測図 …… 49
第33図　ＳＤ14下層出土遺物実測図① …… 50
第34図　ＳＤ14下層出土遺物実測図② …… 51
第35図　ＳＤ14下層出土遺物実測図③ …… 52
第36図　包含層出土遺物実測図 …… 53

第４章

第１図　調査区名図(1/2,000) …… 78
第２図　Ⅰ区北壁断面図(1/80) …… 79
第３図　Ⅱ区北壁断面図(1/80) …… 80
第４図　Ⅲ区北壁断面図(1/80) …… 81
第５図　Ⅳ区北壁断面図(1/80) …… 82
第６図　Ⅲ区③サヌカイト剝片出土位置図(1/100) …… 83
第７図　Ⅲ区③出土サヌカイト剝片(1/2) …… 84
第８図　弥生時代溝跡断面図(1/40) …… 86
第９図　弥生時代溝跡断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) …… 87
第10図　ＳＤ61・62出土石器(1/2) …… 88
第11図　ＳＸ01断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 89・90
第12図　ＳＸ01出土土器・木器(1/4)及び石器(1/2) …… 91
第13図　ＳＤ13断面図(1/40) …… 92
第14図　ＳＤ22断面図(1/40) …… 92

第15図　ＳＤ40・41出土土器(1/4)及び石器(1/2) …… 92
第16図　ＳＤ20・25・27・29・31断面図(1/40) …… 93
第17図　ＳＤ36・37・38・40・41・44断面図(1/40) …… 94
第18図　ＳＤ47・48断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 95
第19図　ＳＤ55・56断面図(1/40) …… 95
第20図　ＳＤ56断面図(1/40)及びＳＤ55・56出土土器(1/4)・石器(1/2) …… 96
第21図　ＳＤ61・62断面図(1/40) …… 97
第22図　ＳＤ61・62断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) …… 98
第23図　ＳＤ03・06断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) …… 100
第24図　ＳＤ11断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 101
第25図　ＳＤ11・12出土土器(1/4)及び石器(1/2) …… 102
第26図　ＳＤ12断面図(1/40)及び出土石器(1/2) …… 102
第27図　ＳＢ01平・断面図(1/100) …… 103
第28図　ＳＢ02平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4) …… 103
第29図　ＳＤ70断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) …… 104
第30図　ＳＢ03平・断面図(1/100) …… 105
第31図　ＳＢ04・05・06平・断面図(1/100)及び出土石器(1/2) …… 106
第32図　ＳＫ01平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 107
第33図　ＳＫ02平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 108
第34図　ＳＫ03平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4・1/10) …… 109
第35図　ＳＫ04・05平・断面図(1/40) …… 110
第36図　ＳＫ06平・断面図(1/40) …… 111
第37図　ＳＫ12断面図(1/40) …… 111
第38図　ＳＫ13平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 111
第39図　ＳＫ14平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4・1/10) …… 112
第40図　ＳＫ15平・断面図(1/40) …… 112
第41図　ＳＫ16・17平・断面図(1/40)及び出土土器(1/10) …… 112
第42図　ＳＫ18平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 113
第43図　ＳＫ19平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 114
第44図　ＳＫ21平・断面図(1/40) …… 114

第45図　ＳＫ22出土土器(1/4) …… 115
第46図　ＳＫ24平・断面図(1/40) …… 116
第47図　ＳＫ25・26平・断面図(1/40) …… 116
第48図　ＳＫ27・28・30平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 117
第49図　ＳＥ01出土土器(1/4) …… 118
第50図　ＳＥ02出土土器(1/4) …… 118
第51図　ＳＸ02平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 119
第52図　ＳＤ01・02断面図(1/40)及びＳＤ01出土土器(1/4) …… 120
第53図　ＳＤ01出土土器(1/4) …… 121
第54図　ＳＤ01・02出土土器(1/4)及び石器(1/2) …… 122
第55図　ＳＤ66・69断面図(1/40)及びＳＤ66出土土器(1/4) …… 124
第56図　ＳＤ66出土土器及び瓦(1/4) …… 125
第57図　ＳＤ66出土瓦(1/4)及び石器(1/2) …… 126
第58図　ＳＤ66出土石器(1/2) …… 127
第59図　ＳＤ69出土土器及び瓦(1/4) …… 128
第60図　ＳＲ01断面図(1/40)及び出土土器(1/4)・鉄器(1/2) …… 129
第61図　ＳＫ07平・断面図(1/40) …… 130
第62図　ＳＫ08平・断面図(1/40) …… 130
第63図　ＳＫ09平・断面図(1/40) …… 130
第64図　ＳＫ10平・断面図(1/40) …… 131
第65図　ＳＫ11平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4) …… 131
第66図　ＳＫ20平・断面図(1/40) …… 131
第67図　ＳＫ23断面図(1/40) …… 132
第68図　ＳＫ29平・断面図(1/40) …… 132
第69図　包含層出土土器(1/4)及び石器(1/2) …… 133
第70図　包含層出土石器(1/2) …… 134
第71図　弥生時代以前，弥生時代及び古墳時代終末の遺構配置図(1/1,000)　137・138
第72図　平安時代及び鎌倉時代の遺構配置図(1/1,000) …… 139・140
第73図　江戸時代以降の遺構配置図(1/1,000) …… 141・142
第74図　条里型地割図（１／2,500） …… 143

表　目　次

第１章

第１表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要 (1) …… 3

第２表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要 (2) …… 4

第３表　発掘調査及び整理作業の体制 …… 6

第２章

第１表　周辺の遺跡一覧表 (1) …… 14

第２表　周辺の遺跡一覧表 (2) …… 15

第３表　周辺の遺跡関連文献一覧表 (1) …… 16

第４表　周辺の遺跡関連文献一覧表 (2) …… 17

第３章

川西北・七条II遺跡

遺物観察表 (1)～(21) …… 56～76

遺構観察表 …… 77

第４章

川西北・鍛冶屋遺跡

遺物観察表

土器観察表 (1)～(14) …… 145～158

瓦観察表 …… 159

石器観察表 (1)～(3) …… 160～162

鉄器観察表 …… 162

木器観察表 …… 162

土坑一覧表 …… 163

遺構出土遺物一覧表 (1)～(3) …… 164・165

図 版 目 次

川西北・七条II遺跡

図版１　(1)調査区全景（西より）
　　(2)調査区全景（南より）
図版２　(1)II区ＳＢ01・ＳＴ01検出状況（南より）
　　(2)II区ＳＢ01柱穴遺物出土状況①
　　(3)II区ＳＢ01柱穴遺物出土状況②
図版３　(1)Ｉ区遺構検出状況（真上より）
　　(2)II区ＳＴ01検出状況（南より）
図版４　(1)Ｉ区ＳＫ01出土状況
　　(2)II区ＳＤ05馬骨出土状況
図版５　(1)II区ＳＤ07検出状況（北より）
　　(2)II区ＳＤ07検出状況（南より）
図版６　(1)II区ＳＤ07検出状況（近景）
　　(2)II区ＳＤ07検出状況（北より）
図版７　(1)II区ＳＤ07検出状況（北より）
　　(2)II区ＳＤ07土層断面
図版８　(1)Ｉ区遺構検出状況（南より）
　　(2)Ｉ区ＳＤ11土層断面
図版９　(1)Ｉ区ＳＤ13土層断面
　　(2)Ｉ区ＳＤ14土層断面
図版10　(1)Ｉ区ＳＤ14検出状況（近景）
図版11　ＳＢ01出土遺物
図版12　ＳＤ01出土遺物
図版13　ＳＤ04出土遺物
図版14　(1)ＳＤ04出土遺物
　　(2)ＳＤ05出土遺物
図版15　ＳＤ05出土遺物
図版16　ＳＤ07上層出土遺物①
図版17　ＳＤ07上層出土遺物②
図版18　ＳＤ07上層出土遺物③
図版19　ＳＤ07上層出土遺物④
図版20　ＳＤ07上層出土遺物⑤
図版21　ＳＤ07上層出土遺物⑥
図版22　ＳＤ07上層出土遺物⑦
図版23　(1)ＳＤ07下層出土遺物
　　(2)ＳＤ11出土遺物
　　(3)ＳＤ13出土遺物
図版24　ＳＤ14上・下層出土遺物
図版25　包含層出土遺物

川西北・鍛冶屋遺跡

図版１　調査前全景　西から，調査前全景　東から
図版２　Ｉ区①全景　東から，Ｉ区②北半空中写真
図版３　Ｉ区②北半全景　東から，Ｉ区②南半空中写真
図版４　Ｉ区②南半全景　北から，II区①空中写真
図版５　II区①全景　西から，II区②③空中写真
図版６　II区②全景　西から，II区②③全景　南西から

図版７　II区②③全景　南西から，II区③全景　南から

図版８　III区①空中写真，III区①全景　東から

図版９　III区②空中写真，III区②全景　東から

図版10　III区③全景　東から，Ⅳ区①空中写真

図版11　Ⅳ区①全景　西から，Ⅳ区②全景　北から

図版12　III区③サヌカイト剝片出土調査区　南から，ＳＤ05完掘　南西から

図版13　ＳＤ50・54完掘　南から，ＳＤ50・59完掘　南から

図版14　ＳＤ64完掘　北東から，ＳＸ01　南から

図版15　II区③溝群　北から，III区①溝群　南から

図版16　ＳＤ61・62完掘　北から，ＳＤ03完掘　西から

図版17　ＳＤ06完掘　東から，ＳＤ03・06完掘　西から

図版18　ＳＤ11完掘　南から，ＳＤ12完掘　南から

図版19　ＳＢ02完掘　東から，Ⅳ区②掘立柱建物群　西から

図版20　Ａ１　ＳＫ01断面　東から，Ａ１　ＳＫ02断面　北から

図版21　Ｂ１　ＳＫ03断面　北から，Ｃ５　ＳＫ04・05完掘　東から

図版22　Ｃ５　ＳＫ06断面　西から，Ｇ14　ＳＫ13断面　北から

図版23　Ｇ14　ＳＫ14断面　東から，Ｇ14　ＳＫ16・17断面　北から

図版24　Ｇ14　ＳＫ18断面　南から，Ｇ14　ＳＫ19断面　北から

図版25　Ｇ14　ＳＫ19礫出土状況　北から　Ｉ14　ＳＫ21遺物出土状況　南から

図版26　Ｈ15　ＳＫ25・26断面　北から，Ｈ15　ＳＫ27・28・30断面　北から

図版27　ＳＥ01　北から，ＳＥ02完掘　東から

図版28　ＳＤ66石組　東から，ＳＤ69・72完掘　南から

図版29　Ⅳ区①ＳＤ69石組　南から，ＳＲ01断面　北から

図版30　Ｂ６　ＳＫ07断面　北東から，Ｅ６ＳＫ09断面　北から

図版31　Ｈ14　ＳＫ20断面　北から

図版32　ＳＸ01出土土器
ＳＸ01，ＳＤ13，ＳＤ22出土土器
ＳＤ55出土土器

図版33　ＳＸ01出土土器
ＳＤ55出土土器
ＳＤ56出土土器

図版34　ＳＤ56出土土器
ＳＤ62出土土器
ＳＤ11出土土器

図版35　ＳＤ11出土土器
ＳＤ70出土土器
ＳＤ66出土土器
図版36　ＳＤ66出土土器
包含層出土土器
土錘
接合資料
図版37　Ⅲ区③出土　サヌカイト剝片(1)
図版38　Ⅲ区③出土　サヌカイト剝片(2)
図版39　石鏃
図版40　石鏃・石斧・スクレイパー
図版41　スクレイパー
図版42　横長剝片
図版43　チャート製石器
図版44　大陸系磨製石器
図版45　砥石(1)
図版46　砥石(2)
図版47　ＳＫ01～03出土陶磁器
ＳＫ13・14・19出土陶磁器
ＳＫ18出土陶磁器(1)
ＳＫ18出土陶磁器(2)
図版48　ＳＫ22出土陶器
ＳＫ22出土磁器
ＳＫ22・27出土備前焼
ＳＥ01・02出土陶磁器
図版49　ＳＸ02出土陶磁器
ＳＤ01出土陶器(1)
ＳＤ01出土陶器(2)
ＳＤ01白磁・青磁・青磁染付
図版50　ＳＤ01出土染付碗(1)
ＳＤ01出土染付碗(2)
ＳＤ01出土染付皿
ＳＤ02出土陶器
図版51　ＳＤ02出土磁器
ＳＤ66出土陶器
ＳＤ66出土陶磁器
ＳＤ69出土陶磁器
図版52　ＳＲ01出土陶磁器
包含層出土中国陶磁器
緑釉陶器

付　　図

川西北・七条Ⅱ遺跡

付図　川西北・七条Ⅱ遺跡遺構配置図（１／250）

川西北・鍛冶屋遺跡

付図１　川西北・鍛冶屋遺跡Ⅰ・Ⅱ区遺構配置図（１／250）

付図２　川西北・鍛冶屋遺跡Ⅲ・Ⅳ区遺構配置図（１／250）

第１章　調査の経緯

第１節　調査にいたる経過

四国横断自動車道高松～善通寺間の建設は，同善通寺～豊浜間に引き続き，昭和57年１月８日に整備計画決定され，昭和59年11月30日に建設大臣から日本道路公団総裁に対して施工命令が下された。

香川県教育委員会では，この間路線内の埋蔵文化財包蔵地の確認を目的に国庫補助事業として分布調査[1]を実施し，これをもとに調査対象面積を39万㎡余りと判断した。路線内に所在する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては，日本道路公団と文化庁の協議により，基本的には記録保存で対応することが決定した。

香川県教育委員会では，これを受けて香川県の担当課である土木部横断道対策室及び日本道路公団高松建設局高松工事事務所と昭和62年度から調査体制等について協議を開始した。

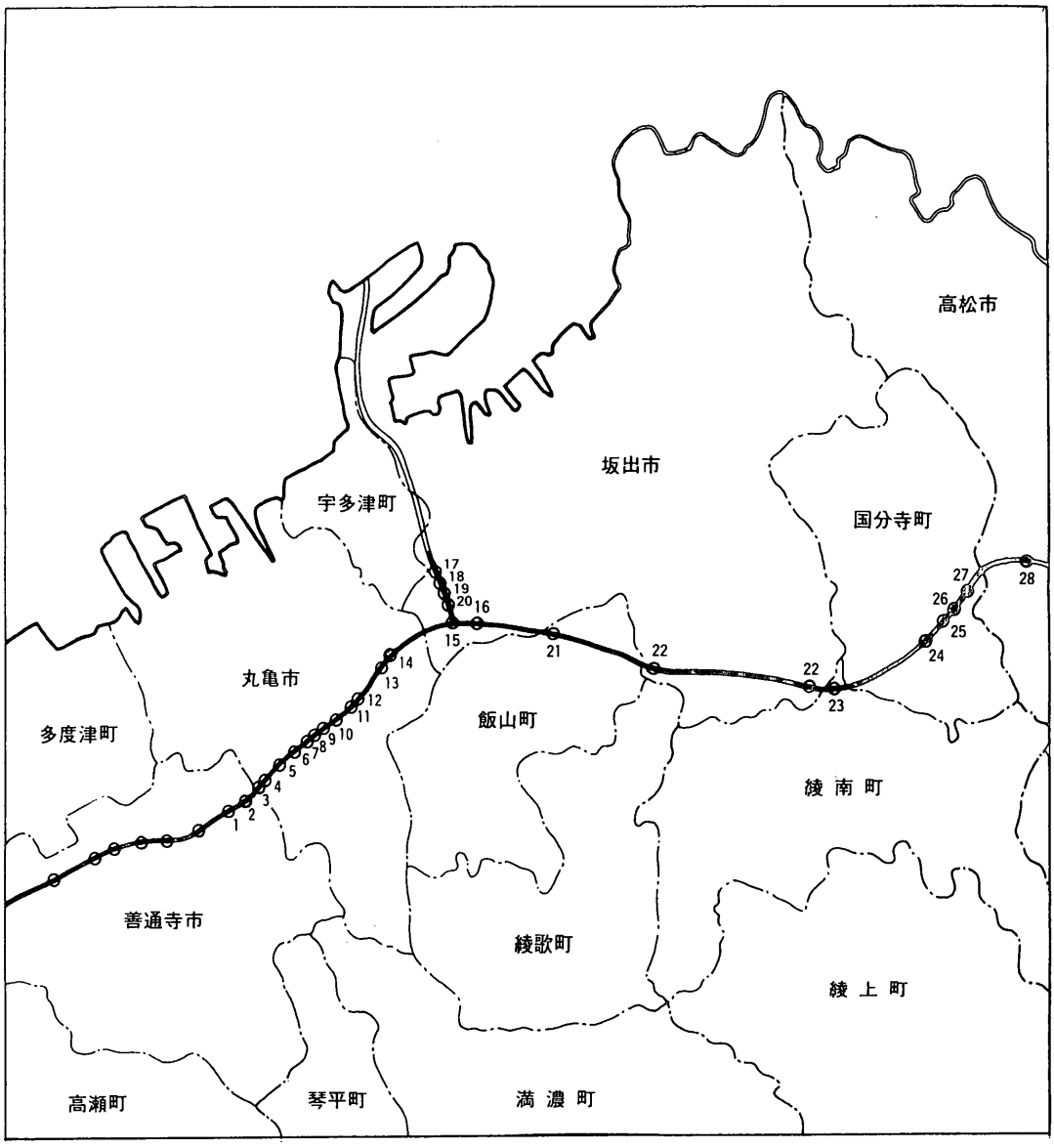
協議の結果，昭和63年度当初から２カ年の予定で本調査を実施すること，整理報告は発掘調査の終了後に実施すること等が決定した。これを受けて香川県教育委員会では調査体制の充実を図ることを目的に，昭和62年11月に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを設置すると同時に，専門職員の増員等の措置を実施した。

昭和63年には，横断道路線内の埋蔵文化財包蔵地の具体的な内容を把握するため，日本道路公団と協議の上，用地買収の進捗にあわせて予備調査を実施した。予備調査の着手に当たっては，地元の四国横断自動車道建設丸亀市川西地区対策協議会，丸亀市土木部高速自動車道担当及び香川県善通寺土木事務所横断道対策課の多大な協力を得た。

予備調査の結果，川西地区で４遺跡の存在を把握することができ，同地区での本調査面積を27,701㎡に確定した。川西北・七条Ⅱ遺跡は調査面積4,760㎡である。調査は平成元年２月２日に着手し，平成元年３月31日に終了した。川西北・鍛冶屋遺跡は調査面積12,208㎡である。調査は平成元年４月10日に着手し，平成元年８月11日に終了した。

註(1)　香川県教育委員会『国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概報』1987

調査は，香川県教育委員会が日本道路公団高松建設局から委託を受け，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施された。



第１図　四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地（高松～善通寺）

第１表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要 (1)

No.	遺　跡　名	所　在　地	調査面積(m²)	調査期間	遺　構	遺　物
1	龍川五条遺跡	善通寺市原田町	12,300 10,200	元．6．26～2．3．31 2．4．9～2．12．5	弥生時代（環濠，竪穴住居，溝），古代溝，中世建物，近世井戸	弥生土器，土師器，須恵器，石器，木製品
2	龍川四条遺跡	善通寺市原田町・木徳町	20,200 1,700 300	元．7．1～2．3．31 2．5．28～2．12．5 3．4．4～3．6．18	古代掘立柱建物，中世建物，溝，土抗墓，自然河川	縄文土器，土師器，須恵器，瓦器，磁器，中世鏡
3	三条番ノ原遺跡	丸亀市三条町中村	12,041 1,300	63．4．18～元．2．10 元．4．10～2．3．31	弥生時代竪穴住居，溝，自然河川	弥生土器ほか
4	三条黒島遺跡	丸亀市三条町黒島	7,677	63．6．15～63．11．26	ユニット，溝，建物	旧石器，弥生土器，陶磁器
5	郡家原遺跡	丸亀市三条町黒島・郡家町原	17,099 2,600	63．4．18～元．3．31 元．4．10～2．3．31	竪穴住居，掘立柱建物，溝	弥生土器，土師器，須恵器，緑釉陶器，斎串ほか
6	郡家一里屋遺跡	丸亀市郡家町八幡上	14,067 6,450	63．4．18～元．3．31 元．4．10～2．3．31	掘立柱建物，溝，自然河川	弥生土器，土師器，須恵器，緑釉陶器，灰釉陶器，有舌尖頭器ほか
7	郡家大林上遺跡	丸亀市郡家町大林上	11,175	63．6．15～元．3．22	掘立柱建物，溝，自然河川	須恵器，斎串ほか
8	郡家田代遺跡	丸亀市郡家町田代	12,741	63．6．15～元．2．17	掘立柱建物，溝，火葬墓	弥生土器，須恵器，近世陶磁器，ナイフ形石器
9	川西北・原遺跡	丸亀市川西町北・原	3,033	63．12．12～元．3．25	掘立柱建物，溝	
10	川西北・七条Ⅰ遺跡	丸亀市川西町北・七条	4,034	63．12．13～元．3．27	溝，自然河川	土師器，須恵器
11	川西北・七条Ⅱ遺跡	丸亀市川西町北・七条	4,760	元．2．2～元．3．31	掘立柱建物，溝	土師器
12	川西北・鍛冶屋遺跡	丸亀市川西町北	12,208	元．4．10～元．8．11	中世掘立柱建物，溝，自然河川	土師器，須恵器，近世陶磁器
13	飯野・東二瓦礫遺跡	丸亀市飯野町東二瓦礫	3,366	63．12．13～元．3．27	掘立柱建物，溝，自然河川	土師器，須恵器
14	飯野・東分山崎南遺跡	丸亀市飯野町	300	2．3．1～2．3．31		
15	川津東山田遺跡	坂出市川津町 飯山町東坂元	28,100 500	2．8．2～3．3．20 3．9．2～3．9．4	弥生時代竪穴住居，古墳時代竪穴住居，柱穴	弥生土器，土師器，須恵器

第2表　四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要 (2)

No.	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間	遺構	遺物
16	川津川西遺跡	坂出市川津町	5,400	2．5．10～3．1．17	古墳時代竪穴住居，古代～中世建物，溝	縄文土器，土師器，須恵器，墨書土器，土馬，耳環
17	川津中塚遺跡	坂出市川津町	15,290 5,700	2．5．10～3．2．28 3．4．4～3．9．13	弥生時代竪穴住居，古代～中世掘立柱建物，溝，土坑，土坑墓	弥生土器，土師器，須恵器，耳環，鉄小刀
18	川津下樋遺跡	坂出市川津町	9,650 200	2．5．10～3．1．31 3．7．1～3．7．16	弥生時代（水田，井堰），溝，自然河川	縄文晩期土器，弥生土器，石器(打製石庖丁ほか)，木製品
19	川津二代取遺跡	坂出市川津町	10,400	2．5．10～3．3．8	弥生時代（溝，自然河川），中世（建物，溝）	弥生土器，土師器，石器
20	川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	35,160 1,350	2．4．12～3．3．28 3．7．18～3．9．27	弥生時代自然河川，弥生時代～古墳時代（竪穴住居，掘立柱建物，土坑），古代～中世（溝，水田）	弥生土器，土師器，須恵器，石器，木製品，帯金具
21	飯山一本松遺跡	飯山町	2,200	元．4．17～元．5．16		弥生土器，土師器，須恵器
22	府中地区	坂出市府中町	3,000	2．10．30～2．12．26	土坑	須恵器
23	綾南奥下池南遺跡	綾南町	2,900	元．5．22～元．7．24	須恵器窯跡	須恵器
24	国分寺下日名代遺跡	国分寺町福家	11,350	元．8．19～2．2．28	弥生時代溝，水田，動物足跡	弥生土器，土師器，須恵器
25	国分寺楠井遺跡	国分寺町福家	4,400	2．4．11～2．10．2	古墳時代横穴式石室，中世窯，建物	土師器，須恵器，瓦質土器，耳環
26	国分寺六ツ目古墳	国分寺町福家	900	元．9．1～元．12．28	前方後円墳（主体部3基）	古式土師器，鉄器
27	国分寺六ツ目遺跡	国分寺町福家	5,600	元．10．1～2．2．28	中近世建物	弥生土器，近世陶磁器，石器
28	中間西井坪遺跡	高松市中間町	11,600 8,680 1,270	元．8．19～2．3．25 2．5．10～3．3．25 3．4．5～3．7．18	旧石器ブロック，弥生時代～近世建物，埴輪焼成土坑，古墳，溝，土坑	弥生土器，土師器，須恵器，埴輪，陶棺，ナイフ形石器，船底形石器

第2節　調査の経過

1　川西北・七条II遺跡の調査の経過

川西北・七条II遺跡の発掘調査は，昭和63年11月に予備調査を行い，本調査は平成元年2月に着手した。調査方式は直営方式である。調査面積4,760m²で，平成元年3月31日に調査を終了した。発掘調査の概要は昭和63年度の概報及び当センター年報[1]で報告している。整理作業は平成6年10月3日から開始し,6カ月の期間をかけて平成7年3月31日に終了した。整理作業の概要は平成6年度の当センター年報[2]で報告している。

2　川西北・鍛冶屋遺跡の調査の経過

川西北・鍛冶屋遺跡の発掘調査は，昭和63年11月に予備調査を行い，本調査は平成元年4月10日に直営方式で着手した。調査は調査員2班体制で行い，平成元年8月11日に終了した。調査面積12,208m²である。発掘調査の概要は平成元年度の概報及び当センター年報[3]で報告している。

整理作業は平成6年8月1日から開始し,8カ月の期間をかけて平成7年3月31日に終了した。整理作業の概要は平成6年度の当センター年報[2]で報告している。

3　発掘調査及び整理作業の体制

第3表のとおり。

註(1)香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団高松建設局『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　昭和63年度』1989
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　1988年度』1989

(2)財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成6年度』1995

(3)香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団高松建設局『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　平成元年度』1990
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成元年度』1990

第3表　発掘調査及び整理作業の体制

香川県教育委員会文化行政課			
	昭和63年度	平成元年度	平成6年度
総括	課長　廣瀬和孝 課長補佐　高木尚 副主幹　野網朝二郎 (6．1～)	課長　太田彰一 課長補佐　高木尚 副主幹　野網朝二郎	課長　高木尚 主幹　小原克己 課長補佐　高木一義 係長　源田和幸
総務	係長　宮谷昌之 (～5．31) 係長　宮内憲生 (6．1～) 主事　横田秀幸 (6．1～) 主事　水本久美子	係長　宮内憲生 主事　横田秀幸 主事　水本久美子	主任主事　櫻木新士 (～5．31) 主査　星加宏明 (6．1～) 主事　藤原和子 (～5．31) 主事　高倉秀子 (6．1～)
埋蔵文化財調査	係長　大山真充 主任技師　安藤清和 技師　國木健司	係長　大山真充 技師　岩橋孝 技師　國木健司	係長　藤好史郎 主任技師　國木健司 主任技師　森下英治
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
総括	所長　田丸秀明 次長　小原克己	所長　十川泉 次長　安藤道雄	所長　松本豊胤 次長　真鍋隆幸
総務	係長(総務)　加藤正司 主査　山地修 (6．1～) 主事　三宅浩司	係長(総務)　加藤正司 主査(土木)　山地修 主事　三宅浩司	参事(土木)　別枝善昭 係長(総務)　土井茂樹 (～5．31) 係長(総務)　前田和也 (6．1～) 主査　西村厚二
調査	参事　見勢護 文化財専門員　真鍋昌宏 技師　片桐孝浩 調査技術員　大前智司	参事　見勢護 文化財専門員　真鍋昌宏 技師　藤川善規 技師　大谷伸一 技師　和田素子 技師　山下平重 調査技術員　香川敏美 調査技術員　片山恭子	係長　廣瀬常雄 文化財専門員　片桐孝浩 主任技師　山下平重

川西北・七条II遺跡の調査に携わった方々は以下のとおりである。

発掘調査

現場整理作業員　白峰澄江

現場事務員　　大井由紀子

現場作業員

山路頼

岡祐子，加地琴美，木下シズ，黒川フジエ，佐藤文美，高木ノブエ，中居シズエ，橋詰ヒサ子，平池真知子，前堀磯江，松井美智子，松本チエ子，水澤チエコ，山地ミドリ，山本ユキエ

整理作業

整理補助員　　岡崎江伊子，中野優美，山地真理子

整理作業員　　市川孝子，小林里美，大西沙和美，水谷葉子

川西北・鍛冶屋遺跡の調査に携わった方々は以下のとおりである。

発掘調査

現場整理作業員　香川福恵，白峰澄江

現場事務員　　大井由紀子

現場作業員

植田愛次郎，大西智，大西武，大西信夫，河西哲生，黒川実，進藤豊，瀬川皐月，高岸春雄，谷数夫，佃甚太郎，辻郷政明，土井末弘，冨田広武，奈良保男，沼野正一，野保和義，長谷川正幸，濱岡岩夫，福本正道，藤井勝，藤村親雄，分木信行，真鍋森雪，三村旺，宮下優，宮武吉栄，六車肇，森井和夫，山路頼，山下和信，山下和博，横井等

氏家恵美子，大林チエ子，岡裕子，岡崎キヨコ，加地琴美，唐住和子，川北綾子，北村シヲリ，木下シズ，黒川フジエ，小林クニ子，小林巳代子，佐藤文美，

佐藤紀江，高木ノブエ，中居シズエ，中村八重子，西川アキノ，橋詰ヒサ子，平池真智子，平畑ユキエ，廣瀬サエ子，福家スエミ，藤井悦子，堀家静子，前掘磯江，松井美智子，松田君子，松本チエ子，丸岡富士子，水澤チエ子，山地カズエ，山地フジ子，山地ミドリ，山下初代，山下博子，山下千代子，山本ユキエ，由佐久子，吉井絢子，吉岡愛子，吉川和子

整理作業

整理補助員　　葛西薫，小畑三千代，香川明美

整理作業員　　谷純子，藤野麻理，鈴木奈穂子

第２章　立地と環境

第１節　　地理的環境（第１～３図参照）

川西北・七条II遺跡及び川西北・鍛冶屋遺跡は土器川の左岸に位置する。調査地周辺は昭和39年頃に土地区画整理が行われているものの，昭和37年に撮影された空中写真[1]を見れば，現在の地形とほぼ同じ条里型の地割が見られる。現在の標高は14m前後である。調査前の土地利用は水田であった。

第２節　　歴史的環境（第３図参照）

旧石器時代

遺構が検出された遺跡は現在のところ無い。石器が採集されているのみである。郡家田代遺跡と飯野山西斜面の登山道ではナイフ形石器が出土している。川西北・七条Ｉ遺跡及び川西北・鍛冶屋遺跡では旧石器時代と考えられるサヌカイトの剝片が出土している。また飯野山南斜面の坂元神社遺跡でも遺物の出土が知られている。

縄文時代

この地区では縄文時代の遺跡・遺物はほとんど知られていない。わずかに郡家一里屋遺跡において有舌尖頭器が出土しているのみである。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡は西又遺跡と川津元結木遺跡がある。いずれも溝跡が検出されているのみである。また川西北・鍛冶屋遺跡では当時期のものと考えられる磨製石庖丁が出土している。弥生時代中期の遺跡は郡家一里屋遺跡，川西北・七条Ｉ遺跡，飯野・東二瓦礫遺跡，飯野山山頂遺跡及び西又遺跡がある。郡家一里屋遺跡と飯野・東二瓦礫遺跡では溝

註(1)建設省国土地理院　ＳＩ－62－４　Ｃ９Ａ－９による。

跡が検出されているが，川西北・七条Ⅰ遺跡と飯野山山頂遺跡では土器の出土が知られているのみである。西又遺跡は前期から続く環濠集落とされている。弥生時代後期の遺跡は川津元結木遺跡，郡家一里屋遺跡，郡家大林上遺跡及び川西北・七条Ⅰ遺跡があるが，竪穴住居跡が検出されているのは川津元結木遺跡のみである。

古墳時代

古墳時代前期の遺物は郡家田代遺跡で出土している。中期の遺物は，飯野・東二瓦礫遺跡で須恵器の高杯が出土している。後期になると郡家一里屋遺跡では掘立柱建物跡が検出され，川津元結木遺跡では竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が検出されている。このほか郡家田代遺跡，川西北・七条Ⅰ遺跡，川西北・鍛冶屋遺跡，飯野・東二瓦礫遺跡でも遺構・遺物がわずかに検出されている。飯野・東二瓦礫遺跡の水田跡はこの時期と考えられる。

古墳は青ノ山山麓と飯野山山麓に分布している。青ノ山山麓の吉岡神社古墳は香川県の代表的な前期の前方後円墳である。近年発掘調査が行われている。飯野山山麓には前期と考えられる箱式石棺が分布するとされている。そのうち南麓の国持古墳からは変形神獣鏡や鍍金勾玉などが出土している。後期古墳は青ノ山山麓の古墳の調査が行われているが，飯野山山麓の古墳については実態は不明である。また青ノ山山麓の古墳に須恵器を供給した窯跡も同山麓に存在する。

奈良時代

郡家一里屋遺跡で掘立柱建物跡が検出されている。郡家町重元には郡衙跡が比定されているが実態は不明である。郡家田代遺跡では奈良時代の火葬墓が検出されている。川西北・七条Ⅰ遺跡では川跡から当時期と考えられる木製品の掛矢が出土している。

平安時代

川西北・七条Ⅱ遺跡及び川西北・鍛冶屋遺跡では，当時期に埋没したと考えられる溝跡が検出されている。中には推定条里地割の坪界にほぼ一致する溝跡もある。

鎌倉・室町時代

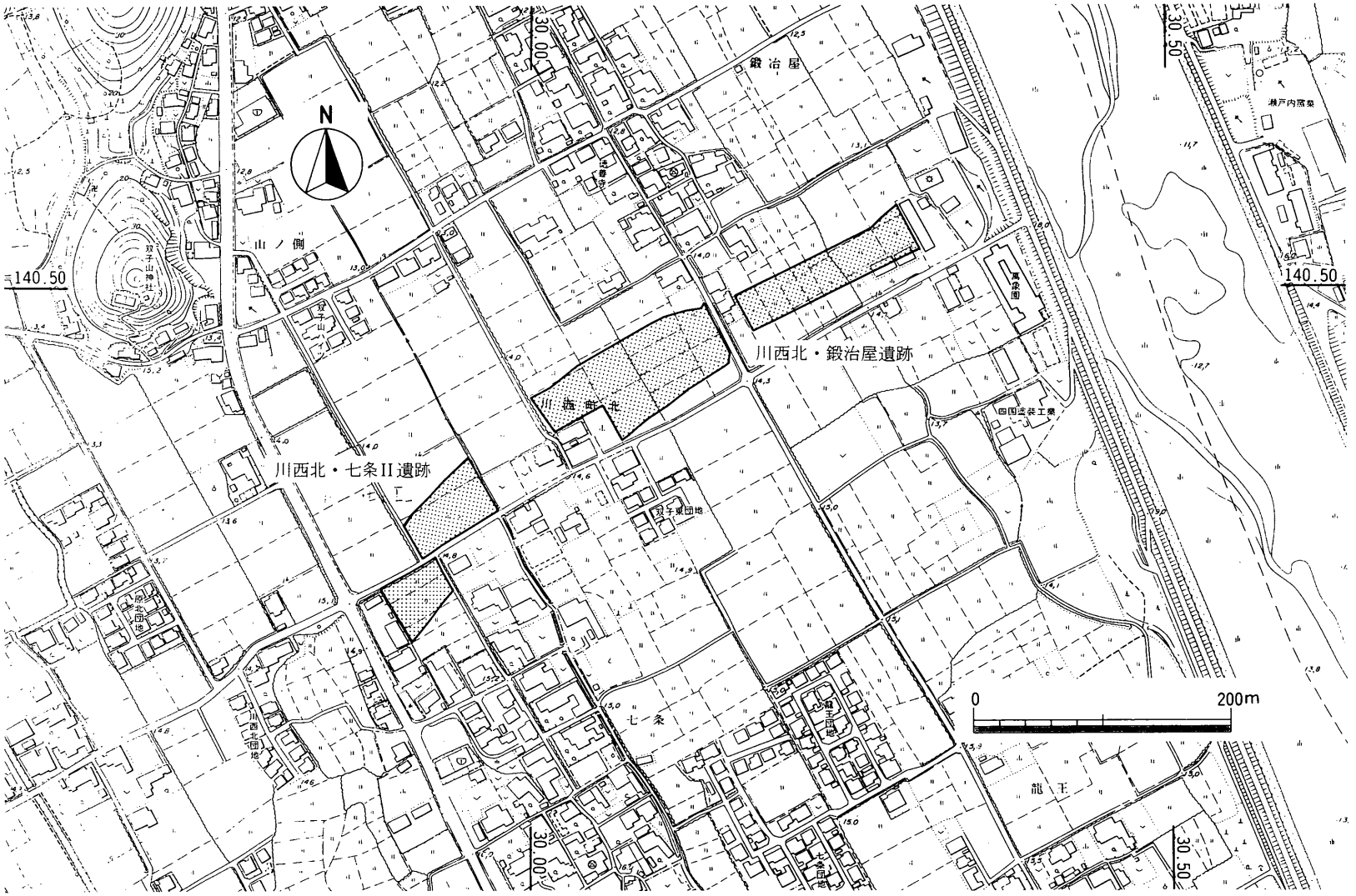
飯野・東二瓦礫遺跡では当時期の溝で囲まれた屋敷跡が検出されている。川西北・七条Ⅱ遺跡で屋敷墓，掘立柱建物跡及び溝跡が，川津元結木遺跡では掘立柱建物跡群が検出さ

れている。その他，郡家一里屋遺跡，川西北・七条Ⅰ遺跡及び川西北・鍛冶屋遺跡では溝跡が検出されている。

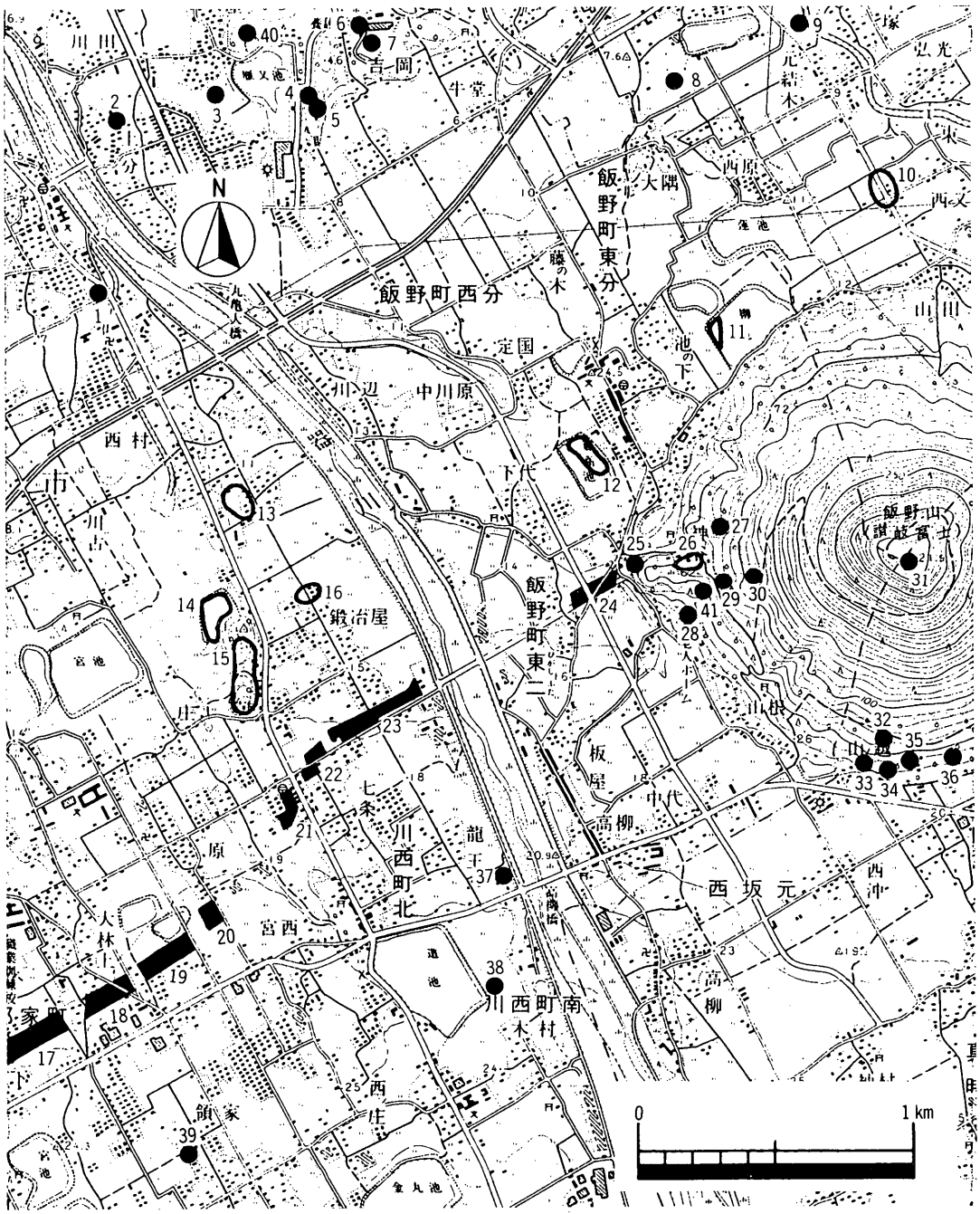
近世以降

郡家大林上遺跡では掘立柱建物跡と廃棄土坑が検出されている。郡家一里屋遺跡では掘立柱建物跡のほかに水溜用と考えられる土坑が多数検出されている。水溜用と考えられる土坑は発掘調査の行われた遺跡の大部分で検出されているが，郡家田代遺跡では石組の堀が検出されている。

第１図　遺跡位置図(1)



第2図　遺跡位置図(2)（1／5,000）



2　青ノ山城跡
3　青ノ山２号窯跡
5　吉岡神社古墳
6　青ノ山７号墳（竜塚）
8　野津古墳
9　川津元結木遺跡
10　西又遺跡
17　郡家一里屋遺跡
18　郡家大林上遺跡
19　郡家田代遺跡
20　川西北・原遺跡
21　川西北・七条Ⅰ遺跡
22　川西北・七条Ⅱ遺跡
23　川西北・鍛冶屋遺跡
24　飯野・東二瓦礫遺跡
25　飯野・東分山崎南遺跡
30　飯野山登山道
31　飯野山山頂遺跡
32　坂元神社西古墳群２号墳
33　坂元神社西古墳群１号墳
34　坂元神社西古墳群３号墳
35　坂元神社遺跡
36　国持（塚）古墳（伝鷲住王墓）
37　和泉屋敷跡
38　行者塚古墳
39　那珂郡衙跡
40　青ノ山古墳群南麓支群３号

第３図　周辺の遺跡（１／25,000）

第１表　周辺の遺跡一覧表 (1)

遺跡番号	遺　跡　名	種　別	所　在　地	概　要	文　献
1		古墳	丸亀市土器町高津	消滅。埴輪，高杯など出土	11,12,24
2	青ノ山城跡	城跡	丸亀市土器町上分	生駒家の家臣，尾池玄蕃の居城	2,11,12,23,25,26
3	青ノ山２号窯跡	窯跡	丸亀市土器町掛樋	窯壁，須恵器出土。本来の位置ではない。	3
4		箱式石棺			3,4,12
5	吉岡神社古墳	前方後円墳	丸亀市飯野町	竪穴式石室。筒形銅器，銅鏃出土。	1,2,3,4,5,6,8,10,11,12,13,18,19,23,24,26,29
6	青ノ山７号墳（竜塚）	古墳	丸亀市飯野町東分字山下599番地の２	横穴式石室。須恵器・土師器・金環出土。	1,3,4,5,11,12,14,15,18,19,24
7				古墳状隆起（消滅）	3,7,12
8	野津古墳	経塚	綾歌郡宇多津町東分		12
9	川津元結木遺跡	集落遺跡	坂出市川津町元結木6394番地他	弥生時代から中世にかけての集落	12,18,19,24,25,28
10	西又遺跡	集落遺跡	坂出市川津町	弥生時代の環濠集落	12,18,19,24,25,28
11		散布地	丸亀市飯野町	石器，石鏃	11,12,18
12		散布地	丸亀市飯野町	弥生時代から中世の土器散布地	11,12,18
13		散布地	丸亀市土器町	弥生土器（後期）	11,12
14		散布地	丸亀市土器町	須恵器散布地	11,12
15		散布地	丸亀市土器町	須恵器，土師器	11,12
16		散布地	丸亀市土器町	須恵器散布地	11,12
17	郡家一里屋遺跡	集落遺跡	丸亀市郡家町八幡下2695番地他	古墳時代から近世までの遺構・遺物	16,17,20,21,25,26,27
18	郡家大林上遺跡	集落遺跡	丸亀市郡家町大林上	古代から近世までの遺構・遺物	16,17,25,26,27,30
19	郡家田代遺跡	集落遺跡	丸亀市郡家町田代	旧石器時代から近世までの遺構・遺物	16,17,25,26,27
20	川西北・原遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・原	中世から近世の遺構・遺物	16,17,25,26,27
21	川西北・七条Ⅰ遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・七条	古代から近世の遺構・遺物	16,17,25,26,27
22	川西北・七条Ⅱ遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・七条	中世から近世の遺構・遺物	16,17,25,26,27
23	川西北・鍛冶屋遺跡	集落遺跡	丸亀市川西町北・山の側，鍛冶屋	弥生時代から中世の遺構・遺物	20,21,25,26,27

第２表　周辺の遺跡一覧表 (2)

遺跡番号	遺　跡　名	種　別	所　在　地	概　要	文　献
24	飯野・東二瓦礫遺跡	集落遺跡	丸亀市飯野町東二字瓦礫，東分字神谷	弥生時代から中世の遺構・遺物	16,17,25
25	飯野・東分山崎南遺跡	古墳	丸亀市飯野町東分字神谷	円筒埴輪出土	
26		古墳	丸亀市飯野町	かつて数基存在。全て消滅。	11,18,24
27		古墳	丸亀市飯野町山崎		2，3，5，11,18,24
28		石棺	丸亀市飯野町	箱式石棺。消滅。	11,18,24
29		古墳	丸亀市飯野町山崎		12,18,24
30	飯野山登山道	散布地	丸亀市飯野町	国府型ナイフ出土	12,13
31	飯野山山頂遺跡	集落遺跡	飯山町東坂元字三ノ池	弥生中期土器	4，9，12,13,14,15,18,25,28,29
32	坂元神社西古墳群２号墳	古墳	飯山町西坂元字山ノ越207	現状で全壊	9，12,13,18,19,24,25
33	坂元神社西古墳群１号墳	古墳	飯山町西坂元字山ノ越207	６世紀末。円墳。横穴式石室。石材散乱全壊。	9，12,13,18,19,24,25
34	坂元神社西古墳群３号墳	古墳	飯山町西坂元字山ノ越	石材が露出しているが自然石かどうか確認できない。	9，12,13,18,19,24,25
35	坂元神社遺跡	散布地	飯山町西坂元字山ノ越	旧石器時代の遺物散布地	12,13
36	国持（塚）古墳（伝鷲住王墓）	古墳	飯山町西坂元字山ノ越	鏡・玉・剣等出土。	6，13,14
37	和泉屋敷跡	館跡	丸亀市川西町北		2，11
38	行者塚古墳	古墳	丸亀市川西町宮ノ前	消滅	2，3，11
39	那珂郡衙跡	郡衙跡	丸亀市郡家町郡家重元		1，2，11,27
40	青ノ山古墳群南麓支群３号	古墳	丸亀市土器町	円墳。昭和58年発見。２石露呈。	11,12,18,24
41		古墳	丸亀市飯野町	石室石材一部露出。竪穴式石室か。	11,12,18

第３表　周辺の遺跡関連文献一覧表 (1)

文献番号	編　著　者	書　名	発　行　者	発行年月日
1	松本敏三	青ノ山６号墳調査報告（香川県埋蔵文化財調査報告　昭和51年度）	丸亀市教育委員会，香川県教育委員会	1977．5．1
2	文化庁文化財保護部	全国遺跡地図　37　香川県	文化庁文化財保護部	1977．5．20
3	伊沢肇一，竹下和男，真鍋昌宏	青ノ山南麓における埋蔵文化財調査概報　－香川県丸亀市飯野町所在の後期古墳と須恵器窯の調査－	丸亀市教育委員会	1980．9．30
4	廣瀬常雄	日本の古代遺跡８　香川	保育社	1983
5	森本義臣	青ノ山宇多津５号墳調査報告	香川県宇多津町教育委員会	1983．3
6	松本敏三，岩橋孝	讃岐青銅器図録	瀬戸内海歴史民俗資料館	1983．3．31
7	松本豊胤，川畑迪，高橋邦彦，六車恵一，森井正	新編香川叢書　考古編	新編香川叢書刊行企画委員会	1983．3．31
8	松本豊胤，大山真充，真鍋昌宏，秋山忠，松本敏三，藤好史郎，廣瀬常雄，伊沢肇一，千葉幸伸，丹羽佑一，大平要	香川の前期古墳	日本考古学協会昭和58年度大会香川県実行委員会	1983．11．1
9	瀬戸内海歴史民俗資料館	「飯野山周辺出土の須恵器(1)」瀬戸内海歴史民俗資料館だより第16号	瀬戸内海歴史民俗資料館	1983．8．31
10	秋山忠	「吉岡神社古墳」香川県埋蔵文化財調査概報	香川県教育委員会	1984．2．29
11	東原輝明	青ノ山８号・９号墳発掘調査概報　－香川県丸亀市青ノ山山頂所在の後期，終末期古墳－	丸亀市教育委員会	1984．3．31
12	大山真充，藤好史郎，松野一博，松原伸二，安藤史郎，坂口淳子，藤田任亮	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報（Ⅶ）下川津遺跡，岡宮古墳，聖通寺城跡	香川県教育委員会，本州四国連絡橋公団	1986．3．31
13	竹下和男	「原始編」飯山町誌	香川県飯山町	1987
14	香川県	香川県史　第十三巻　資料編　考古	香川県	1987．3．31
15	斎藤賢一	「第四章第二節九，土器川流域の古墳」香川県史１　原始・古代	香川県	1988．3．31

第４表　周辺の遺跡関連文献一覧表 (2)

文献番号	編著者	書名	発行者	発行年月日
16	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 1988年度	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	1989．4．1
17	真鍋昌宏	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報昭和63年度	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団高松建設局	1989．9
18	藤好史郎，西村尋文，大久保徹也	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，本州四国連絡橋公団	1990．3
19	國木健司，岩橋孝	香川県埋蔵文化財調査概報集　三反地遺跡，西又遺跡，堂之岡遺跡	香川県教育委員会	1990．3．31
20	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成元年度	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	1990．4．1
21	真鍋昌宏	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成元年度	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団高松建設局	1990．8
22	渡部明夫	「吉岡神社古墳」前方後円墳集成　中国・四国編	株式会社山川出版社	1991．2．25
23	宮崎哲治	県道多度津丸亀線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　道下遺跡	香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	1991．11
24	片桐孝浩	中小河川大束川改修工事（津ノ郷橋～弘光橋間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川津元結木遺跡	香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	1992．1
25	片桐孝浩	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第11冊　三条番ノ原遺跡	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1992．8．31
26	和田素子	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第12冊　郡家一里屋遺跡	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1993．11
27	岡敦憲，真鍋昌宏，山下平重	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第13冊　郡家原遺跡	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1993．11．30
28	西岡達哉，山下平重	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第14冊　川津中塚遺跡	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1994．3．31
29	丸亀市史編さん委員会	新編丸亀市史４　資料編	丸亀市	1994．1
30	廣瀬常雄	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第17冊　郡家大林上遺跡	香川県教育委員会，(財) 香川県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団	1995．3

第３章　川西北・七条II遺跡の調査の成果

第１節　調査の方法

川西北・七条II遺跡の発掘調査は平成元年２月２日から直営方式で開始し，平成元年３月31日に終了した。

発掘調査に先立って当調査区をＩ・II区に分けた（第２図）。

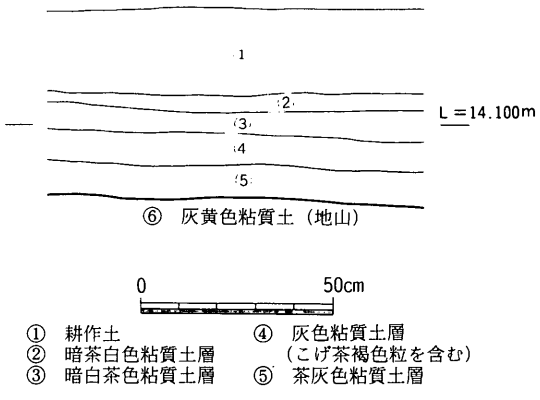
発掘調査は試掘調査の結果を再確認するために試掘調査の行っていない部分に予備調査を実施し，その結果を踏まえ，第Ｉ調査区から順次，調査を実施した。

検出された遺構の平面図化は基本的には航空写真測量を行い，土層および細かい部分については適宜手書きを導入した。

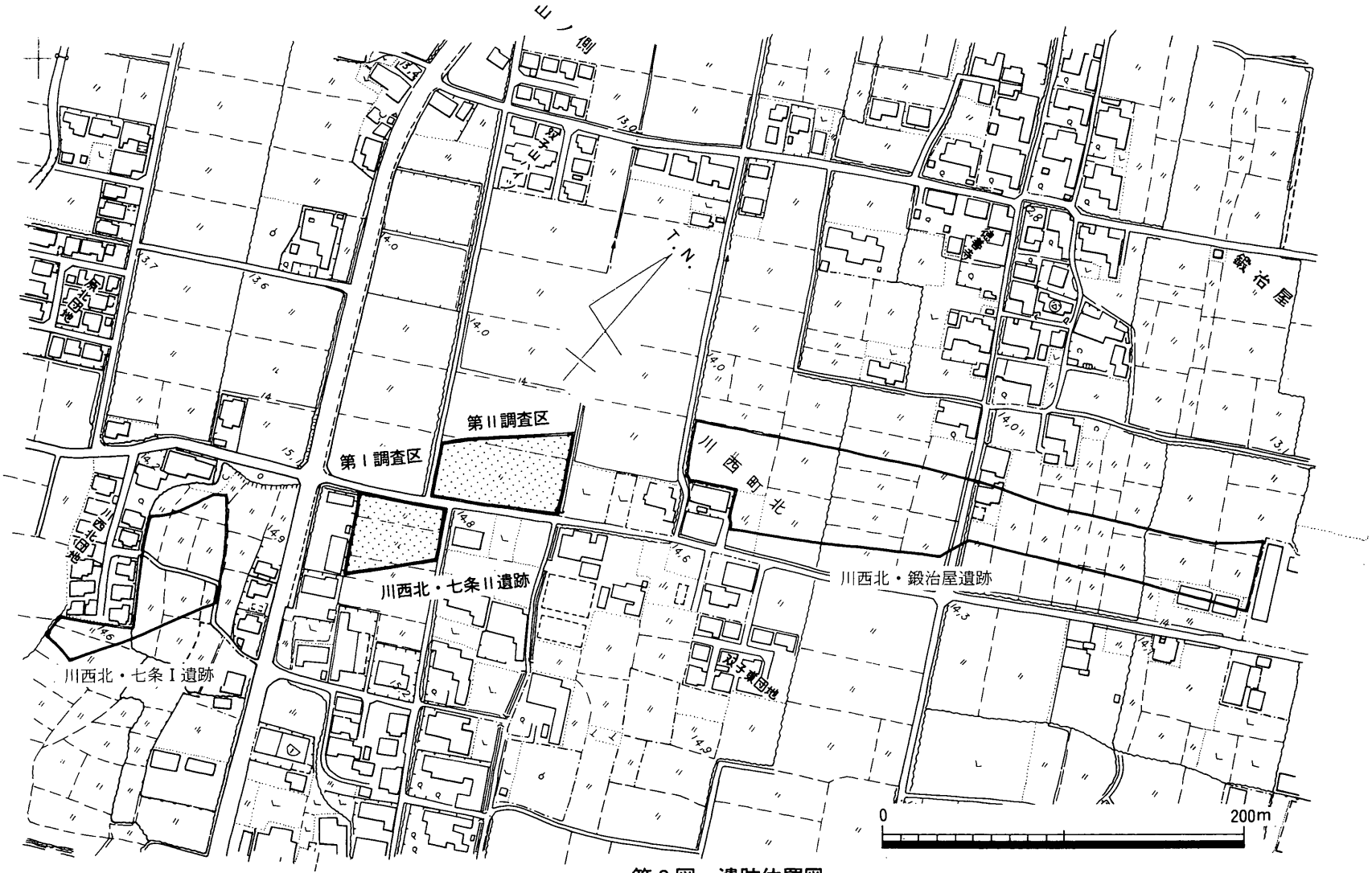
第２節　土層序

川西北・七条II遺跡で検出された遺構は，平安時代以降のもので一部を除きほぼ全面において耕作土直下で遺構が検出された。

遺構検出面上部に包含層が確認できたのは第Ｉ調査区西半である（第１図）。ここの土層は上位から耕作土，暗茶白色粘質土，暗白茶色粘質土，灰色粘質土，茶灰色粘質土とほとんど水平堆積を呈している。耕作土を除く包含層の厚さが約27cm程度あることから，全体にかなりの削平を受けているものと思われる。地山は灰黄色粘質土を主とするもので，調査区全面で確認した。



第１図　Ｉ区西半土層断面図


モノ側
T.N.
第Ⅱ調査区
第Ⅰ調査区
川西町北
川西北・七条Ⅱ遺跡
川西北・鍛冶屋遺跡
川西北・七条Ⅰ遺跡
鍛冶屋
0
200m

第２図　遺跡位置図

第３節　　遺構・遺物

１．平安時代以降

当遺跡第Ⅰ・Ⅱ調査区において検出した遺構は，掘立柱建物２棟，土壙墓１基，土坑１基，溝状遺構14条，柱穴などである。各調査区とも検出した遺構の状況は，かなり希薄なものである。そのなかで溝状遺構は，現在の丸亀平野に残る方格地割の方向および一区画の単位に合致するように検出されており，今後の丸亀平野における方格地割の成立年代や一区画の東西・南北距離などの資料として重要なものと考えられる。

ＳＢ01（第４図）

ＳＢ01は第Ⅱ調査区東部で検出した１×３間（梁間3.94m，桁行6.1m）の掘立柱建物である。建物主軸はＮ－23°－Ｗをとる。全面に縁が付き，北側の東には階段状の施設が付くものと思われる。掘立柱建物周囲には区画溝ＳＤ01（雨落ち溝）を配し，南側の溝の外側には柵列があり，さらに外側に土壙墓（ＳＴ01）が検出されている。また，建物内に土坑が検出されているがＳＢ01との関係は不明である。

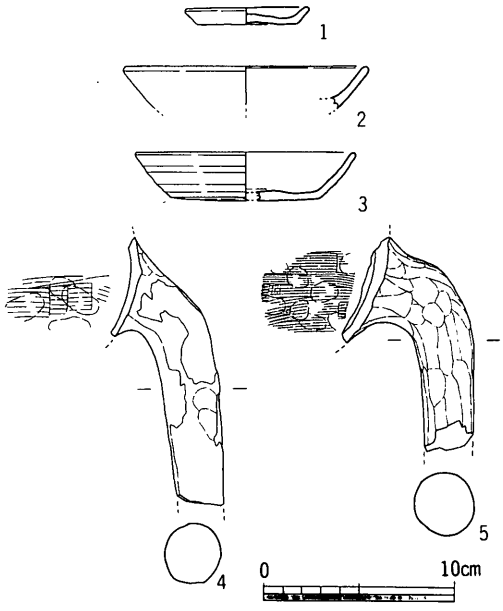
周囲に関連するような掘立柱建物などの遺構はなく，孤立して存在していたものと考えられる。建物南側の土壙墓や周囲に縁を持ち，階段状の施設があることからおそらく「お堂」的な建物と考えられる。

１～５はＳＢ01を構成する柱穴から出土した遺物である（第３図）。

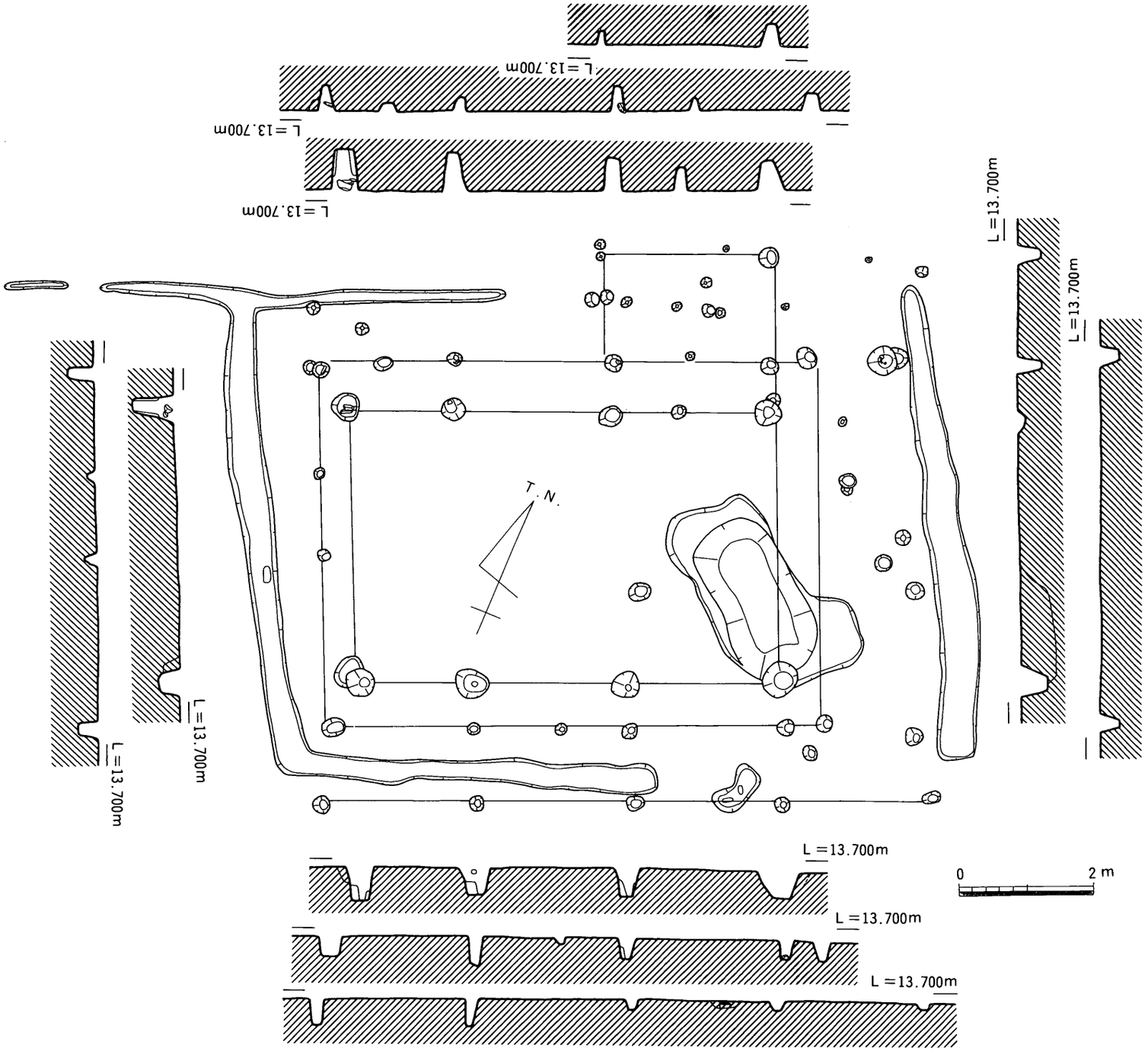
１は土師器小皿である。底部はヘラ切りされている。２・３は土師器坏Ｄである。底部はヘラ切りされている。４・５は土師質土釜脚である。体部内面に横方向の刷毛目が施されている。

時期は中世後半頃と思われる。

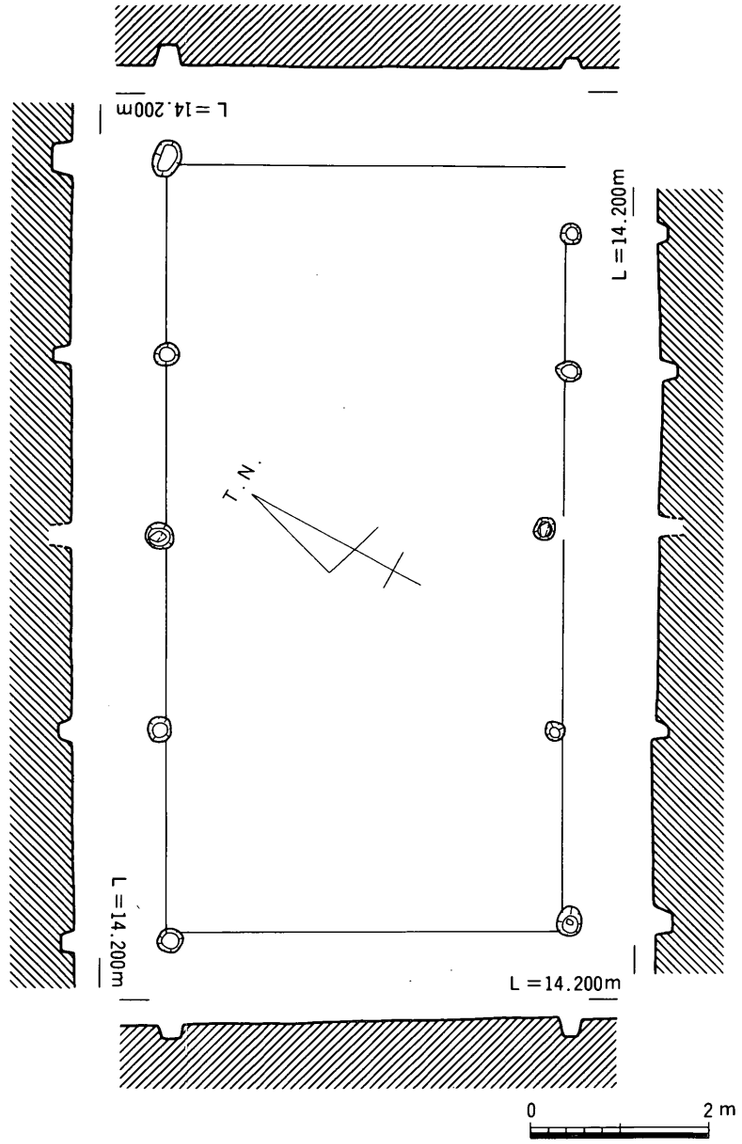
参考文献　片桐孝浩　「古代から中世にかけての土器様相」『川津元結木遺跡』香川県教育委員会　1992



第３図　ＳＢ01出土遺物実測図



第4図　ＳＢ01　平・断面図



第5図　ＳＢ02　平・断面図

ＳＢ02（第５図）

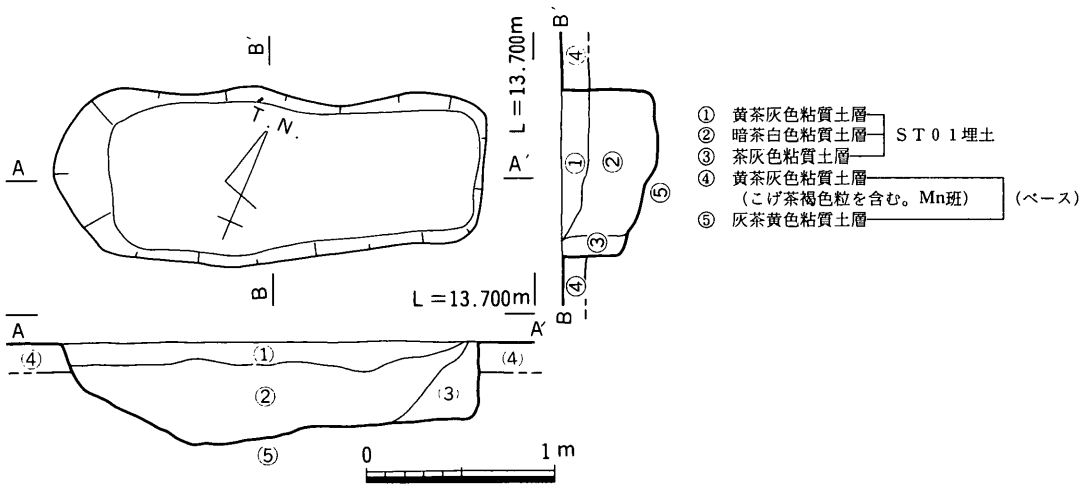
ＳＢ02は第Ｉ調査区西部で検出した１×４間（梁間4.4m，桁行8.6m）の掘立柱建物である。建物主軸はＮ－29°－Ｗをとり，ほぼＳＢ01と同方向である。ＳＤ13埋土上で柱穴を検出したことから，溝埋没後建てられたものである。

柱穴より遺物が出土していないことから時期は不明である。

ＳＴ01（第６図）

ＳＴ01はＳＢ01の南側で検出した平面形態が長方形を呈する土壙墓である。長辺2.29m，短辺0.91m，深さ0.02m を計る。

土壙内より遺物が出土しておらず時期は不明であるが，ＳＢ01に付属するものと考えると同時期の中世後半と考えられる。



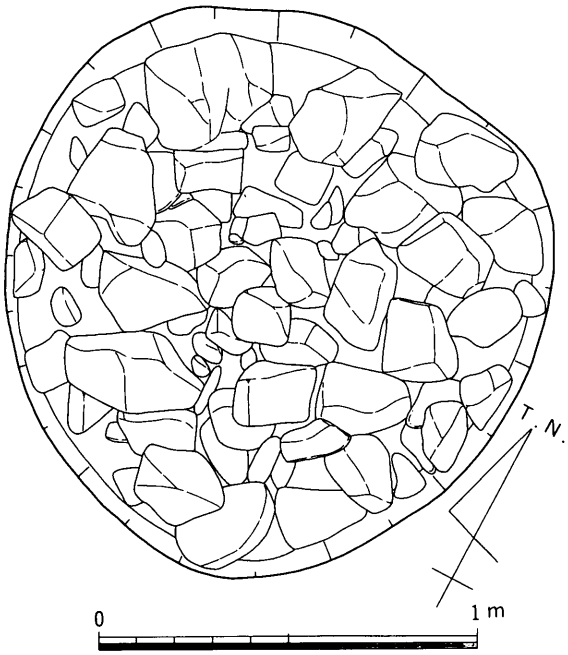
第６図　ＳＴ01　平・断面図

ＳＫ01（第７図）

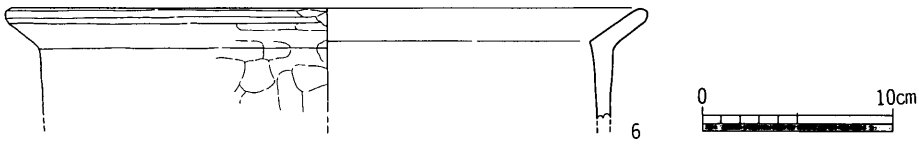
ＳＫ01は第Ｉ調査区西部で検出した土坑である。平面形態が円形を呈するもので，内部には人頭大の礫が詰まった状態で検出された。規模は直径1.43m，深さ0.24m を計る。

６はＳＫ01出土遺物で，土師質土鍋Ａである（第８図）。

時期は，唯一の出土遺物である土師質土鍋Ａからみると古代後半と考えられるが，埋土等の状況から中世の可能性がある。



第７図　ＳＫ01　平面図



第８図　ＳＫ01　出土遺物実測図

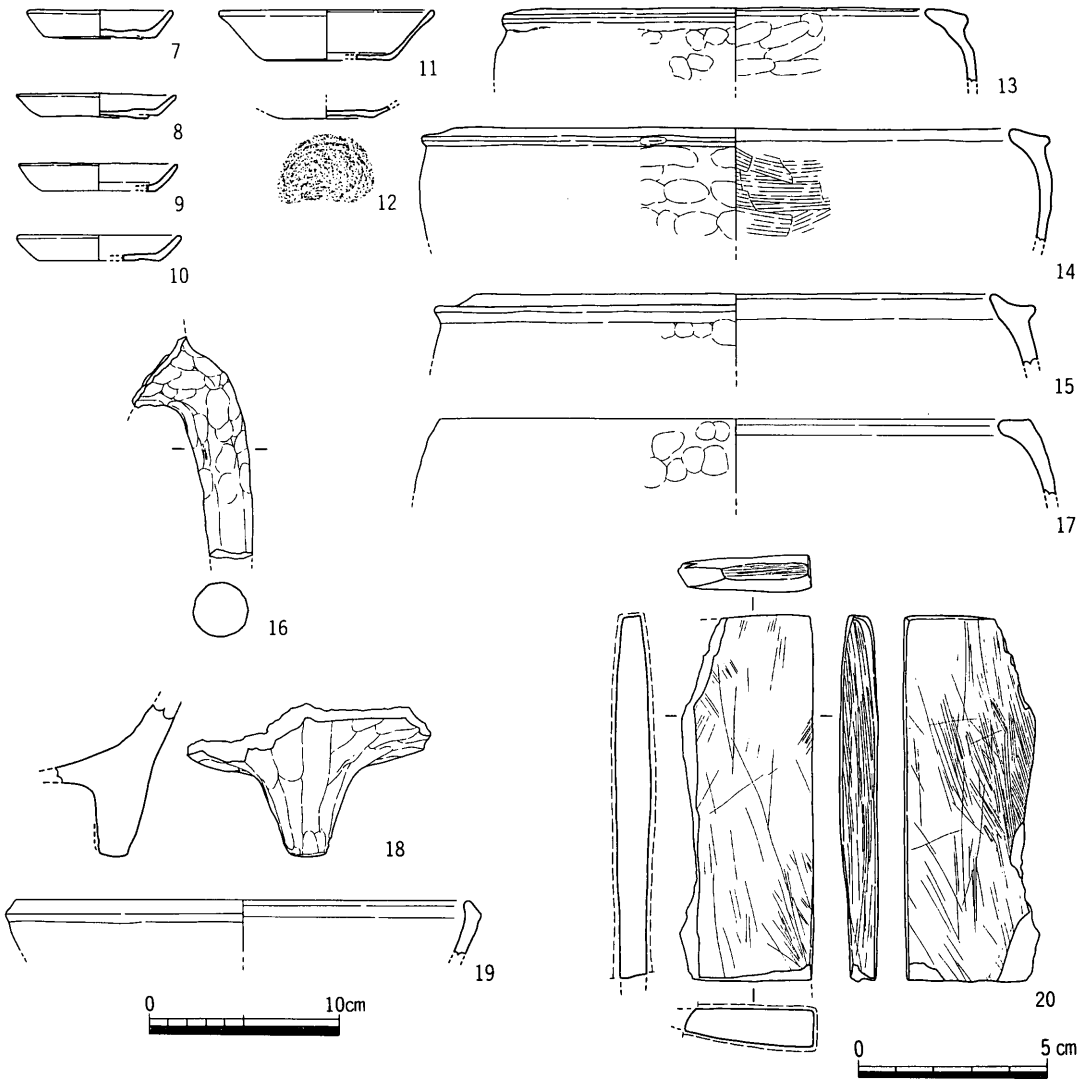
ＳＤ01（第10図）

ＳＤ01は第Ⅱ区調査区東部で検出した溝である。この溝はＳＢ01の東・西側と南・北側の西半分を画するもので，北側の溝は更に西に延び，ＳＤ02と合流する。かなり削平を受けており，検出幅は一定でなく，深さも浅い。規模は天幅約0.46m，深さ約0.08m を計る。

７～20はＳＤ01出土の遺物である（第９図）。

７～10は土師器小皿である。底部は全てヘラ切りである。11・12は土師器坏Ｄである。12は底部回転糸切りである。13～16は土師質土釜Ｂである。鍔は退化した小さいもので，口縁端部の立ち上りも水平に近く内傾している。16は脚である。17は土師質土鍋である。18は土師質甕の脚である。19は土師質すり鉢である。20は泥岩製の砥石である。

時期は中世後半と思われる。

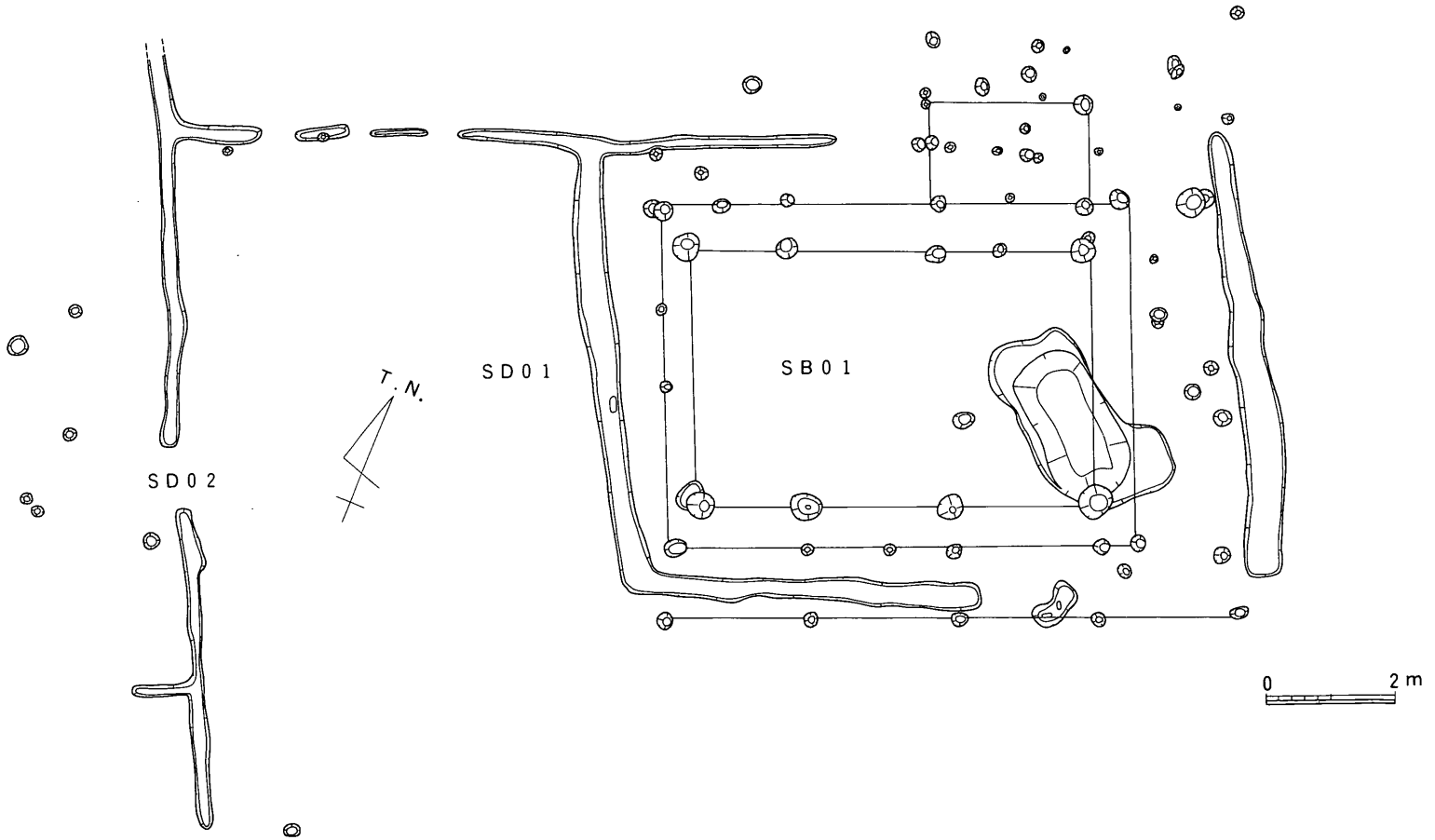


第９図　ＳＤ01出土遺物実測図

ＳＤ02（第10図）

ＳＤ02は第Ⅱ調査区東部で検出した溝である。流路方向はＮ－28°－Ｗを取るものでＳＤ01と直行し，交わる。かなり削平され，残りが悪い。規模は天幅約0.26m，深さ約0.05ｍを計る。

溝内からはほとんど遺物が出土していないが，ＳＤ01と繋がることから時期はＳＤ01と同時期の中世後半と思われる。



第10図　ＳＢ01周辺平面図

ＳＤ03

ＳＤ03は第Ⅱ調査区ほぼ中央部で検出した溝である。規模は天幅約0.8m，深さ約0.05mを計る。流路方向はＮ－30.2°－Ｗをとる。

溝内から遺物が出土していないため時期は不明である。

ＳＤ04（第11図）

ＳＤ04は第Ⅱ調査区西部で検出した溝である。ＳＤ05・06との重複関係がみられ，そのなかで一番新しい溝である。規模は天幅約1.5m，深さ約0.29mを計る。流路方向はＮ－約30°－Ｗをとる。

21～36はＳＤ04出土の遺物である（第12図）。

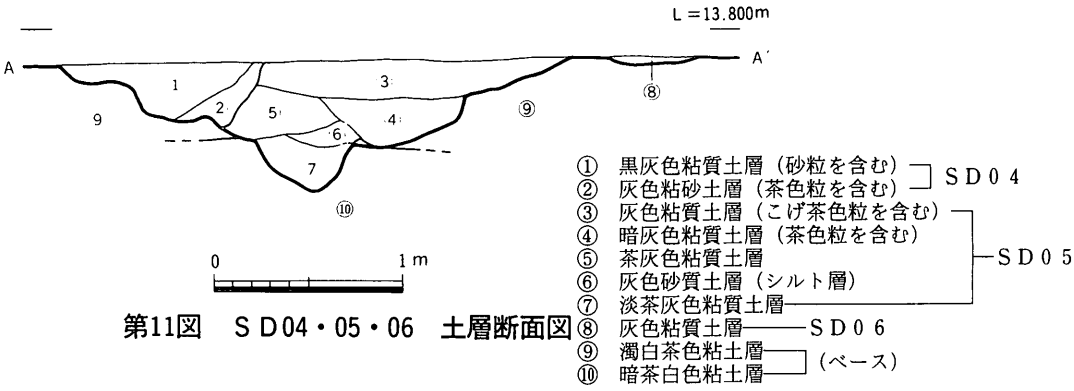
21は伊万里皿である。全面に透明釉が掛かっている。時期は17世紀後半～18世紀前半である。22は伊万里白磁皿である。口縁端部が端反りを呈する。高台畳付け部分が無釉で，内面見込み部は蛇ノ目釉剝ぎされている。23は伊万里色絵皿である。内面の色絵はプリント柄と思われる。時期は明治以降か。24は伊万里染付皿である。高台畳付け部分露胎。内面見込み部に楼閣山水文が描かれている。25～29は伊万里染付碗である。25は外面に雪輪文，内面に四方襷文帯を描く丸形碗である。26は外面を丸文で飾り，その上下を区画する圏線がみられる。28は内面見込み部の釉が掻き取られている。29は体部内外面の上端と下端に圏線が認められる。30は肥前系陶器碗である。京焼風の呉器手である。全面に透明釉が掛かっており，貫入が著しい。時期は17世紀末～18世紀前半頃のものである。31・32は唐津溝縁皿である。内面見込み部分に砂目積みの痕跡が認められる。時期は1600～1630年代に作られたものである。32は底部が碁笥底を呈している。33は陶器甕である。34は美濃焼の水甕である。口縁端部を内方に摘み出している。全面に灰釉が掛けられた施釉陶器で，外面には鉄釉・銅緑釉を流している。体部外面は片切彫された模様が確認できる。時期は19世紀初頭である。35は陶器すり鉢である。内面見込み部から全面に条溝が密に施されている。36は土錘である。紡錘形を呈し，両長辺に溝を有する。

時期は近世である。

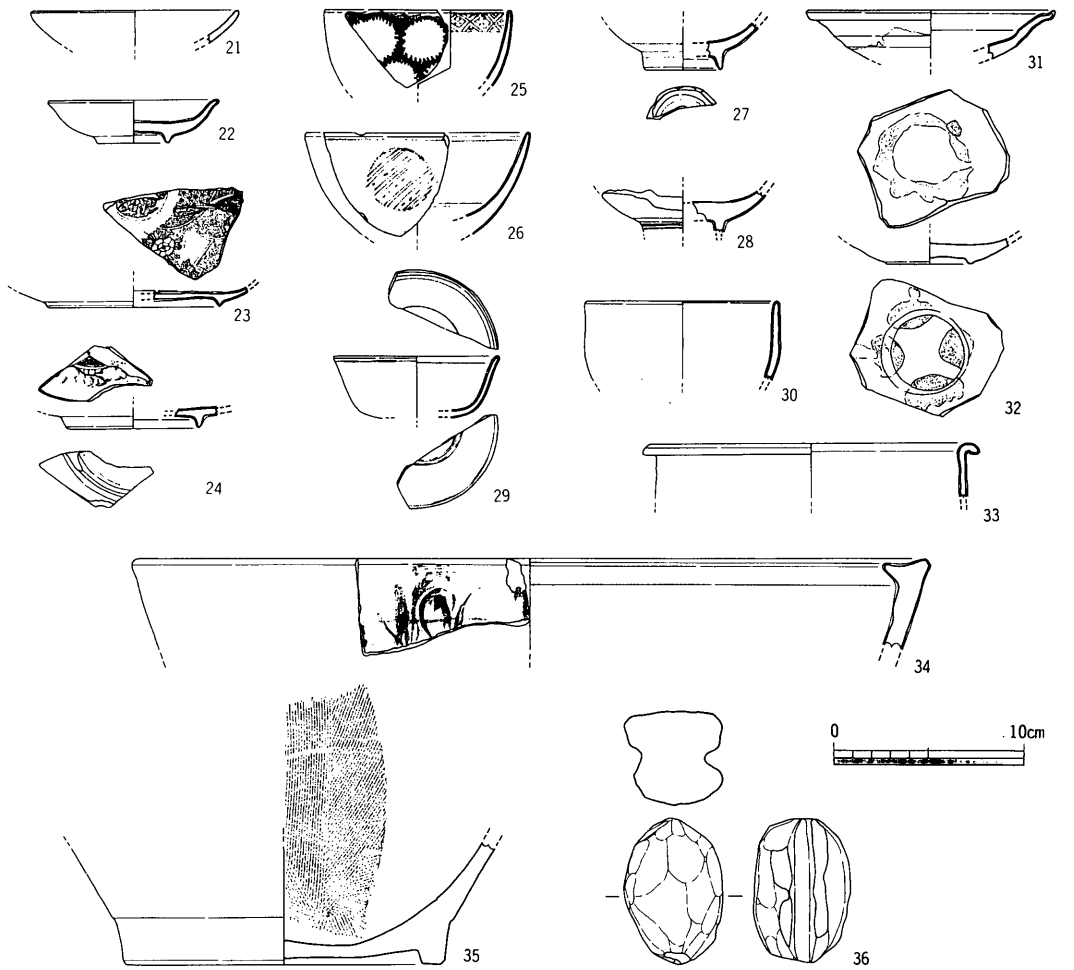
ＳＤ05（第11図）

ＳＤ05は第Ⅱ調査区西部で検出した溝である。ＳＤ04・06との重複関係がみられ，そのなかでＳＤ04より古く，ＳＤ06より新しい溝である。規模は天幅（1.7）m，深さ約0.25mを計る。流路方向はＮ－約30°－Ｗをとる。

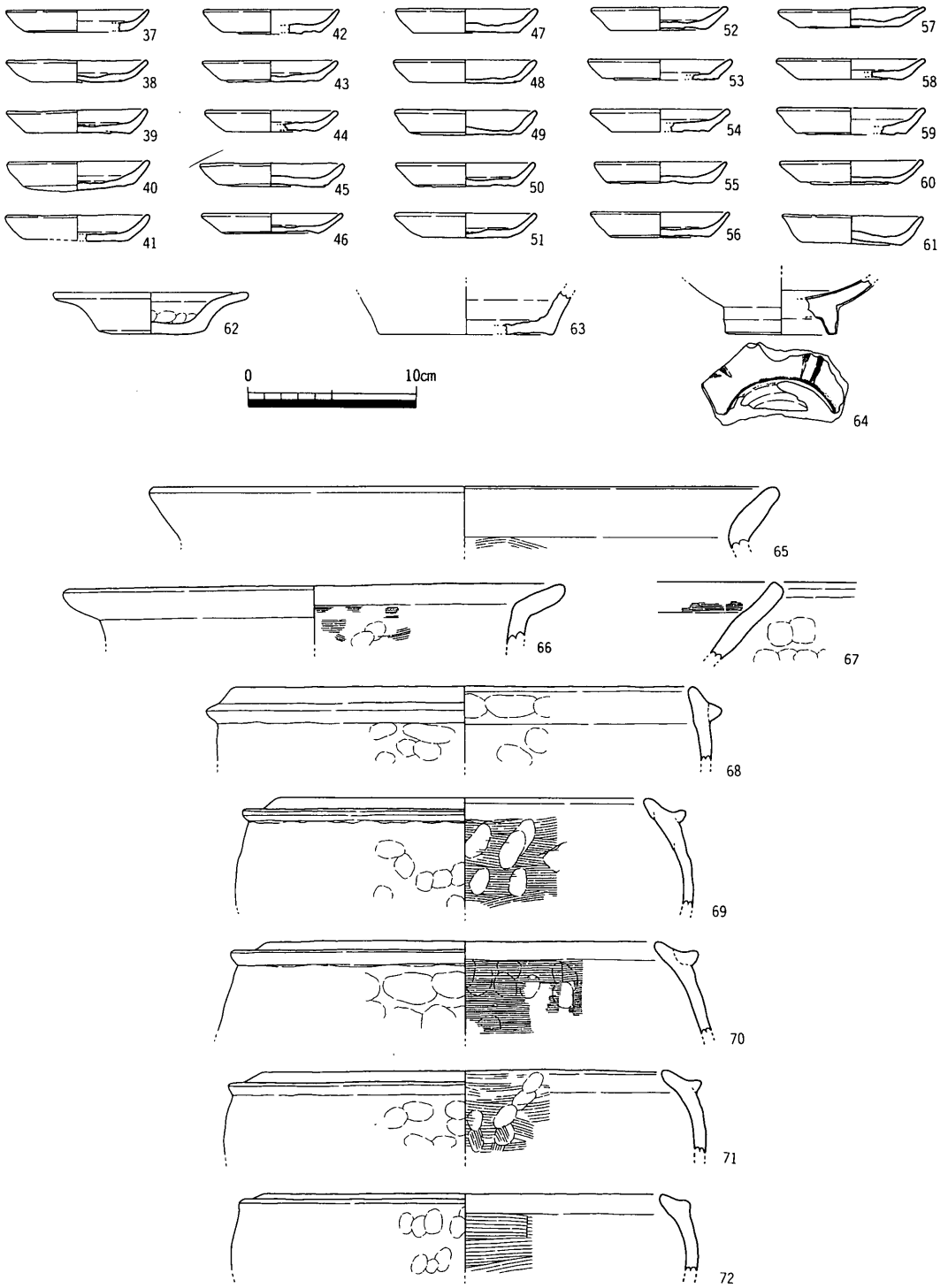
37～80はＳＤ05出土遺物である（第13・14図）。



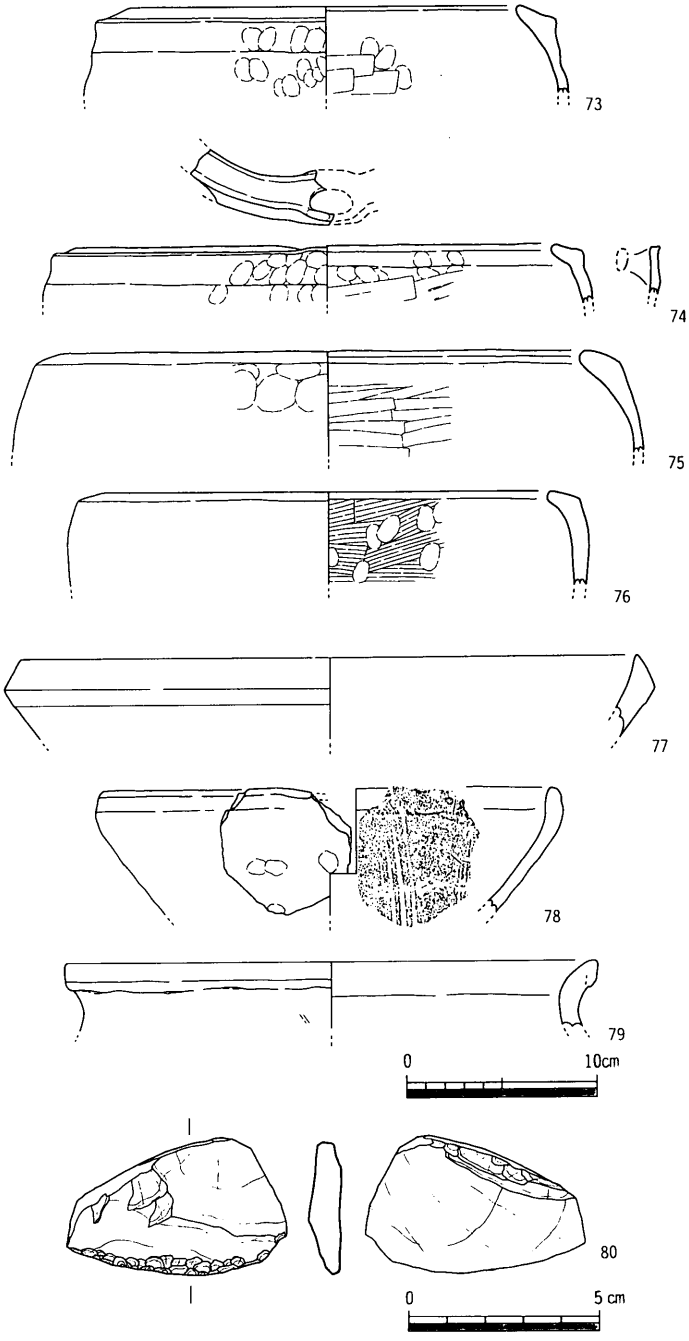
第11図　ＳＤ04・05・06　土層断面図



第12図　ＳＤ04　出土遺物実測図



第13図　ＳＤ05　出土遺物実測図①



第14図　ＳＤ05　出土遺物実測図②

37～61は土師器小皿である。底部は全てヘラ切りである。体部の形状にはやや内彎するもの（37～46），ほぼ直線的にのびるもの（47～56），口縁端部をやや外反させるもの（57～61）がある。62は土師器坏である。底部がヘラ切りされており，体部はかなり外反させる。胎土に多量の砂粒を含む。63は陶器壺の底部である。64は青磁碗である。体部外面に鎬連弁が認められる。65～67は土師質土鍋である。68～74は土師質土釜である。鍔は退化した小さいもので，口縁端部の立ち上りも水平に近く内傾している。体部外面には指頭痕が，内面には指頭痕ののち刷毛目が施されている。75・76は土師質土鍋である。77は瓦質すり鉢である。78は土師質すり鉢である。79は土師質甕である。80はサヌカイト製のスクレイパーである。

時期は中世後半頃と思われる。

ＳＤ06（第11図）

ＳＤ06は第Ⅱ調査区西部で検出した溝である。ＳＤ04・05との重複関係がみられ，そのなかで一番古い溝である。規模は天幅約0.55m，深さ約0.05m を計る。流路方向はＮ－約30°－Ｗをとる。

溝内より遺物が出土していないため，時期は不明である。

ＳＤ07（第15図）

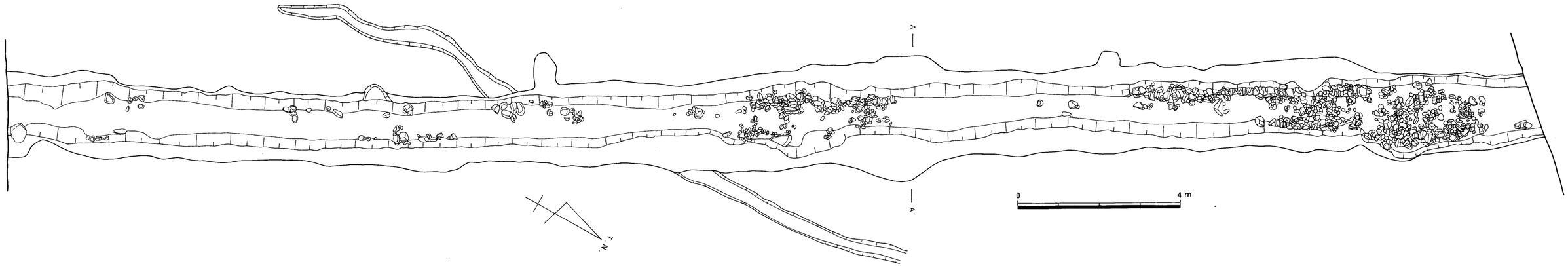
ＳＤ07は第Ⅱ調査区西部で検出した溝である。規模は天幅約2.4m，深さ約0.52m を計る。流路方向はＮ－約30°－Ｗをとる。土層の埋没状況から２時期（上層・下層）に分けられる。

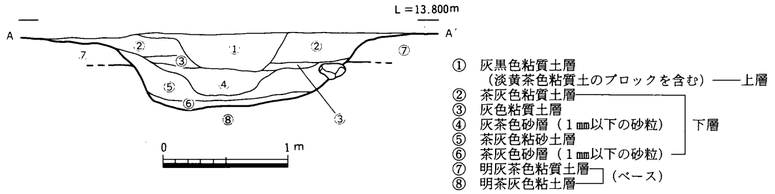
81～245はＳＤ07出土の遺物である。81～223が上層で，224～245が下層である。

上層出土遺物（第16～22図）

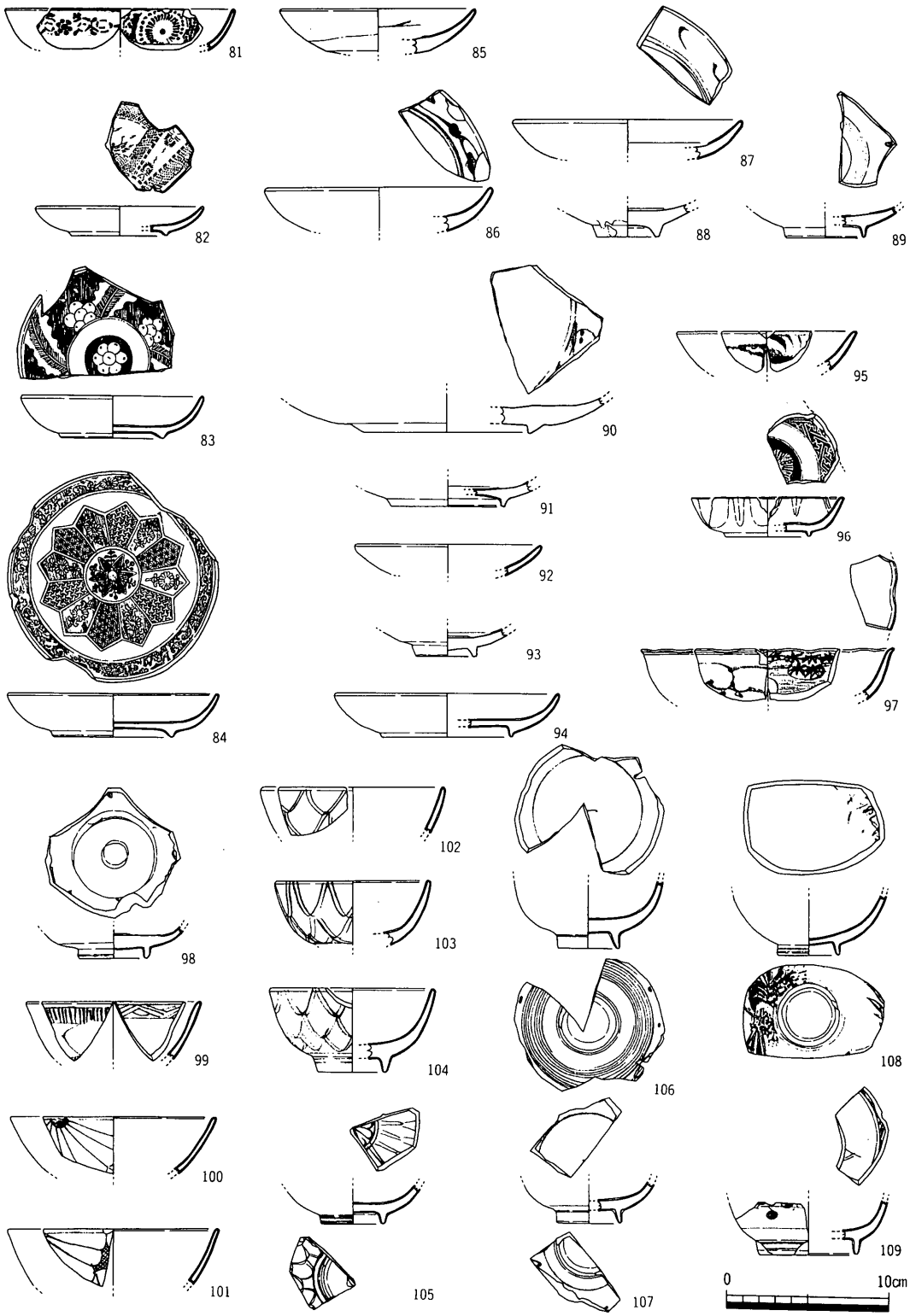
81～84は伊万里色絵皿である。83は内面にプリント柄による枇杷文が描かれている。高台畳付け部分のみ無釉である。84は体部内面にプリント柄による牡丹唐草文，見込み部分にプリント柄による籠目文・牡丹文・菱花文が描かれている。時期は明治初頭頃。85～91は伊万里染付皿である。高台畳付け部分が無釉で，内面見込み部は蛇ノ目釉剝ぎされている。85は体部内面に折枝文が描かれている。92・93は伊万里青緑釉皿である。体部下半から高台部分が無釉で，内面見込み部は蛇ノ目釉剝ぎされている。94は白磁皿である。高台畳付け部分のみ無釉。95は伊万里染付小盃である。96・97は伊万里染付小鉢である。口縁は輪花を呈している。96は体部内面に白抜きの紗綾形文，内面見込み部に梅文が描かれている。97は体部外面に唐草文，内面に葉文が描かれている。98～118は伊万里染付碗であ

る。98は高台畳み付けが無釉で，内面見込み部が蛇ノ目釉剝ぎされている。99は簡略化された袈裟襷文が描かれている。100・101は体部がやや内彎しながら外上方に延びるものである。体部外面に菊花が描かれている。102～105は外面に二重網目文が描かれている丸碗である。105は体部内面に渦福・網目文，見込み部分には菊花文が描かれている。119・120は白磁碗である。121はやや青味掛かった白磁碗である。体部外面に花文と「福」・「壽」の字がみられる。122は伊万里染付鉢である。高台は蛇ノ目凹形高台を呈する。高台内面の中央凹み部以外が露胎である。内面見込み部に山笠文が描かれている。123～126は伊万里染付徳利である。内面無釉である。127は伊万里青磁染付碗である。内面見込み部にコンニャク印による五弁花文が認められる。128は伊万里青磁染付鉢である。128は高台は蛇ノ目凹形高台を呈する。高台内面の中央凹み部以外が露胎である。内面見込み部に楼閣山水文が描かれている。130・131は湯呑茶碗である。130は体部が直線的に上方に延びるもので，体部外面に網目文が描かれている。131は体部外面にプリント柄による文様が描かれている。132・133は白磁小盃である。高台畳み付け部分のみ無釉である。135は肥前系染付の大型徳利である。体部内面は無釉，外面は施釉されている。体部外面に竹文が描かれている。136～138は伊万里染付の猪口である。136は体部外面に矢羽文が描かれている。137・138は体部最下部に二重の圏線がみられ，体部外面には草花文が描かれている。138は底部外面に二角渦福が認められる。139～144は伊万里染付徳利である。底部は高台状を呈するものと平底のものがある。内面下半のみ無釉である。体部外面に花鳥文・山水文が描かれている。140は底部外面に「勝宝？造」の銘がある。146は輸入陶磁器の青磁碗である。内面に片彫による模様が施されている。147・148は唐津溝縁皿である。内面見込み部分に砂目積みの痕跡が認められる。147は底部が糸切りされた平底である。時期は1600～1630年代に作られたものである。149は陶器碗である。150は磁器碗である。151～153は陶器皿である。154～156は肥前系陶器碗である。京焼風の呉器手である。全面に透明釉が掛かっており，貫入が著しい。高台端部は無釉である。時期は17世紀末～18世紀前半頃のものである。157は唐津系刷毛目碗である。158～162は肥前系陶胎染付碗である。釉は高台畳付け以外全面に施されており，貫入が著しい。釉の色調は青みを帯びた灰色釉で，呉須の発色は悪く，くすんだ青色を呈する。体部外面には唐草文が描かれている。163は陶器碗である。164は陶器碗である。茶道具か。165は唐津系刷毛目皿である。底部にやや高い削り出しの高台を持ち，体部は内彎気味に外上方に延びる。体部外面はヘラ削りされている。茶色釉を呈した釉は，内面および体部外面に施され，見込み部は輪状に釉が掻き取ら

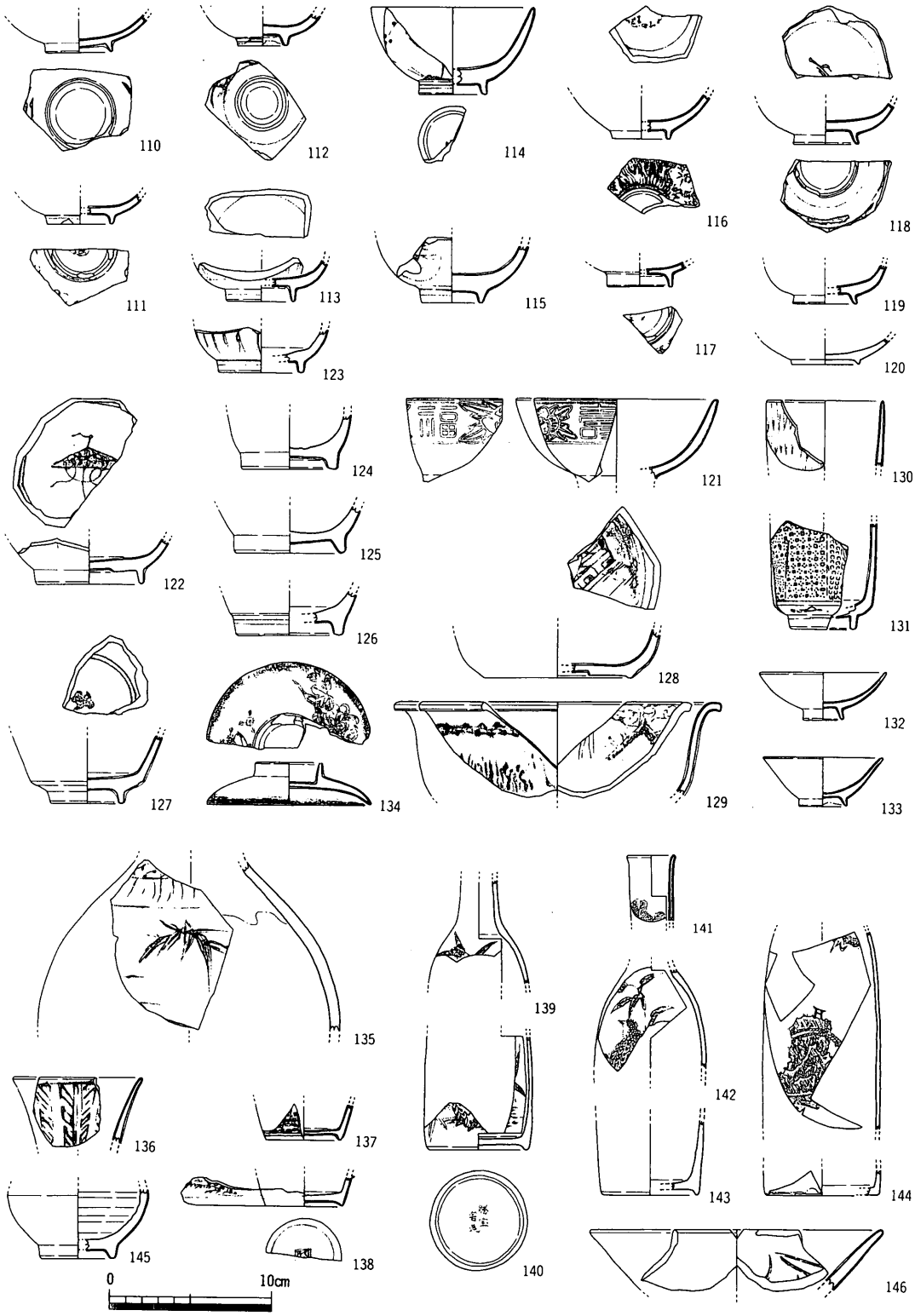




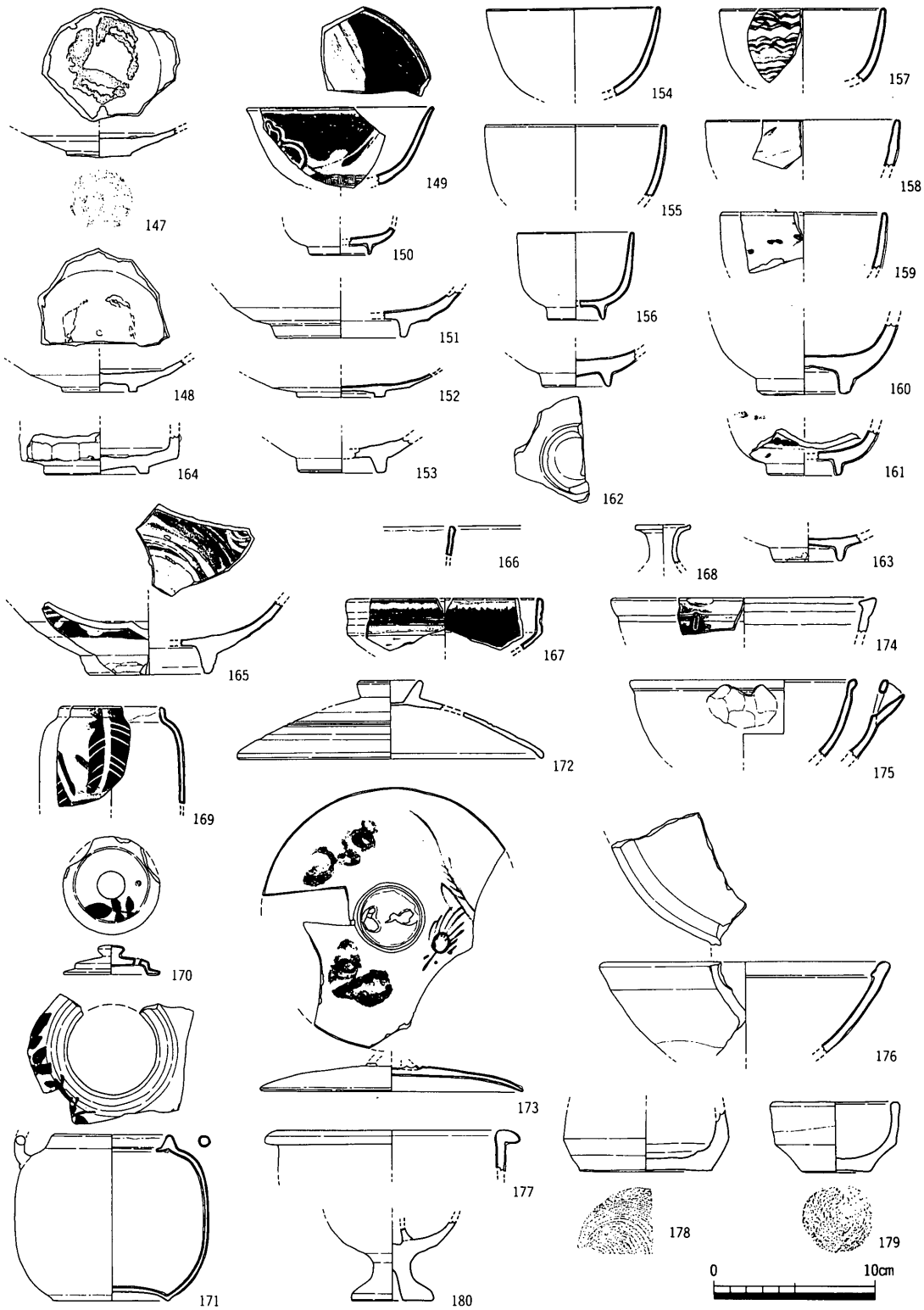
第15図　ＳＤ07　平・断面図



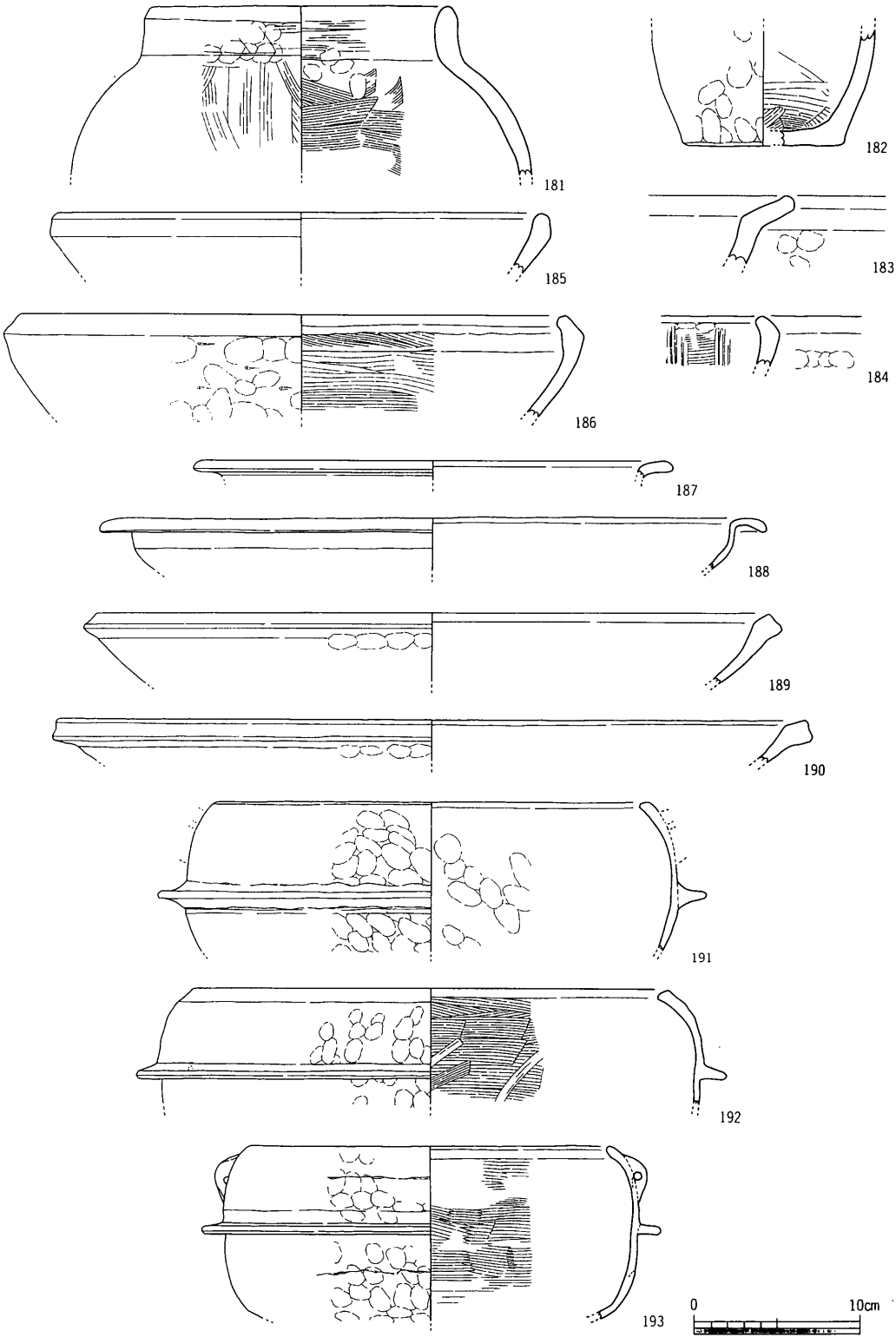
第16図　ＳＤ07上層出土遺物実測図①



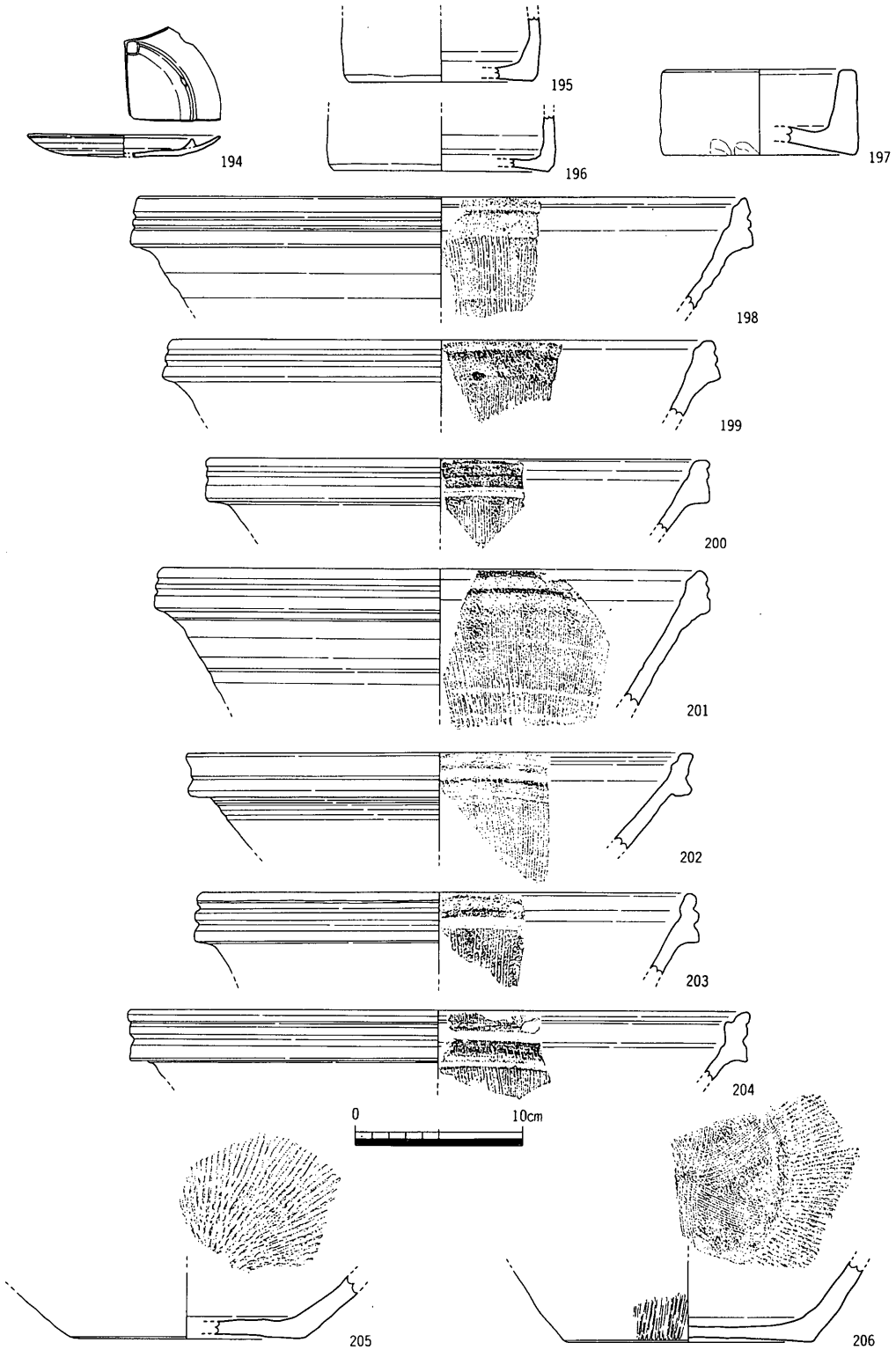
第17図　ＳＤ07上層出土遺物実測図②



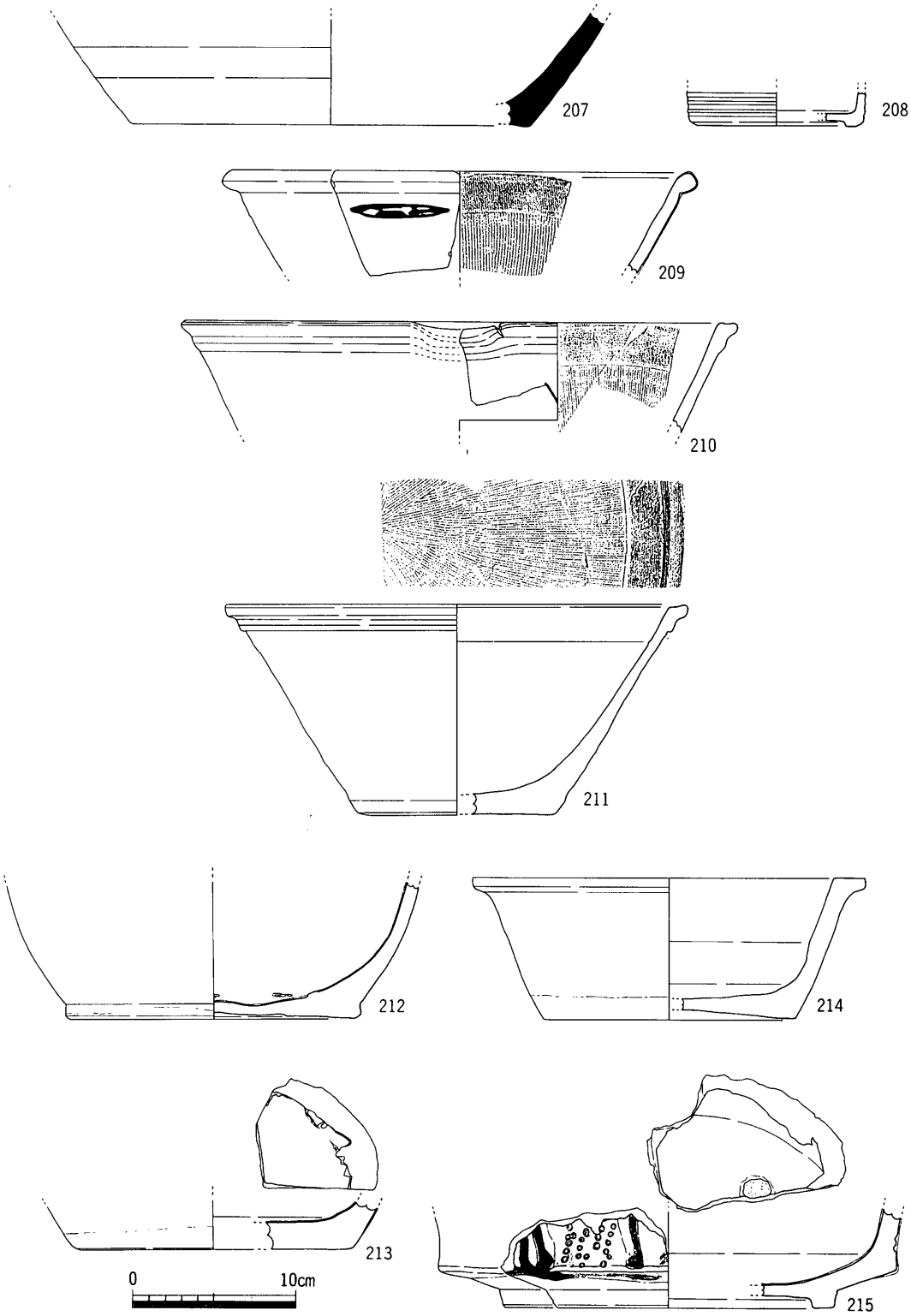
第18図　ＳＤ07上層出土遺物実測図③



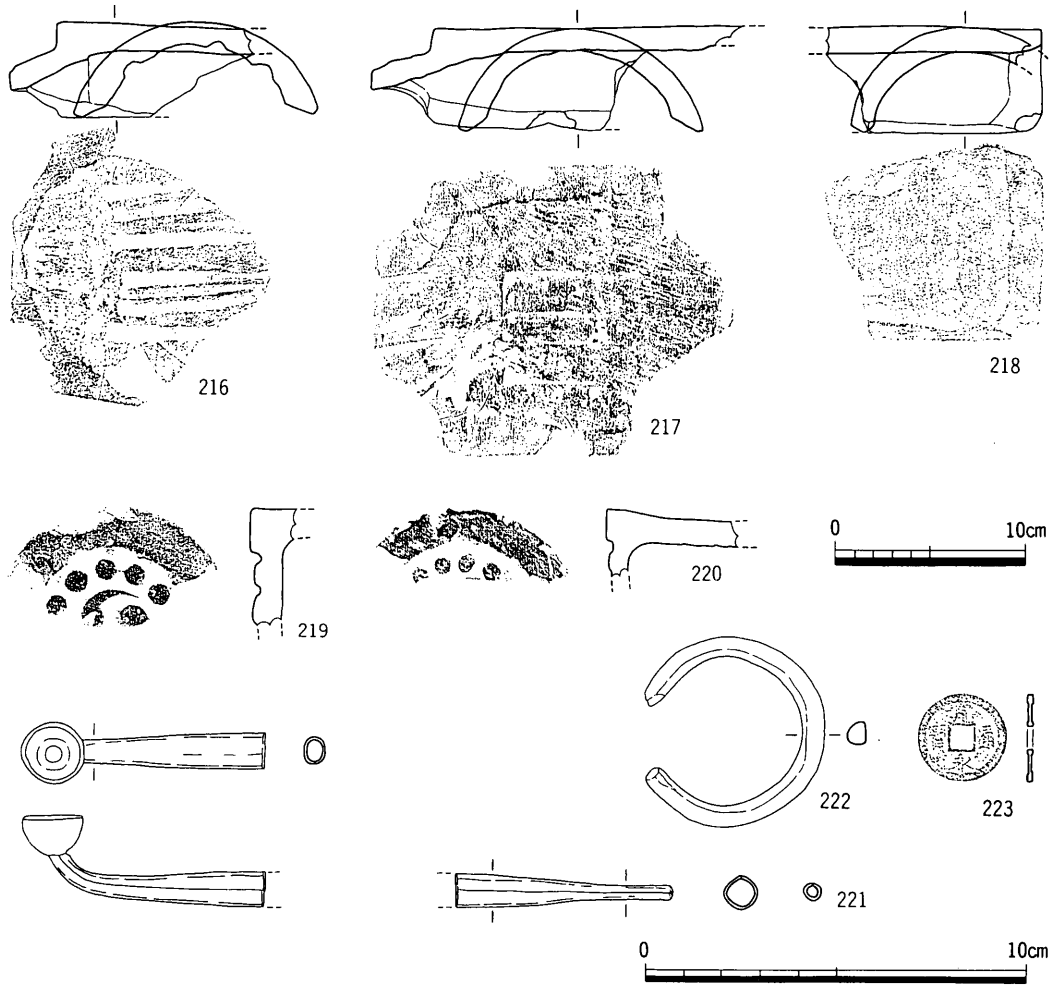
第19図　ＳＤ07上層出土遺物実測図④



第20図　ＳＤ07上層出土遺物実測図⑤



第21図　ＳＤ07上層出土遺物実測図⑥



第22図　ＳＤ07上層出土遺物実測図⑦

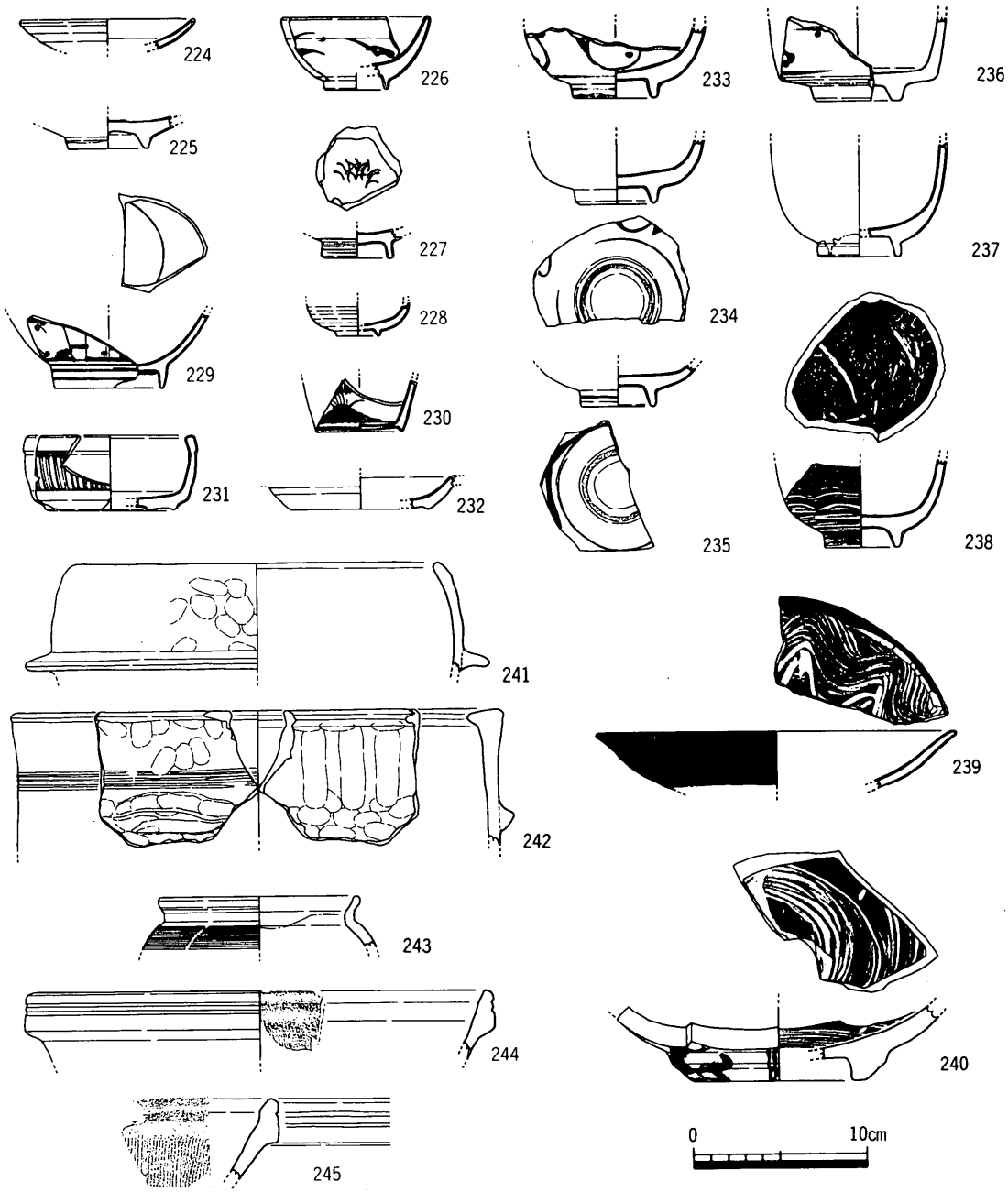
れている。166・167は瀬戸・美濃系鉄釉天目茶碗である。168は陶器徳利である。169は染付花瓶である。170は瀬戸焼の土瓶の蓋である。171は土瓶で，170とも白土化粧後，緑釉を文様の一部に施釉した後，灰釉を施している。紐状の耳が，２箇所に付く。172は陶器蓋である。173は陶器染付蓋である。172・173とも在地産か。174は陶器の鉢である。体部内外面に灰釉が掛けられており，外面には銅緑釉を流し掛けしている。175・176は唐津系陶器片口鉢である。177は陶器甕である。全面に緑釉が掛かっている。178・179は陶器小盃である。179は体部外面上半から内面にかけて施釉されている。底部は両方とも回転糸切りである。180は秉燭である。底部以外全面施釉されており，底部は回転糸切りされている。181・182は土師質壺である。183は土師質土鍋である。184は土師質すり鉢である。内面には，刷毛目の後間隔をあけた粗い条溝が施されている。185・186は土師質こね鉢で

ある。186は内面に刷毛目が施されている。187～190は焙烙である。187・188は頸部が屈曲し，口縁が水平に近くなる。189・190は口縁部を短く屈曲させ，口縁端部を方形状に終わらせるものである。191～193は瓦質羽釜である。内面に刷毛目，外面に指頭痕が顕著に認められる。鍔上部外面に2つ耳が付く。194～197は備前焼である。194は内面に突帯のある灯明皿で，突帯には灯芒受けの凹を持つ。195～197は鉢である。器形はサヤ鉢形を呈する。

198～206は陶器すり鉢である。口縁部の形態に差があり，口縁部下端がシャープになるものが新しいと考えられる。内面には198以外条溝が密に施されており，口縁端部内面で横ナデによりきれいに消されている。内面見込み部分の条溝は，密に放射状を呈するものと中心部から間隔をあけた螺旋状を呈するものがある。198～201・203・205が備前焼，202・204が堺産，206が明石産である。207は信楽焼あるいは伊賀焼甕の底部である。208は陶器鉢と思われる。唐津か。209～211は陶器すり鉢である。209は茶色釉が全面に掛かっている。210・211は全面に塗り土を施している。内面の条溝は見込み部分から上方に施されている。在地産か。212～214は鉢である。212は底部が蛇ノ目高台状になっており，高台畳付け部分は露胎を呈し，高台内面には刷毛塗りによる塗り土が認められる。体部内外面は茶色釉が掛けられ，内面見込み部に目跡が認められる。212～214は在地産か。215は美濃焼の水甕である。高台部以外全面施釉された施釉陶器である。底部は削り出しによる高台で，体部は屈曲部を持ち，上方に延びる。体部外面には片切彫と列点文の模様が認められ，見込み部分には目跡が認められる。内面および体部外面に灰釉が掛けられ，外面には鉄釉・銅緑釉を流している。時期は19世紀初頭である。216～220は瓦である。216～218は丸瓦である。219・220は軒丸瓦で，やや大きめの珠文の内側に左巻きの三巴文が配されている。221はキセルである。222は青銅製の環状製品である。223は「寛永通寶」の銅銭である。

下層出土遺物（第23図）

224は伊万里染付皿である。内面見込み部分が蛇ノ目釉剝ぎされている。225～227は伊万里染付碗である。225は内面見込み部分が蛇ノ目釉剝ぎされている。228は白磁小盃である。229は伊万里染付鉢である。231は伊万里青磁香炉である。底部は蛇ノ目凹形高台を呈している。時期は1700～1780年代である。232は瀬戸・美濃鉄釉皿である。233～236は肥前系陶胎染付碗である。釉は高台畳付け以外全面に施されており，貫入が著しい。釉の色調は青みを帯びた灰色釉で，呉須の発色は悪く，くすんだ青色を呈する。体部外面には唐草文が描かれている。236は広東型を呈し，内面および高台部が無釉である。237は肥前系陶器碗である。京焼風の呉器手である。全面に透明釉が掛かっており，貫入が著しい。高



第23図　ＳＤ07下層出土遺物実測図

台部は無釉である。238は唐津系刷毛目碗である。高台畳み付け部分のみ無釉である。239・240は唐津系刷毛目皿である。241は瓦質土釜である。242は土師質甕である。口縁部を内方に摘み出し，上端を平らにする。口縁部下方に櫛描による沈線を持ち，その下に退化した耳状の把手を持つ。243～245は備前焼である。243は小型の甕である。口縁部内面および外面に塗り土が施されている。体部外面には沈線が認められる。244・245はすり鉢である。244は色調が灰色を呈する。内面の条溝は間隔をあけた単位で，やや粗いものである。245は内面の条溝が密に施されている。

時期は，上層と下層で若干の時期差が認められる。下層は18世紀を中心とする時期で，上層はプリント柄の染付が認められることから埋没時期が明治初頭頃を下限とする時期である。

ＳＤ08

ＳＤ08は第II調査区西部で検出した溝である。ＳＤ07との切り合いからＳＤ07よりは古い。規模は天幅約0.4m，深さ約0.07m を計る。流路方向はやや屈曲しながらほぼＮ－11.5°－Ｗをとる。

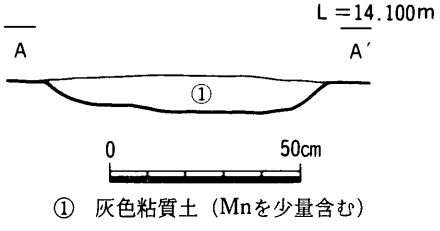
溝内より遺物が出土していないために時期は不明である。

ＳＤ09（第24図）

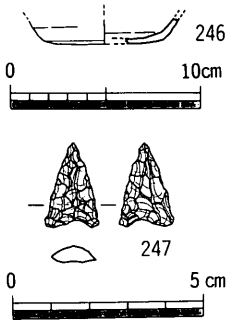
ＳＤ09は第Ｉ調査区西部で検出した溝である。規模は天幅約0.62m，深さ約0.08m を計る。流路方向はＮ－約31°－Ｗをとる。かなり削平を受けているため残りが悪い。

246・247はＳＤ09出土の遺物である（第25図）。246は土師器坏Ｃである。底部はヘラ切りされている。247はサヌカイト製で，凹基式の石鏃である。

時期は中世頃と思われる。



第24図　ＳＤ09土層断面図

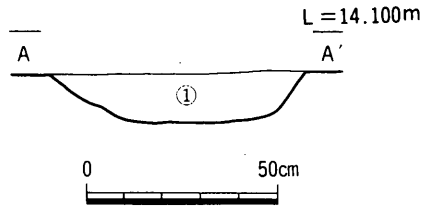


第25図　ＳＤ09出土遺物実測図

ＳＤ10（第26図）

ＳＤ10は第Ｉ調査区西部で検出した溝である。ＳＤ09・11との切り合いからＳＤ09よりは古く，ＳＤ11よりは新しい溝である。規模は天幅約0.8m，深さ約0.11mを計る。流路方向はやや屈曲しながらほぼ北方向をとる。

時期は不明。



① 灰色細砂混じり粘質土

第26図　ＳＤ10土層断面図

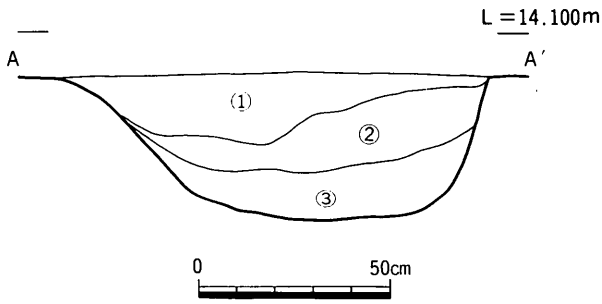
ＳＤ11（第27図）

ＳＤ11は第Ｉ調査区西部で検出した溝である。ＳＤ10との切り合いからＳＤ10よりは古い。規模は天幅約1.13m，深さ約0.42mを計る。流路方向はN－29.5°－Wをとる。

248・249はＳＤ11出土の遺物である（第28図）。

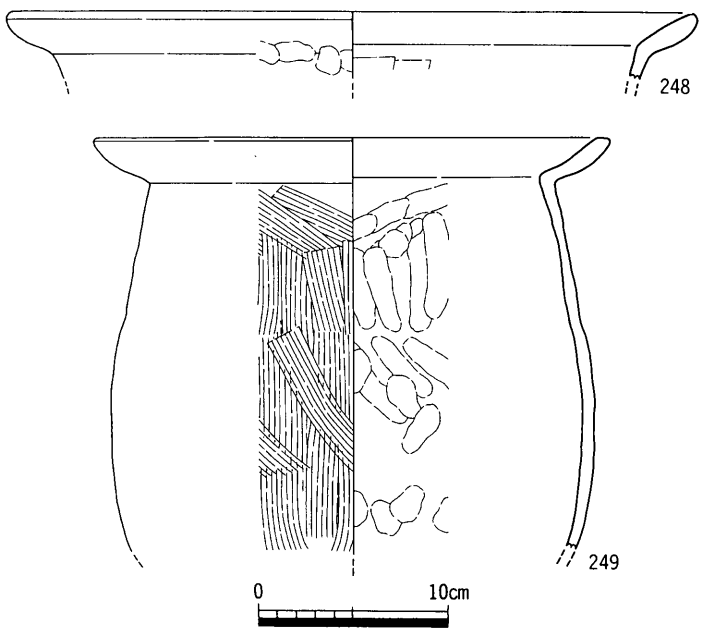
248は土師質土鍋Ｂである。249は土師質土鍋Ａである。体部外面に縦方向の刷毛目が，内面に縦方向の指ナデが施されている。

時期は12世紀頃のものと思われる。



① 明灰褐色粘質土（Mnを少量含む）
② 明灰褐色砂混じり粘質土
③ 灰色砂質土（砂粒が細かい）

第27図　ＳＤ11土層断面図



第28図　ＳＤ11出土遺物実測図

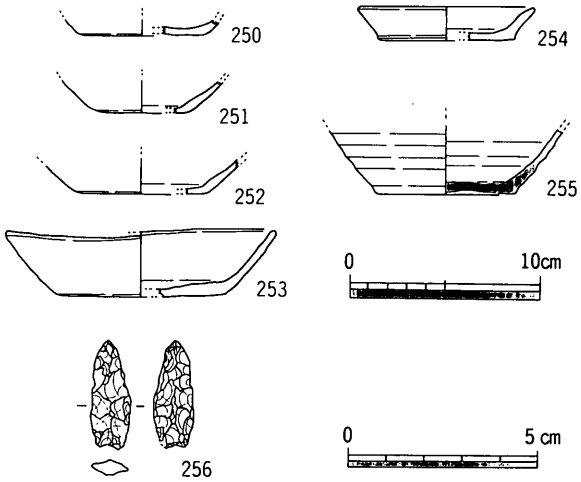
ＳＤ12

ＳＤ12は第Ｉ調査区西部で検出した溝である。規模は天幅約0.4m，深さ約0.05mを計る。流路方向は一定していない。

時期は不明。

ＳＤ13（第30図）

ＳＤ13は第Ｉ調査区西部で検出した溝である。規模は天幅約7.46m，深さ約0.5mを計る。流路方向はＮ－28.4°－Ｗをとる。埋没状況からこの溝は，上下２層に分けられる。250～256はＳＤ13出土の遺物で，250～253が上層，254～256が下層出土である。



第29図　ＳＤ13出土遺物実測図

上層出土遺物（第29図）

250～253は土師器坏である。底部は全てヘラ切りされている。250～252が土師器坏Ｂで，253が土師器坏Ｄである。

下層出土遺物（第29図）

254は土師器小皿である。255は須恵器坏である。底部はヘラ切りされており，体部はやや内彎気味に外上方に延びる。底部はヘラ切りされている。256はサヌカイト製の石鏃である。

時期は上層が12世紀頃で，下層が上層よりやや古いものと考えられる。

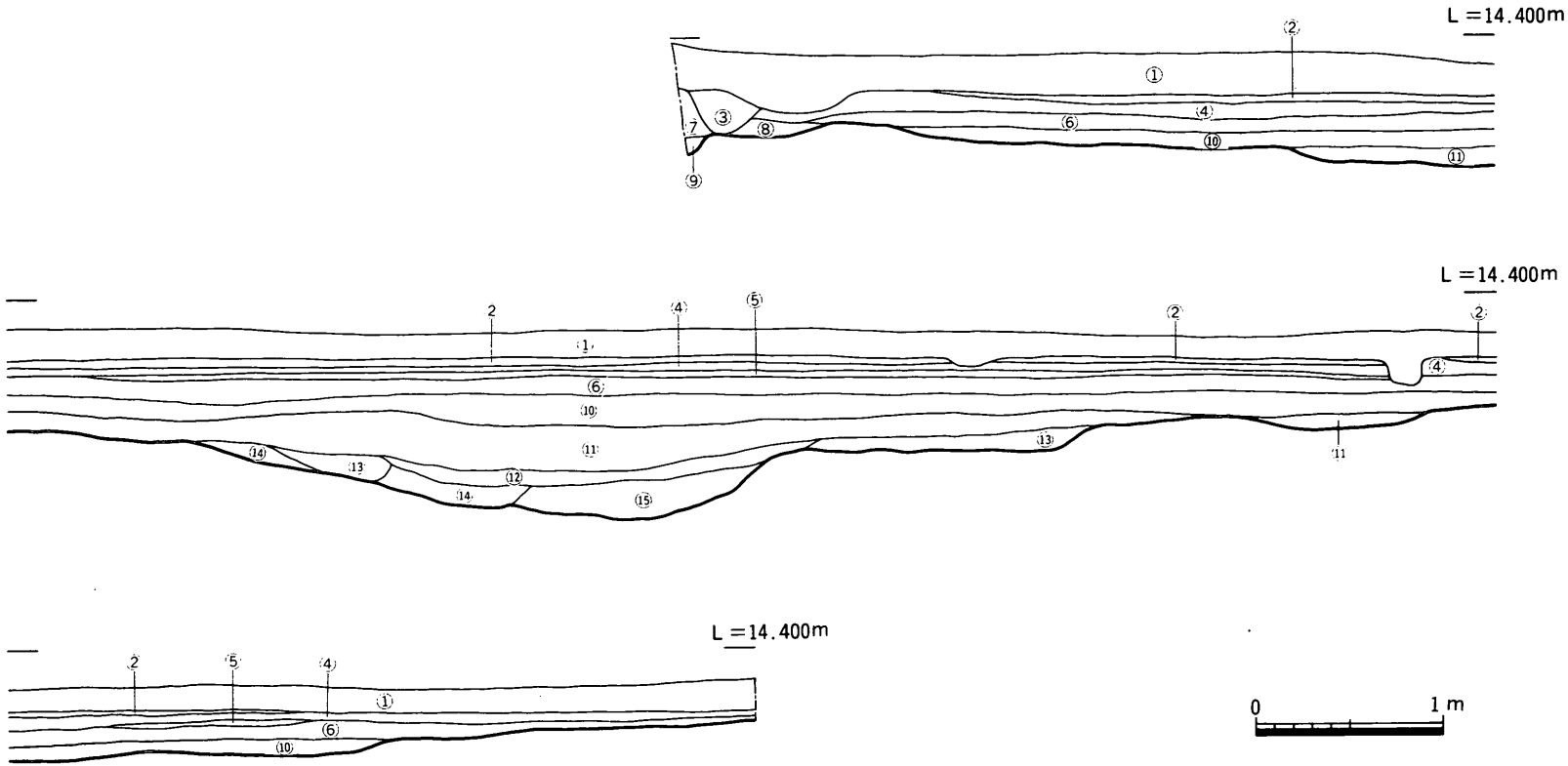
ＳＤ14（第31図）

ＳＤ13は第Ｉ調査区西部で検出した溝である。規模は天幅（2.38）m，深さ約0.54mを計る。流路方向はＮ－30°－Ｗをとる。

257～299はＳＤ14出土の遺物である。257～260が上層，261～267が中層，268～299が下層出土である。

上層出土遺物（第32図）

257は唐津陶器皿である。258は肥前系陶器碗である。京焼風の呉器手である。全面に透明釉が掛かっており，貫入が著しい。時期は17世紀末～18世紀前半頃のものである。259は須恵質すり鉢である。内面に条溝が認められる。260は土師質甕である。底部は平底で，体部はやや内彎気味に上方に延び，口縁端部をやや肥厚させておわる。底部３箇所に断面



① 耕作土
② 暗茶白色粘質土層
③ 茶灰色粘質土層（暗い茶灰色）
④ 暗白茶色粘質土層
⑤ 濁黄白色粘質土層
⑥ 灰色粘質土層（こげ茶褐色粒を含む）
⑦ 濁灰色粘質土層
⑧ 濁灰色粘質土層（⑦よりやや淡い）
⑨ 濁茶白色粘土層
⑩ 茶灰色粘質土層
⑪ 灰茶色粘質土層
⑫ 暗灰色粘質土層
⑬ 暗茶灰色粘質土層
⑭ 灰茶色粘質土層（ほとんど⑪と同じ）
⑮ 茶灰色粘砂土層（粘質の中に砂が混じる）

第30図　ＳＤ13土層断面図

方形の脚が付く。体部外面には指頭痕が，内面には指頭痕の後，横方向の刷毛目が施されている。また，体部外面上半には円形刺突文が施されている。

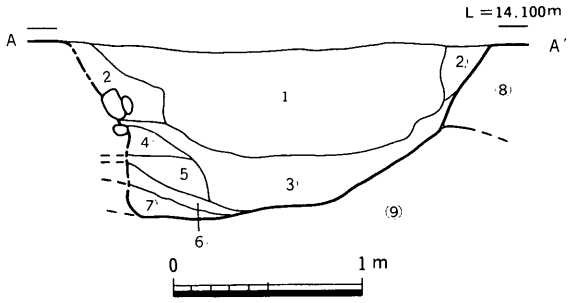
中層出土遺物（第32図）

261は伊万里皿である。262は陶器皿である。263は陶器碗である。底部以外全面に釉が掛かっている。264は肥前系陶器碗である。京焼風の呉器手である。全面に透明釉が掛かっており，貫入が著しい。時期は17世紀末～18世紀前半頃のものである。265は土師質土鍋Ｂである。266は口縁部内面に双孔付き内耳を持つ焙烙である。267は土師質甕である。

下層出土遺物（第33～35図）

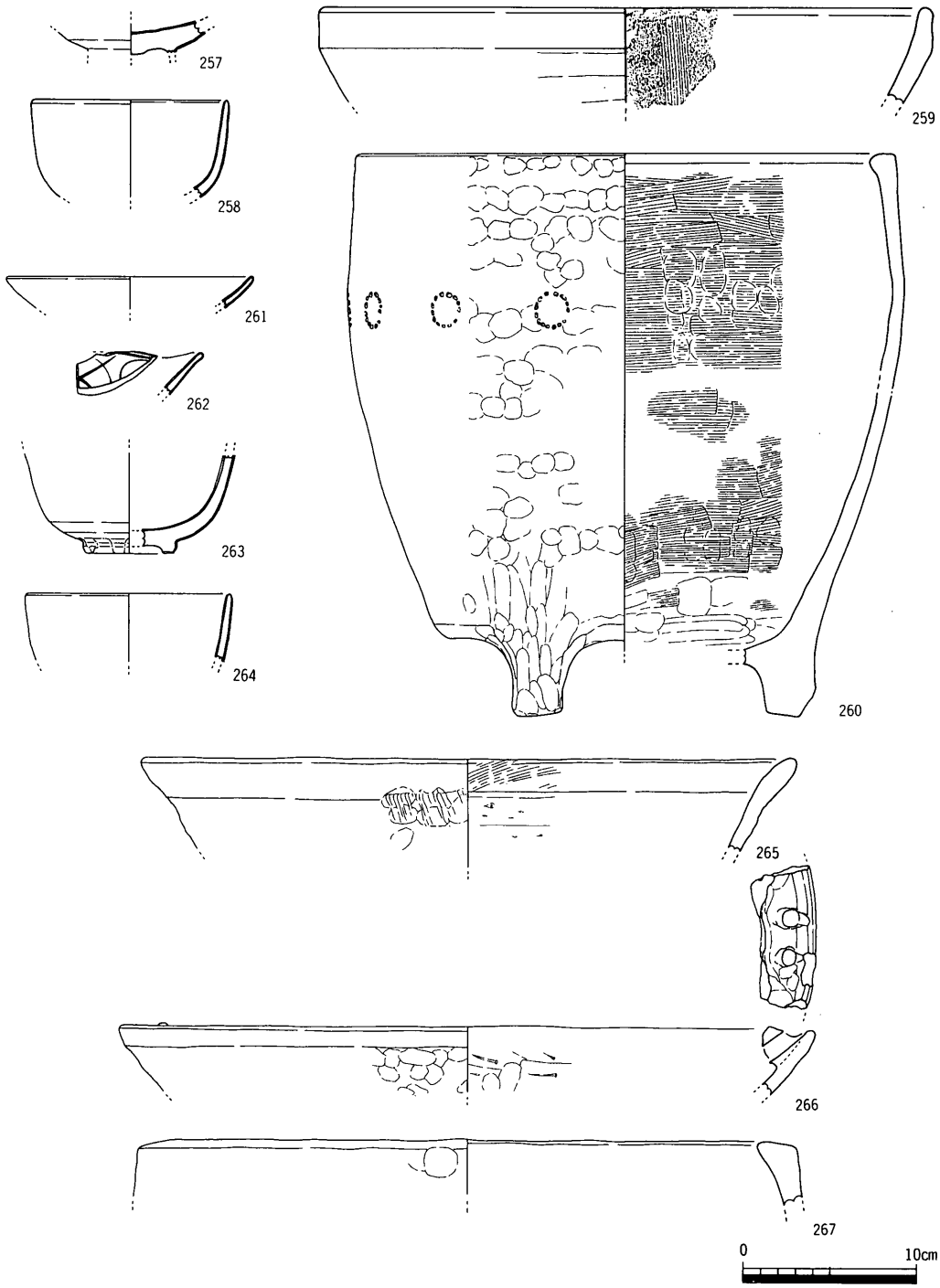
268は伊万里染付小盃である。外面に草花文が描かれている。269は伊万里色絵皿である。270は青磁皿である。底部は蛇ノ目高台を呈しており，その畳付け部分のみ無釉である。内面見込み部には，海藻文が片彫されている。高台外側には目跡が認められる。271・272は唐津溝縁皿である。内面見込み部に砂目積みの痕跡が認められる。273～279は肥前系陶器碗である。京焼風の呉器手である。全面に透明釉が掛かっており，貫入が著しい。高台端部は無釉である。時期は17世紀末～18世紀前半頃のものである。280・281は備前焼である。280は陶器徳利で，281は鉢底部である。282は瓦質茶釜である。283・284は瓦質土釜である。285は土師質土釜Ｂである。286・287は土師質土鍋である。288は土師質壺である。289は土師質すり鉢である。290～295は土師質甕である。296はサヌカイト製の石鏃である。297はサヌカイト製のスクレイパーである。298は鉄製鋤先である。299は手鏡の柄と思われる銅製品である。

時期は上・中・下層ともあまり差がなく，ほぼ近世頃と思われる。

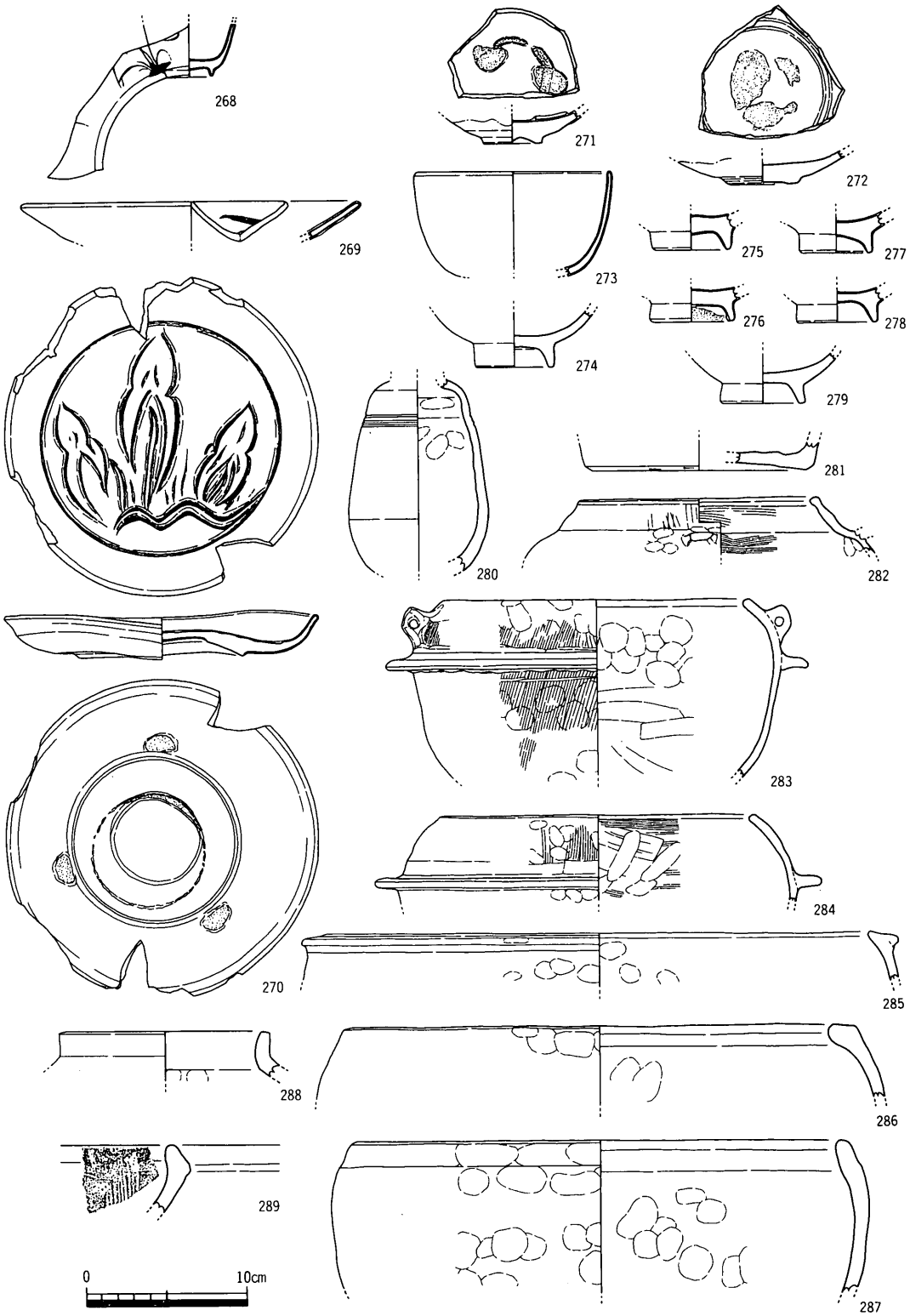


① 茶灰色粘土層（客土）
② 褐灰色粘質土層
③ 灰色粘質土層
④ 褐灰色粘砂土層
⑤ 灰色砂質土層（黄茶色粘土層）
⑥ 灰色粘砂土層
⑦ 灰褐色粘砂土層
⑧ 灰黄色粘質土層（こげ茶褐色粒を含む）
⑨ 褐灰色粘土層
（ベース）

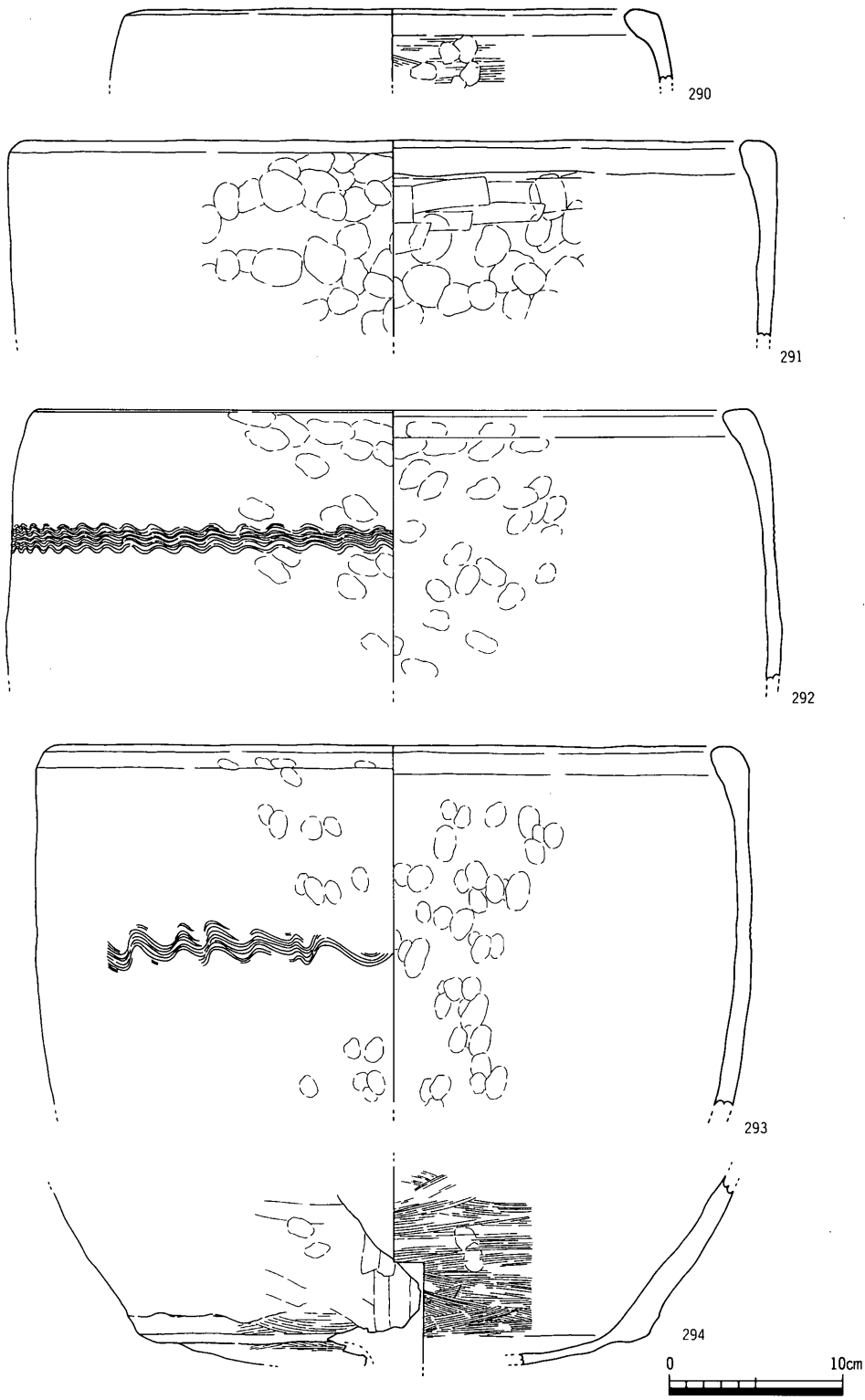
第31図　ＳＤ14土層断面図



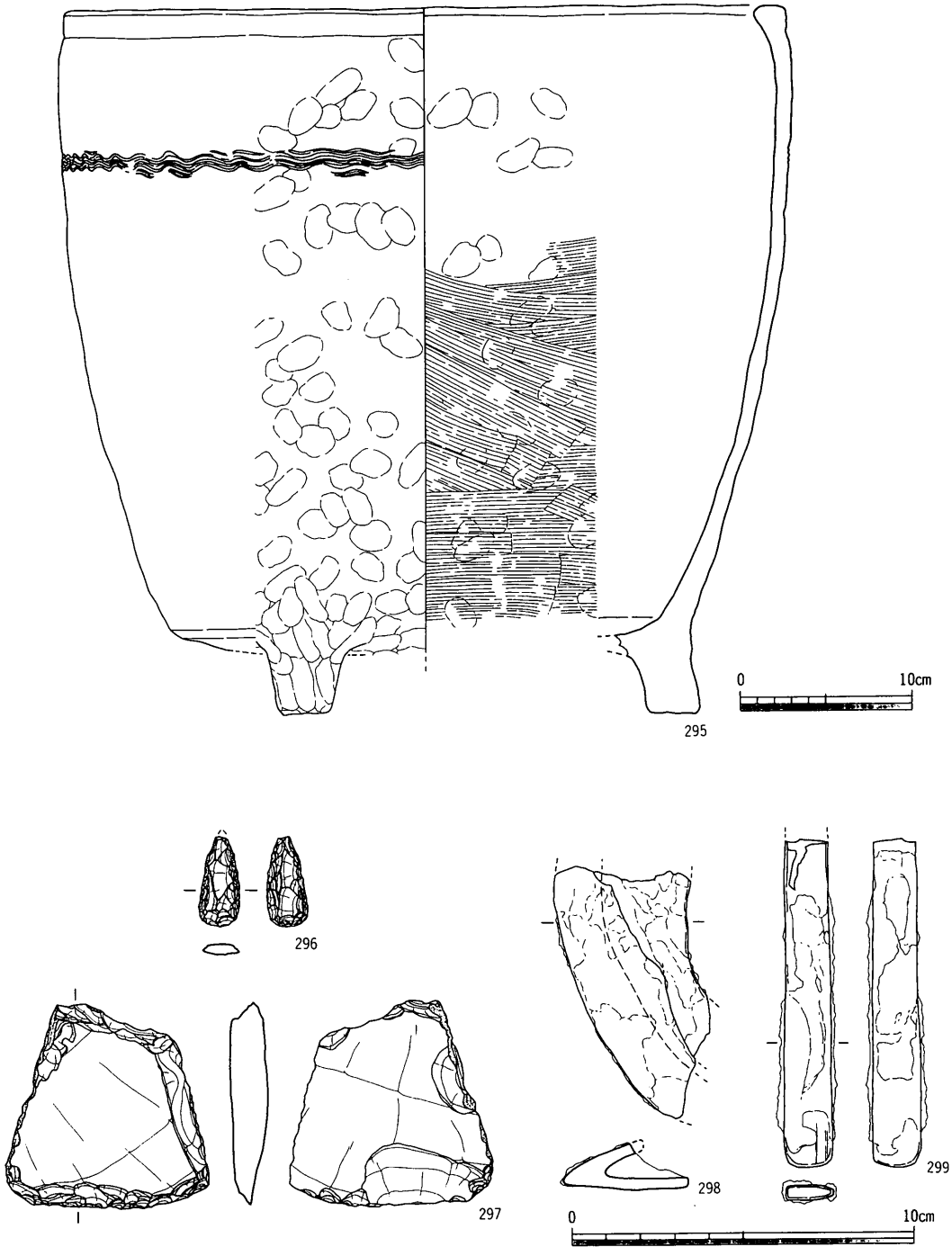
第32図　ＳＤ14上・中層出土遺物実測図



第33図　ＳＤ14下層出土遺物実測図①



第34図　ＳＤ14下層出土遺物実測図②

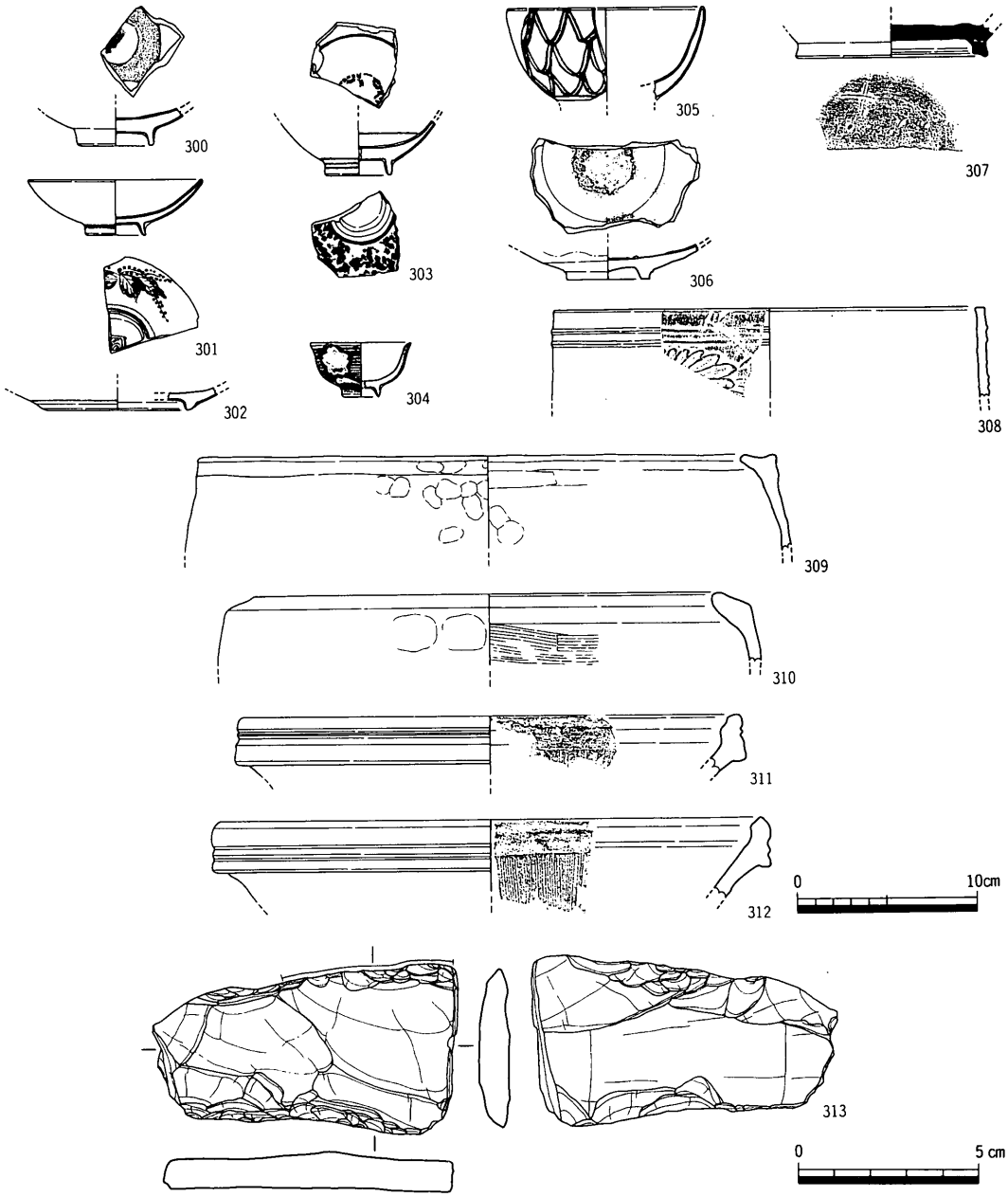


第35図　ＳＤ14下層出土遺物実測図③

2．包含層出土遺物（第36図）

300～313は包含層出土の遺物である。

300は伊万里染付碗である。内面見込み部分に円形の砂目積みの痕跡が認められる。301は伊万里染付小盃である。外面に草花文，高台外面に角福渦文が描かれている。302は伊



第36図　包含層出土遺物実測図

万里染付皿である。303は伊万里染付碗である。304は伊万里染付小盃である。305は伊万里系染付碗である。体部外面に二重網目文が描かれている。306は唐津溝縁皿である。内面見込み部分が蛇ノ目釉剝ぎされている。307は須恵器高台付坏である。底部外面に「＋」文様の線刻がみられる。308は瓦質土釜である。口縁外面に菊花文が施されている。309は土師質土釜Ｂである。310は土師質土鍋である。311・312は備前焼すり鉢である。313はサヌカイト製の石庖丁である。

第4節　川西北・七条II遺跡の調査のまとめ

川西北・七条II遺跡で検出された遺構は，掘立柱建物2棟，溝状遺構14条，土壙墓1基・土坑1基および柱穴である。時期は平安時代から継続的に機能していた溝を除くとほとんどが中世後半と中世後半から近世にかけてのものである。

そのなかで中世後半の時期は，掘立柱建物2棟，溝状遺構5条を検出しており，検出遺構の多い時期である。各掘立柱建物はそれぞれが独立しているが，ほぼ同方向に主軸を持つものである。また，溝状遺構も掘立柱建物と同様に現在丸亀平野に残っている条里型方格地割（N－30°－W）と同方向に流路を持っており，溝によって区画されたなかに整然と掘立柱建物が建てられていたことがわかる。

また，溝状遺構ＳＤ13の最下層からは平安時代の遺物も出土していることから丸亀平野に残る条里型方格地割の上限が確認できた。

これまでに丸亀平野では四国横断自動車道建設に伴い12遺跡の調査が行われていることから，丸亀平野に残る条里型方格地割の成立時期について考察する一資料として重要である。

川西北・七条II遺跡の所在する位置は，旧鵜足郡七条に推定できる。ちょうど南北に流路をとるＳＤ14が鵜足郡の七条と八条の条境に位置している。このＳＤ14を基準に当調査区で検出した溝状遺構との東西間の距離を測ると，ＳＤ14とＳＤ13間の距離が約7.66m，ＳＤ14とＳＤ11間の距離が約34.6m，ＳＤ14とＳＤ07間の距離が約53.2m，ＳＤ14とＳＤ4～6間の距離が約65.72m，ＳＤ14とＳＤ3間の距離が約75.62mを測る。これまでの研究で条里型方格地割の一坪の一辺の間隔が106～109mであることから，このＳＤ14との距離を考えるとＳＤ07が一町のほぼ中央に位置するものと思われる。

このように今後丸亀平野の調査で検出された溝状遺構の東西・南北の距離を測ることにより一坪の正確な距離や坪地割（半折型・長地型）の研究の一助となるものと考える。また，その溝状遺構の時期により条里型方格地割の上限を確認できるものと考える。

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (1)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
1	3	11	SB01	土師器 小皿	6.5	0.9	5.2	1mm以下の砂粒を少量含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	完存	
2	3		SB01	土師器 坏	12.6			1mm以下の砂粒を少量含む。長石含む。	普通	褐灰（10YR4/1）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	小片	
3	3	11	SB01	土師器 坏	11.5	2.5	7.8	1mm以下の砂粒を少量含む。石英・長石含む。	普通	灰白（2.5Y8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ・仕上げナデ	1/8	
4	3	11	SB01	土師質 土釜脚				0.5～5mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	にぶい黄橙(10YR6/3)	指押さえ・ナデ	指押さえ・ハケ目	脚のみ	
5	3	11	SB01	土師質 土釜脚				1mm以下の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	にぶい橙（7.5YR7/3）	指押さえ・ナデ	指押さえ・ハケ目	脚のみ	
6	8		SK01	土師質 土鍋	33.6			0.5～5mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（7.5YR8/2）	指押さえ・ナデ	ナデ	口径1/8	
7	9		SD01	土師器 小皿	7.5	1.5	5.9	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ後ナデ	5/8	
8	9		SD01	土師器 小皿	8.3	1.2	6.1	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・板目痕	回転ナデ	6/8	
9	9		SD01	土師器 小皿	8.2	1.4	6.0	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・摩滅	回転ナデ	2/8	
10	9		SD01	土師器 小皿	8.6	1.3	6.2	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	1/8	
11	9		SD01	土師器 坏	11.2	2.6	6.4	1mm以下の砂粒を少量含む。長石含む。	やや不良	浅黄橙（7.5YR8/3）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	2/8	
12	9		SD01	土師器 坏			5.0	0.5～2mmの砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	にぶい黄橙（10YR7/2）	ナデ・回転糸切り	ナデ	口径5/8	
13	9		SD01	土師質 土釜	20.4			0.5～2mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（7.5YR8/3）	ヨコナデ・指ナデ	指ナデ	口径1/8	
14	9	12	SD01	土師質 土釜	29.0			1mm以下の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	ヨコナデ・指押さえ	ナデ・ハケ目	小片	
15	9	12	SD01	土師質 土釜	26.4			0.5～5mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（2.5Y8/2）	ナデ・指押さえ・摩滅	ナデ・摩滅	口径1/8	
16	9	12	SD01	土師質 土釜脚				0.5～5mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	にぶい黄橙（10YR6/3）	指押さえ後ナデ	指押さえ後ナデ後ハケ目	脚のみ	
17	9	12	SD01	土師質 土鍋	30.8			0.5～5mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	指押さえ・ナデ	ヨコナデ	口径1/8	

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (2)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
18	9	12	SD01	土師質 甕 脚				0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（7.5YR8/3）	指押さえ・指ナデ	ヨコナデ	小片	
19	9		SD01	土師質 すり鉢	23.8			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（7.5YR8/2）	ナデ・指押さえ	ナデ・ハケ目	口径1/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
20	9	12	SD01	砥石	9.6	3.5	1.0	49.91	泥岩	摩滅・削痕あり

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
21	12		SD04	磁器 皿	11.0			緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－透明釉	施釉	施釉	口径1/8	伊万里
22	12	13	SD04	磁器 皿	8.9	2.2	3.9	緻密	良好	明緑灰（7.5GY8/1）釉－透明釉	施釉	施釉・蛇ノ目釉剥ぎ	4/8	伊万里白磁
23	12	13	SD04	磁器 皿			9.0	緻密	良好	灰白（N81）釉－透明釉	施釉（貫入）・露胎	施釉（貫入）・赤絵染付	底径1/8	伊万里色絵
24	12		SD04	磁器 皿			6.9	緻密	良好	灰白（N81）釉－透明釉	施釉・染付・露胎	施釉・染付	小片	伊万里染付
25	12	13	SD04	磁器 碗	9.8			緻密	良好	灰白（N81）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	口径1/8	伊万里染付
26	12	13	SD04	磁器 碗	11.8			緻密	良好	灰白（10Y8/1）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	口径1/8	伊万里染付
27	12		SD04	磁器 碗			4.0	緻密	良好	灰白（N81）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径2/8	伊万里染付
28	12		SD04	磁器 碗				緻密	良好	灰白（N81）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・蛇ノ目釉剥ぎ	底径1/8	伊万里染付
29	12		SD04	磁器 小碗	6.8			緻密	良好	灰白（N81）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	口径2/8	染付
30	12		SD04	陶器 碗	10.0			緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	小片	肥前系京焼風呉器手
31	12		SD04	陶器 皿	13.0			緻密	良好	浅黄橙（10YR8/3）釉－透明釉	施釉・露胎・回転ナデ	施釉・回転ナデ	口径1/8	唐津溝縁皿

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (3)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
32	12	13	SD04	陶器 皿			4.4	精良	普通	灰（N41）釉－透明釉	回転ナデ・砂目積	施釉・砂目積	底部完存	唐津溝縁皿
33	12		SD04	陶器 甕	16.6			緻密	良好	明オリーブ灰（2.5GY7/1）釉－透明釉	施釉	施釉	小片	
34	12	13	SD04	陶器 水甕	42.0			緻密	普通	灰白（10Y8/1）釉－灰釉	施釉・片切彫	施釉	小片	美濃焼
35	12	14	SD04	陶器 すり鉢			17.0	精良	良好	にぶい橙(7.5YR7/3)釉－黒色釉・表面発色茶色	施釉	施釉・おろし目	底径2/8	
36	12	13	SD04	土錘	幅 5.1	長さ 7.5		0.5～2mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	淡黄（2.5Y8/3）	指押さえ後ナデ		ほぼ完存	
37	13		SD05	土師器 小皿	8.4	1.2	6.2	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ・ヘラ切り	口径2/8	
38	13		SD05	土師器 小皿	8.2	1.3	5.4	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	7/8	
39	13		SD05	土師器 小皿	8.4	1.4	6.1	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ	ほぼ完存	
40	13	14	SD05	土師器 小皿	8.5	1.7	6.5	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ	7/8	
41	13		SD05	土師器 小皿	8.6	1.5	6.2	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	7/8	
42	13		SD05	土師器 小皿	8.0	1.4	5.8	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	底径2/8	
43	13		SD05	土師器 小皿	8.0	1.3	5.8	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ	ほぼ完存	
44	13		SD05	土師器 小皿	7.9	1.3	5.3	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	2/8	
45	13	14	SD05	土師器 小皿	8.4	1.4	6.4	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	完存	
46	13		SD05	土師器 小皿	8.2	1.2	5.6	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ削り後板目痕	回転ナデ	底部完存	
47	13		SD05	土師器 小皿	8.2	1.4	6.3	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	完存	
48	13		SD05	土師器 小皿	8.2	1.4	6.6	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ	5/8	
49	13		SD05	土師器 小皿	8.2	1.4	6.6	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ	5/8	
50	13	14	SD05	土師器 小皿	8.3	1.4	6.3	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	7/8	

川西北・七条Ⅱ遺跡　遺物観察表 (4)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
51	13		SD05	土師器 小皿	8.4	1.5	5.2	1mm以下の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	3/8	
52	13	14	SD05	土師器 小皿	8.1	1.3	5.5	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	完存	
53	13		SD05	土師器 小皿	8.3	1.2	6.9	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ	口径1/8	
54	13		SD05	土師器 小皿	8.3	1.3	5.8	1mm以下の砂粒を含む。長石・金雲母含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	口径1/8	
55	13		SD05	土師器 小皿	7.8	1.2	6.2	1mm以下の砂粒を含む。長石・金雲母含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	7/8	
56	13		SD05	土師器 小皿	8.3	1.5	6.0	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・摩滅ぎみ・ヘラ切り	回転ナデ・摩滅ぎみ	底径3/8	
57	13	14	SD05	土師器 小皿	8.5	1.1	6.0	1mm以下の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ	7/8	
58	13		SD05	土師器 小皿	8.8	1.2	6.0	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	底径2/8	
59	13		SD05	土師器 小皿	8.5	1.5	6.5	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	3/8	
60	13		SD05	土師器 小皿	8.5	1.4	5.8	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	6/8	
61	13		SD05	土師器 小皿	8.3	1.1	5.9	1mm以下の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	回転ナデ・ヘラ切り後板目痕	回転ナデ・回転ナデ後仕上げナデ	ほぼ完存	
62	13		SD05	土師器 坏	11.4	2.4	6.0	0.5～5mmの砂粒を多量含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/4）	ナデ・ヘラ切り（摩滅ぎみ）	回転ナデ・指押さえ（摩滅ぎみ）	底径4/8	
63	13		SD05	陶器 壺			10.3	精良	良好	灰（5Y6/1）	ヘラ削り・ヘラ切り	回転ナデ	小片	
64	13		SD05	青磁 碗			6.6	緻密	良好	灰白（N71）釉－緑味がかった透明釉	施釉・鎬連弁	施釉	底径3/8	
65	13		SD05	土師質 土鍋	37.0			0.5～5mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ナデ	ナデ・ハケ目	小片	
66	13		SD05	土師質 土鍋	29.0			0.5～2mmの砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	にぶい黄橙（10YR7/3）	ナデ	ナデ・ハケ目	小片	
67	13		SD05	土師質 土鍋				1mm以下の砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	指押さえ・ナデ	ハケ目・ナデ	小片	
68	13	15	SD05	土師質 土釜	27.0			0.5～5mmの砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ・指押さえ	小片	

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (5)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
69	13	15	SD05	土師質 土釜	21.8			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ヨコナデ・指押さえ	ハケ目後指押さえ	口径2/8	
70	13	15	SD05	土師質 土釜	23.0			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ・指押さえ後ハケ目	口径1/8	
71	13	15	SD05	土師質 土釜	23.6			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ヨコナデ・指押さえ	ハケ目後指押さえ	口径1/8	
72	13		SD05	土師質 土釜	23.2			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（2.5Y8/2）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ・ハケ目	小片	
73	14		SD05	土師質 土釜	20.0			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ・指押さえ・板ナデ	小片	
74	14		SD05	土師質 土釜	28.0			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ・板ナデ	小片	内耳付
75	14		SD05	土師質 土鍋	27.0			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	ヨコナデ・指押さえ・ナデ	ヨコナデ・板ナデ	口径1/8	
76	14		SD05	土師質 土鍋	23.2			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	ナデ	ハケ目後指押さえ	小片	
77	14		SD05	瓦質 すり鉢	32.2			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	暗灰（N31）	ヨコナデ・指押さえ	摩滅	小片	
78	14		SD05	土師質 すり鉢	23.8			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石	普通	灰黄褐（10YR6/2）	ナデ	おろし目	小片	
79	14		SD05	土師質 甕	28.0			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	淡赤橙（2.5YR7/4）	摩滅・ハケ目？	摩滅	口径1/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
80	14		SD05	スクレイパー	3.4	5.8	0.8	17.91	サヌカイト	白色風化している

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
81	16		SD07 上層	磁器 皿	14.0			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	口径1/8	伊万里色絵

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (6)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
82	16		SD07上層	磁器 皿	10.2	1.8	6.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉・染付	小片	伊万里色絵
83	16	16	SD07上層	磁器 皿	11.1	2.1	6.4	緻密	良好	灰白（7.5Y7/1）釉－透明釉	施釉	施釉・染付	4/8	伊万里色絵
84	16	16	SD07上層	磁器 皿	12.8	2.6	7.3	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉・染付	7/8	伊万里色絵
85	16		SD07上層	磁器 皿	12.0			緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉	施釉・染付・蛇ノ目釉剝ぎ・砂目積	口径2/8	伊万里染付
86	16		SD07上層	磁器 皿	14.0			緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉	施釉・染付・蛇ノ目釉剝ぎ	口径1/8	伊万里染付
87	16		SD07上層	磁器 皿	14.0			緻密	普通	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉	施釉・染付・蛇ノ目釉剝ぎ	口径約1/8	伊万里染付
88	16		SD07上層	磁器 皿			3.8	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・露胎	施釉・蛇ノ目釉剝ぎ	底径2/8	伊万里染付
89	16		SD07上層	磁器 皿			4.8	緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－透明釉	施釉	施釉・染付・蛇ノ目釉剝ぎ・砂目積	底径3/8	伊万里染付
90	16		SD07上層	磁器 皿			10.2	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉・染付	底径1/8	伊万里染付
91	16		SD07上層	磁器 皿			7.0	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・露胎	施釉・蛇ノ目釉剝ぎ	底径2/8	伊万里染付
92	16		SD07上層	陶器 皿	11.4			緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－青緑釉	施釉	施釉	小片	伊万里青緑釉皿
93	16		SD07上層	陶器 皿			3.7	精良	良好	灰白（7.5Y7/1）釉－青緑釉	露胎	施釉・蛇ノ目釉剝ぎ	底径8/8	伊万里青緑釉皿
94	16		SD07上層	磁器 皿	13.9	2.7	8.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・露胎	施釉	底径2/8	白磁
95	16		SD07上層	磁器 小盃	11.0			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	口径1/8	伊万里染付
96	16		SD07上層	磁器 小鉢	9.4	2.6		緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉・染付	2/8	伊万里染付輪花
97	16		SD07上層	磁器 小鉢	15.5			緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	口径1/8	伊万里染付輪花

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (7)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
98	16		SD07上層	磁器 碗			4.1	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・露胎	施釉・染付・蛇ノ目釉剝ぎ・重ね焼痕	底径3/8	伊万里染付
99	16		SD07上層	磁器 碗	10.8			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	口径1/8	伊万里染付
100	16		SD07上層	磁器 碗	12.6			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	口径1/8	伊万里染付
101	16		SD07上層	磁器 碗	13.0			緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	口径1/8	伊万里染付
102	16	16	SD07上層	磁器 碗	11.0			緻密	良好	灰白（7.5Y7/1）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	口径1/8	伊万里染付
103	16	16	SD07上層	磁器 碗	9.4			緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－透明釉	施釉．染付	施釉	口径3/8	伊万里染付
104	16	16	SD07上層	磁器 碗	10.0	5.2	4.2	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	1/8	伊万里染付
105	16	16	SD07上層	磁器 碗			4.0	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径2/8	伊万里染付
106	16		SD07上層	磁器 碗			3.8	緻密	普通	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径6/8	伊万里染付
107	16		SD07上層	磁器 碗			3.9	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径2/8	伊万里染付
108	16		SD07上層	磁器 碗			3.9	緻密	良好	灰白（7.5Y7/1）釉－透明釉	施釉・染付・露胎	施釉・染付	底部完存	伊万里染付
109	16		SD07上層	磁器 碗			6.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	2/8	伊万里染付
110	17		SD07上層	磁器 碗			4.0	緻密	普通	灰白（2.5GY8/1）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径7/8	伊万里染付
111	17		SD07上層	磁器 碗			4.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径4/8	伊万里染付
112	17		SD07上層	磁器 碗			3.0	緻密	良好	灰白（10Y8/1）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径8/8	伊万里染付
113	17		SD07上層	磁器 碗			4.1	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径3/8	伊万里染付
114	17	16	SD07上層	磁器 碗	9.8	5.3	4.2	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径3/8	伊万里染付

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (8)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
115	17		SD07上層	磁器 碗			3.7	緻密	良好	灰白（N6/）釉－透明釉	施釉・染付・露胎	施釉	底部完存	伊万里染付
116	17		SD07上層	磁器 碗			3.6	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径2/8	伊万里染付
117	17		SD07上層	磁器 碗			4.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉（貫入）	底径1/8	伊万里染付
118	17		SD07上層	磁器 碗			4.1	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径4/8	伊万里染付
119	17		SD07上層	磁器 碗			3.8	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉	底径4/8	白磁
120	17		SD07上層	磁器 碗			4.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉	底径2/8	白磁
121	17		SD07上層	磁器 碗	12.4			緻密	良好	灰白(10Y8/1)　釉－青味がかった透明釉	施釉	施釉	口径1/8	白磁
122	17	17	SD07上層	磁器 鉢			6.4	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付・蛇ノ目凹形高台・露胎	施釉・染付	底径4/8	伊万里染付
123	17		SD07上層	磁器 徳利			5.1	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	露胎・回転ナデ	底径3/8	伊万里染付
124	17		SD07上層	磁器 徳利			6.0	緻密	良好	灰白(5GY8/1)釉－透明釉	施釉・露胎	露胎・回転ナデ	底径3/8	伊万里染付
125	17		SD07上層	磁器 徳利			6.9	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	露胎・回転ナデ	底径4/8	伊万里染付
126	17		SD07上層	磁器 徳利			6.6	緻密	良好	灰白（10Y8/1）　釉－透明釉	施釉・染付	露胎・回転ナデ	底径2/8	伊万里染付
127	17	17	SD07上層	磁器 碗			4.6	緻密	良好	灰白（N7/）釉－内面透明釉・外面緑がかった透明釉	施釉	施釉・染付	底径2/8	伊万里青磁染付
128	17	17	SD07上層	磁器 鉢			9.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－内面透明釉・外面緑がかった透明釉	施釉・蛇ノ目凹形高台・露胎	施釉・染付	底径2/8	伊万里青磁染付
129	17		SD07上層	磁器 鉢	19.1			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	小片	伊万里染付
130	17		SD07上層	磁器 湯呑茶碗	7.2			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	口径1/8	
131	17	17	SD07上層	磁器 湯呑茶碗			3.9	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径2/8	染付

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (9)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
132	17	17	SD07上層	磁器 小盃	7.8	2.9	2.4	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉	3/8	白磁
133	17	17	SD07上層	磁器 小盃	7.4	3.0	2.8	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・露胎	施釉	6/8	白磁
134	17	17	SD07上層	磁器 蓋	10.1	2.6	4.0	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	4/8	染付
135	17		SD07上層	磁器 徳利				緻密	良好	灰白(5GY8/1)釉－透明釉	施釉・染付・絞り目	施釉・露胎・回転ナデ	小片	肥前系染付
136	17		SD07上層	磁器 猪口	8.0			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	口径1/8	伊万里染付
137	17		SD07上層	磁器 猪口			4.6	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付・露胎	施釉	底径4/8	伊万里染付
138	17		SD07上層	磁器 猪口			4.7	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径4/8	伊万里染付
139	17	18	SD07上層	磁器 徳利				緻密	良好	灰白(10Y8/1) 釉－透明釉	施釉・染付	施釉・回転ナデ	底径8/8	伊万里染付
140	17	18	SD07上層	磁器 徳利			6.0	緻密	良好	灰白(10Y8/1) 釉－透明釉	施釉・染付	施釉・露胎・回転ナデ	底径8/8	伊万里染付
141	17	18	SD07上層	磁器 徳利	3.0			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	口径5/8	伊万里染付
142	17	18	SD07上層	磁器 徳利				緻密	良好	灰白(10Y8/1) 釉－透明釉	施釉・染付	施釉・露胎・回転ナデ	径2/8	伊万里染付
143	17	18	SD07上層	磁器 徳利			5.8	緻密	良好	灰白(10Y8/1) 釉－透明釉	施釉・露胎	施釉・露胎・回転ナデ	底径5/8	伊万里染付
144	17	18	SD07上層	磁器 徳利			6.9	緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－透明釉	施釉・染付	露胎・回転ナデ	底径4/8	伊万里染付
145	17		SD07上層	磁器 壺			4.6	緻密	普通	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉	露胎・回転ナデ	底径2/8	
146	17		SD07上層	青磁 碗	18.0			緻密	良好	灰白（N7/）釉－緑味がかった透明釉	施釉・片彫による文様	施釉・片彫による文様	小片	
147	18	18	SD07上層	陶器 皿			4.0	精良	普通	灰白(5Y7/2)釉－緑味がかった透明釉	露胎・糸切り	施釉・露胎・砂目積	底径8/8	唐津溝縁皿
148	18		SD07上層	陶器 皿			4.6	精良	普通	灰白（N7/）	釉の痕跡残る・高台削り出し	釉の痕跡残る・重ね焼痕	底径5/8	唐津溝縁皿

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (10)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
149	18		SD07上層	陶器 碗	11.5			緻密	普通	灰白(10Y8/1) 釉－茶色釉	施釉・文様	施釉	口径2/8	
150	18		SD07上層	磁器 碗			3.6	緻密	普通	灰白(10Y7/1) 釉－灰釉	施釉	施釉	底径4/8	
151	18		SD07上層	陶器 皿			8.0	緻密	良好	灰白 (2.5Y7/1) 釉－透明釉	施釉(貫入)・高台削り出し・露胎	施釉（貫入）	底径1/8	
152	18		SD07上層	陶器 皿			5.4	緻密	良好	灰白 (2.5Y7/1) 釉－内面鉄釉	露胎・高台削り出し	施釉	底径8/8	
153	18		SD07上層	陶器 皿			5.5	緻密	良好	灰赤 (10R6/2)	削り・高台削り出し	露胎・回転ナデ	底径4/8	
154	18		SD07上層	陶器 碗	9.6			緻密	良好	灰赤 (2.5Y8/2) 濁った透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	口径2/8	肥前系京焼風呉器手
155	18		SD07上層	陶器 碗	11.0			緻密	良好	灰赤 (2.5Y8/2) 釉－透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	口径1/8	肥前系京焼風呉器手
156	18	18	SD07上層	陶器 碗	7.2	5.4	3.6	緻密	良好	灰赤 (2.5Y8/2) 釉－透明釉	施釉（貫入）・露胎	施釉（貫入）	4/8	肥前系京焼風呉器手
157	18		SD07上層	陶器 碗	10.0			精良	良好	赤褐 (10R5/3)	施釉・刷毛目	施釉	口径1/8	唐津系刷毛目碗
158	18		SD07上層	陶器 碗	12.0			精良	良好	灰 (7.5Y5/1) 釉－灰色釉	施釉（貫入）・染付	施釉（貫入）	小片	肥前系陶胎染付
159	18		SD07上層	陶器 碗	9.8			緻密	良好	灰白 (N7/) 釉－灰色釉	施釉（貫入）・染付	施釉（貫入）	口径1/8	肥前系陶胎染付
160	18		SD07上層	陶器 碗			5.7	精良	良好	灰白 (N6/) 釉－灰色釉	施釉（貫入）・染付・砂目積	施釉（貫入）	底径5/8	肥前系陶胎染付
161	18	18	SD07上層	陶器 碗			4.3	精良	やや良	灰白 (N6/) 釉－灰色釉	施釉（貫入）・染付	施釉（貫入）	底径1/8	肥前系陶胎染付
162	18		SD07上層	陶器 碗			4.0	精良	良好	灰 (N4/) 釉－灰色釉	施釉（貫入）・染付・露胎	施釉（貫入）	底径4/8	肥前系陶胎染付
163	18		SD07上層	陶器 碗			4.1	精良	普通	赤褐(10R5/4) 釉－白色釉	施釉・露胎	施釉	底径3/8	

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (11)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
164	18		SD07 上層	陶器 碗			6.4	1㎜以下の砂粒を少量含む。石英・長石含む。	普通	灰白（2.5Y8/2）釉－鉄釉	回転ヘラ削り後施釉・回転ヘラ削り後ナデ・ナデ	露胎・回転ナデ	底径6/8	
165	18		SD07 上層	陶器 皿			7.7	精良	良好	にぶい橙（5YR6/4）釉－茶色釉	施釉・染付・露胎・ヘラ削り・削り出し高台	施釉・刷毛目・蛇ノ目釉剝ぎ・重ね焼痕	小片	唐津系刷毛目皿
166	18		SD07 上層	陶器 碗				緻密	良好	にぶい黄橙（10YR7/2）釉－鉄釉	施釉	施釉	小片	瀬戸・美濃系鉄釉天目茶碗
167	18		SD07 上層	陶器 碗	11.6			緻密	普通	灰白（N7/）釉－鉄釉	施釉（鉄釉）・露胎・ヘラ削り	施釉（鉄釉）	口径1/8	瀬戸・美濃系鉄釉天目茶碗
168	18		SD07 上層	陶器 徳利	2.5			緻密	良好	にぶい赤褐（2.5YR4/3）釉－塗土	施釉	施釉	小片	
169	18		SD07 上層	磁器 花瓶	6.0			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	口径1/8	染付
170	18		SD07 上層	陶器 蓋	7.1	10.2	7.2	緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－灰釉	施釉・染付	施釉	ほぼ完存	瀬戸焼
171	18		SD07 上層	陶器 土瓶	7.1	10.2	7.2	緻密	良好	灰白（7.5Y8/1）釉－灰釉	施釉・染付	施釉・回転ナデ	3/8	瀬戸焼耳付
172	18		SD07 上層	陶器 蓋	18.8	4.7		精良	良好	橙（5YR6/6）釉－施釉・外面透明釉	施釉・回転ナデ・沈線2本	露胎・回転ナデ	口径2/8 つまみ8/8	在地産？
173	18	19	SD07 上層	陶器 蓋	16.2			精良	良好	灰白（N6/）釉－内面淡緑釉・外面白色釉	施釉・染付	施釉	口径4/8	在地産？
174	18		SD07 上層	陶器 鉢	16.4			1㎜以下の砂粒を少量含む。石英・長石含む。	良好	灰白（N7/）釉－灰釉	施釉	施釉	小片	
175	18	19	SD07 上層	陶器 鉢	13.8			緻密	良好	灰白(5Y7/2)釉－透明釉	施釉（貫入）・指押さえ・注ぎ口貼り付け	施釉（貫入）	注ぎ口8/8	唐津系片口
176	18		SD07 上層	陶器 鉢	18.0			精良	良好	灰白(5Y8/2)釉－濁った緑味がかった透明釉	施釉・露胎	施釉（貫入）	1/8	唐津系片口
177	18		SD07 上層	陶器 甕	15.8			0.5～2㎜の砂粒を少量含む。長石含む。	普通	灰白(5Y8/2)釉－緑釉	施釉	施釉・剝離	小片	

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (12)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
178	18	19	SD07 上層	陶器 小盃			8.2	1㎜以下の砂粒を少量含む長石含む	普通	灰白（2.5Y8/2）	回転ナデ・回転糸切り	回転ナデ	底径2/8	
179	18	19	SD07 上層	陶器 小盃	8.1	4.3	4.3	0.5～2㎜の砂粒を少量含む長石含む	普通	橙（5YR7/6）釉－黄味がかった透明釉	施釉・露胎・回転ナデ・回転糸切り	施釉・回転ナデ	4/8	
180	18	19	SD07 上層	陶器 秉燭			4.9	精良	普通	にぶい黄橙（10YR7/4）釉－黄白色釉	施釉・露胎・回転糸切り	施釉	底径8/8	
181	19		SD07 上層	土師質 壺	17.8			0.5～5㎜の砂粒を含む石英・長石含む	普通	浅黄橙（7.5YR8/3）	指押さえ後板ナデ・ヨコナデ	指押さえ後ハケ目・ヨコナデ	口径1/8	
182	19		SD07 上層	土師質 壺			9.8	0.5～2㎜の砂粒を含む石英・長石含む	普通	灰白（7.5YR8/2）	指押さえ後ナデ・ナデ	ハケ目・ナデ	底径1/8	
183	19		SD07 上層	土師質 土鍋				0.5～5㎜の砂粒を含む石英・長石含む	普通	にぶい黄橙（10YR7/4）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ	小片	
184	19		SD07 上層	土師質 すり鉢				1㎜以下の砂粒を含む石英・長石含む	普通	灰白（2.5Y8/2）	指押さえ・指押さえ後ナデ・ナデ	指押さえ・ナデ後ハケ目後おろし目	1/8	
185	19		SD07 上層	土師質 こね鉢	29.0			0.5～2㎜の砂粒を含む長石・金雲母含む	普通	浅黄橙（10YR8/4）	ナデ・摩滅ぎみ	ナデ・摩滅ぎみ	小片	
186	19		SD07 上層	土師質 こね鉢	33.0			0.5～3㎜の砂粒を含む石英・長石・金雲母含む	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ヨコナデ・ヘラ削り後指押さえ・ナデ	ヨコナデ・ハケ目	口径1/8	
187	19		SD07 上層	土師質 焙烙	29.0			1㎜以下の砂粒を含む長石含む	普通	黄灰（2.5Y4/1）	ナデ	ナデ	小片	
188	19		SD07 上層	土師質 焙烙	40.1			0.5～3㎜の砂粒を含む石英・長石含む	普通	暗灰黄（2.5Y5/2）	ナデ	ナデ	口径1/8	
189	19		SD07 上層	瓦質 焙烙	40.4			精良	普通	にぶい黄（2.5Y6/4）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ	小片	
190	19		SD07 上層	瓦質 焙烙	45.0			1㎜以下の砂粒を少量含む。長石・金雲母含む。	普通	灰（N5/）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ	小片	
191	19		SD07 上層	瓦質 土釜	25.8			0.5～2㎜の砂粒を含む。長石含む。	普通	灰褐（7.5YR4/2）	ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ	口径1/8	二ヶ所耳付
192	19		SD07 上層	瓦質 土釜	28.6			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰（5Y4/1）	指押さえ・ナデ	ナデ・指押さえ・ハケ目	小片	
193	19	20	SD07 上層	瓦質 土釜	21.5			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	暗灰（N3/）	指押さえ・ヨコナデ	指押さえ後ハケ目・ヨコナデ	口径3/8	二ヶ所耳付

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (13)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
194	20		S D 07 上層	陶器 灯明皿	11.4	1.3	6.8	精良	良好	赤褐（10R4/3）	ヨコナデ・ヘラ削り・糸切り	回転ナデ	2/8	備前
195	20		S D 07 上層	陶器 鉢			11.0	1㎜以下の砂粒を含む。長石含む。	良好	にぶい赤褐(7.5R4/3)	ナデ	回転ナデ	底径1/8	備前
196	20		S D 07 上層	陶器 鉢			12.8	0.5～2㎜の砂粒を含む。長石含む。	普通	明赤褐（2.5YR5/6）	ナデ	回転ナデ	底径1/8	備前
197	20		S D 07 上層	陶器 鉢	11.5	5.1	11.4	0.5～5㎜の砂粒を少量含む。長石含む。	良好	にぶい赤褐(5YR5/4)	回転ナデ	ナデ	3/8	備前
198	20	20	S D 07 上層	陶器 すり鉢	36.0			1㎜以下の砂粒を含む。石英・長石含む。	良好	にぶい赤褐(7.5R4/3)	回転ナデ	おろし目	小片	備前
199	20		S D 07 上層	陶器 すり鉢	32.0			1㎜以下の砂粒を少量含む。石英・長石含む。	良好	にぶい赤橙(10R6/4)	回転ナデ	おろし目	口径1/8	備前
200	20		S D 07 上層	陶器 すり鉢	29.4			0.5～2㎜の砂粒を少量含む。長石含む。	良好	赤褐（10R4/3）	ヨコナデ	ヨコナデ・おろし目	口径1/8	備前
201	20	20	S D 07 上層	陶器 すり鉢	34.0			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	良好	にぶい赤褐(5YR5/4)	ヨコナデ	おろし目	口径1/8	備前
202	20	20	S D 07 上層	陶器すり鉢	30.0			0.5～5㎜の砂粒を少量含む。長石含む。	良好	にぶい赤褐(2.5YR5/3)	回転ナデ	おろし目	小片	堺産
203	20		S D 07 上層	陶器 すり鉢	30.0			0.5～2㎜の砂粒を少量含む。長石含む。	良好	にぶい赤褐(2.5YR5/3)	回転ナデ	ナデ・おろし目	小片	備前
204	20	20	S D 07 上層	陶器 すり鉢	36.6			1㎜以下の砂粒を少量含む。長石含む。	良好	にぶい赤褐(2.5YR5/4)	回転ナデ	おろし目	小片	堺産
205	20		S D 07 上層	陶器 すり鉢			14.0	0.5～2㎜の砂粒を含む。長石含む。	良好	にぶい赤褐(2.5YR5/3)	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ	おろし目	底径2/8	備前
206	20		S D 07 上層	陶器 すり鉢			14.9	1㎜以下の砂粒を少量含む。長石含む。	良好	明赤褐（2.5YR5/6）	回転ナデ・タタキ後ナデ	おろし目	底径2/8	明石産
207	21		S D 07 上層	陶器 甕			24.4	0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（5Y7/1）	回転ナデ・砂多量に付着	回転ナデ	底径1/8	信楽・伊賀焼
208	21		S D 07 上層	陶器 鉢			9.8	精良	良好	赤褐(10R5/4) 釉－外面塗土	回転ナデ・沈線・削り出し高台	回転ナデ・ナデ	底径1/8	唐津？
209	21	20	S D 07 上層	陶器 すり鉢	29.0			精良	良好	灰白（N6/）釉－黒色釉 表面発色茶色	施釉	施釉・おろし目	口径1/8	在地産？
210	21	20	S D 07 上層	陶器 すり鉢	34.0			精良	良好	にぶい橙(2.5YR6/4) 釉－塗土	施釉	施釉・おろし目	口径1/8	在地産？片口

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (14)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
211	21	21	S D 07 上層	陶器 すり鉢	28.0	12.8	12.1	精良	良好	淡赤橙（2.5Y R7/4）釉－塗土	回転ナデ	おろし目	3/8	在地産？
212	21	21	S D 07 上層	陶器 鉢			17.4	精良	やや良好	灰白（7.5Y7/1）釉－黒色釉 表面発色 茶色	施釉・蛇ノ目高台・露胎・塗土	施釉・目跡	底径5/8	在地産？
213	21		S D 07 上層	陶器 鉢			17.0	0.5～3㎜の砂粒を含む。長石含む。	普通	にぶい黄橙（10Y R7/4）釉－黒色釉 表面発色 茶色	施釉・露胎	施釉・重ね焼痕	底径1/8	在地産？
214	21	21	S D 07 上層	陶器 鉢	24.0	8.8	15.4	精良	良好	赤褐(10R4/4) 釉－鉄釉	回転ナデ・施釉・露胎・糸切り後ナデ	施釉・施釉後削り取り	口径5/8	在地産？
215	21	22	S D 07 上層	陶器 水甕			20.0	0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（7.5Y8/1）釉－緑味がかった灰釉	施釉・模様・露胎・高台削り出し	施釉・目跡	底径1/8	美濃焼

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	筒部径(cm)	厚さ(cm)	胎土	焼成	色調	調整（外面）	調整(中面)	備考
216	22	22	S D07上層	丸瓦	12.9	12.9	1.5	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	暗灰（N3/）	ナデ		
217	22	22	S D07上層	丸瓦	19.7	16.4	1.2	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	灰（N4/）	ナデ	板ナデ・タタキ	
218	22		S D07上層	丸瓦	11.3	12.6	1.3	1㎜以下の砂粒を少量含む。	普通	暗灰（N3/）	ナデ	板ナデ・粘土の継ぎ目	
219	22		S D07上層	軒丸瓦				0.5～3㎜のを砂粒を含む。長石含む。	普通	灰（N4/）	ナデ・三巴文	ナデ	
220	22		S D07上層	軒丸瓦				1㎜以下の砂粒を含む。	普通	灰（N6/）	ナデ・板ナデ・三巴文	ナデ	

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
221	22	22	S D07上層	煙管	雁首1.6	火皿6.4	径0.9 吸口5.7	11.5	銅	
222	22	22	S D07上層	環状製品	5.0	4.7	0.6	19.45	青銅	
223	22	22	S D07上層	銅銭(寛永通寶)	2.3	2.3	0.1	2.56		

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (15)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
224	23		SD07下層	磁器 皿	10.0			緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉・蛇ノ目釉剝ぎ・砂目積	口径1/8	伊万里染付
225	23		SD07下層	磁器 碗			4.6	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・露胎・砂目積・削り出し	施釉・蛇ノ目釉剝ぎ・砂目積	底径4/8	伊万里染付
226	23		SD07下層	磁器 碗	8.3	4.1	3.5	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	2/8	伊万里染付
227	23		SD07下層	磁器 碗			4.1	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径5/8	伊万里染付
228	23		SD07下層	磁器 小盃			2.4	緻密	やや良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉	施釉	底径2/8	白磁
229	23		SD07下層	磁器 鉢			6.1	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径2/8	伊万里染付
230	23		SD07下層	磁器 猪口			4.8	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径4/8	染付
231	23	23	SD07下層	磁器 香炉	9.3	4.3	7.5	緻密	良好	灰白（N7/）釉－青味がかった透明釉	施釉・蛇ノ目凹形高台・露胎	施釉	底径1/8	伊万里青磁
232	23		SD07下層	陶器 皿			4.0	1㎜以下の砂粒を少量含む。	普通	灰白（2.5Y8/2）釉－内面鉄釉	ヨコナデ・ヘラ削り・ヘラ切り	施釉	小片	瀬戸・美濃鉄釉皿
233	23		SD07下層	磁器 碗			4.7	精良	普通	灰（N6/）釉－内面透明釉・外面白色釉	施釉・染付・露胎	施釉（貫入）	底径8/8	肥前系陶胎染付
234	23		SD07下層	磁器 碗			4.7	精良	普通	灰白（N7/）釉－青味がかった透明釉	施釉（貫入）・染付・露胎・砂目積	施釉（貫入）	小片	肥前系陶胎染付
235	23		SD07下層	磁器 碗			4.4	精良	良好	灰白（N7/）釉－青味がかった透明釉	施釉（貫入）・染付・露胎・砂目積	施釉（貫入）	底径4/8	肥前系陶胎染付
236	23		SD07下層	磁器 碗			4.7	精良	良好	灰（N5/）釉－青味がかった透明釉	施釉（貫入）・染付・高台削り出し・露胎	露胎・回転ナデ	底径2/8	肥前系陶胎染付 広東型
237	23		SD07下層	磁器 碗			4.6	緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）・露胎	施釉（貫入）	底径4/8	肥前系京焼風呉器手

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (16)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
238	23	23	SD07下層	磁器 碗			4.2	精良	良好	灰（N5/）釉－緑味がかった透明釉	施釉・刷毛目・露胎	施釉・刷毛目	底径8/8	唐津系刷毛目碗
239	23		SD07下層	陶器 皿	20.7			1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	にぶい黄橙（10YR7/3）釉－内面浅黄色透明釉・外面暗緑色透明釉	施釉・露胎	施釉・刷毛目	2/8	唐津系刷毛目皿
240	23		SD07下層	陶器 皿			9.8	精良	良好	灰赤(10R4/2) 釉－茶色釉	施釉・回転ヘラ削り・回転ナデ・削り出し高台	施釉・刷毛目	底径3/8	唐津系刷毛目皿
241	23		SD07下層	瓦質 土釜	20.6			0.5～2㎜の砂粒を少量含む。石英・長石含む。	普通	灰黄（2.5Y6/2）	ヨコナデ・指押さえ	ヨコナデ	口径2/8	
242	23		SD07下層	土師質 甕	27.6			0.5～3㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	橙（5YR6/6）	指押さえ後ナデ・櫛描き沈線	指押さえ後ヨコナデ・指ナデ後ヨコナデ・ヨコナデ	小片	耳状の把手付
243	23		SD07下層	陶器 甕	11.4			精良	良好	橙（5YR7/6）釉－外面塗土	ヨコナデ・塗土・沈線	ヨコナデ・塗土・露胎	口径2/8	備前
244	23		SD07下層	陶器 すり鉢	25.8			1㎜以下の砂粒を含む。石英・長石含む。	良好	灰白（N7/）	回転ナデ	おろし目	小片	備前
245	23		SD07下層	陶器 すり鉢				0.5～2㎜の砂粒を含む。長石含む。	良好	橙（5YR6/6）	回転ナデ	おろし目	小片	備前
246	25		SD09	土師器 坏			6.2	1㎜以下の砂粒を少量含む。長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/4）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	底径3/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
247	25		SD09	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.93	サヌカイト	

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (17)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
248	28		SD11	土師質 土鍋	36.0			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	指押さえ・ヨコナデ	板ナデ・ヨコナデ	小片	
249	28	23	SD11	土師質 土鍋	26.9			0.5～2㎜の砂粒を多量含む。石英・長石含む。	良好	橙（5YR6/6）	ハケ目	指押さえ・指ナデ	4/8	
250	29		SD13 上層	土師器 坏			6.8	1㎜以下の砂粒を少量含む。	やや不良	橙（5YR6/8）	ナデ・ヘラ切り	ナデ	2/8	
251	29		SD13 上層	土師器 坏		1.7	5.0	1㎜以下の砂粒を少量含む。石英・長石・金雲母含む。	やや不良	橙（5YR6/6）	ナデ・摩滅・ヘラ切り	ナデ・摩滅	1/8	
252	29		SD13 上層	土師器 坏			6.3	1㎜以下の砂粒を少量含む。石英・長石・金雲母含む。	やや不良	橙（5YR6/6）	摩滅・ヘラ切り	摩滅	2/8	
253	29	23	SD13 上層	土師器 坏	14.0	3.5	8.9	0.5～2㎜の砂粒を少量含む。石英・長石含む。	やや不良	灰白（10YR8/2）	摩滅・ヘラ切り	ナデ	5/8	
254	29		SD13 下層	土師器 小皿	9.3	1.7	7.2	1㎜以下の砂粒を少量含む。長石含む。	やや不良	浅黄橙（10YR8/3）	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	2/8	
255	29	23	SD13 下層	須恵器 坏			7.1	精良	普通	灰白（N6/）	回転ナデ・火だすき・ヘラ切り	回転ナデ・火だすき	底径8/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
256	29		SD13下層	石鏃	2.3	1.0	0.4	1.10	サヌカイト	

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
257	32		SD14 上層	陶器皿				精良	普通	にぶい橙（5YR7/4）釉－白色釉	施釉・露胎・削り出し高台	施釉	底径3/8	唐津
258	32		SD14 上層	陶器碗	11.0			緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	口径1/8	肥前系京焼風呉器手
259	32		SD14 上層	須恵質すり鉢	34.5			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	不良	灰白（N7/）	ナデ・ヘラ削り	おろし目	口径1/8	

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (18)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
260	32	24	SD14 上層	土師質 甕	31.0	32.0	21.0	0.5～3㎜の砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	橙（5YR7/6）	指押さえ・ナデ・円形刺突文	指押さえ後ハケ目・指ナデ	口径3/8	三足付
261	32		SD14 中層	磁器 皿	14.0			緻密	良好	灰白（N8/）釉－明緑色がかった透明釉	施釉	施釉	小片	伊万里
262	32		SD14 中層	陶器 皿				精良	良好	灰白（N7/）釉－内面緑釉・外面透明釉	施釉	施釉	小片	
263	32		SD14 中層	陶器 碗			5.0	精良	良好	灰白（N7/）釉－緑味がかった透明釉	施釉（貫入）・露胎・削り出し高台・砂目積	施釉（貫入）	底径3/8	
264	32		SD14 中層	陶器 碗	11.6			緻密	普通	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	口径1/8	肥前系京焼風呉器手
265	32		SD14 中層	土師質 土鍋	37.4			0.5～5㎜の砂粒を多量含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	にぶい橙(10YR7/3)	ナデ・板ナデ・指押さえ	板ナデ	小片	
266	32		SD14 中層	土師質 焙烙	34.2			0.5～2㎜の砂粒を多量含む。	普通	橙（5YR7/6）	ヨコナデ・指押さえ	削り後ナデ	小片	双孔内耳付
267	32		SD14 中層	土師質 甕	38.0			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	指押さえ・摩滅	ナデ	口径1/8	
268	33		SD14 下層	磁器 小盃			2.4	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉	底径8/8	伊万里染付
269	33		SD14 下層	磁器 皿	21.0			緻密	普通	灰白（N7/）釉－濁釉	施釉・染付	施釉	口径1/8	伊万里色絵
270	33	24	SD14 下層	青磁 皿	19.1	2.6	10.2	精良	良好	にぶい橙（7.5YR7/3）釉－緑味がかった透明釉	施釉・目跡・蛇ノ目高台・露胎	施釉・片彫	ほぼ完存	
271	33		SD14 下層	陶器 皿			3.5	精良	良好	灰（N6/）釉－透明釉	施釉・露胎・高台・削り出し	施釉・砂目積	底径7/8	唐津溝縁皿
272	33		SD14 下層	陶器 皿			4.4	精良	良好	にぶい黄橙（10YR7/2）釉－緑味がかった透明釉	回転ナデ・施釉・削り出し高台後ナデ	施釉・砂目積	底径8/8	唐津溝縁皿
273	33		SD14 下層	陶器 碗	11.8			緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	1/8	肥前系京焼風呉器手

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (19)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
274	33		S D 14 下層	陶器 碗			4.8	緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	底径8/8	肥前系 京焼風 呉器手
275	33		S D 14 下層	陶器 碗			4.8	緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）・露胎	施釉（貫入）	底径5/8	肥前系 京焼風 呉器手
276	33		S D 14 下層	陶器 碗			5.2	緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）・露胎・砂目積	施釉（貫入）	底径8/8	肥前系 京焼風 呉器手
277	33		S D 14 下層	陶器 碗			4.3	緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	底径8/8	肥前系 京焼風 呉器手
278	33		S D 14 下層	陶器 碗			5.0	緻密	普通	灰白（2.5Y8/2）釉－黄味がかった透明釉	施釉（貫入）	施釉（貫入）	底径8/8	肥前系 京焼風 呉器手
279	33		S D 14 下層	陶器 碗			5.2	緻密	良好	灰白（2.5Y8/2）釉－濁った透明釉	施釉（貫入）・露胎	施釉（貫入）	底径8/8	肥前系 京焼風 呉器手
280	33		S D 14 下層	陶器 徳利				1㎜以下の砂粒を含む。	良好	橙（2.5YR6/6）釉－外面塗土	回転ナデ・沈線	回転ナデ	3/8	備前
281	33		S D 14 下層	陶器 鉢			13.1	0.5～2㎜の砂粒を含む。長石含む。	良好	灰白（N7/）釉－塗土	回転ナデ・ヘラ削り・ヘラ切り	回転ナデ	小片	備前
282	33		S D 14 下層	瓦質 茶釜	14.4			0.5～3㎜の砂粒を含む。長石含む。	やや不良	灰（5Y4/1）	ハケ目・指ナデ	ハケ目	口径2/8	
283	33		S D 14 下層	瓦質 土釜	18.8			1㎜以下の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	暗灰黄（2.5Y4/2）	指押さえ後ハケ目・指押さえ・ナデ	指押さえ・ナデ・板ナデ	径5/8	二ヶ所耳付
284	33		S D 14 下層	瓦質 土釜	19.1			1㎜以下の砂粒を含む。長石・金雲母含む。	普通	灰黄（2.5Y6/2）	ハケ目後指押さえ・指押さえ	ハケ目後指ナデ	口径1/8	
285	33		S D 14 下層	土師質 土釜	33.4			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ	小片	
286	33		S D 14 下層	土師質 土鍋	31.6			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	指押さえ後ナデ	ナデ・指押さえ後ナデ	口径1/8	
287	33		S D 14 下層	土師質 土鍋	30.6			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	にぶい橙（7.5YR7/4）	指押さえ・ナデ	ヨコナデ・指押さえ後ヨコナデ	口径1/8	

川西北・七条II遺跡　遺物観察表 (20)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
288	33		SD14下層	土師質 壺	13.0			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	灰白（7.5Y8/2）	ヨコナデ	ヨコナデ・指押さえ	口径1/8	
289	33		SD14下層	土師質 すり鉢				0.5～3㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ナデ	おろし目	小片	
290	34		SD14下層	土師質 甕	27.8			0.5～3㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	剝落	ハケ目後ナデ	小片	
291	34		SD14下層	土師質 甕	44.0			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	橙（5YR7/6）	指押さえ・ナデ	指押さえ・板ナデ・ナデ	口径1/8	
292	34		SD14下層	土師質 甕	39.4			0.5～5㎜の砂粒を多量含む。石英・長石含む。	普通	橙（5YR7/6）	指押さえ後ナデ・波状文	指押さえ後ナデ	口径1/8	
293	34		SD14下層	土師質 甕	39.0			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	橙（5YR7/6）	指押さえ後ナデ・波状文	指押さえ後ナデ	口径3/8	
294	34	24	SD14下層	土師質 甕			29.4	0.5～3㎜の砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	橙（5YR7/6）	板ナデ後ナデ・ハケ目	ハケ目後ナデ	底径1/8	足付
295	35	24	SD14下層	土師質 甕	41.8	40.6	29.7	0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	浅黄橙（10YR8/3）	ナデ・指押さえ・波状文	ハケ目・ナデ・指押さえ	4/8	三足付

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
296	35		SD14下層	石鏃	2.5	1.1	0.3	1.13	サヌカイト	先端部欠損
297	35		SD14下層	スクレイパー	5.9	5.9	1.0	46.28	サヌカイト	
298	35		SD14下層	鋤先	8.0	4.0	1.4	44.73	鉄	
299	35		SD14下層	手鏡の柄？	9.6	1.6	0.7	20.84	銅	

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
300	36		包含層	磁器 碗			4.2	緻密	良好	灰白（N7/）釉－内面透明釉・外面緑味がかった透明釉	施釉・露胎	施釉・染付・砂目積	底径3/8	伊万里染付

川西北・七条II遺跡　遺物観察表　(21)

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調	調整（内面）	調整（外面）	残存率	備考
301	36	25	包含層	磁器 小盃	9.6	3.0	3.3	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付・露胎	施釉	2/8	伊万里染付
302	36		包含層	磁器 皿			8.3	緻密	良好	灰白（N8/）釉－透明釉	施釉・染付・露胎	施釉	底径1/8	伊万里染付
303	36	25	包含層	磁器 碗			3.8	緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	施釉・染付	施釉・染付	底径2/8	伊万里染付
304	36		包含層	磁器 小盃	5.6	3.2	1.9	緻密	良好	灰白（N8/）釉－内面透明釉・外面青釉	施釉・露胎	施釉	2/8	伊万里染付
305	36		包含層	磁器 碗	11.0			緻密	良好	灰白（N7/）釉－透明釉	染付・施釉	施釉	2/8	伊万里染付
306	36	25	包含層	陶器 皿			4.6	精良	良好	灰白（N7/）釉－緑味がかった透明釉	ヘラ削り・施釉・露胎・高台削り出し	施釉・蛇ノ目釉剝ぎ・砂目積	底径4/8	唐津溝縁皿
307	36		包含層	須恵器 高台付坏			10.4	精良	良好	灰赤（10R5/2）	回転ナデ・ヘラ切り後ナデ・底部ヘラ記号	回転ナデ	底径4/8	
308	36		包含層	瓦質 土釜	23.8			精良	やや良好	灰白（2.5Y7/）	横ナデ・文様	回転ナデ	小片	
309	36		包含層	土師質 土釜	28.0			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰白（10YR8/2）	指押さえ・ナデ	板ナデ後ナデ	口径1/8	
310	36		包含層	土師質 土鍋	26.0			0.5～2㎜の砂粒を含む。石英・長石・金雲母含む。	普通	灰白（10YR8/2）	指押さえ・ナデ	ハケ目・ナデ	口径1/8	
311	36		包含層	陶器 すり鉢	27.6			0.5～3㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	灰（N5/）	ヨコナデ	おろし目	口径1/8	備前
312	36		包含層	陶器 すり鉢	29.8			0.5～5㎜の砂粒を含む。石英・長石含む。	普通	淡赤橙（2.5YR7/4）	ヨコナデ	おろし目	小片	備前

報文番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
313	36		包含層	石庖丁	8.4	4.7	1.0	49.33	サヌカイト	白色風化著しい・潰れ

川西北・七条II遺跡遺構観察表

遺構一覧表（ＳＤ）

SD	区画名	規模（m）		出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
		天幅	深さ				
01	II区	0.46	0.08	土師器、滑石片岩	中世後半	10	
02	II区	0.26	0.05		中世後半	10	
03	II区	0.8	0.05		不明		
04	II区	1.5	0.29	磁器、陶器、土錘	近世	11	
05	II区	(1.7)	0.25	土師器、瓦質土器、陶器、青磁、サヌカイト	中世後半	11	4
06	II区	0.55	0.05		不明	11	
07	II区	2.4	0.52	土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、青磁、陶器、磁器、瓦、古銭、鉄製品、銅製品、青銅製品	18世紀～明治初期	15	5～7
08	II区	0.4	0.07		不明		
09	I区	0.62	0.08	土師器、サヌカイト製品	中世	24	
10	I区	0.8	0.11		不明	26	
11	I区	1.13	0.42	土師器	12世紀	27	8
12	I区	0.4	0.05		不明		
13	I区	7.46	0.5	土師器、須恵器、サヌカイト製品	12世紀	30	9
14	I区	(2.38)	0.54	須恵器、土師器、瓦質土器、青磁、陶器、磁器、鉄製品、サヌカイト製品、銅製品	近世	31	9・10

遺構一覧表（ＳＢ）

SB	区画名	規模（m）		出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
		桁行	梁間				
01	II区	6.1	3.94	土師器、土師質土釜B	中世後半	4・10	2
02	I区	8.6	4.4		不明	5	

遺構一覧表（ＳＴ）

ST	区画名	規模（m）		出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
		天幅	深さ				
01	II区	長 2.29 短 0.91	0.02		中世後半	6	2・3

遺構一覧表（ＳＫ）

SK	区画名	平面形	規模（m）		出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
			天幅	深さ				
01	I区	円形	1.43	0.24	土師質土鍋A	中世	7	4

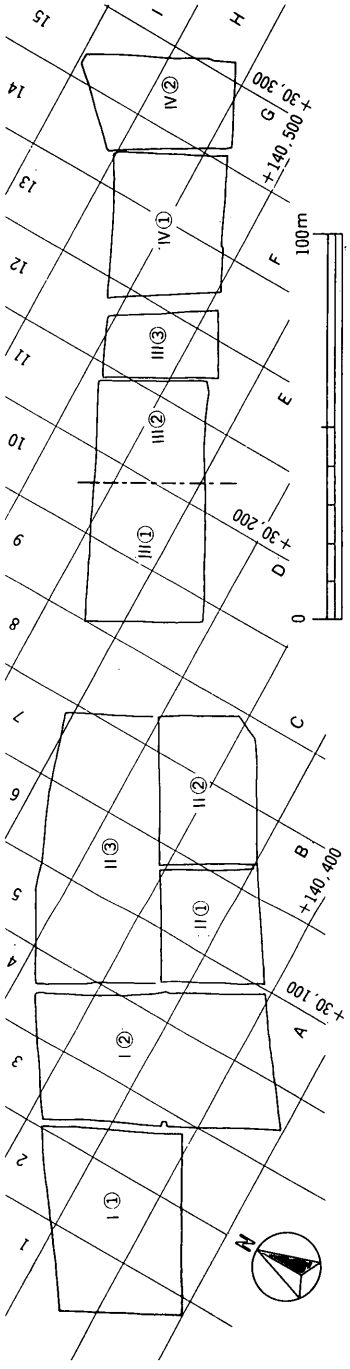
第４章　　川西北・鍛冶屋遺跡の調査の成果

第１節　　調査の方法

調査工程及び現在の地割に従い，調査区を第１図のように設定した。調査時の遺構名付け及び遺物の取り上げにおいては，調査区名を使用している。また調査地全体を覆うような形で，国土座標第Ⅳ系に沿う20m四方の小区画を第１図のように設定し，報告時の遺構名付けに使用することとする。平面の測量は大部分をヘリコプターによる航空測量で行い，一部の平面図及び断面図の作成を手書きで行った。

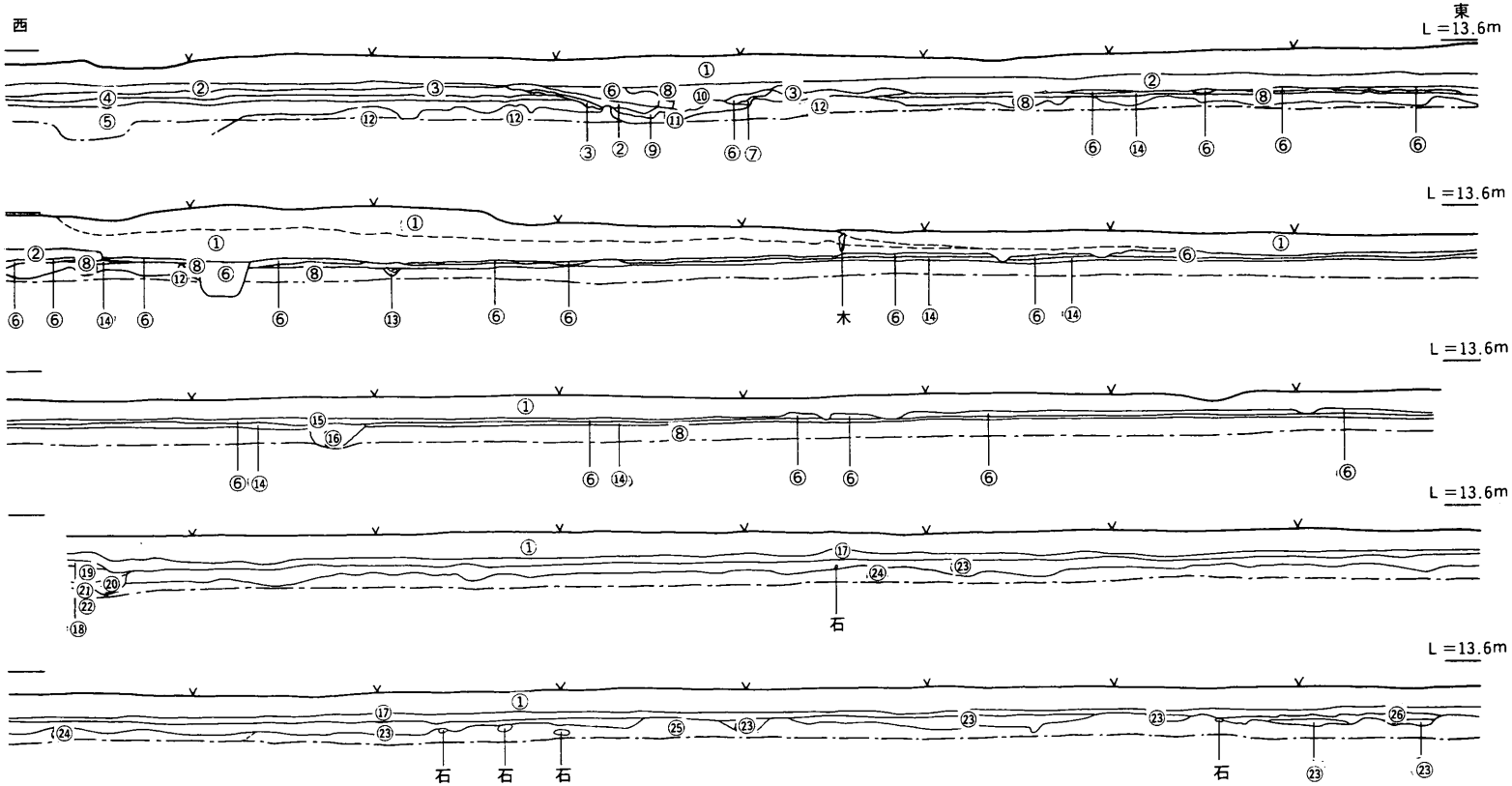
第２節　　土層序（第２～５図）

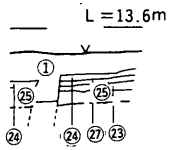
遺跡全面に基盤層として白黄色粘質土が広がる。遺構の深度が大きい場所では下位の砂礫層がみられる。白黄色粘質土層は基本的に現耕作土直下で現れ，部分的に遺物包含層が検出できる。この白黄色粘質土層上面では弥生時代以降の遺構が検出される。またⅢ区③では，この白黄色粘質土層から風化の進んだサヌカイト剝片が出土している。旧石器時代の横長剝片が当遺跡から出土していること，丸亀平野の三条黒島遺跡[1]・郡家田代遺跡[1]においても旧石器が同様な状況で出土していることから，これらの剝



第１図　調査区名図（１／2,000）

(1)香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団高松建設局『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　昭和63年度』1989

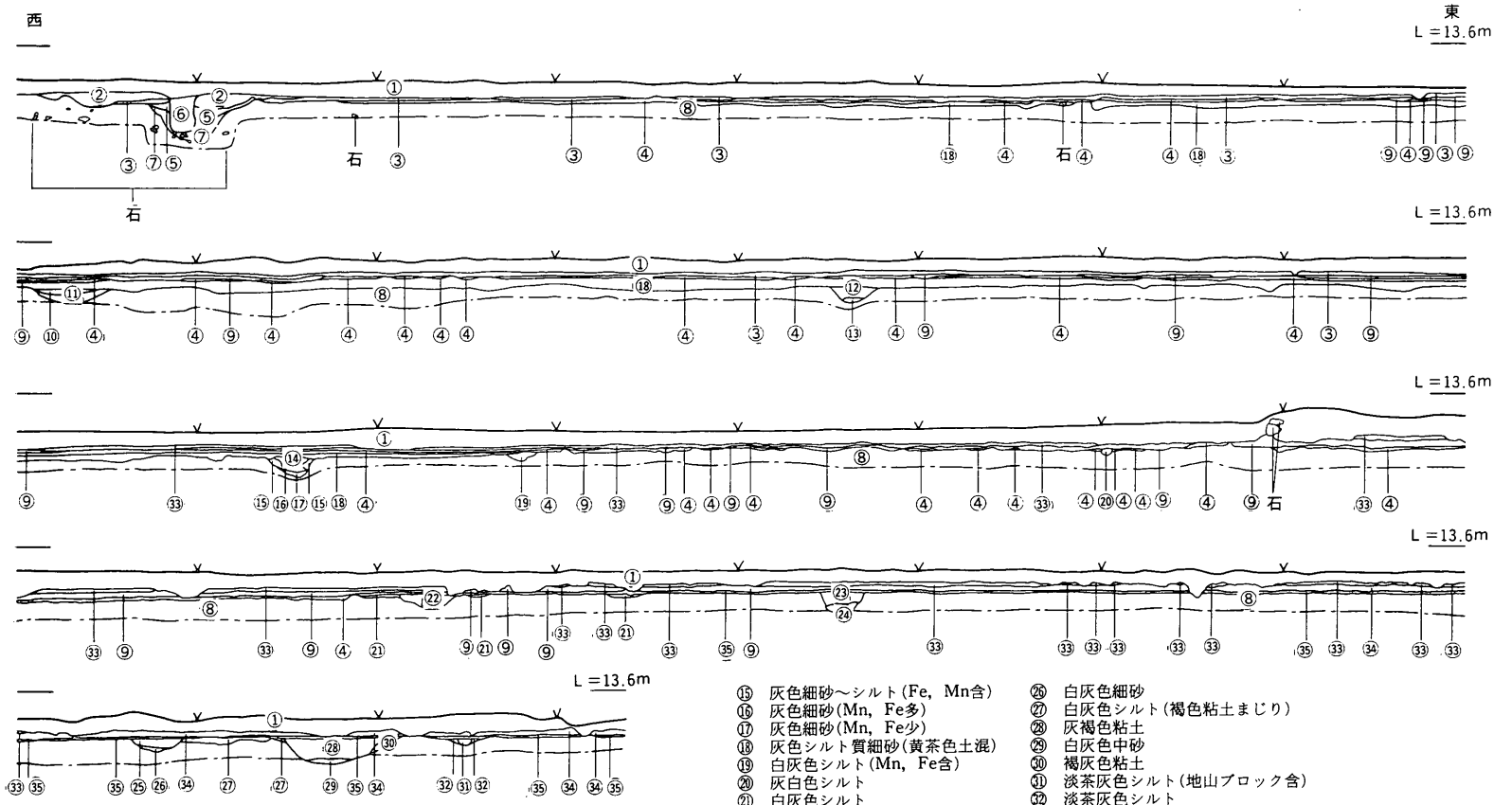




① 耕作土
② 灰黄色シルト(床土)
③ 灰白色シルト
④ 黄褐色シルト(地山、Mn含)
⑤ 黄褐色シルト(地山)
⑥ 灰色シルト
⑦ 黄褐色シルト
⑧ 黄色シルト
⑨ 灰白色シルトと黄白色シルトがうすく互層をなす
⑩ 灰白色シルトと黄白色シルトブロックの混合層
⑪ 暗灰色シルト(礫含)
⑫ 礫層
⑬ 不明
⑭ 褐黄色シルト
⑮ 淡灰色シルト
⑯ 灰色シルト(黄褐色粘土ブロック含)
⑰ 橙灰黄色シルト質細砂(Fe含)
⑱ 灰白色シルト(粘土含)
⑲ 白灰色シルト(Mn, Fe含)
⑳ 白黄色シルト(粘土まじりMn含)ブロック
㉑ 灰色シルト(細砂, 中砂含)
㉒ 灰橙(褐)色粘土・細砂混
㉓ 白黄色シルト(粘土まじりMn含)
㉔ 灰橙(褐)色粘土・細砂まじり
㉕ 10cm大の風化砂岩礫層
㉖ 灰色シルト質細砂(Mn)
㉗ にぶい白黄色(Fe)シルト質細砂

0 4m

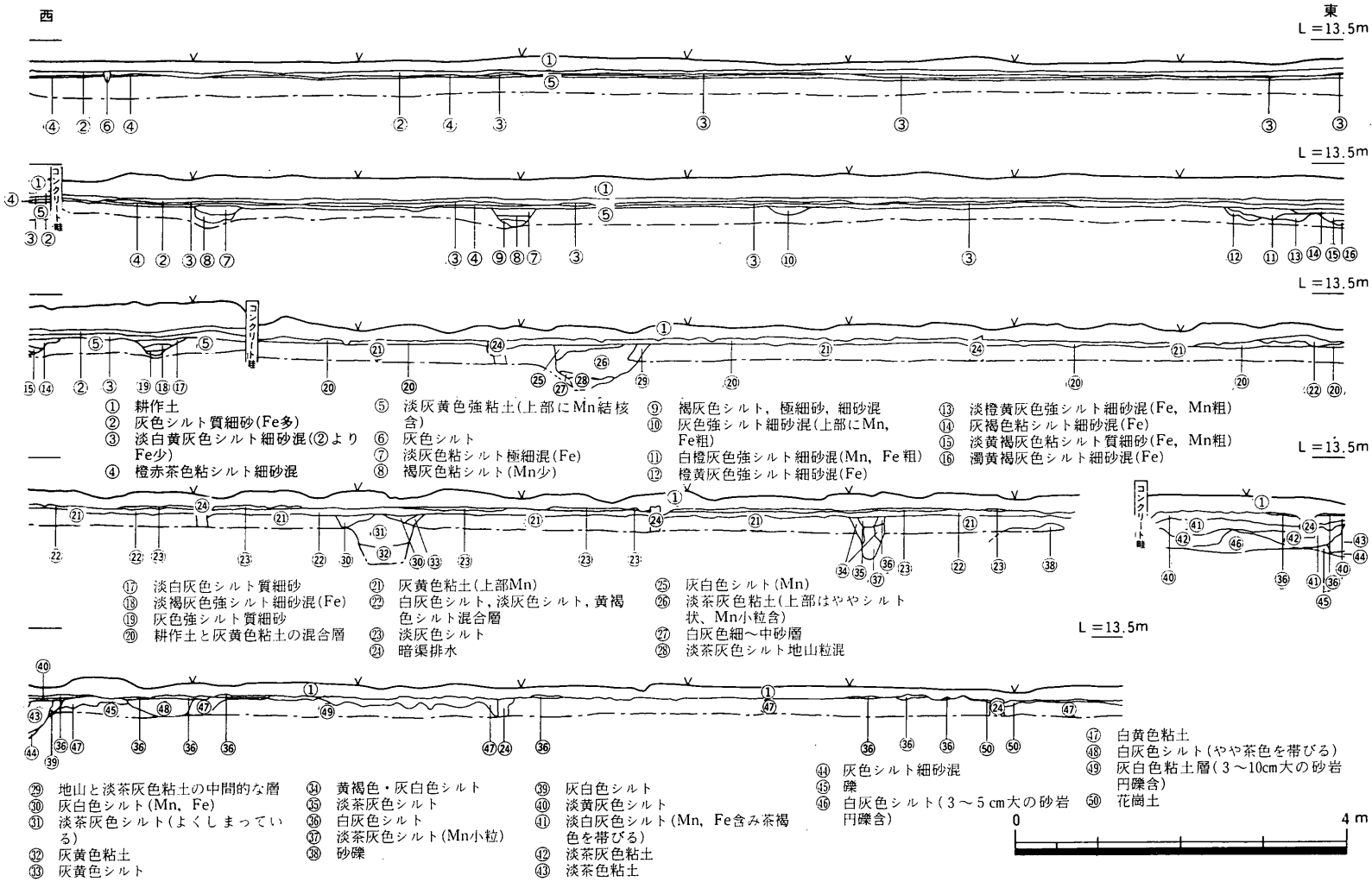
第2図　I区北壁断面図（1／80）



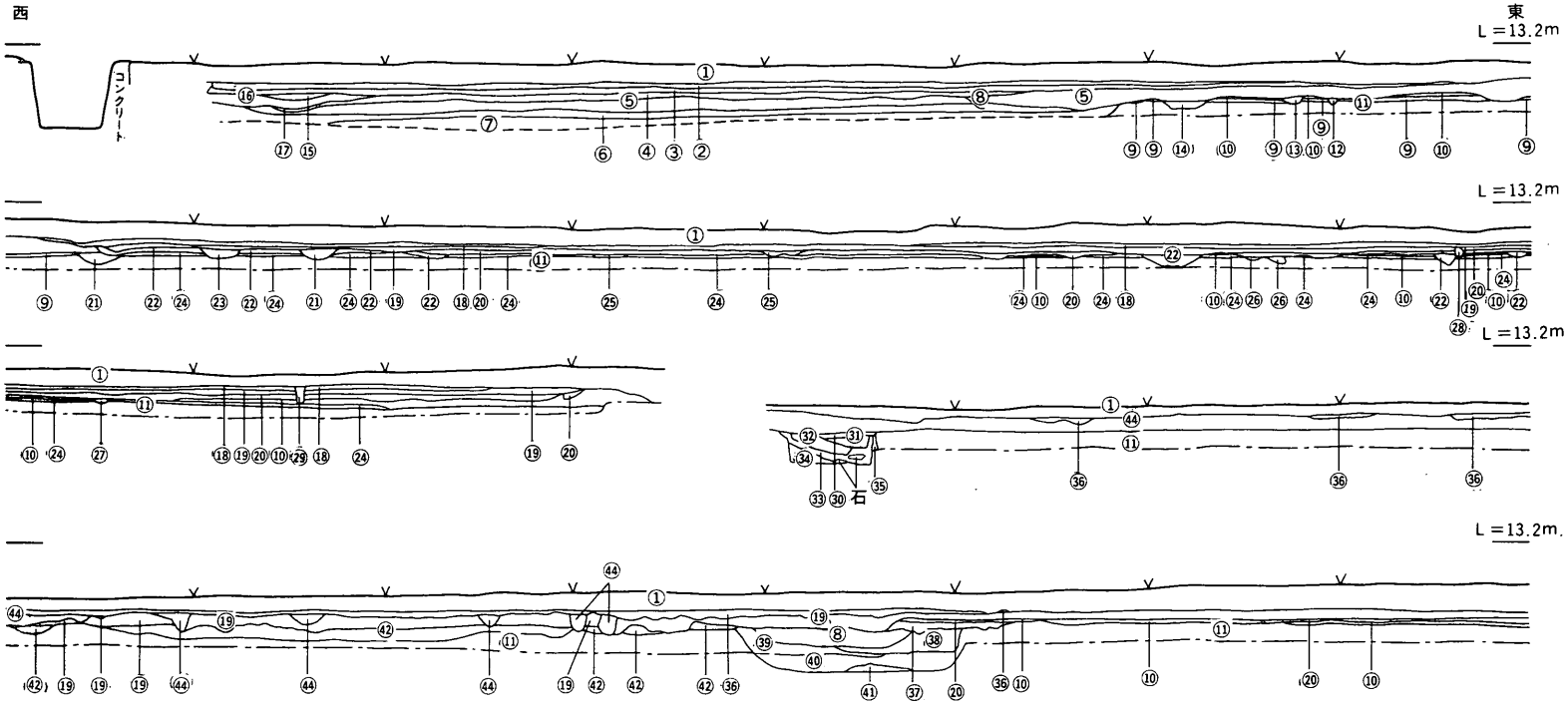
① 耕作土
② 花崗土
③ 乳白濁茶色(Fe)強シルト(細砂まじり)
④ 赤褐茶色(Fe)シルト(粘土まじり)
⑤ 白灰色粘土
⑥ 暗渠排水
⑦ 灰白色シルト(中砂まじり)
⑧ 灰黄色粘質土(粘い)
⑨ 乳白色シルト(細砂まじり)
⑩ 灰色シルト(Fe含)
⑪ 灰色砂質土
⑫ 灰茶色シルト
⑬ 灰茶色シルト(白黄色シルトブロック含)
⑭ 灰黄色細砂
⑮ 灰色細砂～シルト(Fe, Mn含)
⑯ 灰色細砂(Mn, Fe多)
⑰ 灰色細砂(Mn, Fe少)
⑱ 灰色シルト質細砂(黄茶色土混)
⑲ 白灰色シルト(Mn, Fe含)
⑳ 灰白色シルト
㉑ 白灰色シルト
㉒ 灰茶色粘土
㉓ 淡灰茶色粘土
㉔ 白灰色細～中砂
㉕ 灰褐色粘土
㉖ 白灰色細砂
㉗ 白灰色シルト(褐色粘土まじり)
㉘ 灰褐色粘土
㉙ 白灰色中砂
㉚ 褐灰色粘土
㉛ 淡茶灰色シルト(地山ブロック含)
㉜ 淡茶灰色シルト
㉝ 褐灰黄色シルト
㉞ 灰黄色シルト
㉟ 黄褐色粘土(Mn多)

0　4 m

第3図　II区北壁断面図（1／80）



第4図　III区北壁断面図（1／80）



① 暗褐色砂質土
② 暗褐色砂質土(Fe多，③より少)
③ 灰褐色砂質土(Fe多)
④ 灰褐色砂質土(Mn含，⑤よりやや薄)
⑤ 灰褐色砂質土(Fe，Mn含)
⑥ 暗灰黄色砂質土(Fe，Mn含)
⑦ 暗灰色砂質土(Fe，Mn含)
⑧ 暗灰色砂質土
⑨ 黄褐色粘土
⑩ 明黄灰色砂質土
⑪ 明黄色粘土(地山)
⑫ 灰褐色砂質土(地山ブロック混)
⑬ 灰褐色砂質土
⑭ 灰褐色砂質土(⑬よりやや濃)
⑮ 褐灰色砂質土(Fe多，Mn含)
⑯ 灰褐色砂質土(⑤よりFe多)
⑰ 暗褐色砂
⑱ 暗灰褐色砂質土(⑲よりFe少)
⑲ 暗灰褐色砂質土(Fe多)
⑳ 暗灰褐色砂質土(⑲に似)
㉑ 暗灰褐色砂質土(地山混)
㉒ 灰褐色粘質土(地山混)
㉓ 明灰色砂質土(地山混)
㉔ 黄褐色粘土
㉕ 暗灰色砂質土
㉖ 明灰褐色粘質土
㉗ 灰褐色粘質土
㉘ 暗灰褐色砂質土(地山混，㉙よりやや薄)
㉙ 暗灰褐色砂質土(地山混)
㉚ 灰褐色粘質土(Mn混)
㉛ 灰褐色粘質土(Feやや多)
㉜ 灰褐色粘質土(Fe㉛より少)
㉝ 灰褐色粘質土(Fe多く赤茶褐色に近い)
㉞ 暗褐色粘質土
㉟ 暗灰褐色粘質土(地山混)
㊱ 暗灰色砂質土(⑲よりやや暗)
㊲ 灰色粘質土(Mn結核含)
㊳ 暗褐灰色砂質土(Fe，Mn含)
㊴ 暗褐灰色粘質土(㊳よりFe少)
㊵ 暗褐色砂質土
㊶ 暗褐色砂(礫混)
㊷ 灰褐色砂質土(灰白色土ブロック含)
㊸ 灰褐色砂質土
㊹ 暗灰色砂質土

0　4 m

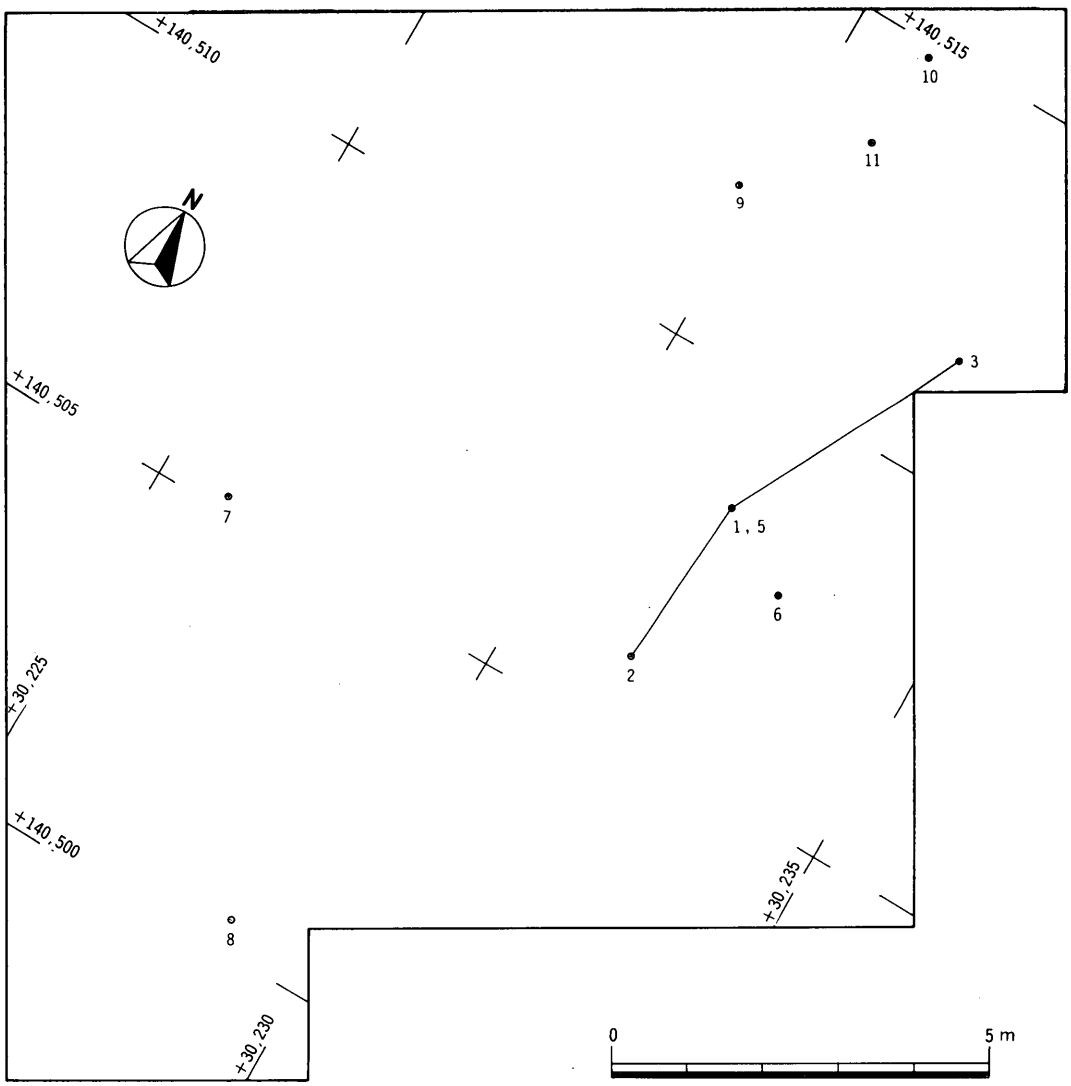
第5図　Ⅳ区北壁断面図（1／80）

片の年代は旧石器時代に遡るものと考えられる。なお，土層断面図は調査区の北壁で作成したものを掲載する。

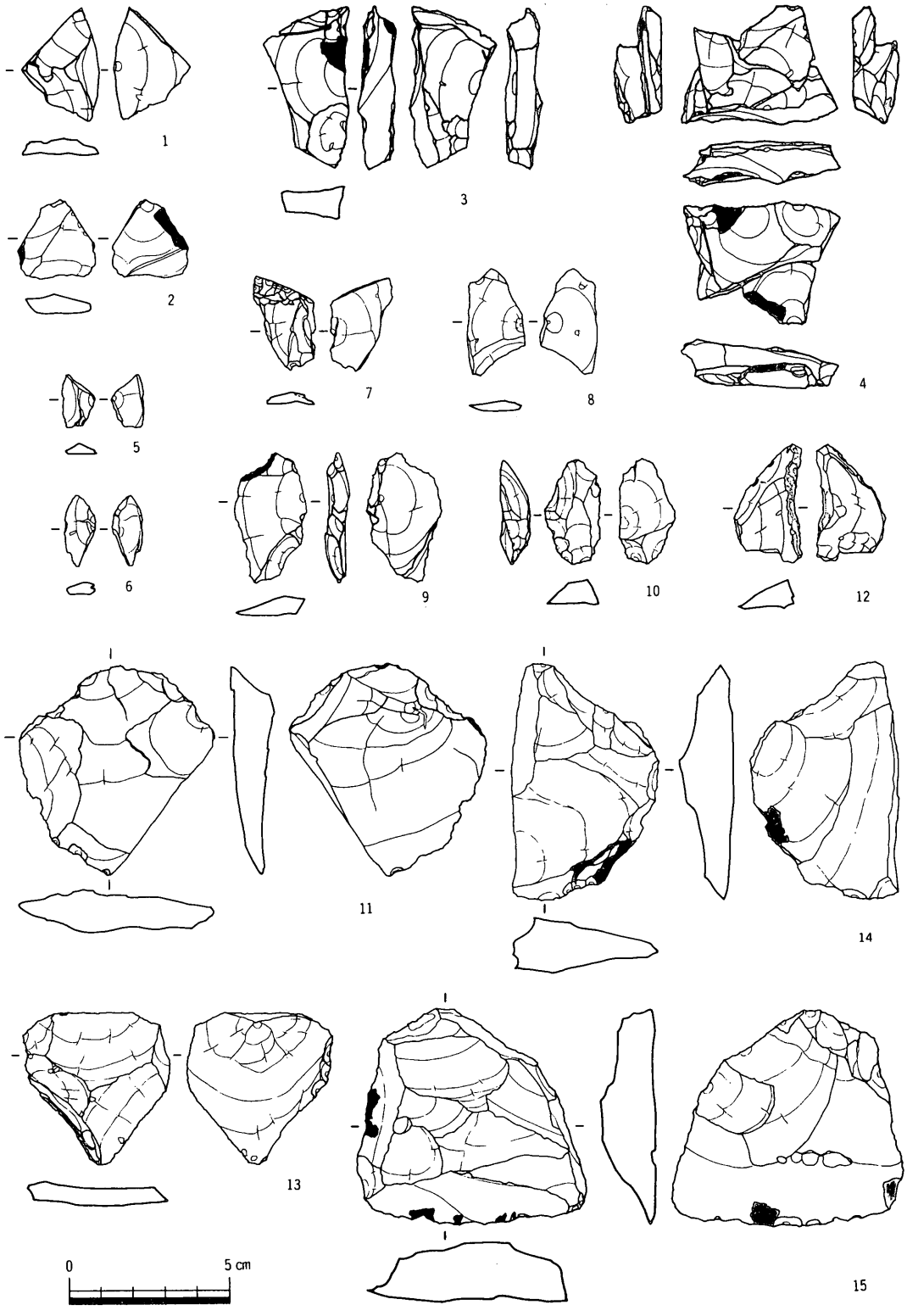
第3節　遺構と遺物

1　弥生時代以前（第6・7図，図版12）

Ⅲ区③で遺構検出時に弥生時代以降の基盤層である白黄色粘質土から風化の進んだサヌカイト剝片が出土した。このため剝片が出土した部分を中心として，この基盤層を掘削し



第6図　Ⅲ区③サヌカイト剝片出土位置図（1／100）



第７図　Ⅲ区③出土サヌカイト剝片（１／２）

た結果,10数点のサヌカイト剥片が出土した。そのうち1～11までが出土位置の明らかな剥片である。剥片の出土地点には特に集中部分は見られない。剥片の接合関係を検討した結果，3点の剥片（1，2，3）が接合することが明らかとなった。接合関係は，剥片とその石核の接合である。4は接合状態で図化したものである。出土位置は第6図のとおりで，そのうち線で結んだ遺物が接合したものである。5～10は横長剥片である。11は一部に2次加工かと思われる小剥離痕が認められる。

12～15は出土層位は同じであるが，平面的な位置は不明な剥片である。12は横長剥片，13は縦長剥片である。14は一部に2次加工が見られる。15は一部に使用痕と考えられる小剥離がある。横長剥片石核を転用したものと考えることができる。

2　弥生時代（第8・9・10・21・22図，図版12・13・14）

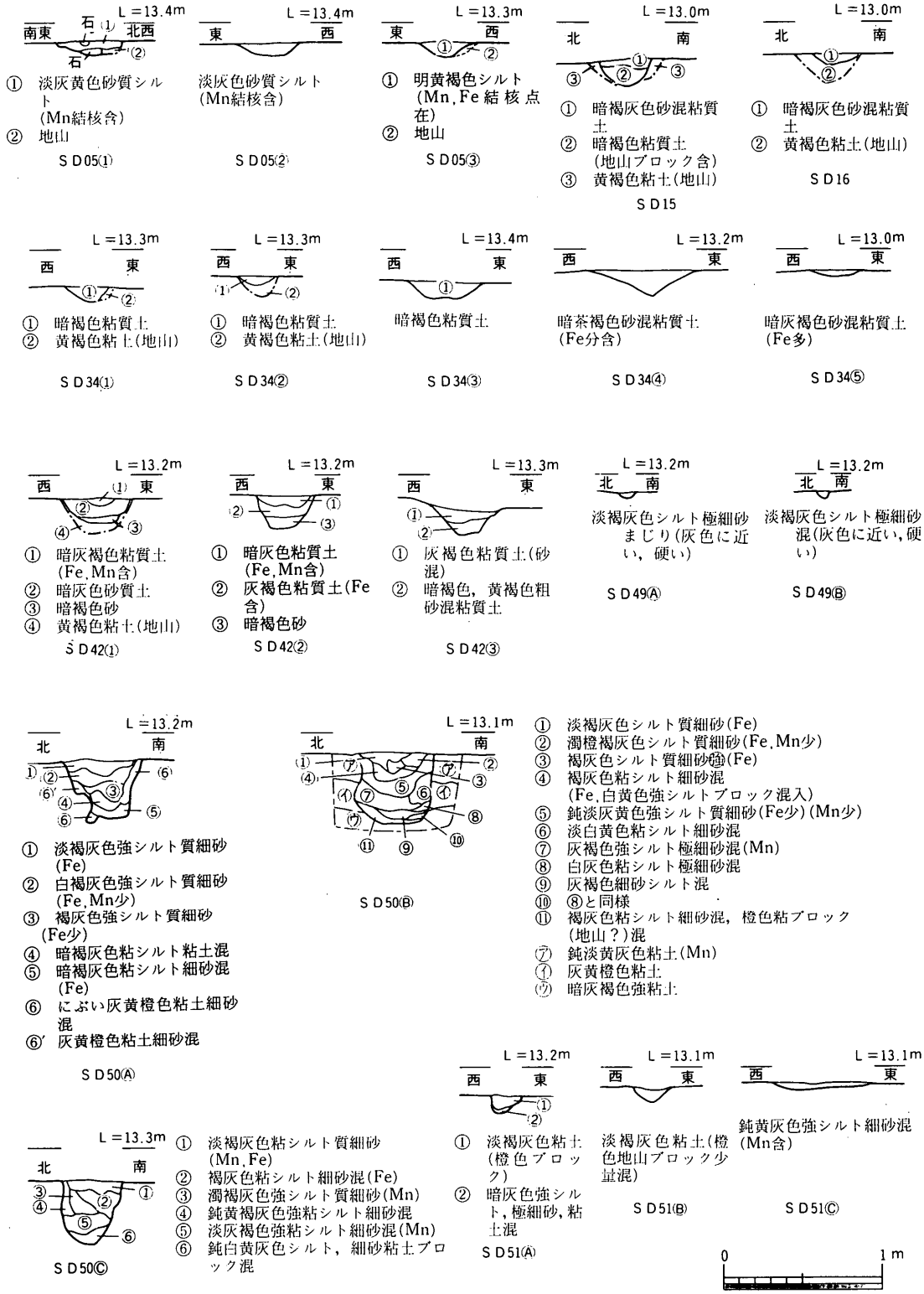
弥生時代の遺物が明確に遺構に伴う事例はないが，弥生時代前期あるいは中期に認められる大陸系磨製石器(1)及び弥生時代中期の土器が出土していることから，古墳時代の遺物を出土する遺構より古い遺構を弥生時代の遺構と考える。詳細な時期は不明である。

当時期の遺構は溝跡のみである。埋土は硬くしまっており，断面形は幅が狭く下膨れのような形態をなすことが多い。おそらくV字形断面の溝が削平を受け，底部のみが残存した結果であろう。流路方向には特に一定の傾向は見られない。また調査区内においては底面標高の大きな変化は見られないが，周辺の地形から判断して流路方向は南から北であると考える。溝跡から少量の石器及び弥生土器が出土している。25はＳＤ59とＳＤ61の合流部付近から出土した柱状片刃石斧である。当地域では弥生時代中期頃まで残存するとされている(1)。

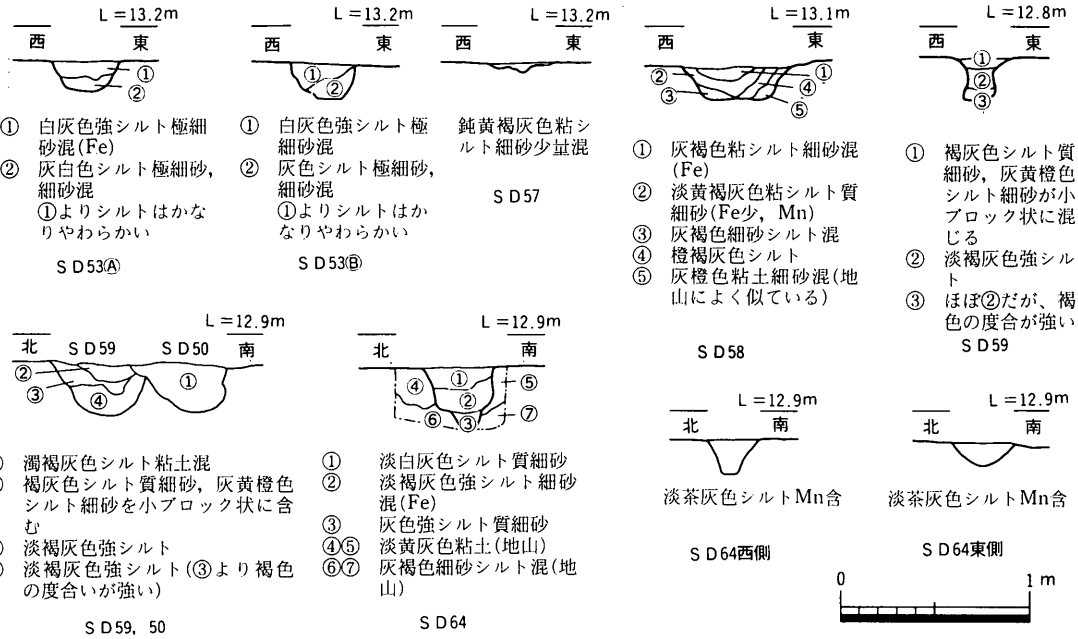
3　古墳時代終末

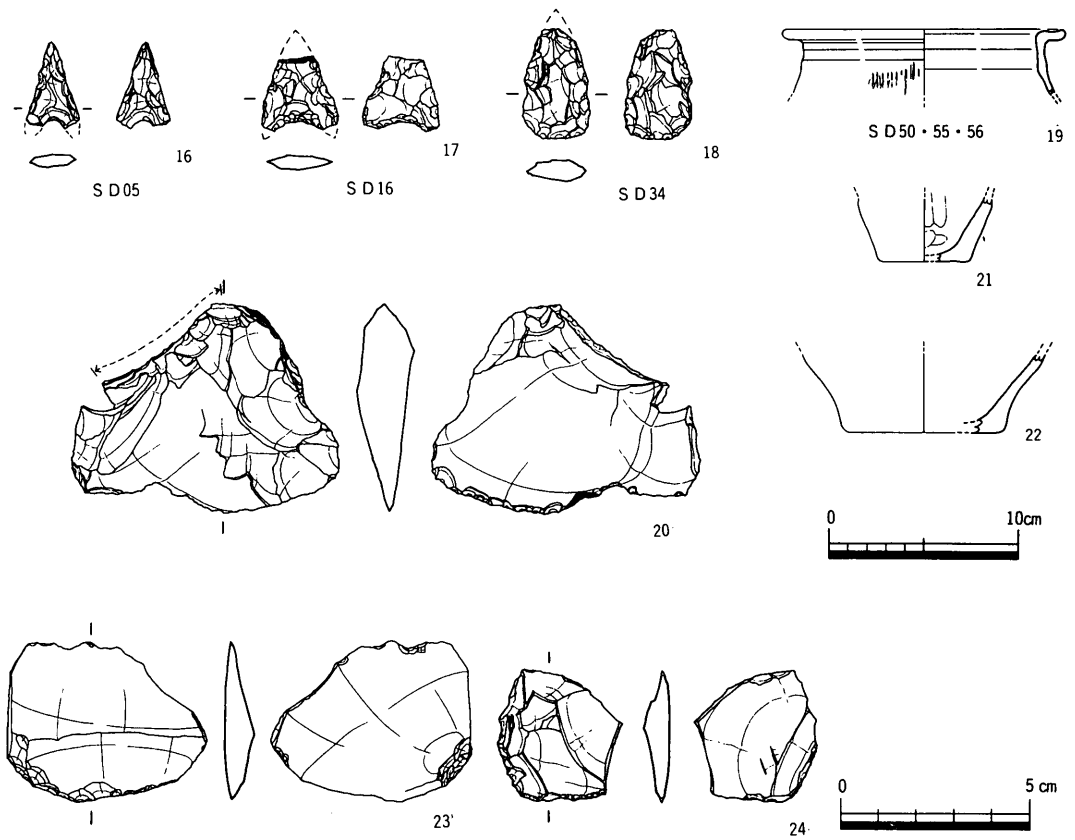
この時期の遺構には，溝跡と湧水池状遺構がある。溝跡からの遺物の出土量は少ない。II区とIII区でのみ遺構が検出された。II区では湧水池状遺構ＳＸ01からは遺物がやや多く出土したものの，溝跡からの出土遺物は少なく，遺物からの時期の特定は難しいため，他の遺構との前後関係や方向から時期特定を行っている。

註(1)平井勝『考古学ライブラリー64　弥生時代の石器』ニュー・サイエンス社　1991

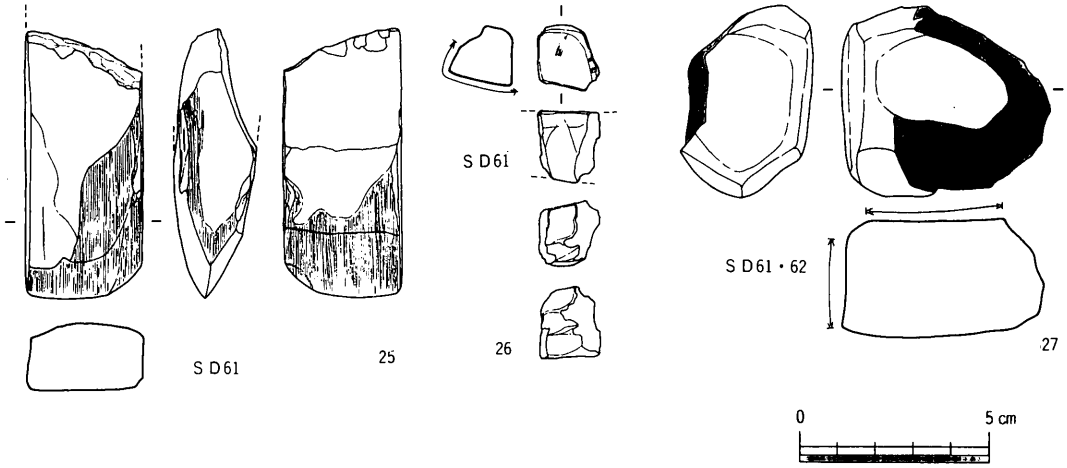


第8図　弥生時代溝跡断面図（1/40）





第9図　弥生時代溝跡断面図（1/40）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）



第10図　ＳＤ61・62出土石器（１/２）

ＳＸ01（第11・12図，図版14）

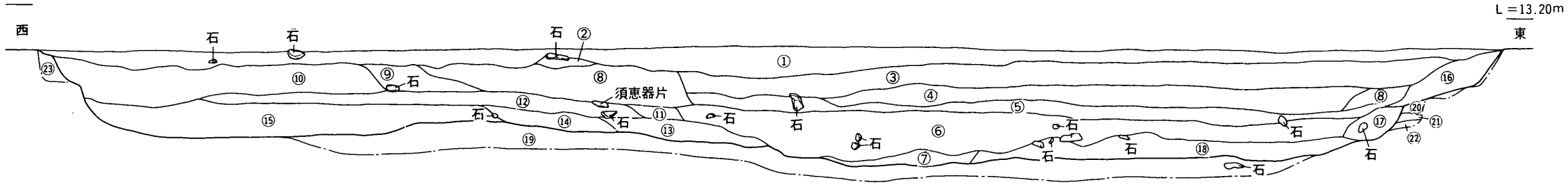
II区Ｃ５・Ｃ６に位置する。溝端が土坑状になっており，土坑状部分の底部が砂礫層の基盤にまで達していることからいわゆる湧水池状の遺構とした。埋土から６世紀末から７世紀頃の須恵器が出土していることから，このころに埋没し始めたものと考える。埋土最上層には中世の遺物を含むことから完全に埋没するのは中世頃と考える。39は平瓶の可能性もあるが，カキ目は提瓶に多いことから，提瓶として復元した。40の横瓶は，頸部に線刻がある。42は全体がローリングにより磨滅している。43は曲物底板であろう。

ＳＤ13（第13図）

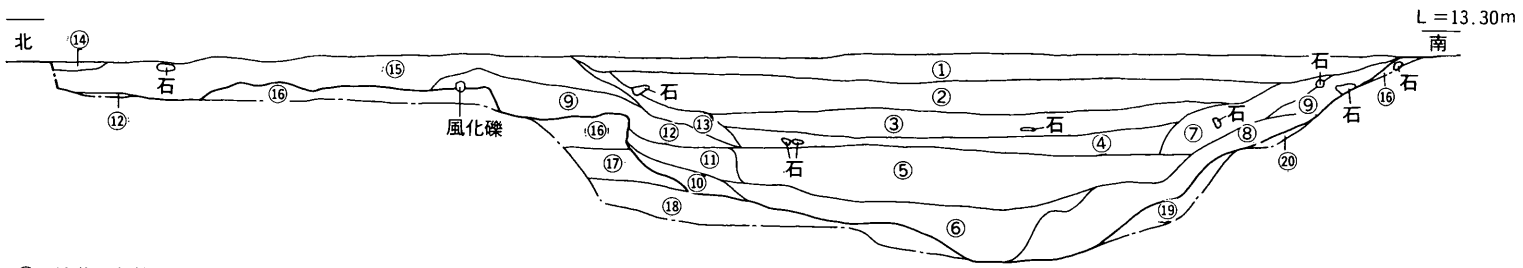
II区ＳＸ01から続く溝跡である。方向が条里型地割の名残を残すとされる現在の地割と同じであることから，他の古墳時代の溝跡とは時期が違うかもしれない。底面標高はＳＸ01付近と北端が，最も高い中央部分より0.5m程度低くなっている。ＳＸ01から続く溝跡であることと周辺の地形の傾斜を考えて，流路方向は南から北であると考える。遺物はＳＸ01出土の平瓶及び横瓶と接合する破片１点ずつのみであり，時期は特定できない。

ＳＤ22（第14図）

II区ＳＸ01から続く溝跡である。当初はＳＤ20へ，後にＳＤ19へと流路が変えられている。

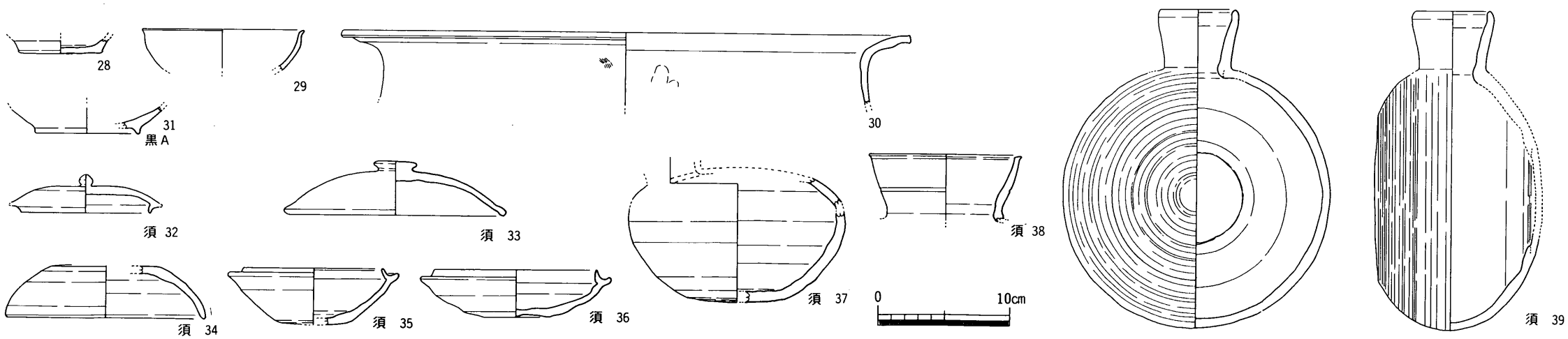


① 淡茶灰色粘質土層(微細な砂粒を含みさくさくしている，微細なMnを少量含む)
② 灰黄色粘質土層(砂粒を含みさくさくしている，多量の礫を含む)
③ 茶灰色粘質土層(少量の砂粒を含みさくさくしている)
④ 灰黄茶色粘質土層(少量の砂粒を含むがある程度の粘さはある)
⑤ 黄茶灰色粘質土層(粘性が高い)
⑥ 濁灰色粘質土層(非常に粘性が高い)
⑦ 濁灰色粘質土層(砂粒と1cm程度の礫を含む，粘性が高い，植物遺体がめだつ)
⑧ 灰色粘質土層(少量の茶色土が混入している，③に比べ茶色土が少ない)
⑨ 乳灰色粘質土層(粗い砂粒と2～3cm程度の風化礫を含む)
⑩ 黄茶乳灰色粘質土層(砂粒をかなり含む)
⑪ 灰色粘質土層(砂粒と1cm未満の礫をかなり含む)
⑫ 灰色粘質土層(砂粒をかなり含む，極度に風化の進んだ礫をかなり含む)
⑬ 濁灰色砂粘質土層(5～6cm未満の礫をかなり含む)
⑭ 灰色粘質土層(砂粒と礫を少量含む，⑬に比べ砂粒・礫ともに少ない)
⑮ 灰色粘質土層(少量の砂粒を含みさくさくしている)
⑯ 灰色粘質土層(乳白色土がブロック状で混入している，砂粒含みさくさくしている)
⑰ 灰色粘質土層(微細な砂粒をかなり含む)
⑱ 灰色砂礫層(粘い灰色粘土をかなり含む)
⑲ 灰色砂礫層(若干の粘土を含む)
⑳ 茶黄色粘質土層
㉑ 乳白色粘質土層
㉒ 乳白灰色粘質土層
㉓ 灰黄色粘質土層
} 地山

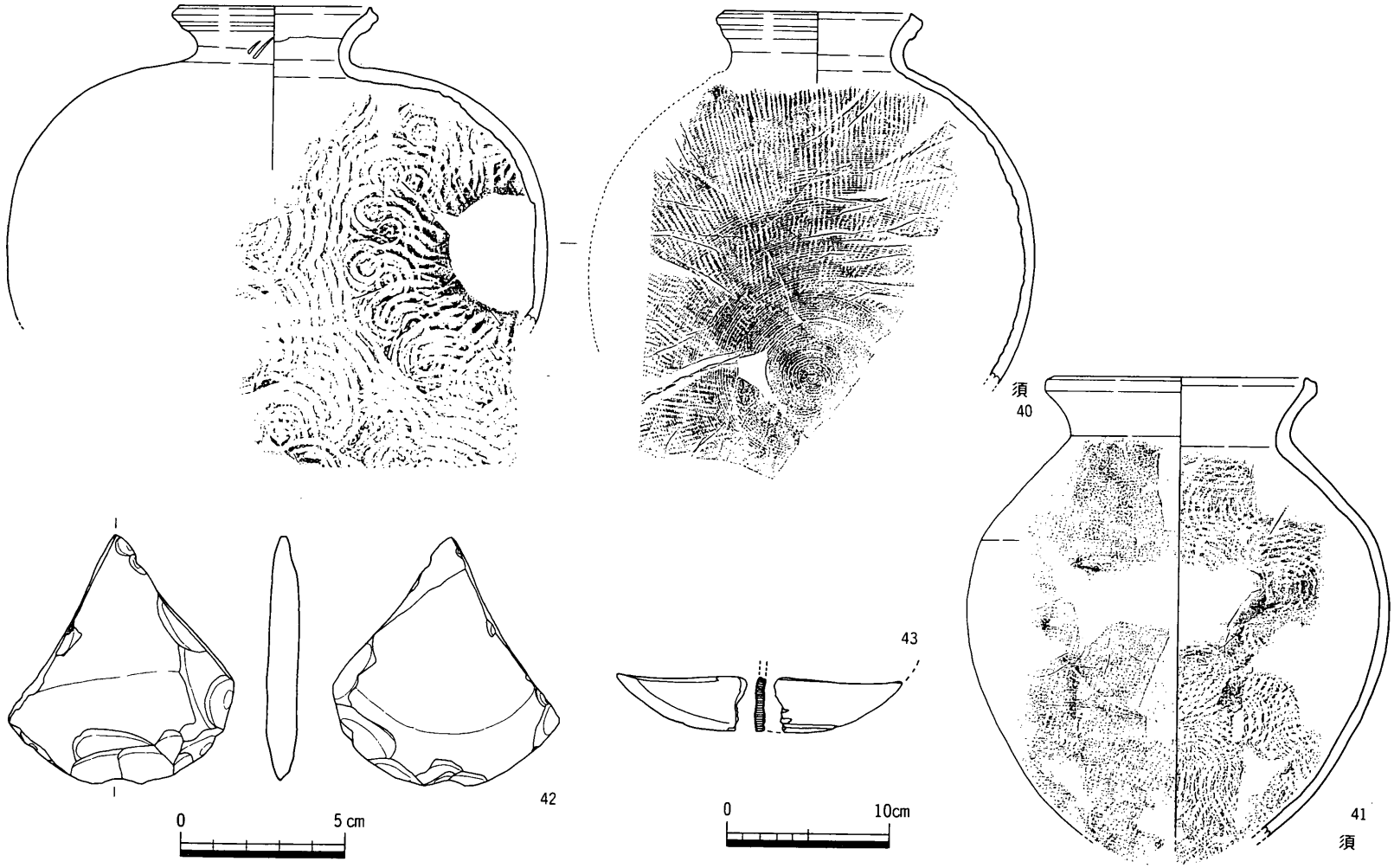


① 淡茶灰色粘質土層(微細な砂粒を含みさくさくしている，微細なMnを少量含む)
② 茶灰色粘質土層(少量の砂粒を含みさくさくしている)
③ 灰黄茶色粘質土層(少量の砂粒を含むがある程度の粘性はある)
④ 黄茶灰色粘質土層(粘性が高い)
⑤ 濁灰色粘質土層(非常に粘性が高い)
⑥ 濁灰色粘質土層(砂粒と1cm程度の礫を含む，粘性が高い，植物遺体がめだつ)
⑦ 灰色粘質土層(少量の砂粒を含む，3cm程度の風化礫を含む)
⑧ 灰色粘質土層(粗い砂粒をかなり含んでいる，4～5cm程度の風化した礫を含む)
⑨ 灰色粘質土層(1cm程度の風化礫と粗い砂粒をかなり含む)
⑩ 淡灰色粘質土層(砂粒・風化礫をかなり含む)
⑪ 灰色粘質土層(砂粒と1cm未満の礫をかなり含む)
⑫ 黄茶灰色粘質土層(砂粒を少量含む)
⑬ 灰黄茶色粘質土層(砂粒を少量含む，2cm程度の風化礫を極少量含む)
⑭ 黄灰色粘質土層(砂粒を含む)
⑮ 黄灰色砂粘質土層(2～3cm程度の礫を含む)
⑯ 黄茶青灰色粘質土層(粘性が高い)
⑰ 乳白灰色粘質土層(砂粒をかなり含む)
⑱ 灰白色砂礫層
⑲ 灰白色粘質土層(砂礫をかなり含みさくさくしている)
⑳ 黄茶色粘質土層(粘性が高い)
} 地山

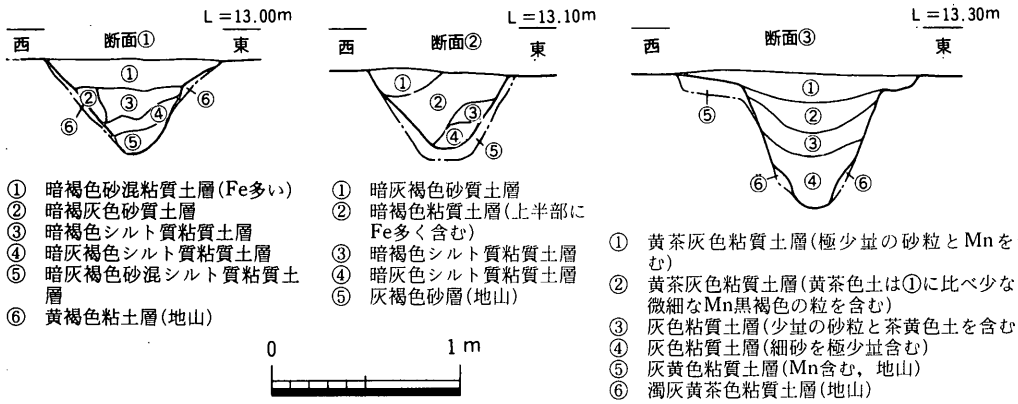
0　1m



第11図　ＳＸ01断面図（1/40）及び出土土器（1/4）



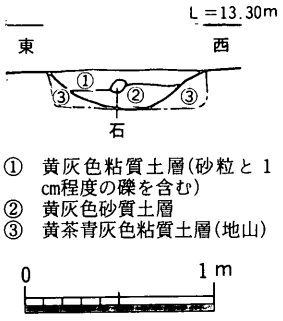
第12図　ＳＸ01出土土器・木器（１/４）及び石器（１/２）



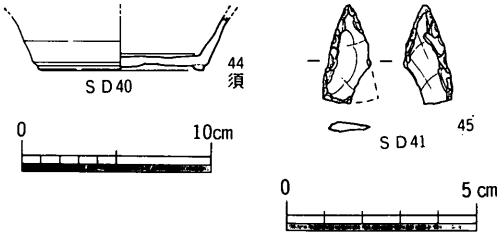
第13図　ＳＤ13断面図（1/40）

ＳＤ20・ＳＤ25・ＳＤ31・ＳＤ36・ＳＤ37・ＳＤ38・ＳＤ40・ＳＤ41（第15～17図，図版15）

II区に位置する溝跡である。これらの溝跡はいずれも方向がほぼ同じで北の方向を向くこと，10世紀頃の遺物が出土しているＳＤ03より古いこと，またＳＤ31・ＳＤ36・ＳＤ38・ＳＤ40・ＳＤ41は弥生時代と考えられるＳＤ34・ＳＤ42より新しいことから，古墳時代終末頃とした。いずれの溝跡も底面標高の大きな変化はみられないもの北の方が低くなる傾向がある。ＳＤ40から出土した44は平安時代頃の遺物と考えられるが，最終埋没時の遺物と考える。



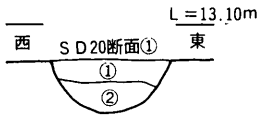
第14図　ＳＤ22断面図（1/40）



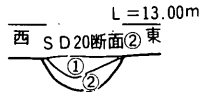
第15図　ＳＤ40・41出土土器（1/4）及び石器（1/2）

ＳＤ47・48（第18図，図版15）

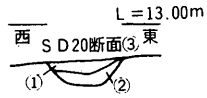
III区に位置する。出土遺物から古墳時代終末頃と考えるが，ＳＤ13と同様，方向が現在の地割と同じであることから，やや新しい時期のものである可能性がある。途中で分岐するものの新旧関係は不明であり，東西の溝跡の底面標高の差は無い。また大きな底面標高の変化は見られない。



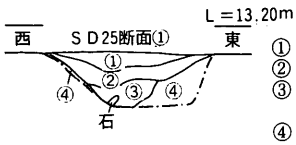
① 灰色粘質土層(Fe)
② 褐色砂混粘質土層



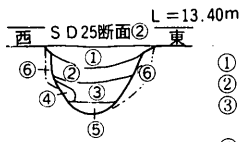
① 暗褐色砂混粘質土層
② 暗褐色粘質土層



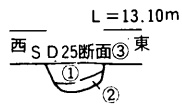
① 暗灰褐色粘質土層
② 暗灰色粘質土層



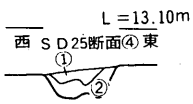
① 濁茶灰色粘質土層(Mn)
② 茶灰色粘質土層(砂粒をかなり含み，茶色土にはMnが含まれる)
③ 灰色砂混粘質土層(地山土がブロック状で少量混入，極度に風化の進んだ礫が少量含まれる)
④ 灰黄色粘質土層(地山)



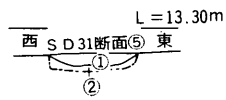
① 淡黄灰色粘質土層
② 灰色粘質土層(黄色土，砂粒を少量含む)
③ 暗灰色粘質土層(茶色土を少量含み，砂粒をかなり含む)
④ 黄灰色粘質土層
⑤ 黄灰色粘質土層(砂粒を非常に多く含む)
⑥ 灰黄色粘質土層(地山)



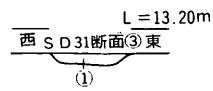
① 灰褐色砂質土層(Fe少し含む)
② 黄灰色砂質土層(Fe含む)



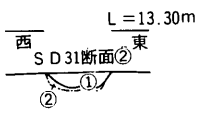
① 灰褐色砂質土層(Fe少し含む)
② 黄灰色砂質土層(Fe含む)



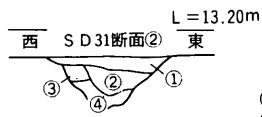
① 灰色粘質土層
② 黄灰色粘質土層(Mnを含む)



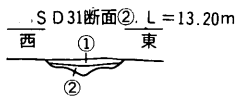
① 灰褐色粘質土層
(一部地山混)



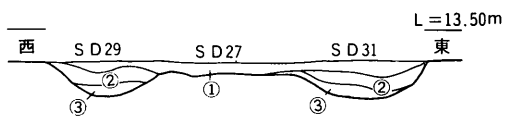
① 灰褐色粘質土層(一部地山混)
② 黄褐色粘土(地山)



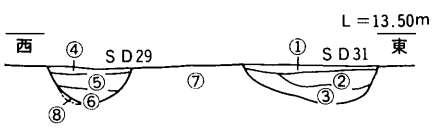
① 暗褐灰色粘質土層(Mn，Fe含む)
② 暗褐色シルト質粘質土層(わずかにMn含む)
③ 黄灰褐色粘質土層(わずかにMn含む)
④ 灰褐色粘質土層(地山混，Mnわずかに含む)



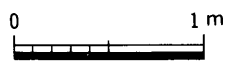
① 暗褐色粘質土層(わずかなFe，Mn含む)
② 灰褐色粘質土層(地山混)



① 茶灰色粘質土層(Mn，細砂を少量含む)
② 茶灰色粘質土層(茶色土にはMnが含まれる，砂粒を含む，①より砂粒は粗く多い)
③ 灰色粘質土層(茶色土が少量混入している，②よりも砂粒をかなり多く含む)

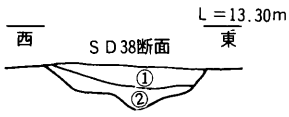


① 茶灰色粘質土層(Mn，細砂を少量含む)
② 茶灰色粘質土層(茶色土にはMnが含まれる，砂粒を含む，①より砂粒は粗く多い)
③ 茶灰色粘質土層(②と同様に茶色土にはMnが含まれる，砂粒を多く含む，②より砂粒は多い)
④ 茶灰色粘質土層(Mn，細砂を少量含む，①とほぼ同様)
⑤ 茶灰色粘質土層(②とほぼ同じ)
⑥ 茶灰色粘質土層(⑤に比べて砂粒は非常に少なく，④に近い)
⑦ 灰黄茶色粘質土層(Mnを含む，地山)
⑧ 黄茶青灰色粘質土層(非常に粘性高い，地山)

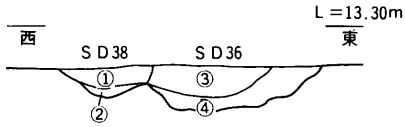


第16図　SD20・25・27・29・31断面図（1/40）

① 暗灰色砂質土層(Fe，わずかにMn含む)
② 暗褐色粘質土層(Fe，わずかにMn含む)

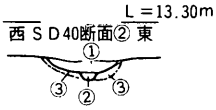


① 暗茶褐色粘質土層(Fe多い，Mn含む)
② 暗褐色砂混粘質土層(Fe，Mn含む)

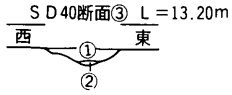


① 暗灰色粘質土層(Fe，Mn含む)
② 灰黄色シルト質粘質土層(Fe，Mn含む)
③ 褐灰色粘質土層(Fe含む)
④ 褐灰色砂混シルト層(Fe含む)

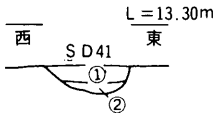
① 灰褐色粘質土層



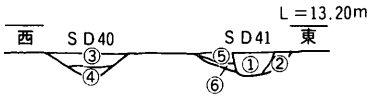
① 暗灰褐色粘質土層
② 褐色砂層
③ 黄褐色粘土層



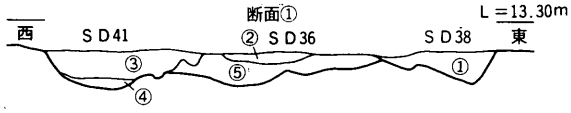
① 暗褐色粘質土層(Fe含む)
② 暗褐色砂層



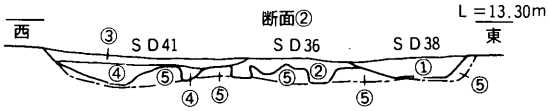
① 暗灰色粘質土層(Fe，Mn含む)
② 灰黄色粘質土層



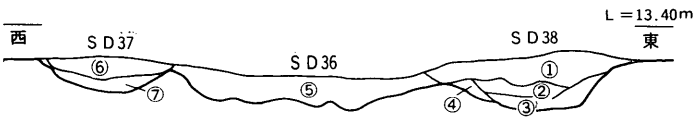
① 暗灰色粘質土層(Fe，Mn含む)
② 暗灰色粘質土層(①に比べFeがかなり少ない)
③ 暗褐色粘質土層(Fe含む)
④ 灰褐色砂層
⑤ 暗褐色粘質土層
⑥ 灰褐色粘質土層



① 暗褐色砂混じり粘質土層(わずかにFe分含む)
② 灰褐色粘質土層(褐色，黄褐色粗砂多く混じる)
③ 暗灰色砂混じり粘質土層(わずかにFe分あり)
④ 暗灰色砂混じり粘質土層(砂粒は③に比べやや粗く，Fe分若干多い)
⑤ 褐灰色シルト細砂混(Fe含)



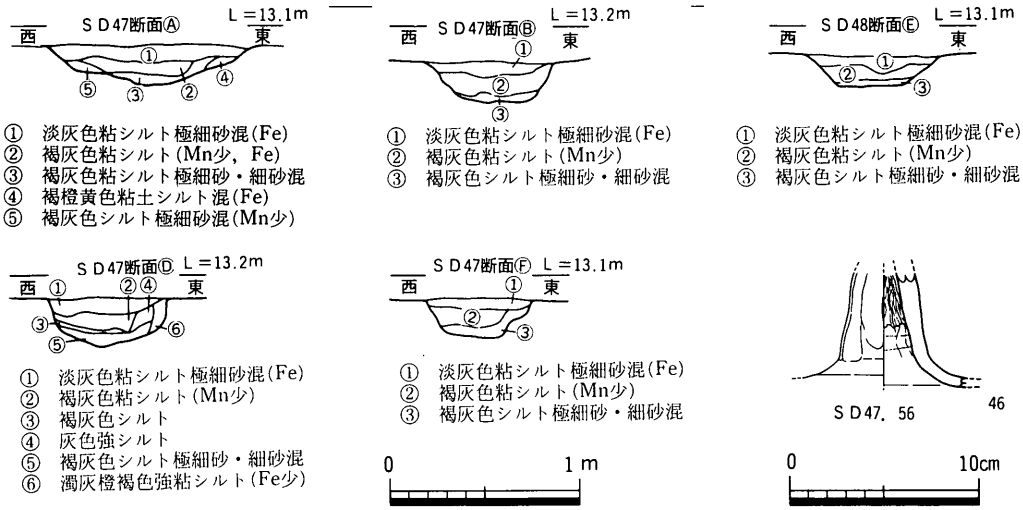
① 暗褐色砂混じり粘質土層(わずかにFe分含む)
② 灰褐色粘質土層(褐色，黄褐色粗砂多く混じる)
③ 暗灰色砂混じり粘質土層(わずかにFe分あり)
④ 暗灰色砂混じり粘質土層(砂粒は③に比べやや粗く，Fe分若干多い)
⑤ 黄褐色粘土層(地山)



① 暗灰褐色粘質土層(Fe分多い)
② 暗褐色粘質土層(③よりややFe分多い)
③ 暗褐色粘質土層(Fe分わずか)
④ 暗褐色砂混じり粘質土層
⑤ 暗褐色砂質土層(黄褐色粗砂混じり)
⑥ 暗灰色砂混じり粘質土層(Fe分含む)
⑦ 暗灰色砂混じり粘質土層(⑥に比べ砂粒やや粗い)

① 暗灰褐色粘質土層
② 暗褐色粘質土層(Fe，Mn含む)
③ 暗褐色砂質土層
④ 暗灰色粘質土層(Fe，Mn含む)
⑤ 暗褐灰色シルト層
⑥ 暗褐色砂質土層
⑦ 暗褐灰色粘質土層(Fe含む)

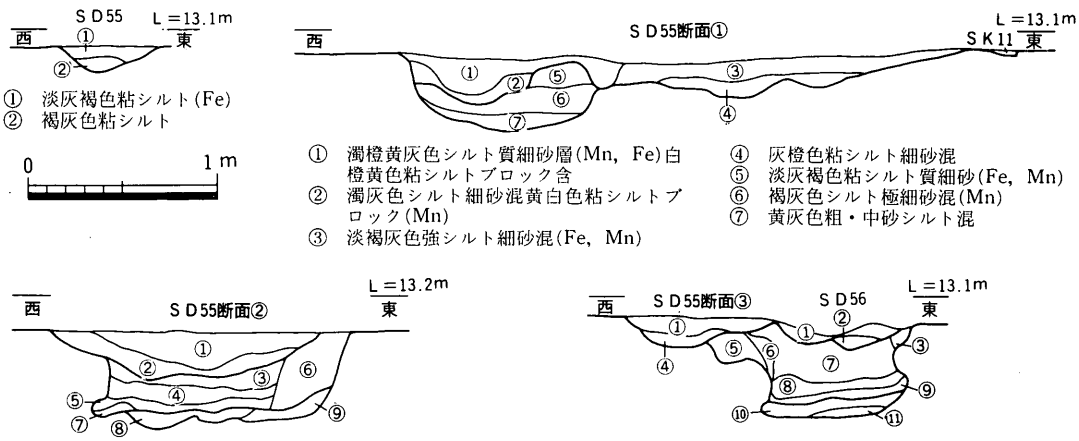
第17図　SD36・37・38・40・41・44断面図（1/40）



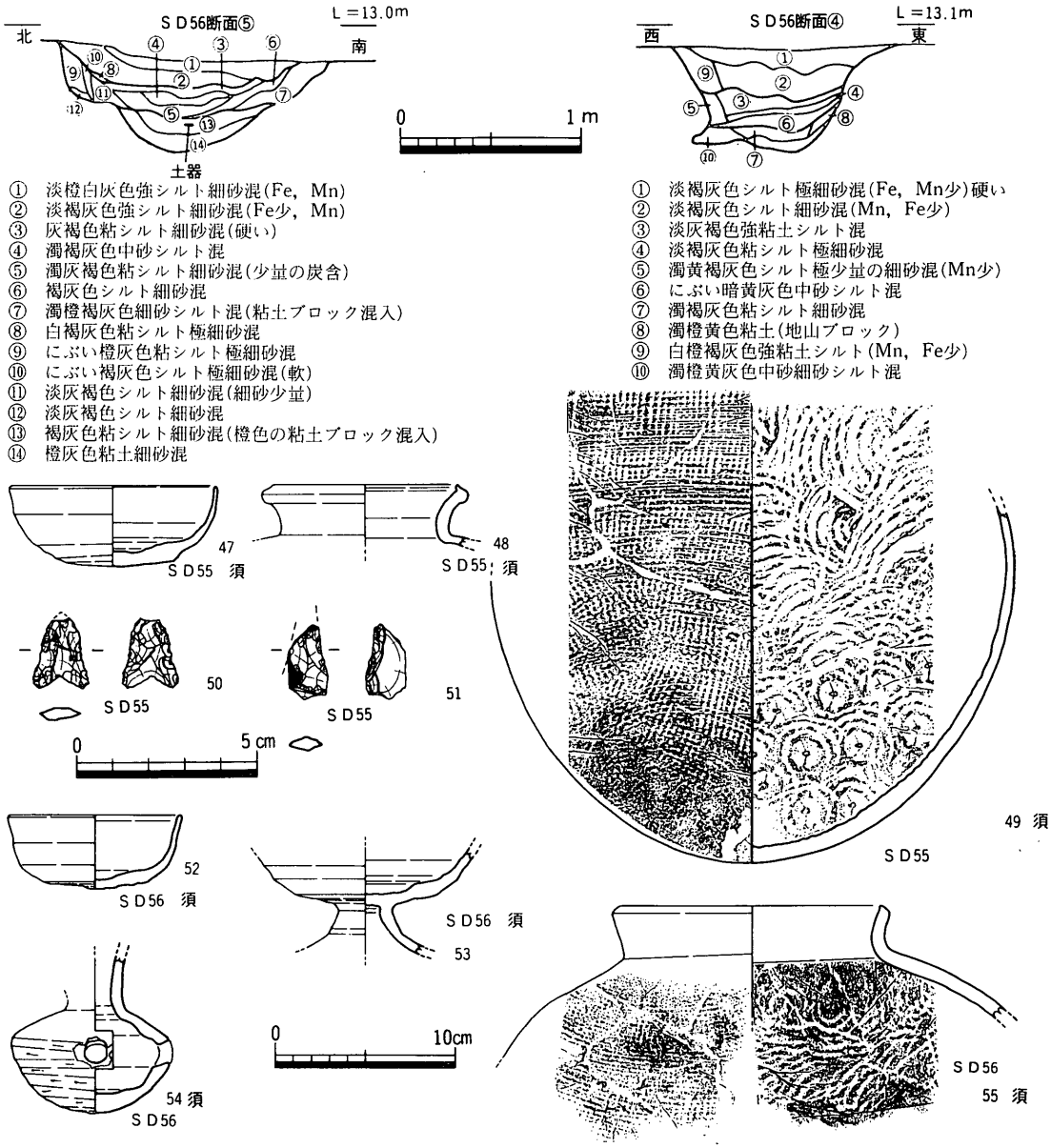
第18図　ＳＤ47・48断面図（1/40）及び出土土器（1/4）

ＳＤ55・ＳＤ56（第19・20図，図版15）

Ⅲ区に位置する。ＳＤ55は途中で条里型地割と同じ方向に向きを変えていることから，ＳＤ56を後に付け替えた可能性がある。土層断面からは１～２回の再掘削が観察できる。ＳＤ56の底面標高の方がＳＤ55より低い。ＳＤ55は底面標高の変化はほとんどない。ＳＤ56の底面標高は南から北へ30cm程度低くなっている。47は完形品である。48は横瓶であろう。51は石鏃の未製品とするが，石錐の未製品である可能性もある。



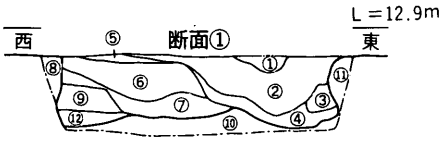
第19図　ＳＤ55・56断面図（1/40）



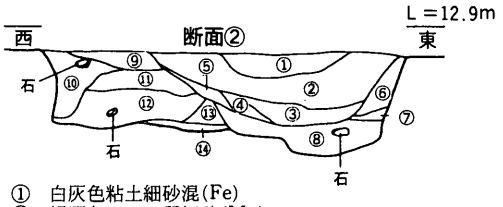
第20図　ＳＤ56断面図（1/40）及びＳＤ55・56出土土器（1/4）・石器（1/2）

ＳＤ62（第21・22図，図版16）

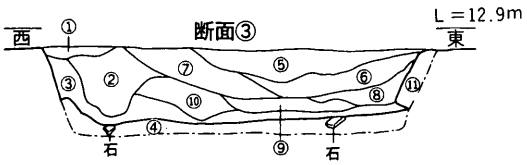
Ⅲ区②に位置する。弥生時代の溝跡ＳＤ61とほぼ同じ位置に掘削された溝跡である。方向は他の古墳時代終末の溝跡と同じく南北方向である。土層断面からは1～2回の再掘削が観察できる。底面標高には大きな変化はない。埋土から出土した弥生土器及び石器は元来，下層のＳＤ62・ＳＤ63に伴うものであろう。58は横瓶である。62は剝離面の風化の程度に違いが見られ，加工時期の違いが考えられる。また折れ面にも2次加工がみられる。63は上部に潰れ痕，下部の刃部には使用による著しい磨滅がみられる。



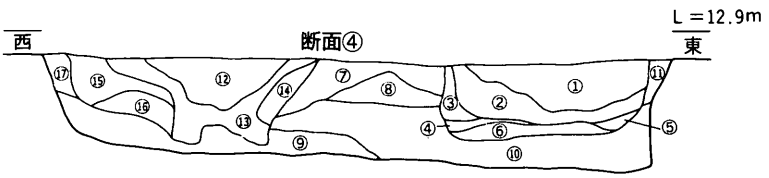
① 白灰色粘土細砂混(Fe)
② 褐灰色シルト質細砂(Mn)
③ 灰色シルト
④ 灰色シルト(白色シルトがまだらに入る)
⑤ 白灰色粘土細砂混(Fe)(褐灰色シルト質細砂を小ブロック状に混入)
⑥ 褐黄灰色粘土・細砂シルト小ブロック混入(Fe)
⑦ 淡褐灰色粘土細砂混(Fe)
⑧ 灰黄橙色粘土(地山)
⑨ 褐黄灰色粘土
⑩ 橙黄灰色細砂シルト混(地山)
⑪ 灰黄橙色粘土(地山)
⑫ 褐黄灰色粘土と橙黄灰色細砂～シルト混層



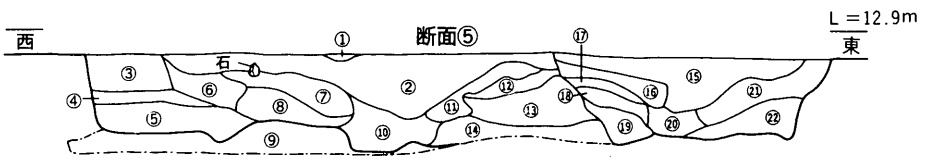
① 白灰色粘土細砂混(Fe)
② 褐灰色シルト質細砂(Mn)
③ 淡褐灰色粘土シルト混(Fe)
④ ③と同様，少し黄色味をおびる
⑤ 淡褐灰色シルト
⑥ 白黄橙色粘土細砂混(Mn)と淡褐灰色粘土シルト混(Fe)の混層
⑦ 白黄色粘土ブロック
⑧ 灰色シルト
⑨ 白灰色粘土細砂混(Fe)，褐灰色シルト質細砂小ブロックを含む
⑩ 濁褐灰色シルト質細砂
⑪ 褐黄灰色粘土細砂シルト小ブロック混入(Fe)
⑫ 濁黄褐灰色シルト細砂粘土小ブロック状混(Fe)
⑬ 白褐灰色シルト質細砂
⑭ 濁黄灰色細砂シルト混



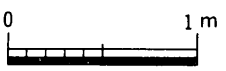
① 褐灰色シルト細砂混(Fe)
② 暗褐色シルト細砂混
③ 暗褐灰色シルト質細砂
④ 灰褐橙色粘シルト細～中砂
⑤ 橙褐灰色シルト細砂混(Fe)
⑥ 褐灰色強シルト細砂混
⑦ 暗褐灰色粘土シルト混
⑧ 褐色強粘シルト
⑨ 灰色シルト
⑩ 褐灰色強シルト
⑪ 黄橙灰色シルト細砂混



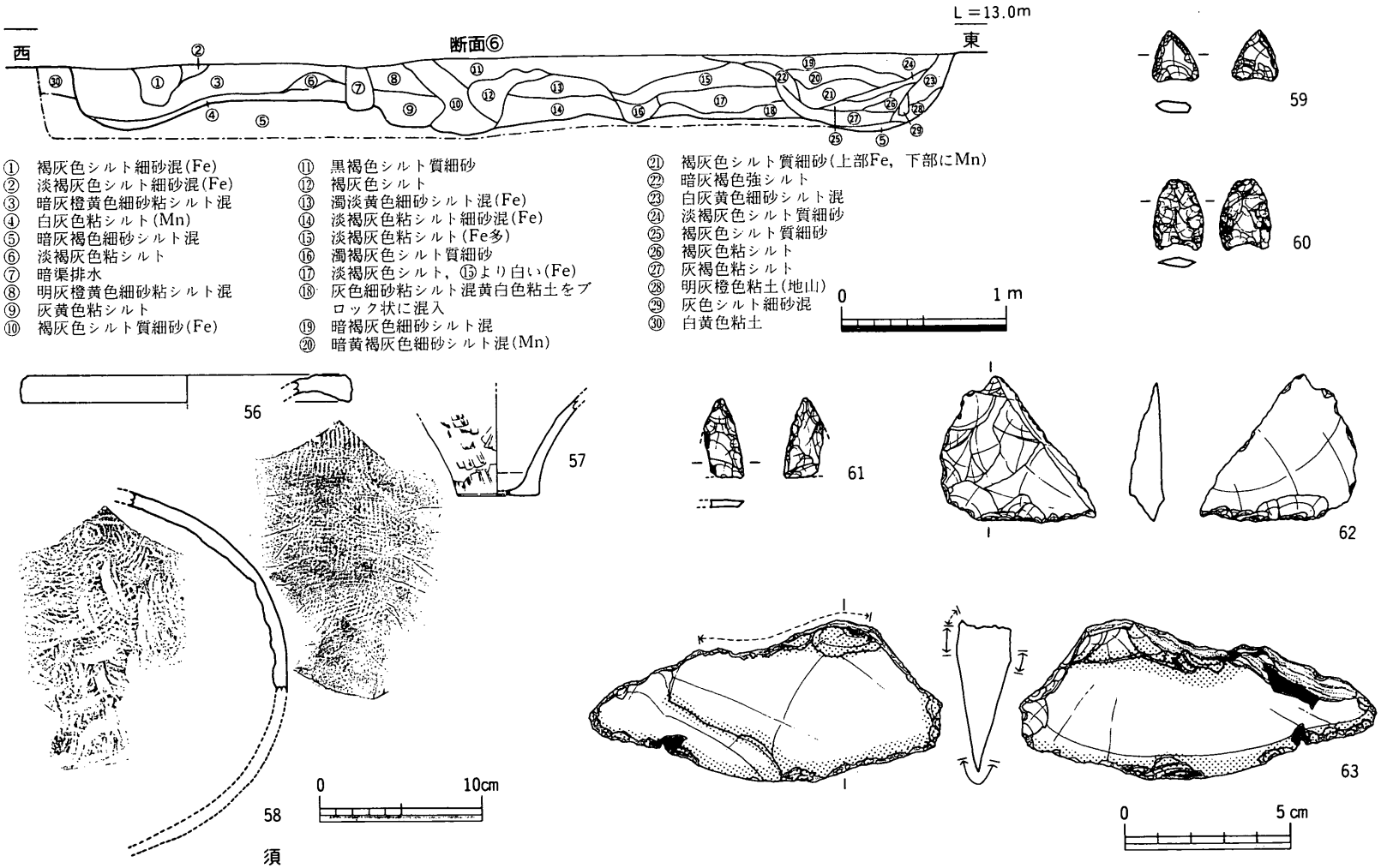
① 褐灰色粘シルト細砂混(Fe)
② 褐灰色シルト(Fe)
③ 淡褐灰色シルト質細砂(Fe)
④ 灰色シルト
⑤ 灰色シルト
⑥ 暗灰色中砂～5cm大礫
⑦ 明黄橙灰色シルト質細砂
⑧ 濁黄灰色細砂～中砂シルト混（2，3cm大の風化礫を含む)
⑨ 灰褐橙色粘シルト細～中砂（～5cm大の風化礫を多量に含む)
⑩ 白灰色シルト(Mnを多量に含む)
⑪ 明黄橙灰色粘土(地山)
⑫ 暗褐色シルト細砂混（～1cm大の礫を含む)
⑬ 褐灰色シルト質細砂(Fe)
⑭ 褐灰色粘シルト細砂混(Mn)
⑮ 淡褐灰色粘シルト細砂混
⑯ 白褐灰色強シルト質細砂
⑰ 明黄灰色粘土(地山)



① 淡白褐灰色細砂シルト混
② 黒褐色シルト質細砂
③ 濁黄灰色細砂シルト混(Fe)
④ 濁黄灰色細砂シルト混(Fe多)
⑤ 黄灰色シルト細砂混(Fe)
⑥ 褐灰色強シルト質細砂
⑦ 灰黄色シルト質細砂(Fe)
⑧ 濁褐灰色細砂粘シルト混
⑨ 暗灰褐色細砂シルト混
⑩ 灰褐色強シルト質細砂(Fe少)
⑪ 淡灰褐色シルト質細砂(Fe)
⑫ 濁黄褐灰色粘シルト細砂混
⑬ ⑫より黄色味が弱い
⑭ 暗灰褐色細砂シルト混(地山)
⑮ 褐灰色シルト質細砂(Fe)
⑯ 灰褐色強シルト質細砂
⑰ 淡褐灰色強シルト質細砂(Fe)
⑱ 灰褐色強粘土
⑲ 灰褐色シルト質細砂
⑳ 灰色シルト
㉑ 褐灰色強シルト質細砂
㉒ 褐灰色強シルト質細砂㉑より灰色の度合いが強い



第21図　ＳＤ61・62断面図（1/40)



第22図　ＳＤ61・62断面図（1/40）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）

4　平安時代

遺構は溝跡のみで，Ⅰ区とⅡ区で検出されている。遺構の時期は2時期以上ある。ＳＤ03・ＳＤ06・ＳＤ12の時期とＳＤ11の時期である。またⅣ区①ＳＲ01は下層から平安時代頃の遺物が出土しているので，当時期の掘削も考えることができる。

ＳＤ03・ＳＤ06（第23図，図版16・17）

Ⅰ・Ⅱ区に位置する。ＳＤ03の方が新しいが，Ⅰ区②東部及びⅡ区では位置がほとんど同じであるので，あまり時期差が無いものと考える。ＳＤ03は底面標高13.0m前後で全体に大きな変化は無く，ＳＤ06も底面標高12.8m前後で全体に大きな変化は無い。65は風化の進んだサヌカイトの横長剝片である。背面には複数の横長剝片剝離痕がある。打面は平坦打面である。旧石器時代の遺物と考えられる。

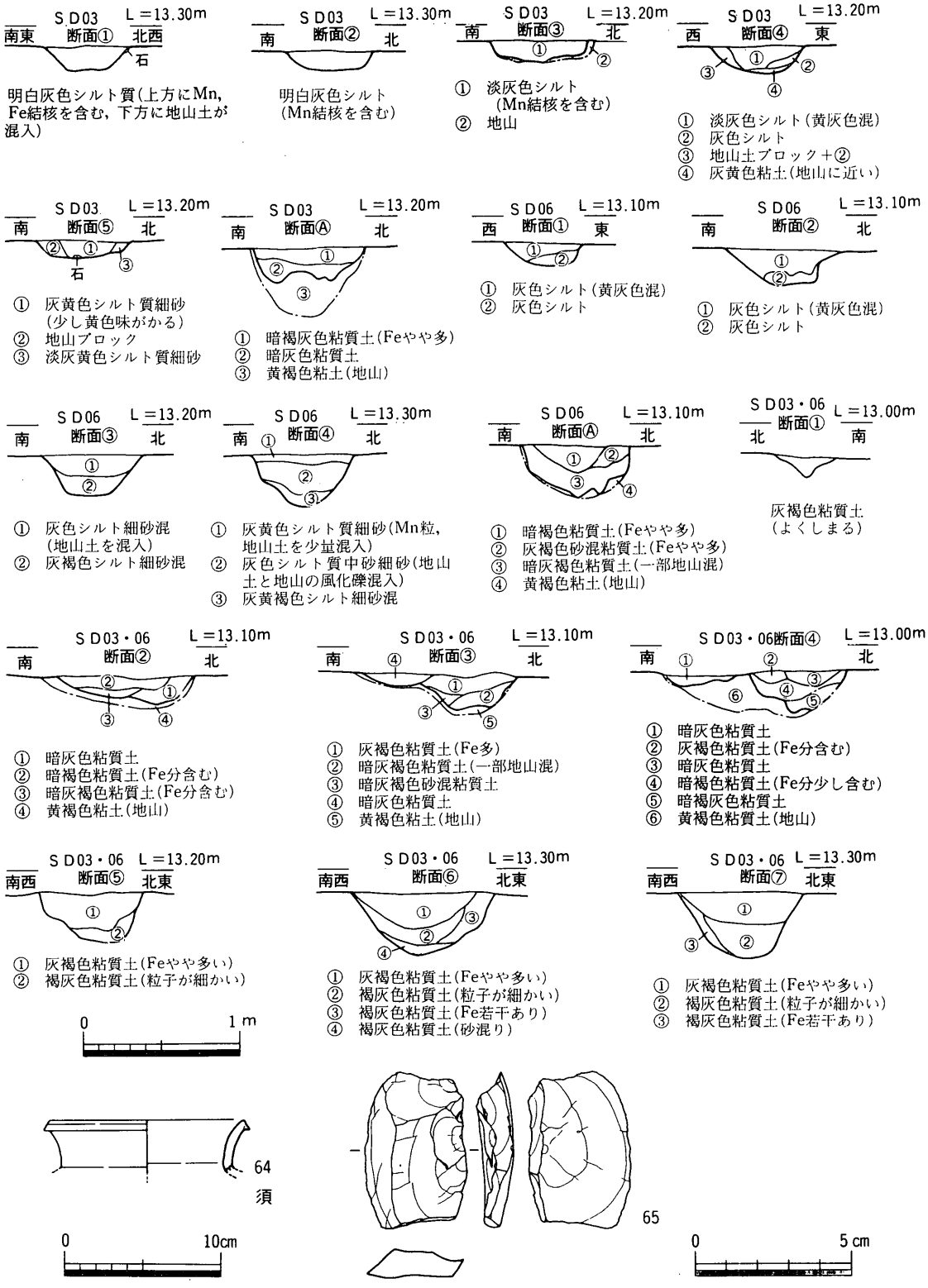
ＳＤ11（第24・25図，図版18）

Ⅰ区②に位置する。推定条里地割の坪界に一致すると考える溝跡である。底面標高には大きな変化はみられない。条里型地割については後に報告する。遺物は10世紀頃の土師器の杯が多く出土している。80は土錘である。84は須恵器風字硯の脚部である。全体に削り調整がみられ，古い様相であるとされる。9世紀以降に出土するとされている[1]。

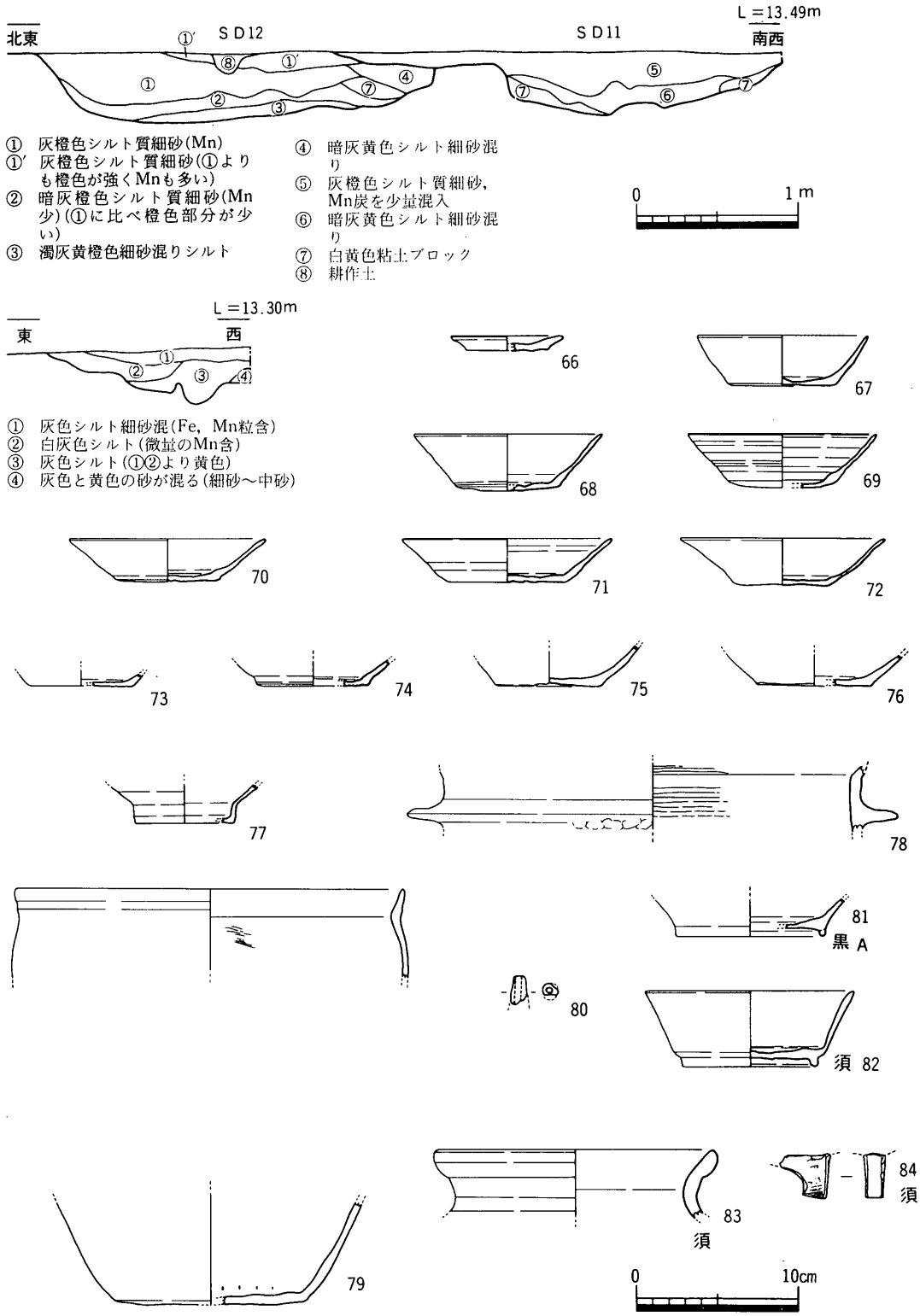
ＳＤ12（第25・26図，図版18）

Ⅰ区②・Ⅱ区③に位置する。ＳＤ03・ＳＤ06との前後関係は機械掘削時のミスで検証できなかった。底面標高は南より北が30cm程度低い。89・90はＳＤ11との合流部から出土したものである。92は剝離痕の風化の程度に違いがみられ，石鏃を後世に加工したものであるが，用途は不明である。

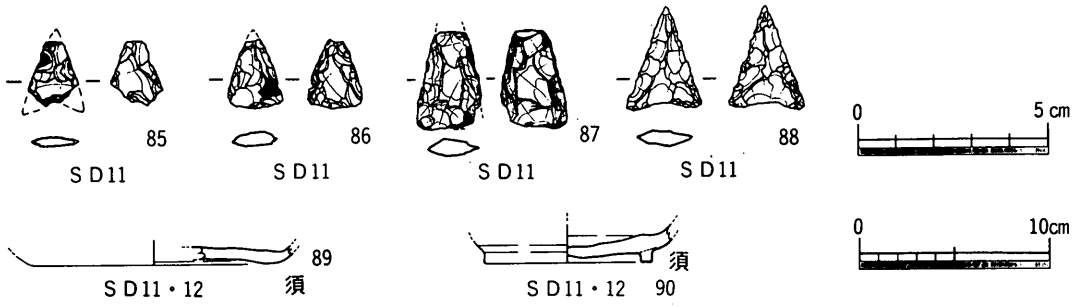
註(1)　横田賢次郎「福岡県内出土の硯について　－分類と編年に関する一試案－」『九州歴史資料館研究論集9』1983



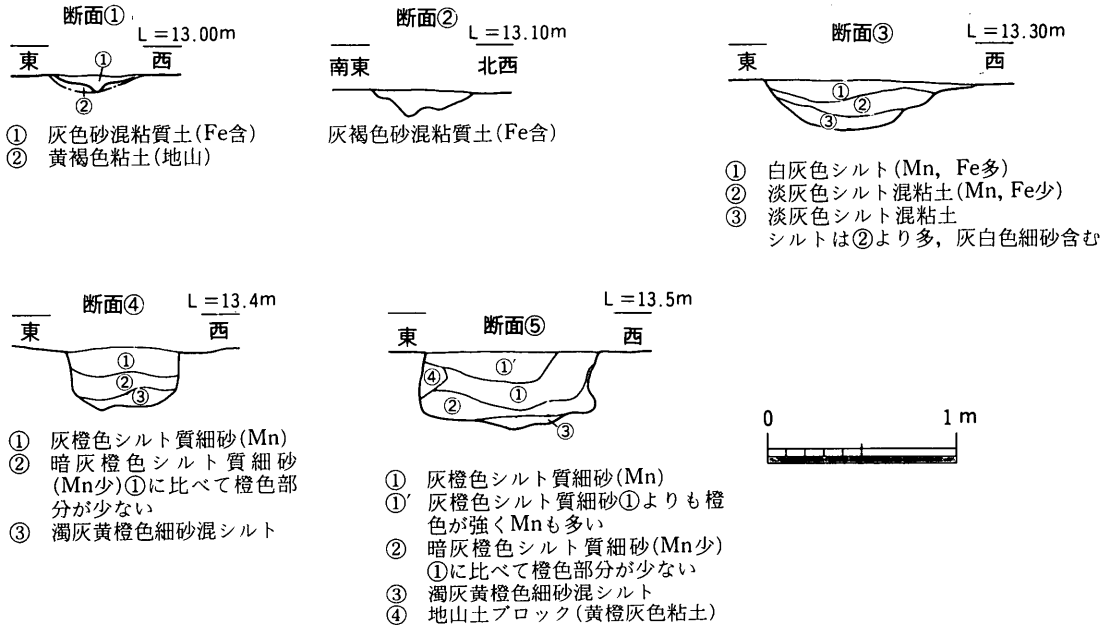
第23図　ＳＤ03・06断面図（1/40）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）



第24図　ＳＤ11断面図（１/40）及び出土土器（１/４）



第25図　ＳＤ11・12出土土器（1/4）及び石器（1/2）



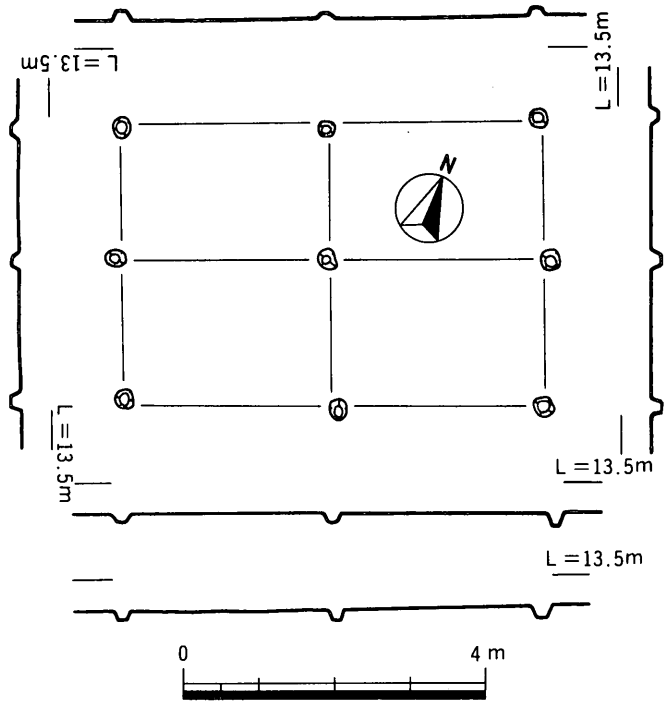
第26図　ＳＤ12断面図（1/40）及び出土石器（1/2）

5　鎌倉時代

当時期の遺構は溝跡と掘立柱建物跡がある。

ＳＢ01（第27図）

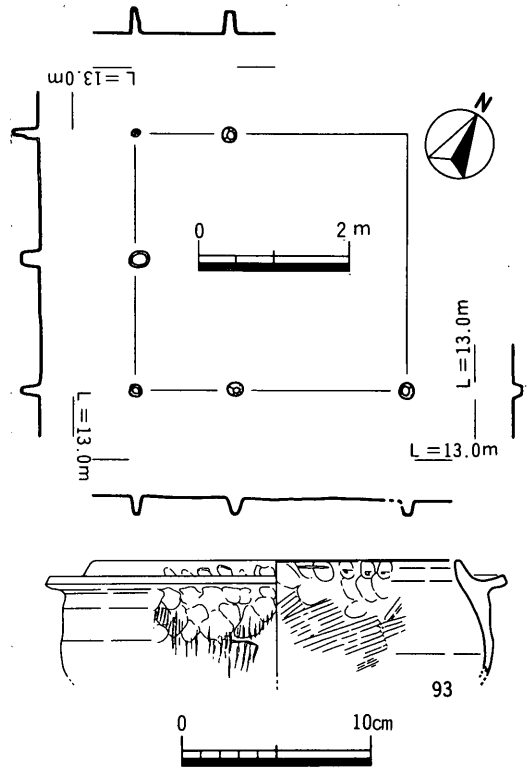
Ｄ７・Ｅ７区画に位置する。柱穴から遺物は出土していないため，時期の確定はできないが，古墳時代に埋没した溝跡より新しいことと柱穴の形態及び配置状況から考えて当時期頃と考える。桁行２間(5.52m)，梁行２間(3.75m)の総柱建物である。面積は20.7m²で，主軸方向はＮ66.5°Ｅである。



第27図　ＳＢ01平・断面図（1/100）

ＳＢ02（第28図，図版19）

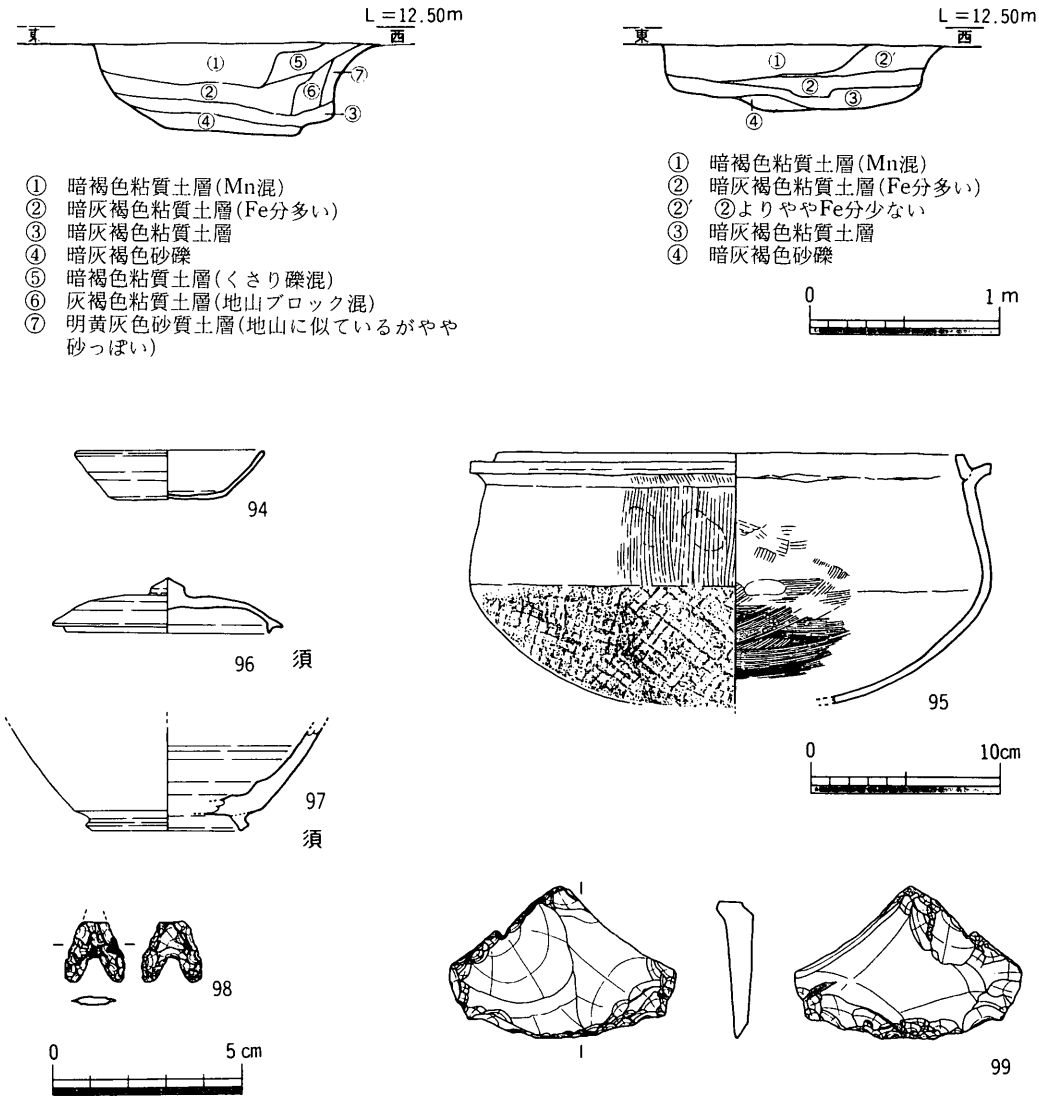
Ｈ14区画に位置する。柱穴から当時期と考えられる土師器土釜(93)が出土していることから，当時期の掘立柱建物跡と考えるが，調査時の遺物取り上げのミスで，どの柱穴から出土したかは不明である。建物北東隅柱穴は後世の溝跡に破壊されているものと考える。桁行２間(3.57m)，梁行２間（3.36m)，面積12.0m²，主軸方向Ｎ60°Ｅである。



第28図　ＳＢ02平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4）

ＳＤ70（第29図）

Ⅳ区②に位置する。埋土から当時期の遺物及び７世紀後半頃の遺物が出土することと土層断面から考えて，再掘削されたものと考えることができる。方向は条里型地割の方向と同じであり，位置は南北方向の坪界の中間と考えることができる。条里型地割との関係については後にまた報告する。95は口縁部の成形法がよくわかる資料である。99は剝離痕の風化の程度に違いがある。



第29図　ＳＤ70断面図（1/40）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）

6　近世以降

遺構は掘立柱建物跡，土坑，井戸及び溝跡が検出されている。埋没時期が現代のものも報告しておく。

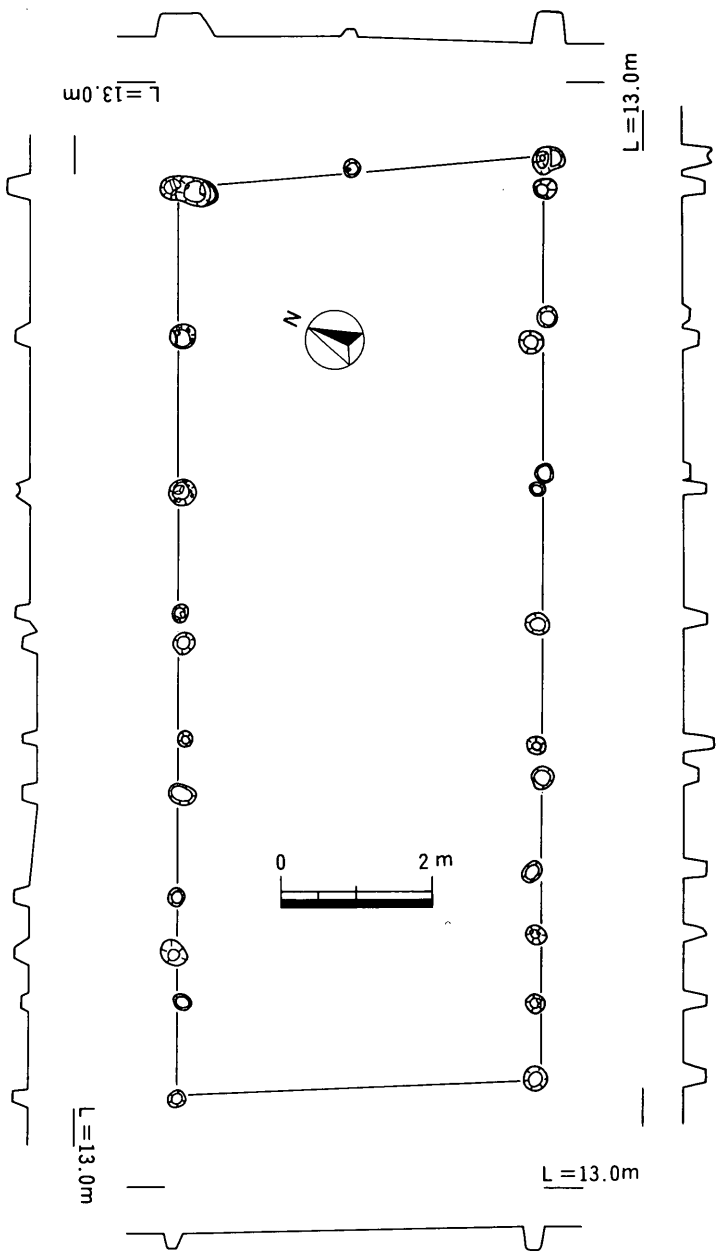
掘立柱建物跡（図版19）

ＳＢ03（第30図）

Ｈ14・Ｈ15区画に位置する。柱穴の配置から建物跡は二通りに復元できる。桁行６間（12.00m），梁行１間（4.77m），面積57.2m²，主軸方向Ｎ66.5°　Ｅである。遺物は２つの柱穴から土師器の破片が出土しているのみである。

ＳＢ04（第31図）

Ｈ15区画に位置する。遺物はＳＰ81から土師器杯と小片が出土しているのみである。桁行３間（6.86m），梁行１間（3.45m），面積23.7m²，主軸方向Ｎ63°　Ｅである。建物西側と南側の柱穴列は庇とも考えられるが，西側の柱穴列はＳＢ03と関連するものかもしれない。



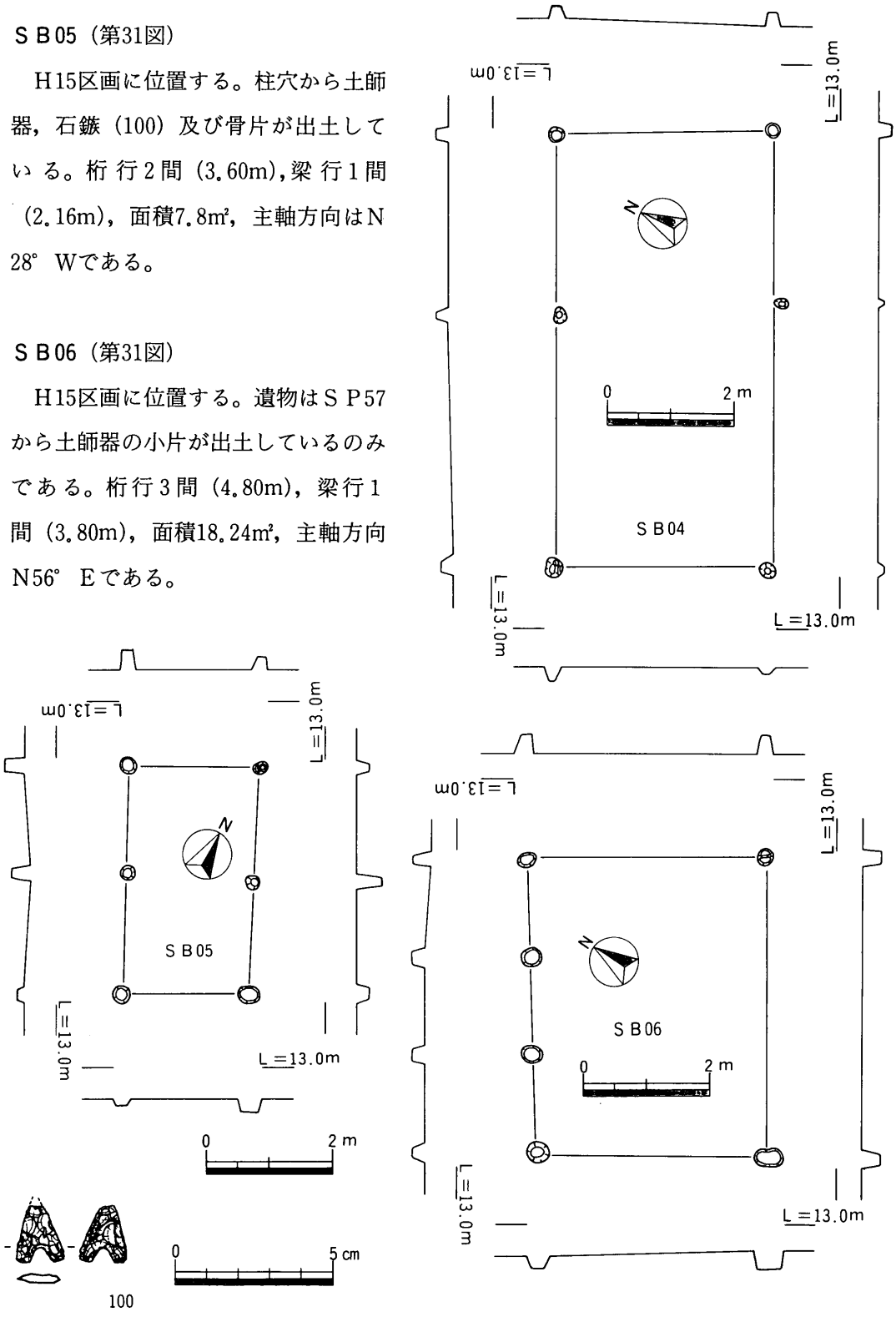
第30図　ＳＢ03平・断面図（1/100）

ＳＢ05（第31図）

Ｈ15区画に位置する。柱穴から土師器，石鏃（100）及び骨片が出土している。桁行２間（3.60m），梁行１間（2.16m），面積7.8m²，主軸方向はＮ28°Ｗである。

ＳＢ06（第31図）

Ｈ15区画に位置する。遺物はＳＰ57から土師器の小片が出土しているのみである。桁行３間（4.80m），梁行１間（3.80m），面積18.24m²，主軸方向Ｎ56°Ｅである。

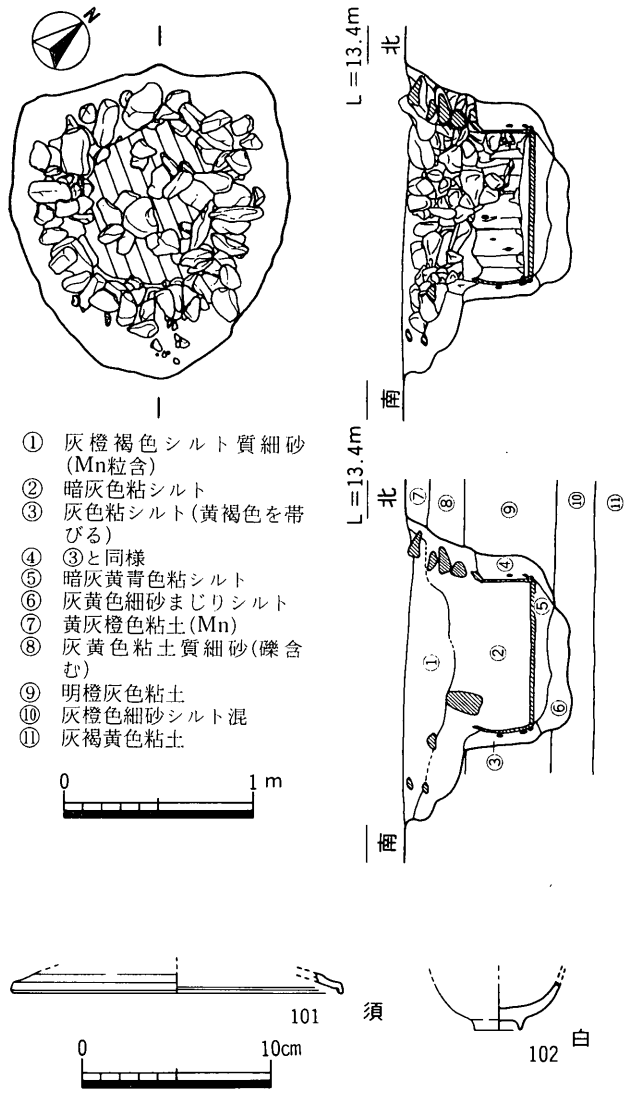


第31図　ＳＢ04・05・06平・断面図（1/100）及び出土石器（1/2）

土坑

ＳＫ01（第32図，図版20）

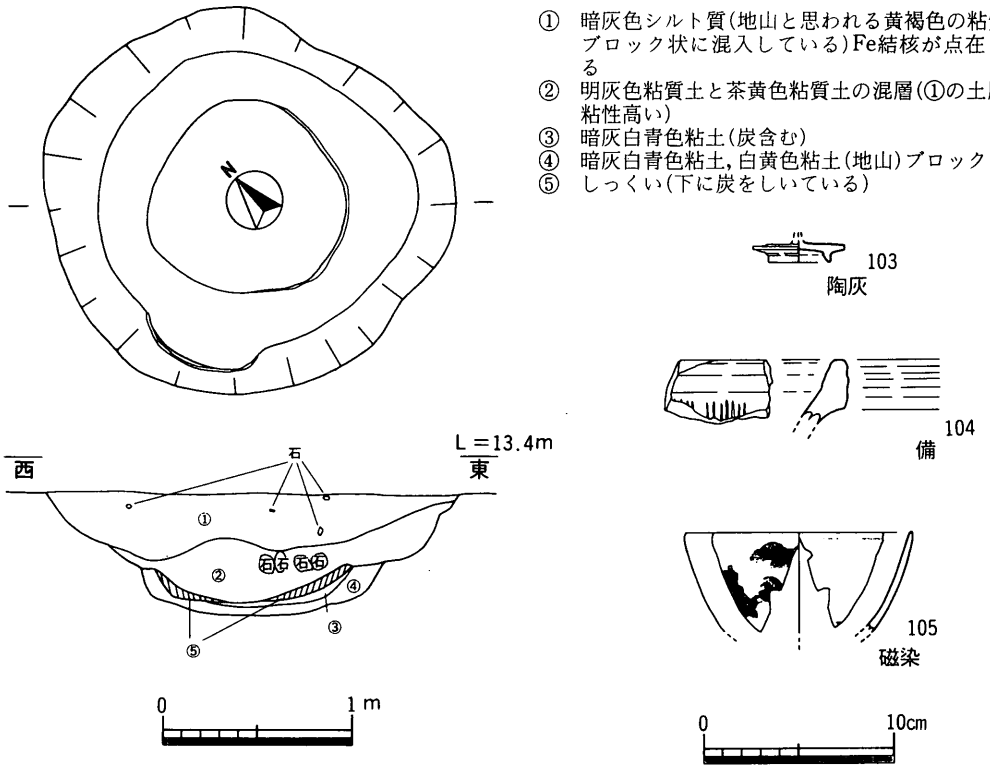
Ａ１区画に位置する。土坑底には木桶を置き，上部は円礫群が見られる。木桶は上部が腐朽して消失していること，下部の木質が残存している部分で木桶と掘方の間に礫が存在すること，礫群は明確に石組みとして組まれたような側面観を呈さないことから，この礫群は石組みではなく木桶を固定する裏込めであると判断できる。また礫群の平面図からは南西部分の礫群が土坑中心部にずれていることがわかるが，木桶の腐朽に伴いずれたものと考える。水溜用の土坑と考える。その位置関係からＳＤ01・ＳＤ02と共存していた時期があったと考えられる。



第32図　ＳＫ01平・断面図（1/40）及び出土土器（1/4）

ＳＫ02（第33図，図版20）

Ａ１区画に位置する。埋土は基盤層の黄灰色粘質土ブロックで，人為的に埋めもどされた状況を示している。土坑底にはセメントに似たものが貼られていることから，この土坑も水溜用と考えられる。ＳＫ01と同様その位置関係からＳＤ01・ＳＤ02と共存していた時期を考えることができる。



第33図　ＳＫ02平・断面図（１/40）及び出土土器（１/４）

ＳＫ03（第34図，図版21）

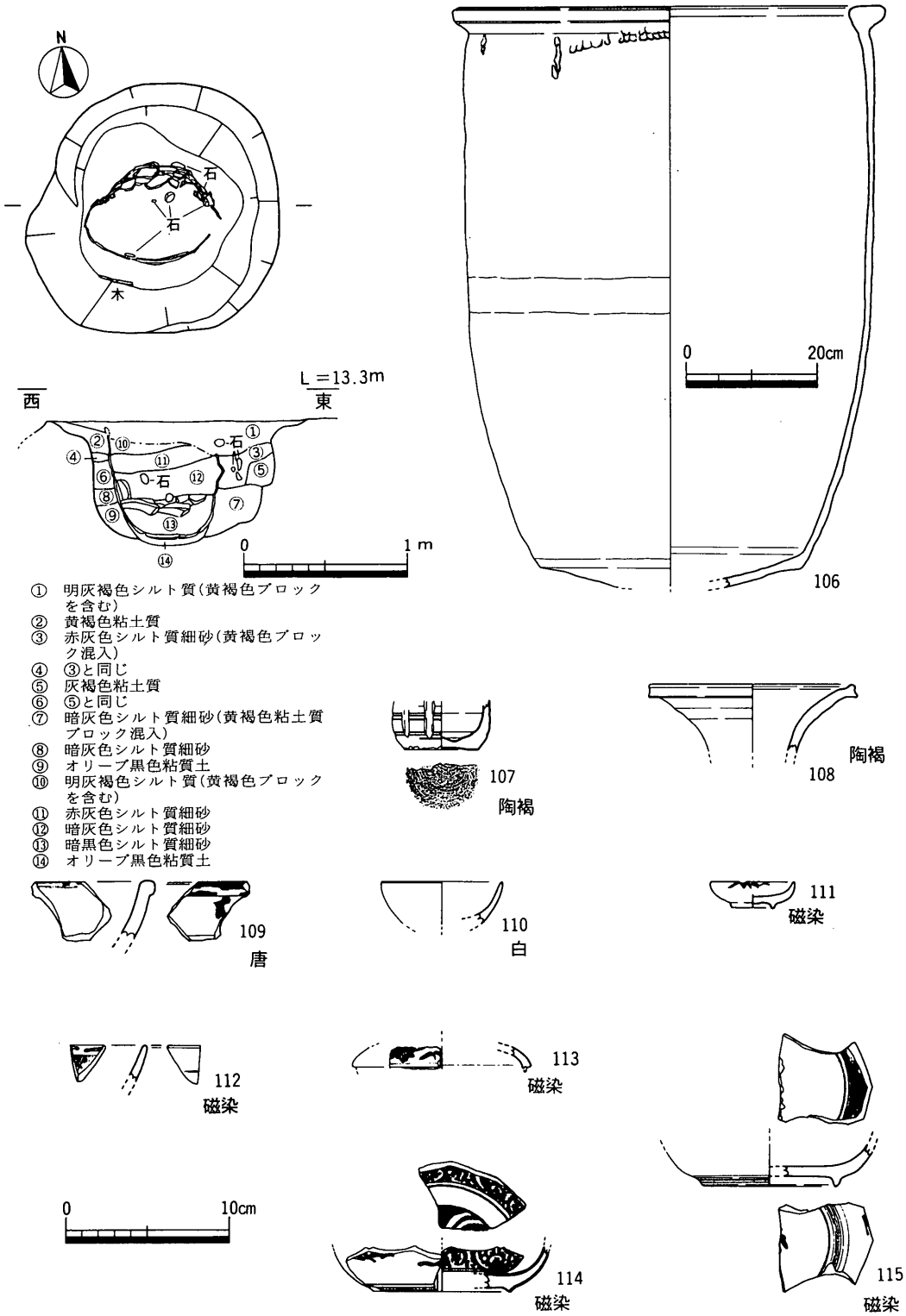
Ｂ１区画に位置する。内部に土師器大甕を設置しており，いわゆる野壺と考えられる。口縁部は，甕内部に落ち込んだ状況で出土している。

ＳＫ04（第35図，図版21）

Ｃ５区画に位置する。ＳＫ05より新しい。素掘りと考えられる。擂鉢状の底面形態である。遺物は須恵器の小片１片のみである。

ＳＫ05（第35図，図版21）

Ｃ５区画に位置する。素掘りの土坑である。遺物は土師器２片と須恵器１片が出土しているのみである。



第34図　ＳＫ03平・断面図（１/40）及び出土土器（１/４・１/10）

ＳＫ06（第36図，図版22）

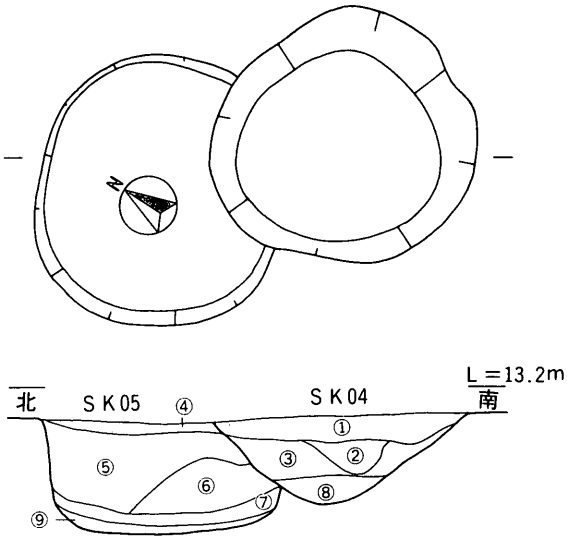
Ｃ５区画に位置する。素掘りの土坑である。遺物は陶磁器３片が出土しているのみである。

ＳＫ12（第37図）

Ｇ13区画に位置する。土層断面のみから土坑と判断したので，平面形は不明である。近世陶磁器の包含層より新しい時期である。遺物の出土は確認できなかった。

ＳＫ13（第38図，図版22）

Ｇ14区画に位置する。近世陶磁器ほかが出土している。底には土師器の大甕の破片が残存していたことからいわゆる野壺と考える。



① 黄灰色シルト細砂混り（Feを含む）
② ①より灰色の度合が強い（Feを含む）
③ ①と②の混入
④ 黄灰色シルト細砂まじり，橙黄色粘土（地山）少量含む
⑤ ④より地山土の量が多い
⑥ ほとんど地山土ブロック（少量の⑦層を混入する）
⑦ 白灰色粘シルト（下層にもみがらのようなものを含む）
⑧ 灰白色粘シルト（Fe微量）
⑨ 灰色粘シルト

第35図　ＳＫ04・05平・断面図（１/40）

ＳＫ14（第39図，図版23）

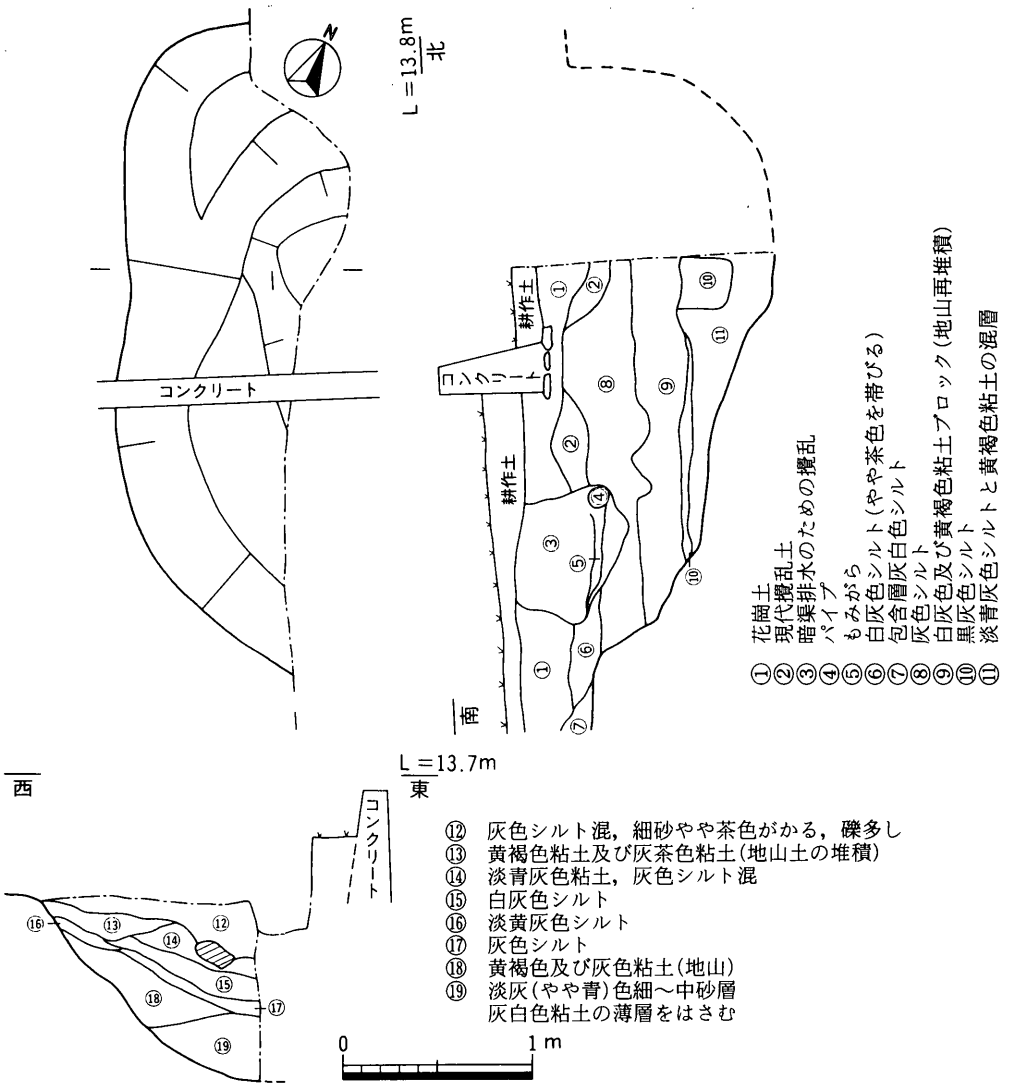
Ｇ14区画に位置する。土師器大甕底部（117）の破片がおかれた状態で残存していた。土坑は浅いことから上部を削平されたものと考える。いわゆる野壺と考える。118は須恵器のような発色の灯明皿である。

ＳＫ15（第40図）

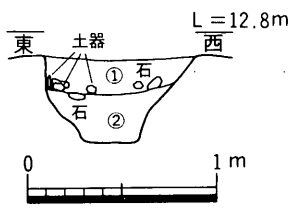
Ｇ14区画に位置する。深さの浅い土坑である。凹みが２カ所見られることから，2つの土坑が重なった痕跡である可能性がある。

ＳＫ16（第41図，図版23）

Ｇ14区画に位置する。ＳＫ17より古い。土坑というよりはピットとした方が適切かもしれない。埋土は基盤層ほかの土がブロック状に堆積している。土師器片が出土している。

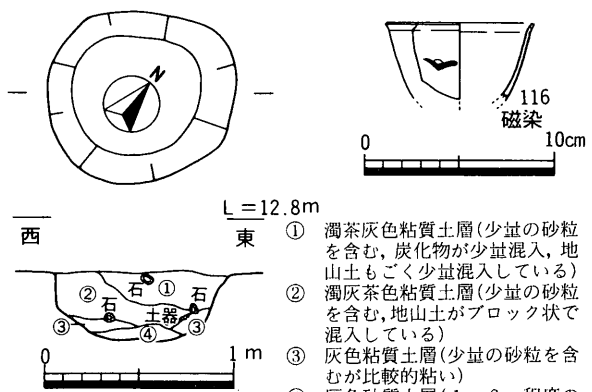


第36図　ＳＫ06平・断面図（1/40）



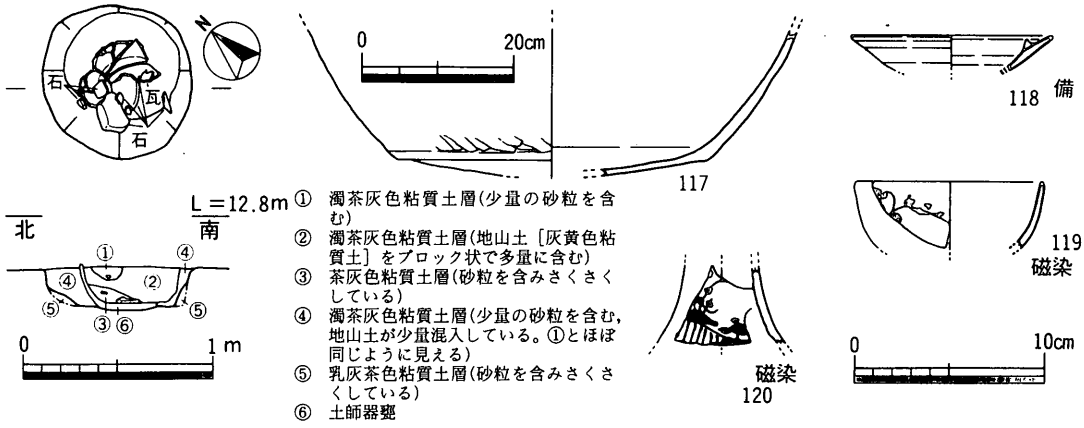
① 灰褐色粘質土Fe多し，Mn含
② 暗灰色粘質土部分的にFe含

第37図　ＳＫ12断面図（1/40）

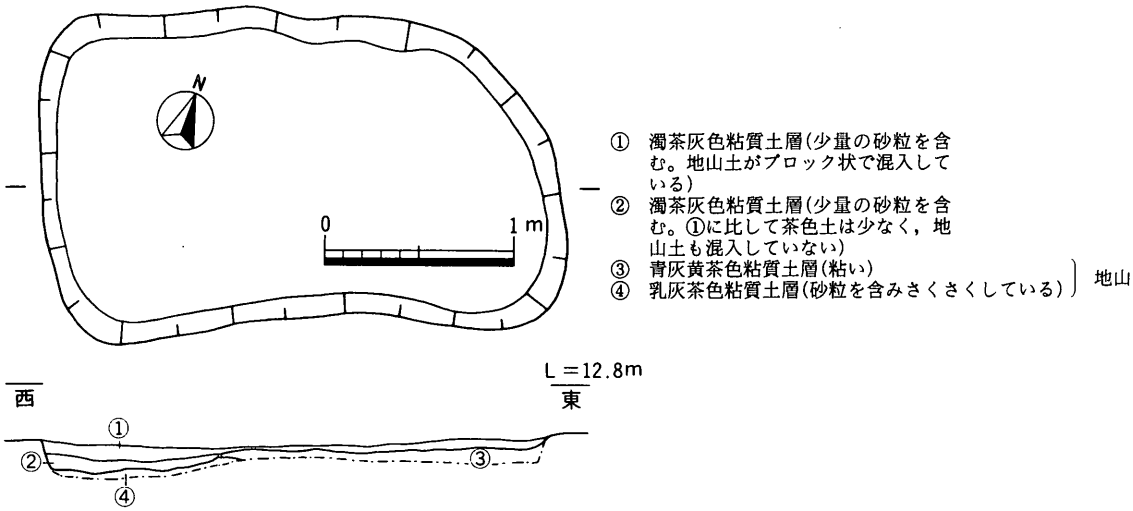


① 濁茶灰色粘質土層（少量の砂粒を含む，炭化物が少量混入，地山土もごく少量混入している）
② 濁灰茶色粘質土層（少量の砂粒を含む，地山土がブロック状で混入している）
③ 灰色粘質土層（少量の砂粒を含むが比較的粘い）
④ 灰色砂質土層（1～2㎝程度の礫が少量混入している）

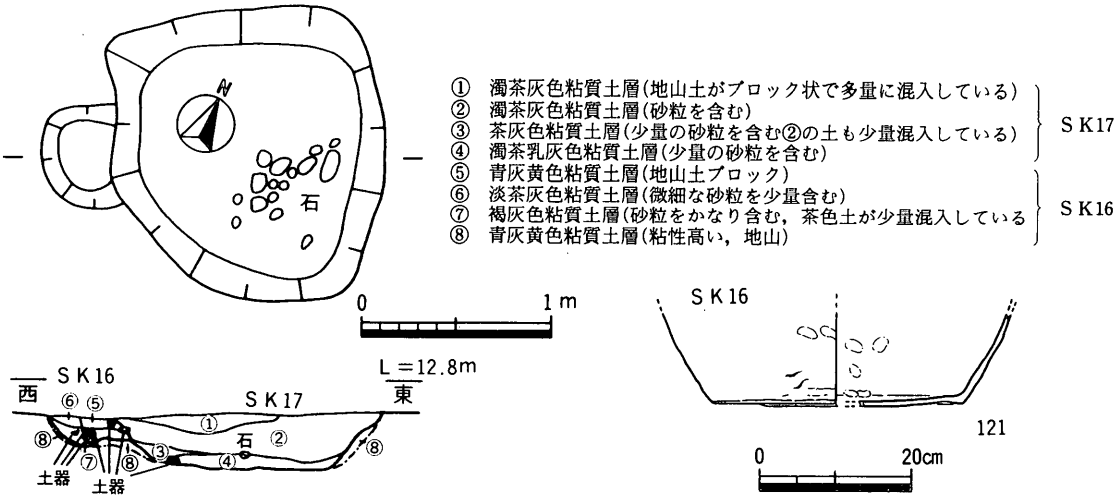
第38図　ＳＫ13平・断面図（1/40）及び出土土器（1/4）



第39図　ＳＫ14平・断面図（1/40）及び出土土器（1/4・1/10）



第40図　ＳＫ15平・断面図（1/40）



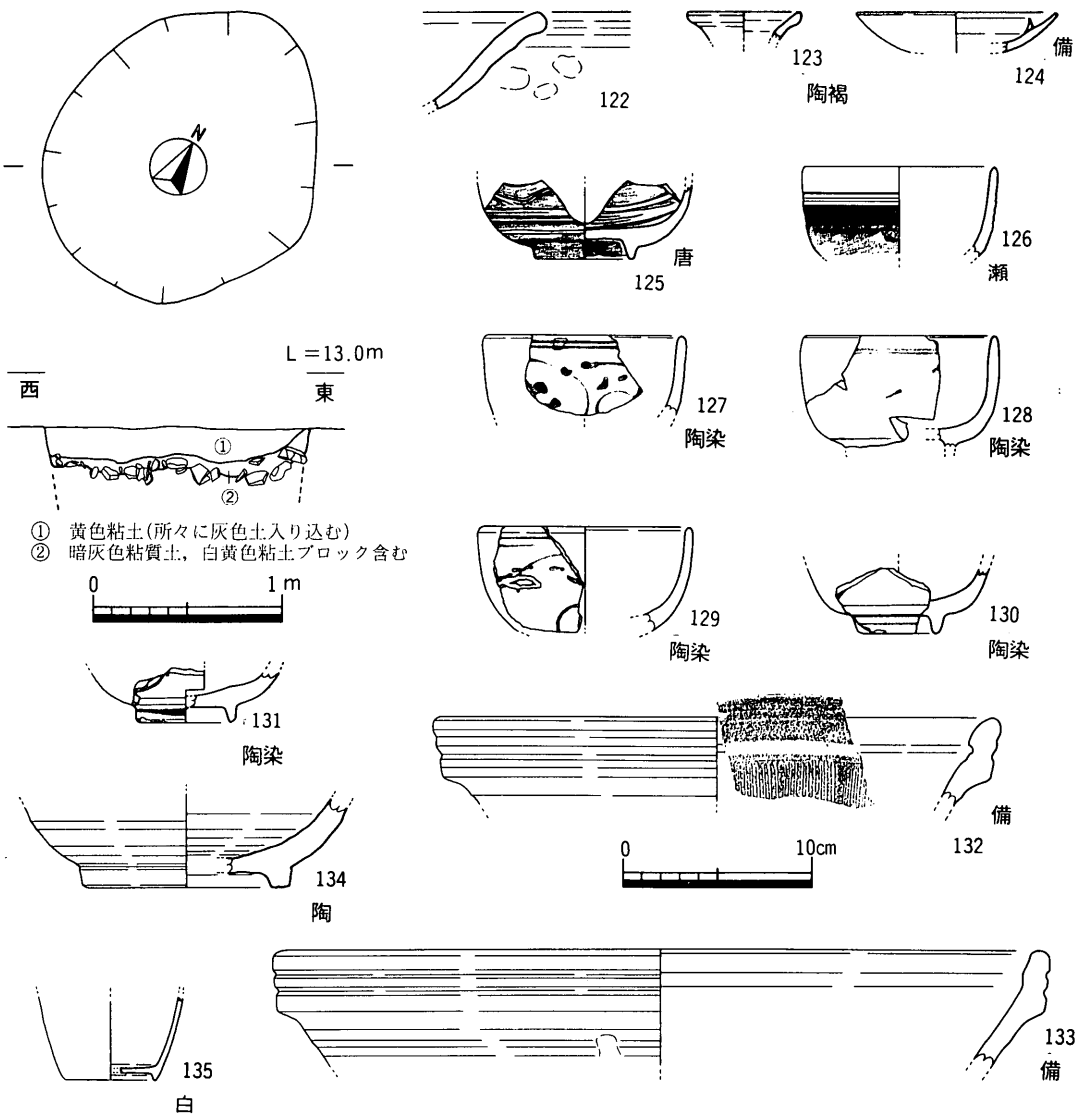
第41図　ＳＫ16・17平・断面図（1/40）及び出土土器（1/10）

ＳＫ17（第41図，図版23）

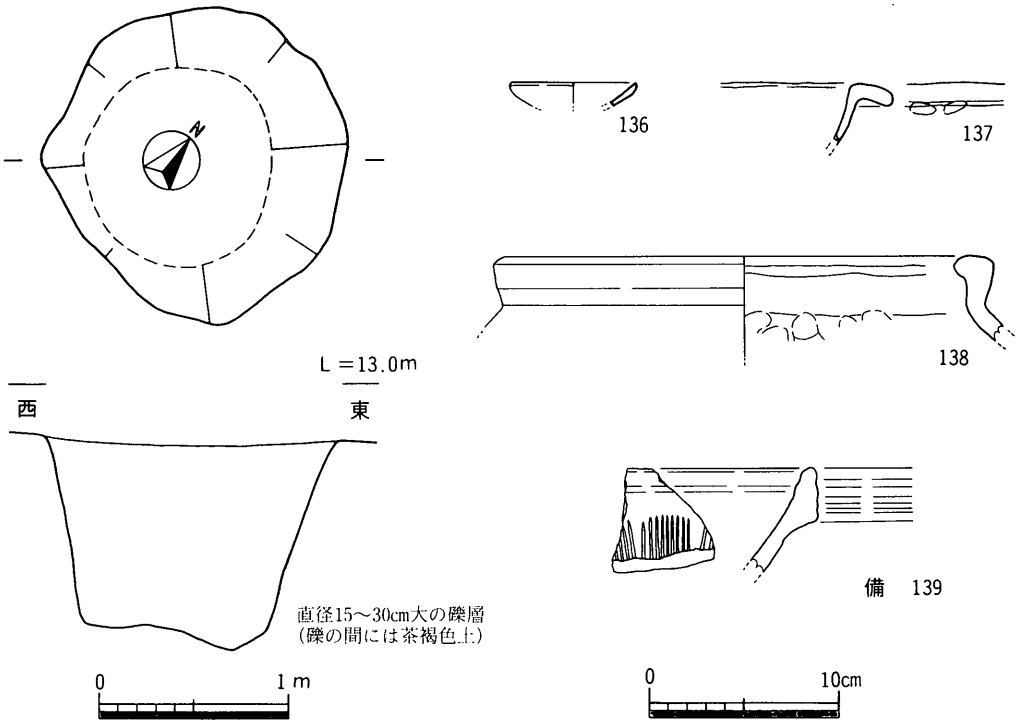
Ｇ14区画に位置する。ＳＫ16より新しい。埋土最上層に基盤層の白灰色粘質土ブロックが堆積している。

ＳＫ18（第42図，図版24）

Ｇ14区画に位置する。完掘していない。深さ約60cmまでは拳大から人頭大くらいの礫がぎっしりと埋まっていた。近辺の不要な石を１カ所に集めたいわゆる整理土坑と考えられる。133は現存部分では卸目は無いが，形態から擂鉢とする。



第42図　ＳＫ18平・断面図（1/40）及び出土土器（1/4）



第43図　ＳＫ19平・断面図（１/40）及び出土土器（１/４）

ＳＫ19（第43図，図版24・25）

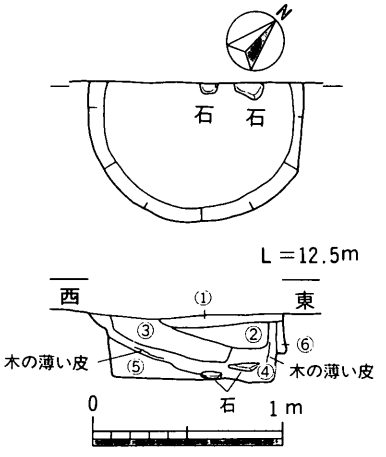
Ｇ14区画に位置する。埋土の状況はＳＫ18と同じである。深さは約１ｍである。

ＳＫ21（第44図，図版25）

Ｉ14区画に位置する。遺物は平瓦２片，木質遺物の破片が出土している。

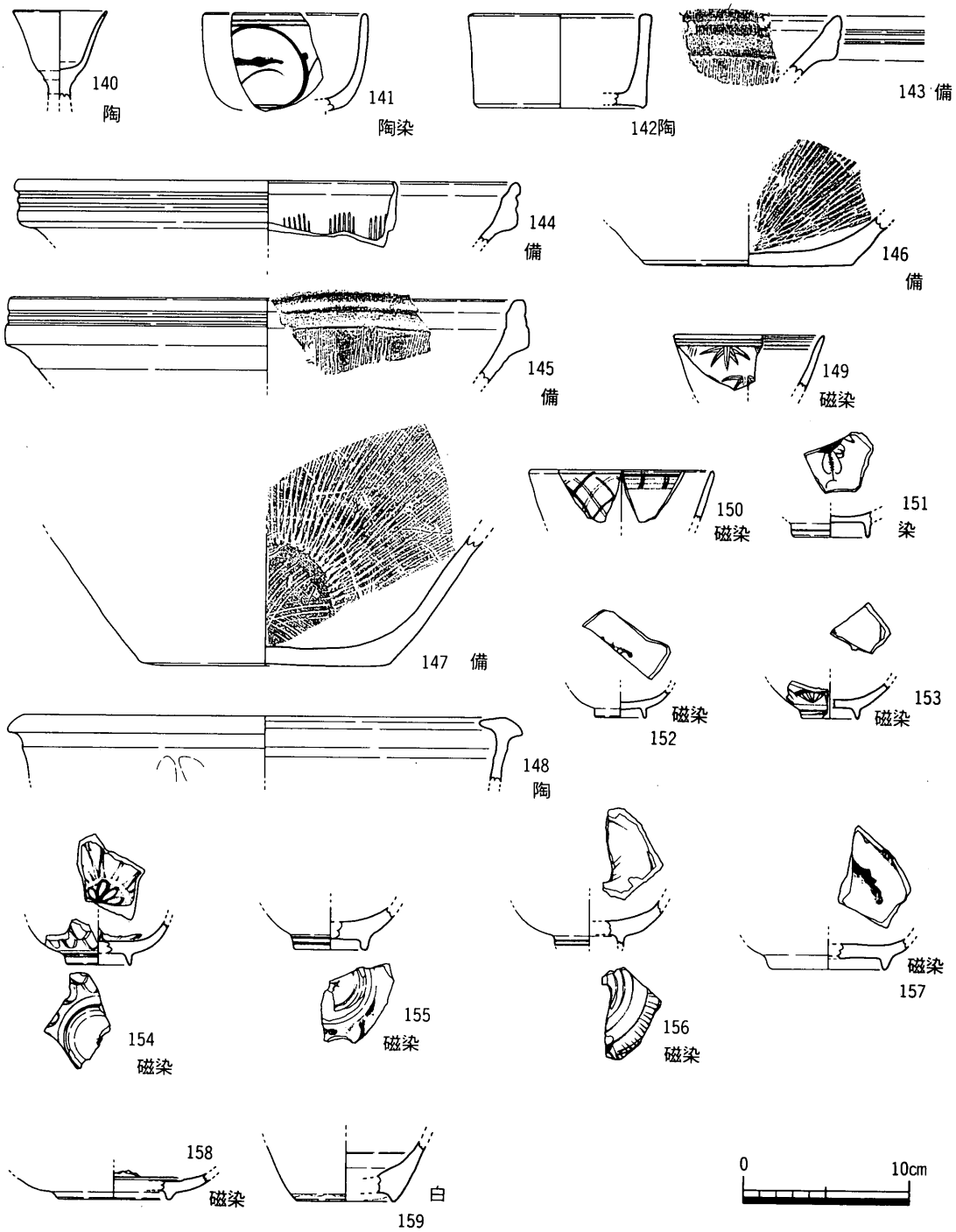
ＳＫ22（第45図）

Ｉ14区画に位置する。ＳＫ21の南にあるという記録はあるが，平面図・断面図は残っていない。出土遺物が多いので，遺物図のみ掲載する。



① 灰褐色粘質土(Mn)
② 灰褐色粘質土(Fe多)
③ 灰褐色粘質土(Fe少)
④ 灰褐色粘質土(Fe多，赤茶褐色を帯びる)
⑤ 暗褐色粘質土
⑥ 暗灰褐色粘質土(地山混)

第44図　ＳＫ21平・断面図(１/40)



第45図　ＳＫ22出土土器（１/４）

ＳＫ24（第46図）

Ｈ15区画に位置する。中世に埋没したＳＤ70より新しいことから当時期とする。土師器及び不明鉄器が出土している。ブロック状の土層堆積が見られる。

ＳＫ25（第47図，図版26）

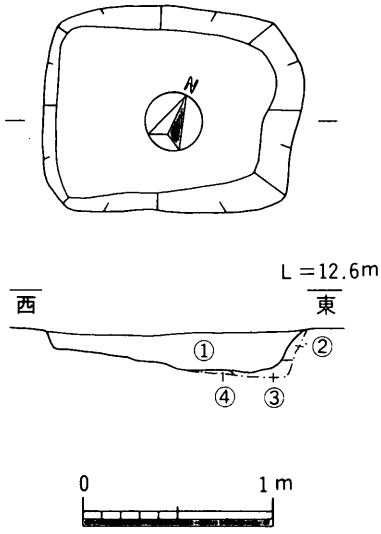
Ｈ15区画に位置する。土師器及び須恵器が少量出土している。ＳＤ70より新しいこと及び埋土の状況から当時期と考えた。

ＳＫ26（第47図，図版26）

Ｈ15区画に位置する。土師器片及び白磁片が出土している。

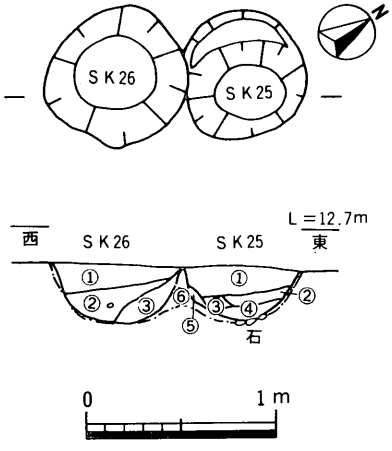
ＳＫ27（第48図，図版26）

Ｈ15区画に位置する。土師器片及び陶器片が出土している。ＳＫ28及びＳＤ70より新しい。



① 淡灰色粘質土層(乳黄色土，茶灰色土，乳白色土ブロックを多量に含む)
② 茶灰色粘質土層
③ 灰色粘質土層(少量の黄茶色土とごく少量の細砂含む)　ＳＤ70
④ 灰乳黄色土層(地山)

第46図　ＳＫ24平・断面図(１/40)



ＳＫ25
① 淡茶灰色粘質土層(さくさくしている)
② 灰色粘質土層(乳黄色土をブロック状でかなり含む)
③ 灰色粘質土層(茶灰色土と微細な炭化物を少量含む)
④ 灰色粘質土層(砂粒を少量含む)
⑤ 淡灰乳色粘質土層
⑥ 黄茶灰白色粘質土層(粘性高い，Mn結核を少量含む，地山)

ＳＫ26
① 淡灰色粘質土層(茶色土，灰乳黄色土(地山土)を少量含む。さくさくしている)
② 淡茶灰色粘質土層(灰乳黄色土(地山土)を少量含む)
③ 淡灰色粘質土層(細砂をごく少量含む。さくさくしている)

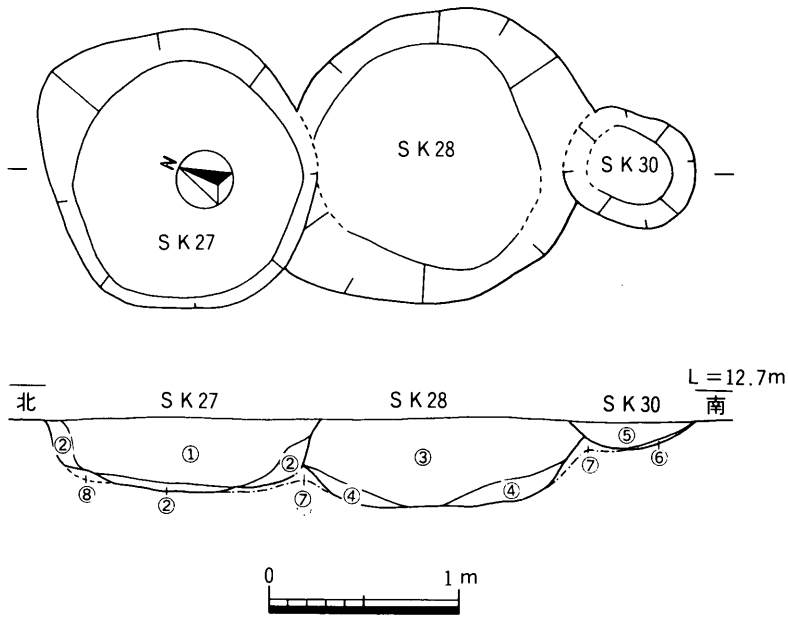
第47図　ＳＫ25・26平・断面図(１/40)

ＳＫ28（第48図，図版26）

Ｈ15区画に位置する。土師器及び陶器片が出土している。ＳＫ27より古く，ＳＤ70より新しい。

ＳＫ30（第48図，図版26）

Ｈ15区画に位置する。土師器の大甕が出土している。ＳＫ28より新しい。



第48図　ＳＫ27・28・30平・断面図(1/40)及び出土土器(1/4)

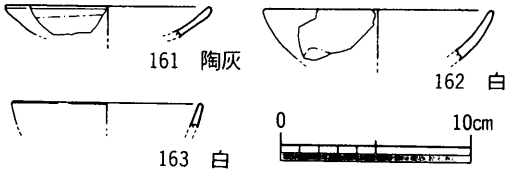
井戸

ＳＥ01（第49図，図版27）

Ｃ５区画に位置する。石組みの井戸である。埋土からは近世の陶磁器が出土している。地元の古老によれば，昭和14年大干ばつの時に井戸を当遺跡周辺でもたくさん掘っているので，その内の一つではないかということである。埋土最上層には花崗土の堆積が見られ，これは現有水路に沿って存在することから，昭和39年の川西地区の圃場整備の時に，現有水路を造る時に仮設道として設置されたものと考えられる。また昭和37年撮影の空中写真[1]にはこの井戸は見られないことから，すでにそれ以前に埋没していたことは確実である。

註(1)　建設省国土地理院　ＳＩ－62－４　Ｃ９Ａ－９による。

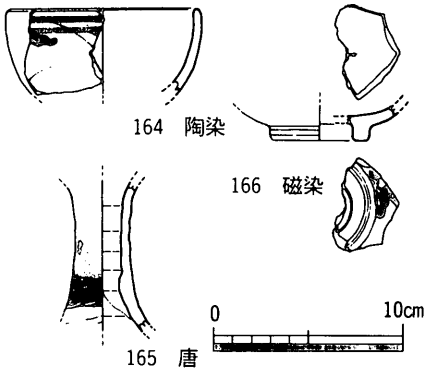
石組み内径2.0m，現在の地表面からの深さ2.2mである。最下部は木の丸太を横にして，その上から石を積んでいる。



第49図　ＳＥ01出土土器（１／４）

ＳＥ02（第50図，図版27）

Ｅ６区画に位置する。土層断面図作成以前に埋土が崩落したので，断面図は作成していない。石組み内径約1.5m，検出面からの深さ約1.4mである。埋土は大きく３層に分かれ，上層は厚さ約50cmで基盤層の白黄色粘土ブロックの堆積層である。中層は厚さ30cmで，白灰色粘土層である。下層は灰色粘土層である。埋土から近世陶磁器が出土している。掘削時期については，ＳＥ01と同じような可能性がある。



第50図　ＳＥ02出土土器（１／４）

不明遺構

ＳＸ02（第51図）

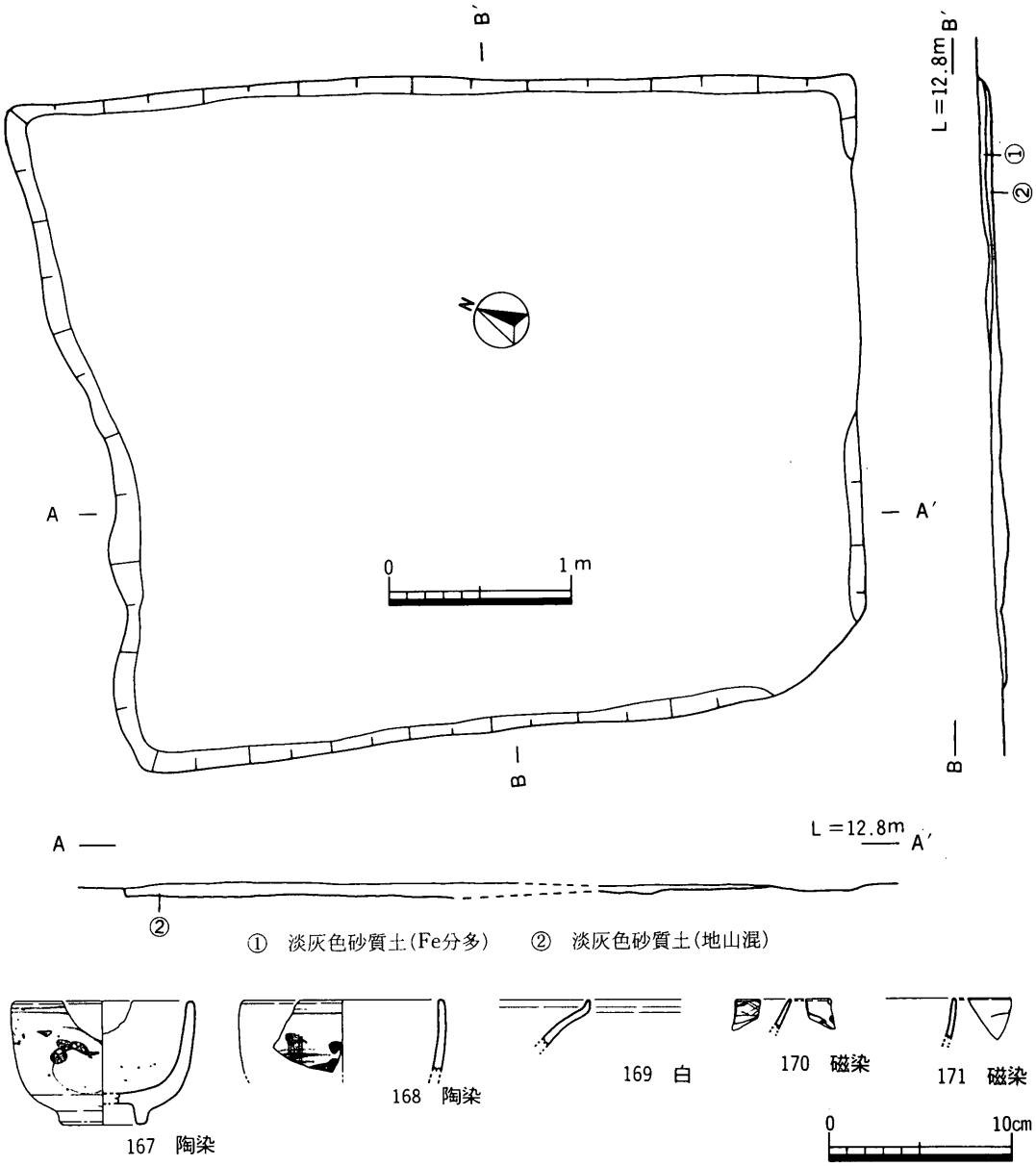
Ｈ14区画に位置する。浅い方形の落ち込みである。ＳＤ69より新しい。近世陶磁器が出土している。

溝跡

ＳＤ01，ＳＤ02（第52～54図）

Ｉ区西端に位置する。当遺跡周辺が昭和39年に圃場整備される以前の昭和37年に撮影された空中写真[1]に認められる溝である。新旧２つの溝跡が重複している。ＳＤ01はＳＤ02より新しい。ＳＤ02は溝の東西方向部分とそれより北側が残存している。溝跡の南半は現有水路に一部重複しているため確実ではないが，ＳＤ02は東西方向部分から南へは屈曲せず，そのまま西へ延びる可能性もある。また溝跡東西方向部分には，ＳＤ01の護岸用と考えられる石列が検出されている。173は口縁端部に「市」のような字の押印がある。187は

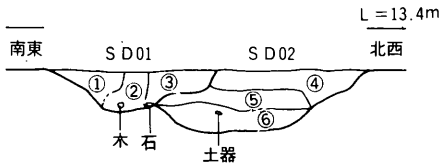
註(1)　建設省国土地理院　ＳＩ－62－４　Ｃ９Ａ－９による。



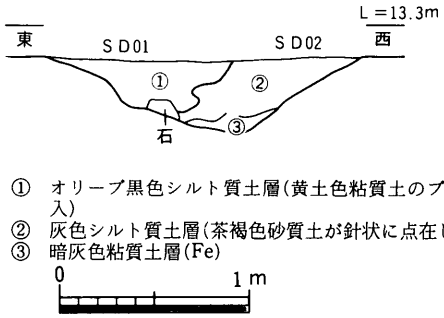
第51図　ＳＸ02平・断面図（１/40）及び出土土器（１/４）

口縁部無釉の中国産白磁Ⅸ類[1]である。198はコンニャク判による模様がある。203・208・210・211・214・242は近代の型紙摺と考えられる。214は陶器質の胎土の上に白い化粧

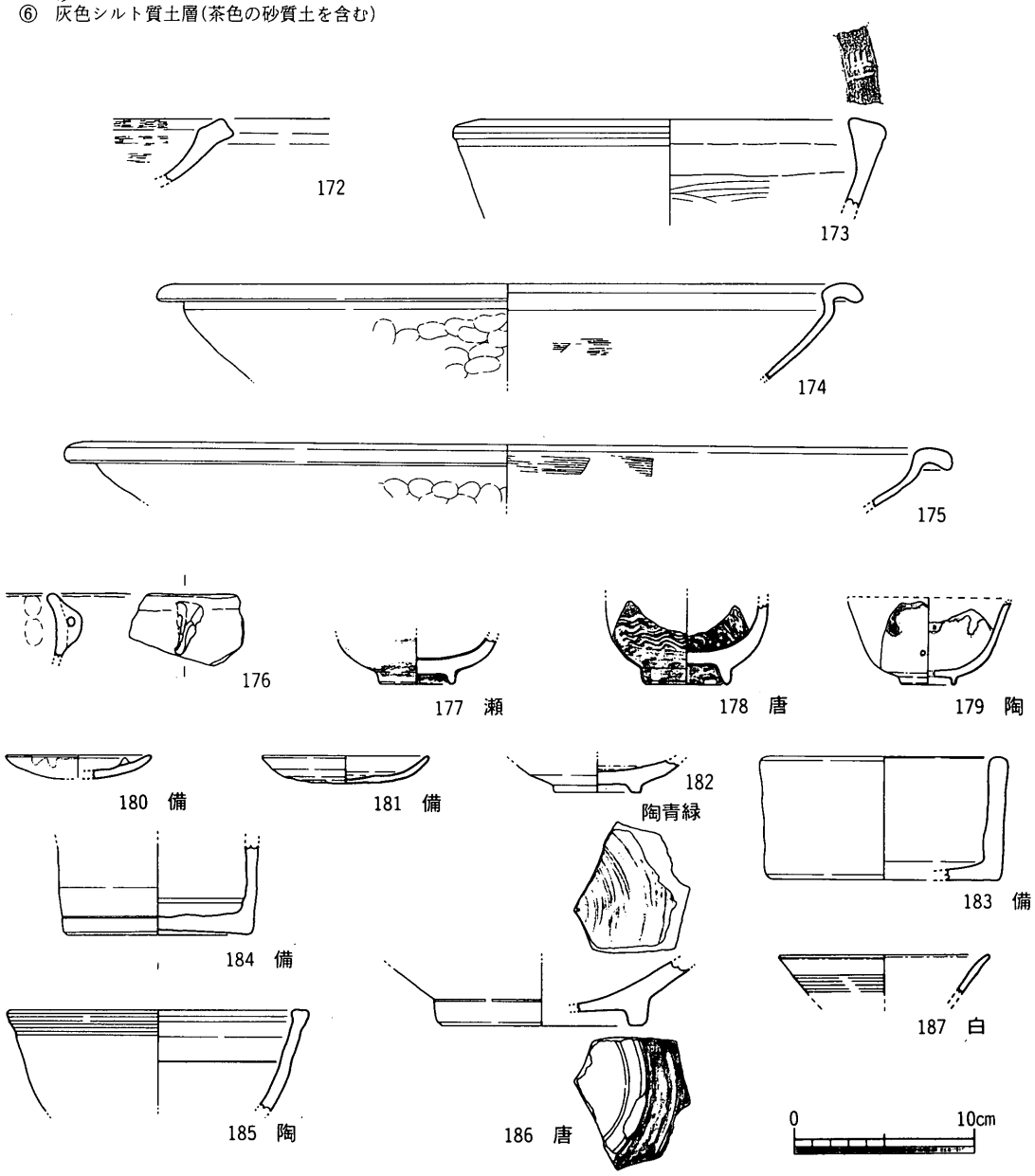
註(1)　横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入陶磁器について　－型式分類と編年を中心に－」『九州歴史資料館論集　4』九州歴史資料館1978



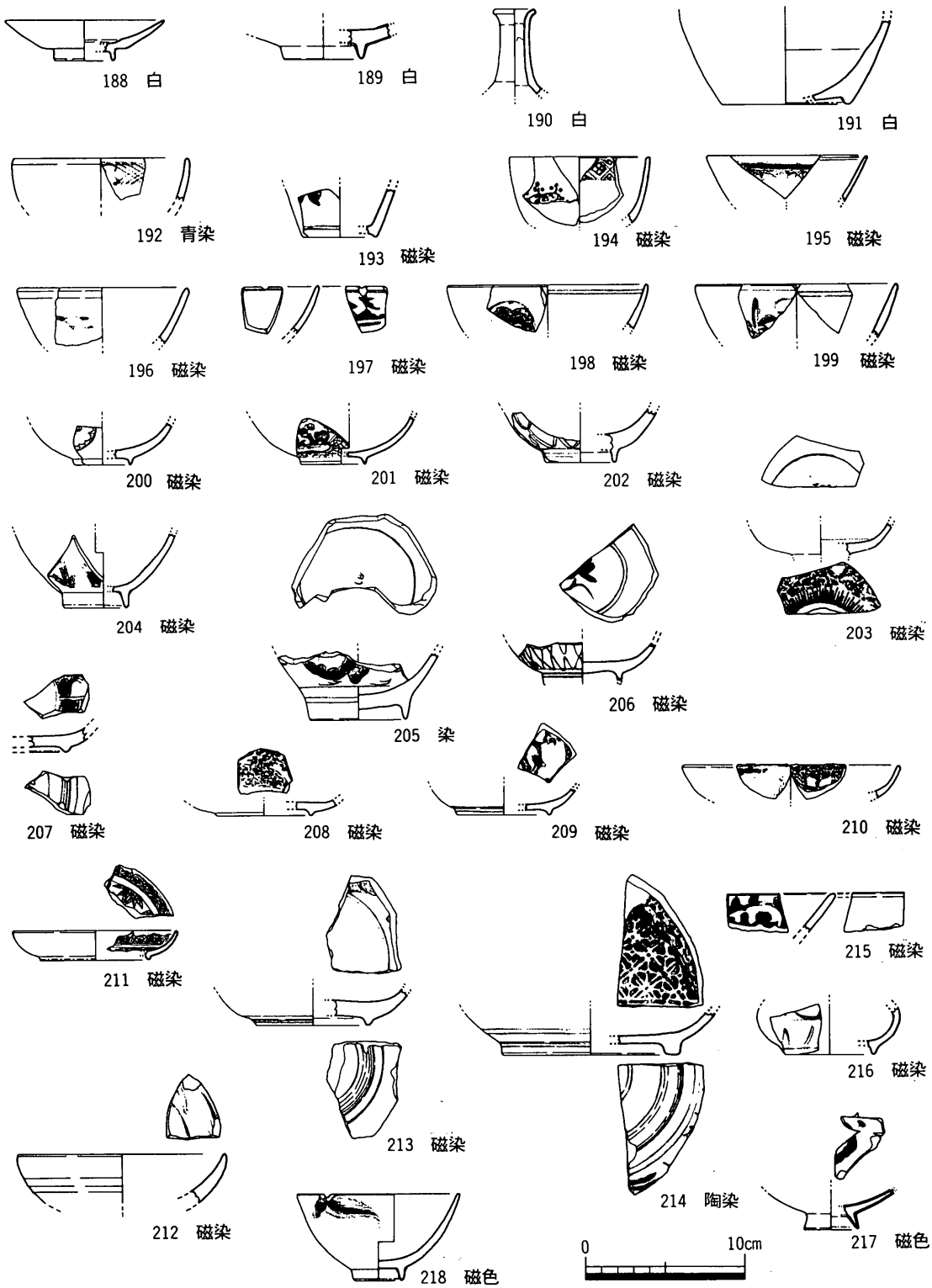
① 白灰色シルト質土層(黄土色の粘質土を含む)
② 暗灰色シルト質土層
③ 灰色砂質土層(茶色の粘質土を含む)
④ 明茶灰色砂質土層
⑤ 灰色シルト質土層(炭粒が点在している)細砂
⑥ 灰色シルト質土層(茶色の砂質土を含む)



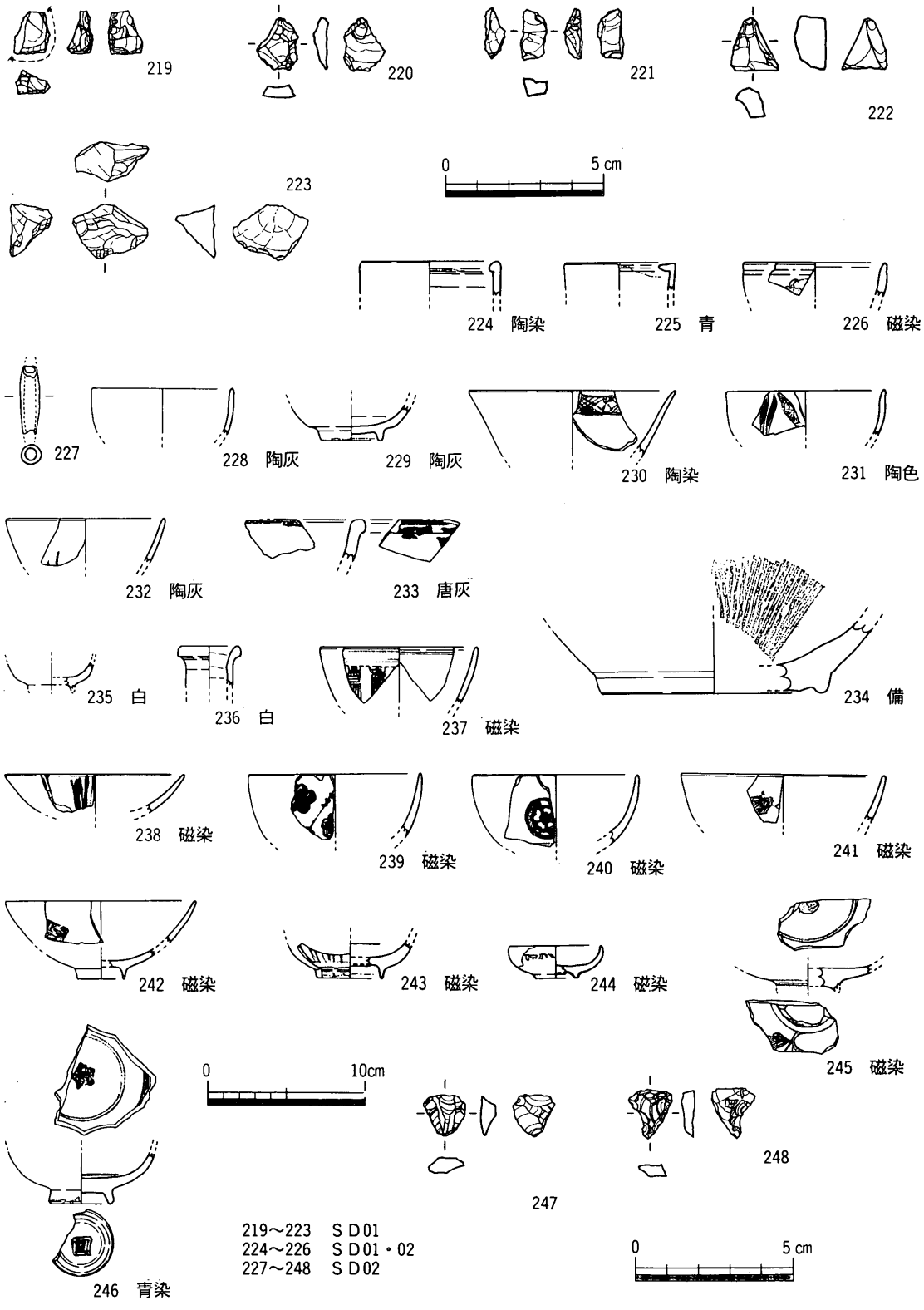
① オリーブ黒色シルト質土層(黄土色粘質土のブロック混入)
② 灰色シルト質土層(茶褐色砂質土が針状に点在している)
③ 暗灰色粘質土層(Fe)



第52図　SD01・02断面図（1/40）及びSD01出土土器（1/4）



第53図　ＳＤ01出土土器（1/4）



第54図　ＳＤ01・02出土土器（1/4）及び石器（1/2）

土をかけた後に施文している。204・217・218は現代の遺物かと考えられる。230・231は陶器としたが，磁器の可能性もある。219～223はチャート製の剝片である。いずれも稜上に潰れがあり，石核あるいは使用目的のある剝片とは考えがたい。岩黒島初田遺跡[1]や長砂古遺跡[2]出土のものと類似する性格と考える。247・248もチャート製の剝片である。247は細石刃剝離状の剝離痕がある。248は，石鏃未製品状をなす剝片である。227は土錘である。

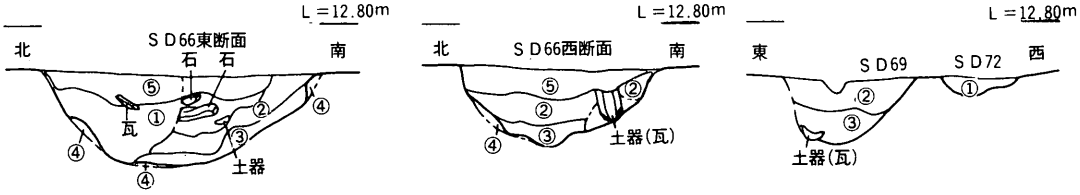
ＳＤ66，ＳＤ69（第55～59図，図版28・29）

Ⅳ区①に位置する。Ｌ字形に屈曲する溝跡である。調査時には石列が検出されていた。ＳＤ66の石列は北側が面を意識して配置されていることから，石列を溝跡南側の護岸と考えることができる（図版28。右が北である）。瓦はこの溝跡に廃棄されたものと考えられる。またＳＤ66断面図からは，石列を伴う以前の溝跡の存在が考えられる。ＳＤ69にも一部石列が残存しており，石列東側が面をなしていることから，この石列を西の護岸とする溝跡を考えることができる。しかしＳＤ66と違い，断面図からは溝跡の重複は観察できない。以上のことと，ＳＤ69のすぐ西側にＳＤ72が存在し，この溝は石列を伴っていないことから，ＳＤ66の新しい溝とＳＤ69，ＳＤ66の古い溝とＳＤ72がそれぞれ同一時期と考えることができる。249は弥生土器の壺とするが確実ではない。251は三足の鉢である。252の把手は２つであると考える。259は鉄絵皿である。261は内面に鉄分の付着がみられるが，同様な例は一の谷遺跡群近世遺構[3]出土のものに見られる。267～269の軒丸瓦は，いずれも瓦当面の２つの珠文が周縁と陸橋状につながるかのようになっている。これは笵傷によるものと考えられ，この３つの軒丸瓦が同笵瓦であることを示している。281～283は側面に成形時の線条痕が残っている。282の裏面には部分的に磨滅が見られる（スクリーントーン部分）。283は裏面に成形時の楔跡が残っている。284は須恵器のような発色の灯明皿である。

註(1) 香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報（Ⅵ）初田遺跡・ヤケヤマ遺跡・大浦浜遺跡・長崎通り遺跡・長崎古墳』1983

(2) 香川県教育委員会・日本道路公団『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第五冊 石田遺跡・長砂古遺跡・柞田八丁遺跡』1988

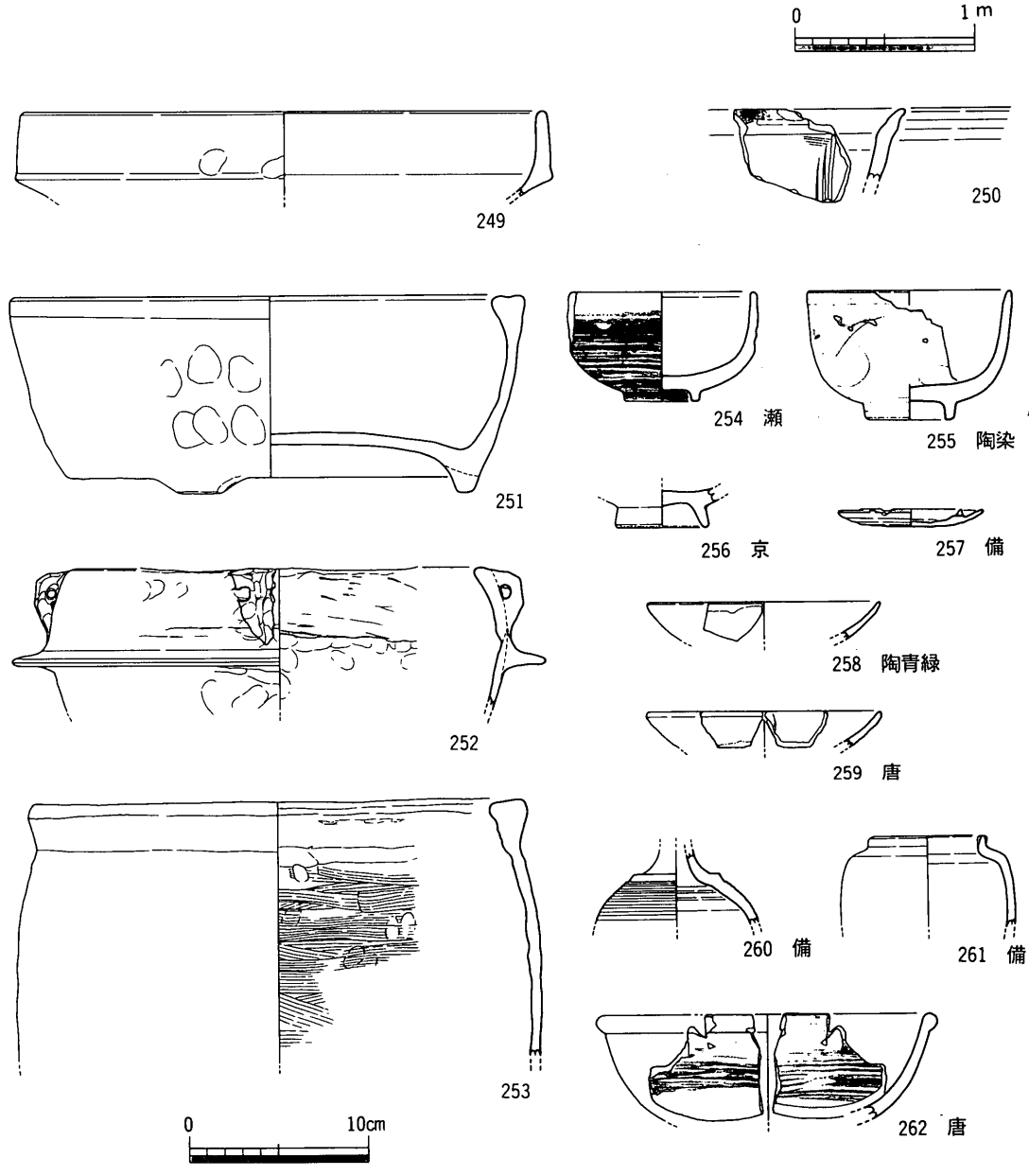
(3) 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第七冊　一の谷遺跡群』1990



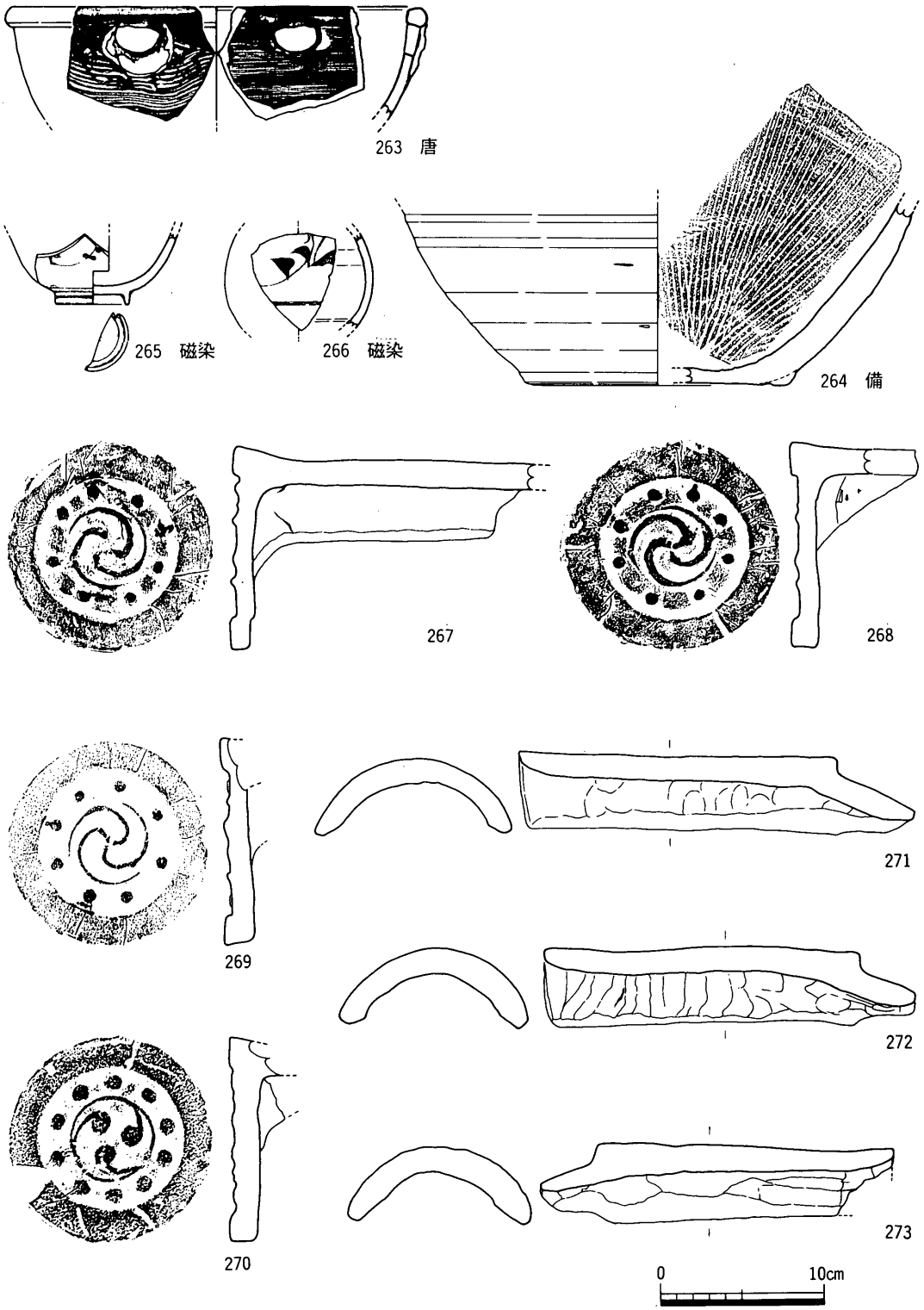
① 灰色砂質土層(地山ブロック含む)
② 灰褐色砂質土層(Fe分，地山含む)
③ 灰色粘土層
④ 黄褐色粘土層(地山)
⑤ 淡灰褐色砂質土層

② 灰褐色砂質土層(地山含む)
③ 灰色粘質土層
④ 黄褐色粘質土層(地山)
⑤ 淡灰褐色粘質土層(地山，Mn含む)

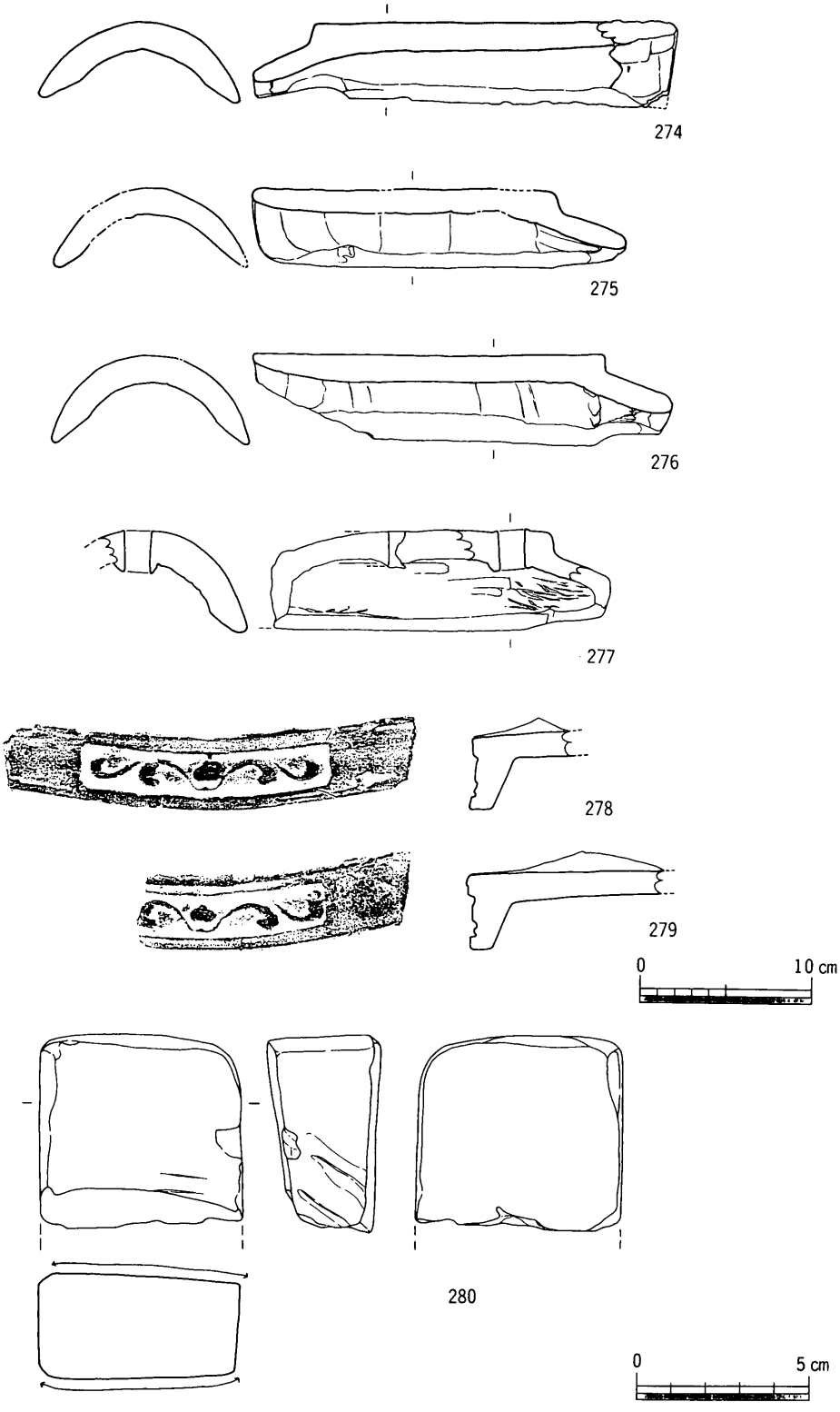
① 灰色砂質土層
② 灰褐色砂質土層(Fe分多い)
③ 灰色粘土層



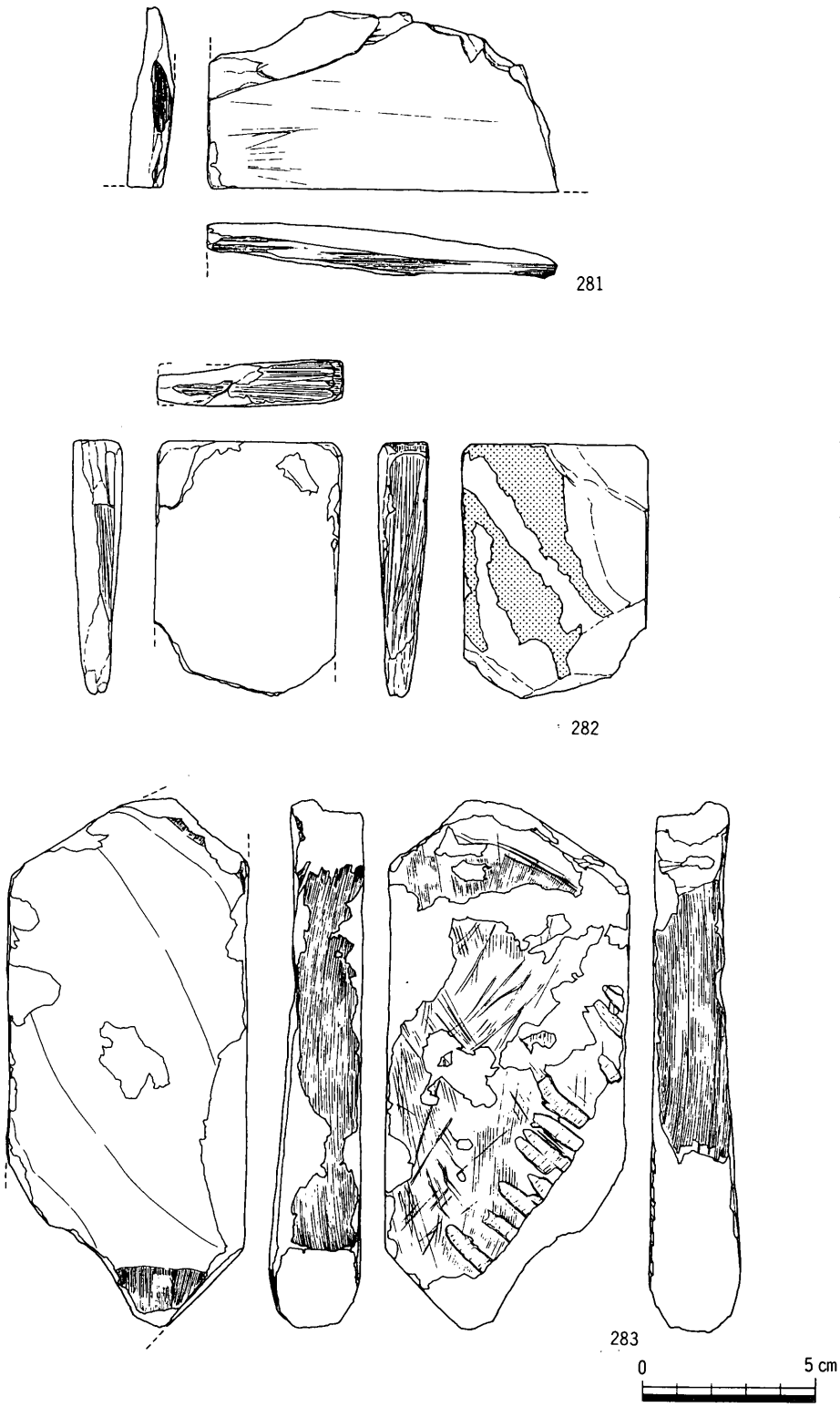
第55図　ＳＤ66・69断面図（1/40）及びＳＤ66出土土器（1/4）



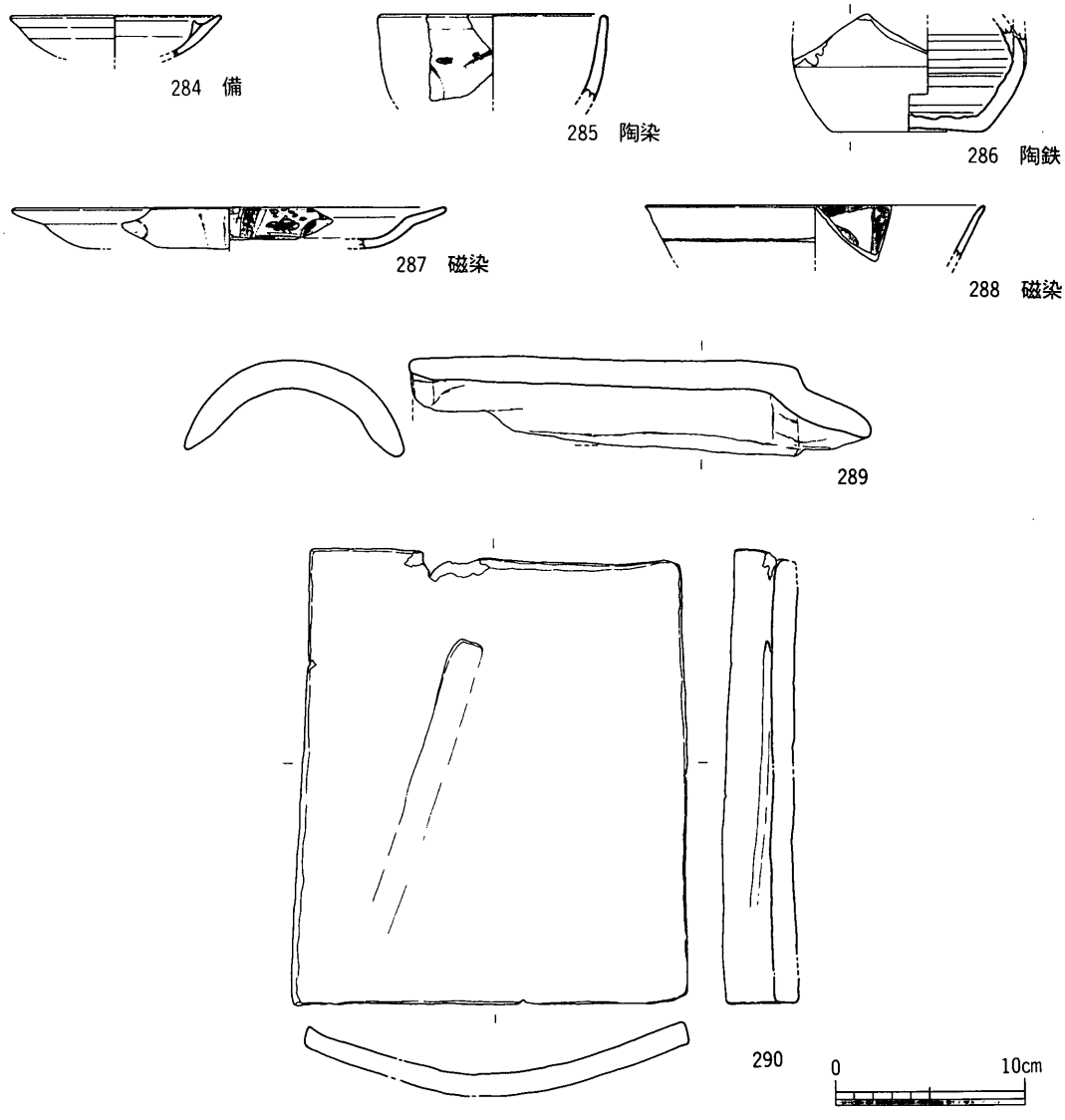
第56図　ＳＤ66出土土器及び瓦（１/４）



第57図　ＳＤ66出土瓦（１/４）及び石器（１/２）



第58図　ＳＤ66出土石器（1/2）

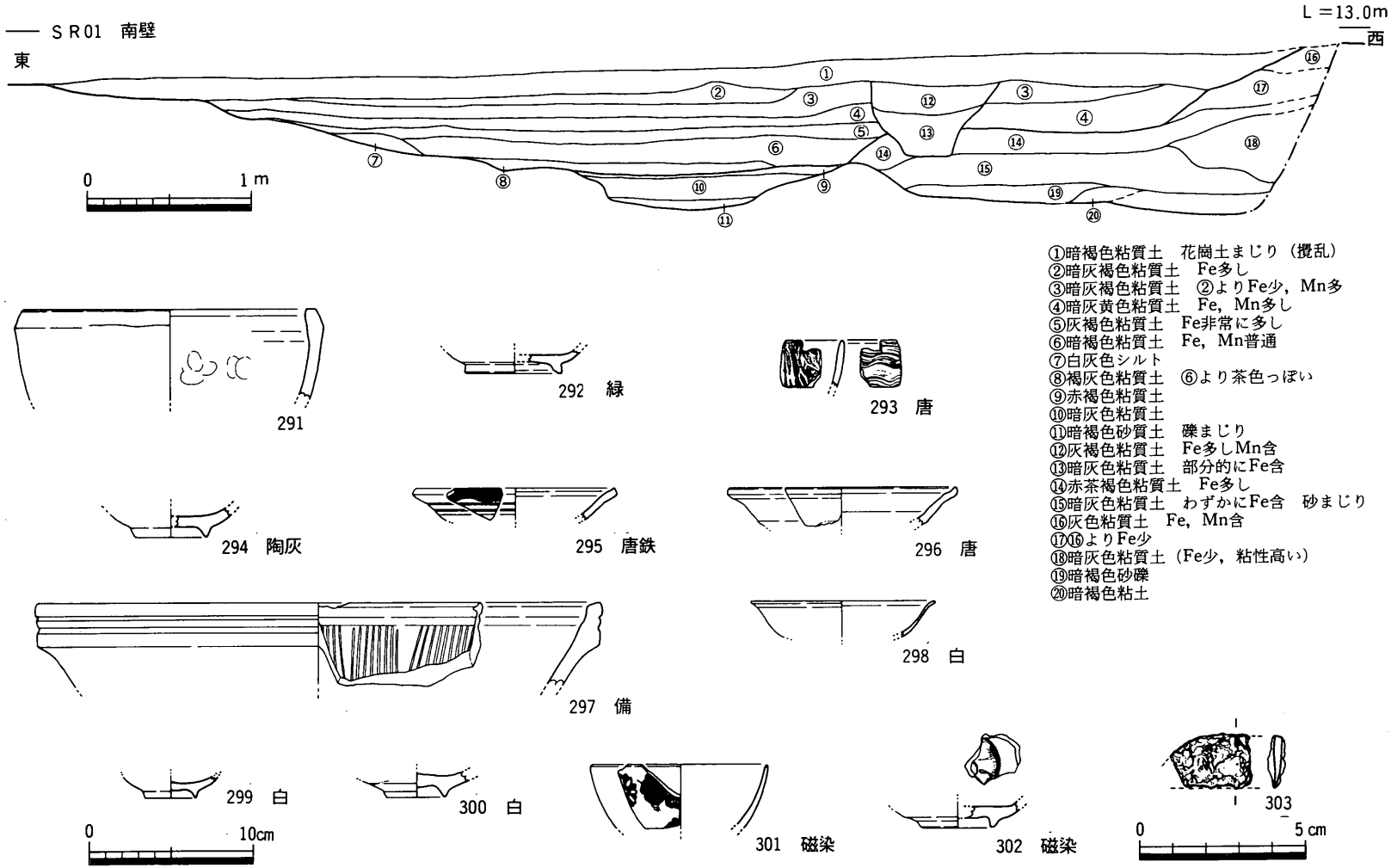


第59図　ＳＤ69出土土器及び瓦（1/4）

河跡

ＳＲ01（第60図，図版29）

Ⅳ区①に位置する。河跡というよりは大溝という方が適切かとも考えるが，調査時の呼称のまま報告する。土層断面図からは,2つの大溝が重複しているものと判断できる。埋土からは緑釉陶器（292）等の中世以前の遺物から近世陶磁器までが出土しているが，調査時には２つの溝跡として，遺物の取り上げを行っていないので，溝の詳細な時期は不明で



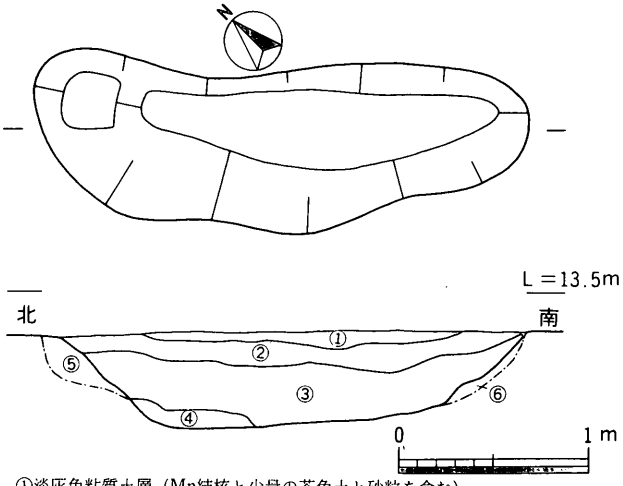
第60図　ＳＲ01断面図（1/40）及び出土土器（1/4）・鉄器（1/2）

ある。方向は条里型地割の方向に一致し，位置は坪界にほぼ一致する。開析された条里溝[1]とされるものであろう。条里型地割との関係については後に報告する。292は11世紀前半頃の近江系の緑釉陶器である。298は白磁E類[2]である。301はコンニャク判の模様がある。

7　時期不明遺構

ＳＫ07（第61図，図版30）

Ｂ６区画に位置する。遺物は出土していない。時期も不明である。



①淡灰色粘質土層（Mn結核と少量の茶色土と砂粒を含む）
②黄茶灰色粘質土層（細砂をかなり含み，さくさくしている）
③灰色粘質土層（砂粒をかなり含む，黄茶色土が少量混入している）
④淡灰色粘質土層（細砂をかなり含み，さくさくしている。地山土をブロック状でかなり含んでいる）
⑤灰黄色粘質土層（粘性高い，地山）
⑥灰黄色粘質土層（地山）

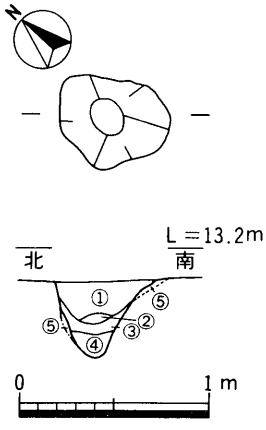
第61図　ＳＫ07平・断面図（１/40）

ＳＫ08（第62図）

Ｃ６区画に位置する。遺物は出土していない。

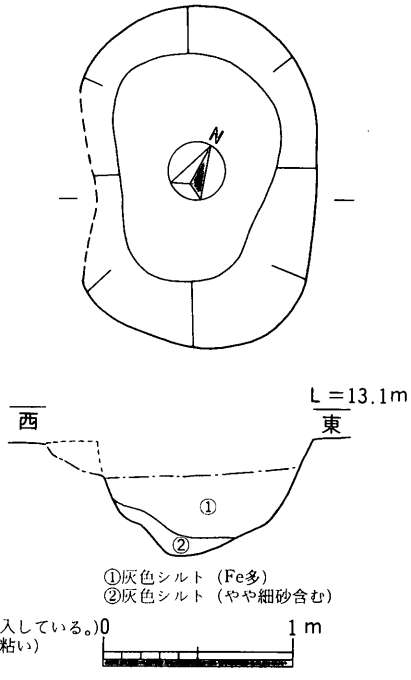
ＳＫ09（第63図，図版30）

Ｅ６区画に位置する。遺物は出土していない。時期も不明である。



①暗茶灰色粘質土層（Mn結核を含む）
②暗茶灰色粘質土層（少量の乳灰色土が混入している。少量の砂粒も含む）
③暗灰色粘質土層（少量の乳灰色土が混入している。）
④黒灰色粘質土層（少量の砂粒を含むが粘い）
⑤乳灰黄色粘質土層（粘性高い，地山）

第62図　ＳＫ08
平・断面図（１/40）



①灰色シルト（Fe多）
②灰色シルト（やや細砂含む）

第63図　ＳＫ09
平・断面図（１/40）

註（１）木下晴一「条里型地割施工以後の微地形変化」『香川県地理学会会報』№11，1991の「旧河道Ⅱ」にあたるとされる。

（２）森田勉「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究№２』1982による。

ＳＫ10（第64図）

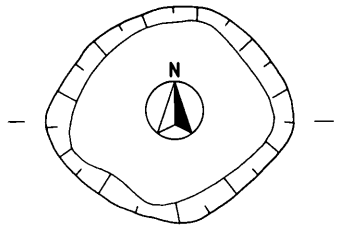
Ｆ９区画に位置する。土師器の小片が１片出土しているのみである。土層断面図は土層観察用畦畔が調査途中で崩壊したため作成できていないが，埋土は上層が基盤層の白黄色粘土が混じる淡灰色シルトで，下層が濁暗黄灰色を呈する中砂～礫（２～３cm）層である。ＳＤ08より新しいことから古墳時代よりは新しいが，それ以上の詳細な時期は不明である。

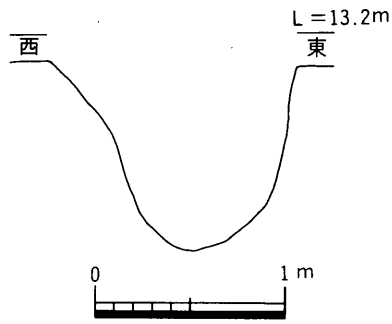
ＳＫ11（第65図）

Ｅ10区画に位置する。非常に浅い土坑である。弥生土器及び須恵器提瓶（304）が出土している。

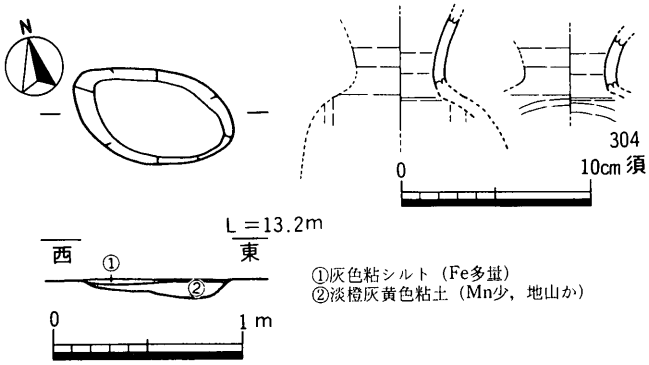
ＳＫ20（第66図，図版31）

Ｈ14区画に位置する。埋土は基盤層の白黄色粘土ブロックがほとんどを占める。遺物は土師器小片が出土しているのみである。

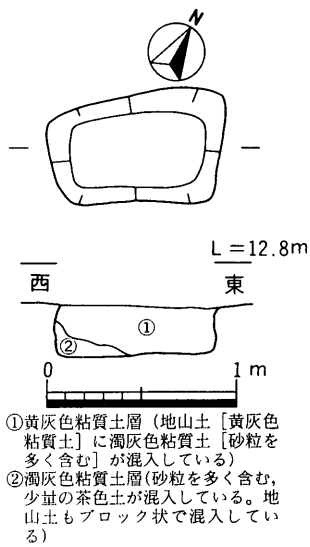




第64図　ＳＫ10
平・断面図（１/40）



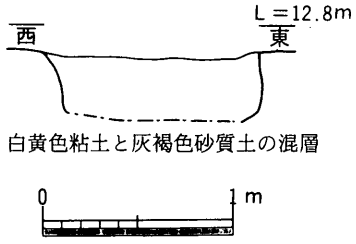
第65図　ＳＫ11平・断面図（１/40）及び出土土器（１/４）



第66図　ＳＫ20
平・断面図（１/40）

ＳＫ23（第67図）

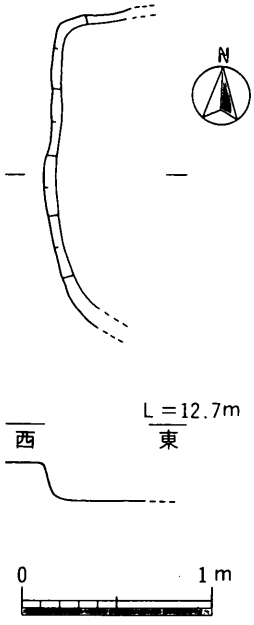
Ｇ15・Ｈ15区画に位置する。調査区壁面土層断面でのみ確認した土坑であるので，平面形は不明である。埋土は，基盤層の白黄色粘質土混じりの灰褐色砂質土である。遺物の出土は確認できなかった。



第67図　ＳＫ23断面図（1/40）

ＳＫ29（第68図）

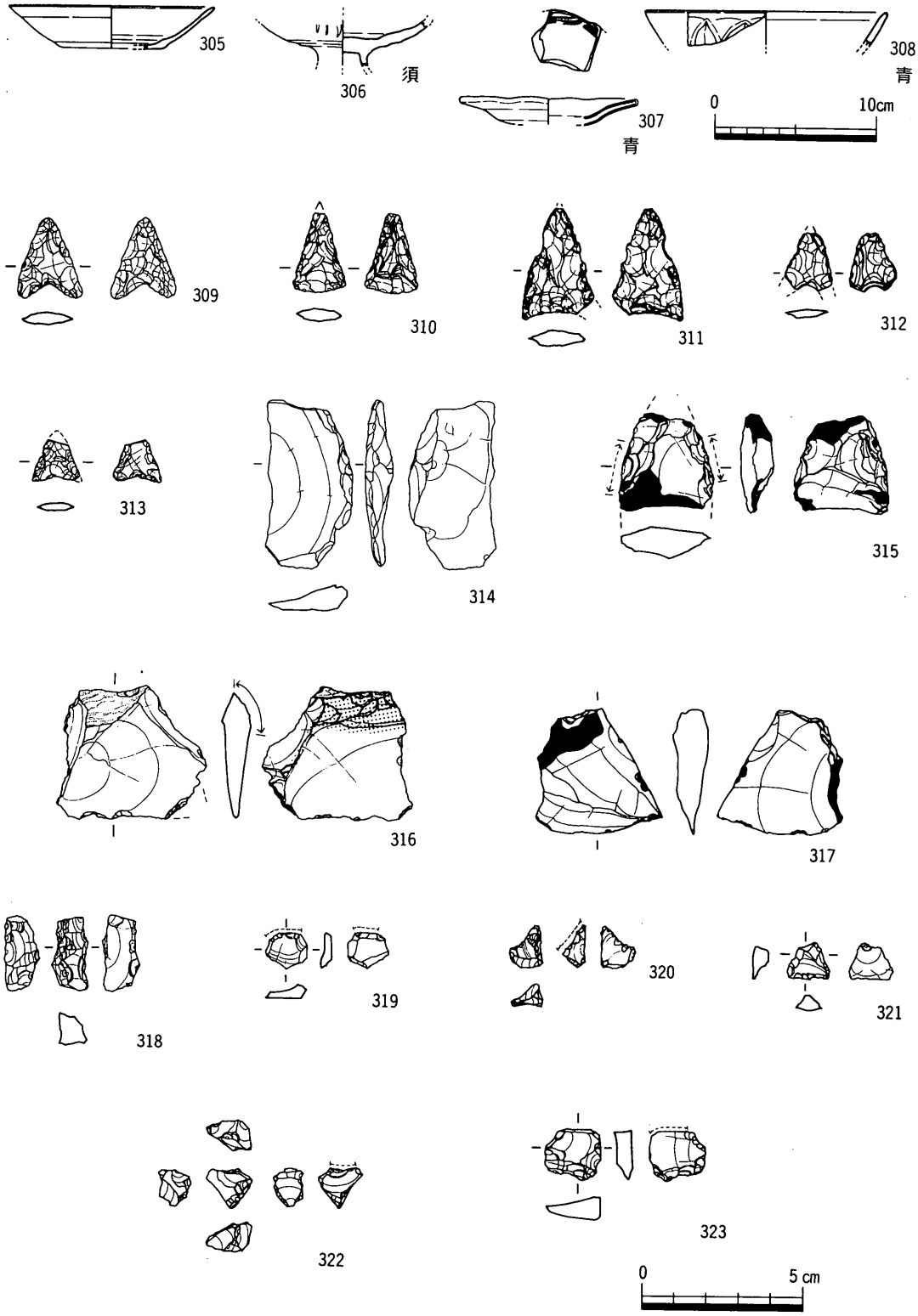
Ｈ15区画に位置する。ＳＫ27及びＳＫ28より古い。土師器の小片が出土しているのみである。埋土は不明である。



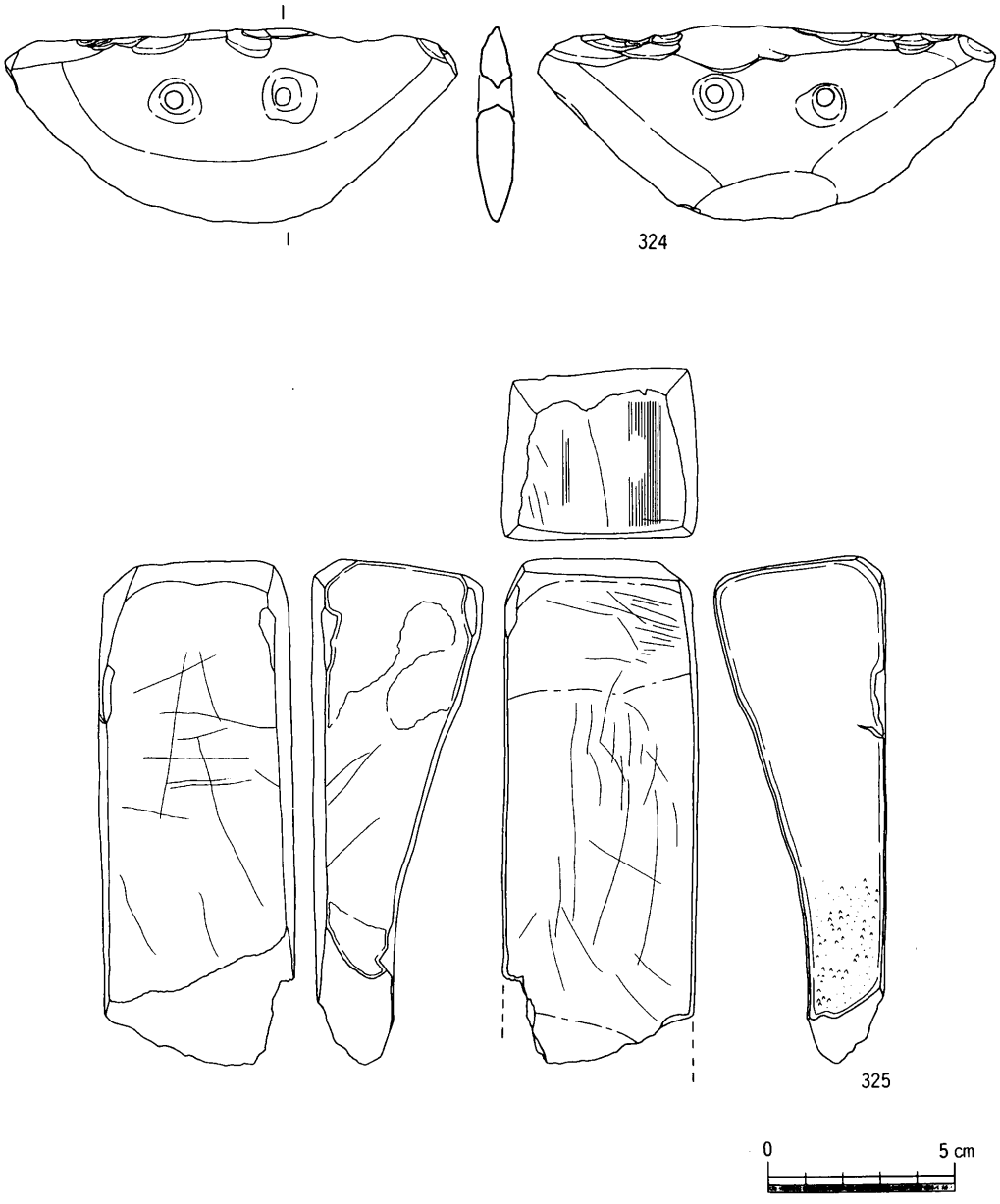
第68図　ＳＫ29平・断面図（1/40）

8　包含層出土の遺物（第69・70図）

306は外面に線刻がある。307は中国産青磁皿である。15世紀頃のものであろう。314は風化の進んだ横長剝片である。打面から背面へかけての調整は主要剝離面との新旧関係が不明であるため確実ではないが，2次加工の可能性がある。315は両側面に敲打痕があることから石斧とする。318から323はチャート製の剝片である。性格はＳＤ01・ＳＤ02出土のものと同様不明である。324は耕作土を機械掘削していたときに出土したものである。外湾刃半月形の磨製石庖丁である。弥生時代前期の遺物である。紐孔は両側から穿孔されている。



第69図　包含層出土土器（1/4）及び石器（1/2）



第70図　包含層出土石器（1/2）

第4節　川西北・鍛冶屋遺跡の調査のまとめ

1　遺構の変遷（第71～73図）

弥生時代以前は遺構は検出されていない。部分的に，弥生時代以降の遺構が検出される層中から，風化の進んだサヌカイト剝片が出土している。一部には旧石器時代の遺物と考えられる剝片が存在する。剝片には接合関係を示す資料があることから，2次的な堆積による資料ではないと考えられる。近年，丸亀平野の一部には洪積台地が部分的に残存しているのではという考え方が有力になっているが，それを支持する資料と考えられる。

弥生時代は溝跡のみが検出されている。底部のみが残存した細い溝跡である。溝跡からは遺物が少量しか出土していないことから，詳細な時期は不明である。ただ，遺物は当地域においては弥生時代前期から中期にかけて存在する大陸系磨製石器が出土していること及び弥生時代中期頃の土器が出土していることから，弥生時代前期から中期頃の溝跡であると考えられる。

古墳時代終末頃の遺構は，湧水池状の遺構と溝跡がある。一部の溝跡は弥生時代の溝跡を再掘削して造られている。溝跡は南北の方向をとるものが多い。

平安時代の遺構は，溝跡3条である。当遺跡の全時期を通じて全く方向の異なる溝跡が掘削されている。この東西方向の溝跡は前時代の溝跡に直角の方向をとることから，おそらく等高線に沿うような溝跡であると考えられる。前時代の溝跡は調査区内部にも湧水池状の遺構が見られることから，周辺の出水を水源とするものであろう。当時期には，調査内の出水は廃絶しており，水源の変更が考えられる。

鎌倉時代の遺構は掘立柱建物跡2棟と溝跡2条のみである。条里型地割方向の溝跡からは古代の須恵器が出土していることから，掘削時期は前時期に遡るものと考えることができる。

江戸時代以降では，遺跡東部分に掘立柱建物跡群とL字形の溝跡があるが，この両者の関係は不明である。また条里坪界に一致する河跡の最終埋没時期は当時期であるが，緑釉陶器が出土していることから掘削時期は古代にまで遡る可能性がある。

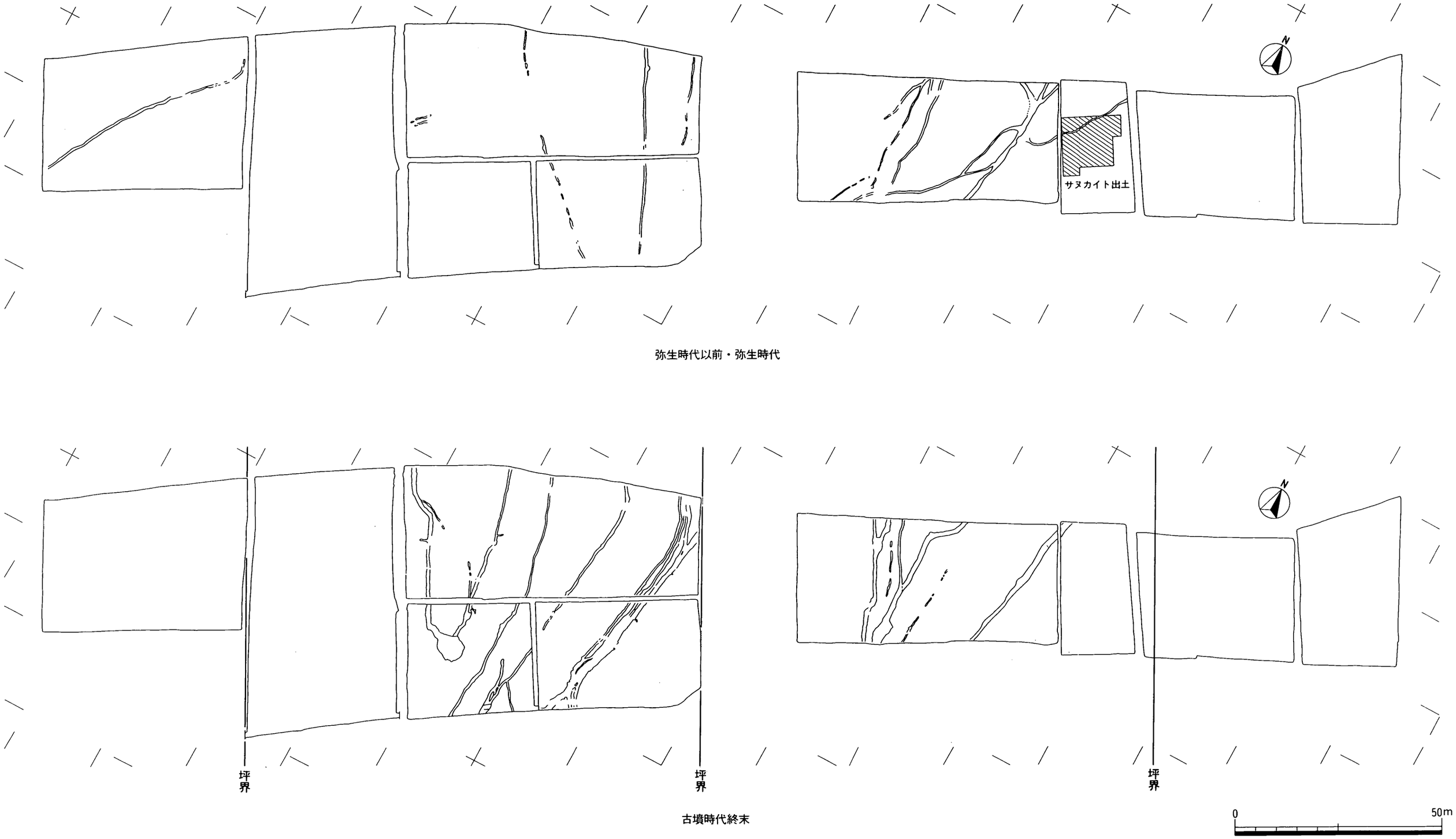
2　川西北・鍛冶屋遺跡周辺の条里型地割ついて

金田章裕氏の図[1]をもとに，都市計画図（1／2,500）上に109m の格子を加筆した[2]のが第74図である。この地割線を当遺跡内の遺構配置図に加筆したのが第72・73図である。当遺跡の概報[3]に既に述べられているように，条里の坪界にほぼ一致するのがＳＤ11とＳＲ01であり，またＳＤ70は条里坪界間の中間に位置する。ＳＤ11は10世紀頃の埋没が考えられる。ＳＲ01は最終埋没は近世以降と考えられる。いずれも現有水路に一致していた。

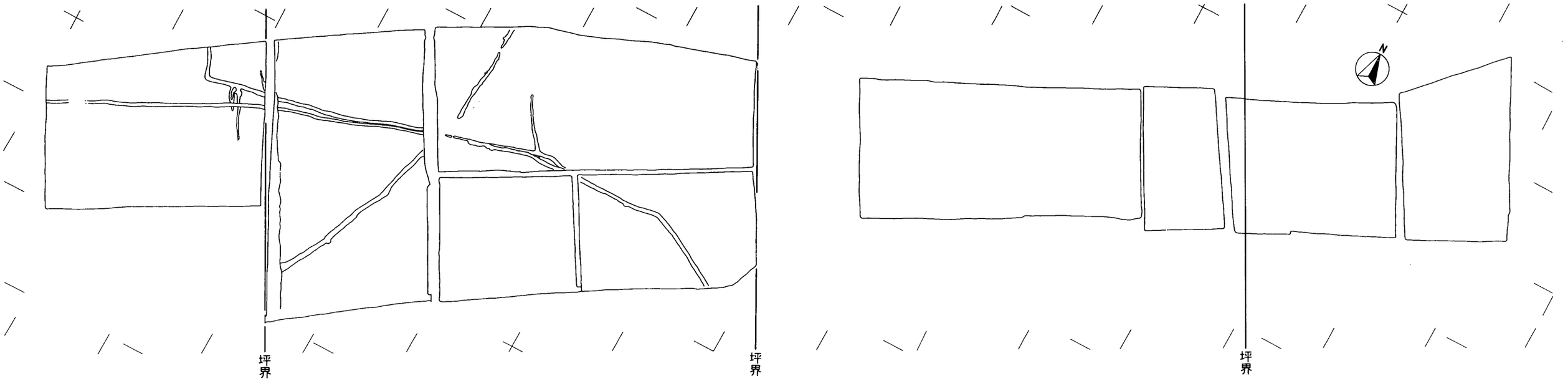
註（1）金田章裕「第六章　条里と村落生活」『香川県史１　通史編　原始・古代』香川県1988

（2）方法については，香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第十二冊　郡家一里屋遺跡』1993の154頁の方法を参考にした。

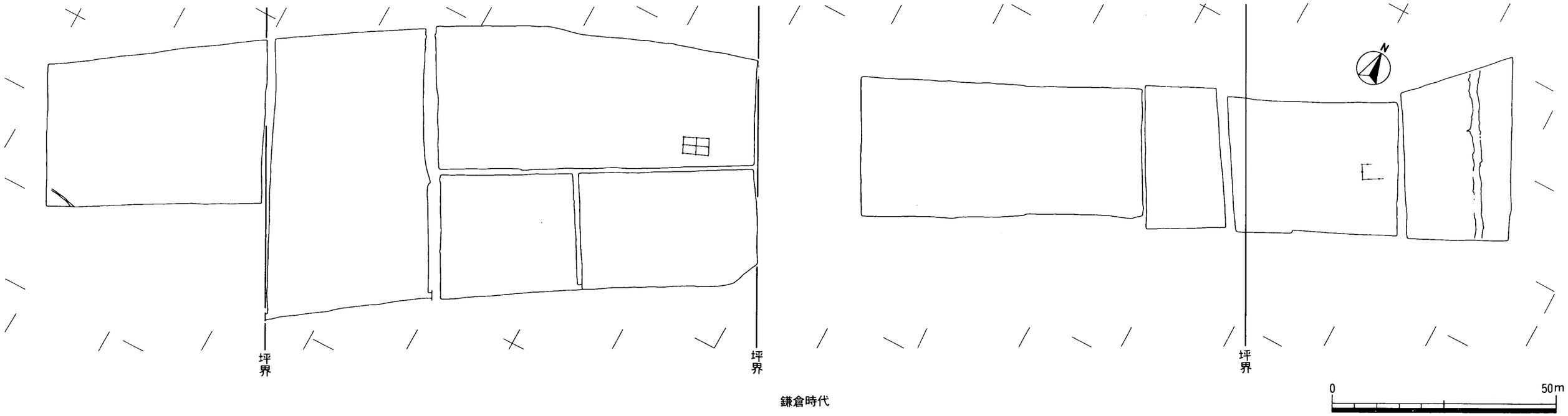
（3）香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団高松建設局「II　7.川西北・鍛冶屋遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成元年度』1990



第71図　弥生時代以前，弥生時代及び古墳時代終末の遺構配置図（１／1,000）

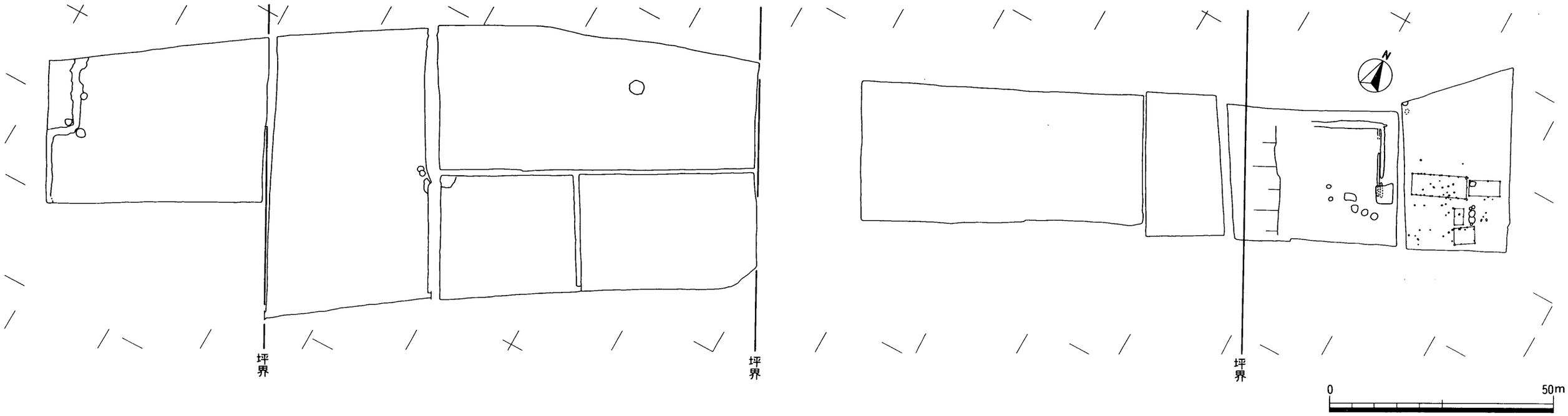


平安時代

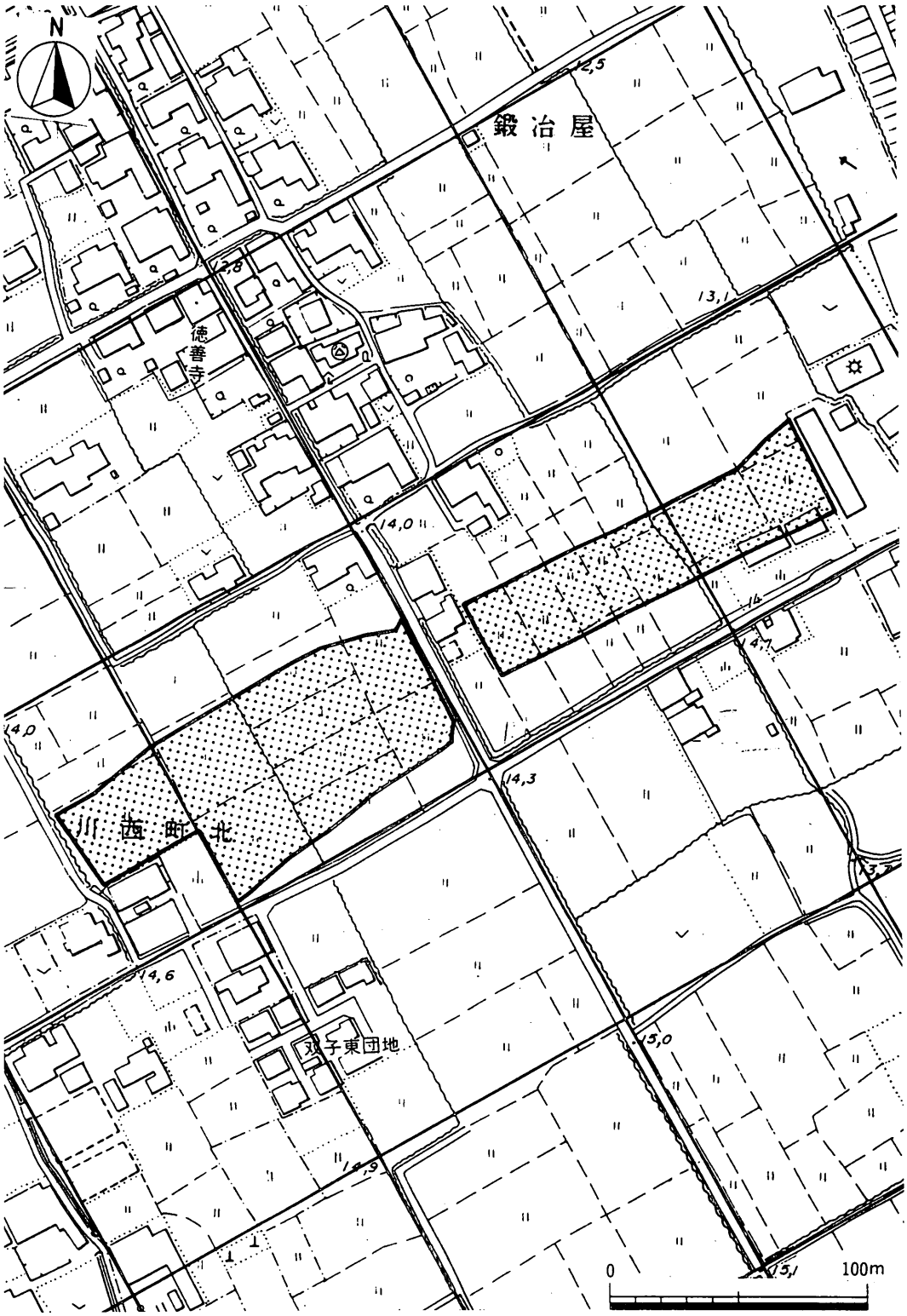


鎌倉時代

第72図　平安時代及び鎌倉時代の遺構配置図（1／1,000）



第73図　江戸時代以降の遺構配置図（1／1,000）



第74図　条里型地割図（1／2,500）

観察表及び一覧表

土器観察表

・色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所　色票監修『新版標準土色帖1992版』を使用して表す。瓦の観察表についても同様である。

・残存率は遺物の図化部分に占める実物の割合であり，完形品に対する割合ではない。

遺構出土遺物一覧表

・遺物名称は以下のような略号で表す。

弥　弥生土器，土　土師器，須　須恵器，黒　黒色土器（ＡはＡ類，ＢはＢ類），瓦質　瓦質土器，西　西村産瓦質土器，東播　東播系須恵器，亀　亀山焼，備前　備前焼，唐津　唐津焼，青　青磁，白　白磁，染　染付，色　色絵，陶　陶器，磁　磁器

・白磁及び青磁の分類は横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入陶磁器について　－型式分類と編年を中心に－」『九州歴史資料館論集４』九州歴史資料館1978によった。

・石器は特に表記の無いものは，原則としてサヌカイト製である。

・数値は破片の概数を示す。ただし明らかに同一個体である破片は１片とする。袋は20cm×30cmの大きさの袋に入る量を，箱は28リットル入りのコンテナの箱数を表す。

・同一種類の遺物の器種の違いは「・」で区分し，遺物種類の違いは「，」で区分する。

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (1)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
19	9		SD50, SD56, SD55	弥生土器	甕	14.6	−	−	長石・石英粗砂少量、角閃石中粒砂含、金雲母粗砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，ハケ目	4/8	Ⅲ区①SD01, SD12あ西部分流、白褐色強シルト、SD04最南部1層、SD04あ、SD12南Ⅱ層	
21	9		SD61	弥生土器	甕	−	−	4.5	長石石英粗砂含	2.5Y7/1灰白色	指押さえ	マメツ	1/8	Ⅲ区②SD05	
22	9		SD61	弥生土器	甕	−	−	8.0	長石石英粗砂多量	2.5Y8/1灰白色	マメツ	マメツ	2/8	Ⅲ区②SD05	
28	11		B6・C5・C6SX01	土師器	小皿	−	−	6.2	粗砂少量	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	Ⅱ区①SX01④	
29	11		B6・C5・C6SX01	土師器	坏	12.0	−	−	中粒砂少量	5YR8/3淡橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅱ区①SX01④	
30	11		B6・C5・C6SX01	土師器	甕	42.0	−	−	粗砂多量	10YR7/3にぶい黄橙色	指頭痕	ハケ目	1/8	Ⅱ区①SX01④	
31	11		B6・C5・C6SX01	黒色土器A類	碗	−	−	7.6	粗砂含む	5YR7/4にぶい橙色	マメツ	マメツ	1/8	Ⅱ区①SX01トレンチ	
32	11		B6・C5・C6SX01	須恵器	坏蓋	9.6	2.9	−	中粒砂含む	N6/0灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅱ区①SX01	
33	11	32	B6・C5・C6SX01	須恵器	坏蓋	16.2	4.1	−	粗砂多量	5Y8/1灰白色	マメツ	マメツ	6/8	Ⅱ区①SX01	
34	11		B6・C5・C6SX01	須恵器	坏蓋	14.6	−	−	中粒砂少量	N7/0灰白色	回転ナデ	自然釉付着	1/8	Ⅱ区①SX01	
35	11	32	B6・C5・C6SX01	須恵器	坏	10.4	−	5.8	細砂含む	N8/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	Ⅱ区①SX01	
36	11	32	B6・C5・C6SX01	須恵器	坏	12.0	3.6	4.8	粗砂含む	N4/0灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：回転ヘラ削り	2/8	Ⅱ区①SX01	
37	11		B6・C5・C6SX01	須恵器	平瓶	−	−	7.2	中粒砂含む	N8/0灰白色	回転ナデ，底部：自然釉付着	上部：自然釉付着・回転ナデ，下部：回転ヘラ削り	5/8	Ⅱ区①SX01	
38	11	32	B6・C5・C6SX01	須恵器	壺	11.5	−	−	細砂含む	N4/0灰色～N8/0灰白色	回転ナデ，自然釉付着	回転ナデ	2/8	Ⅱ区①SX01	
39	11		B6・C5・C6SX01, SD13	須恵器	提瓶	5.6	−	−	粗砂多量	5PB7/1明青灰色～N7/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ，カキ目	2/8	Ⅱ区①SX01, Ⅱ③SD23	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (2)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
40	12	32	B6・C5・C6 SX01, SD13, SD22	須恵器	横瓶	11.5	−	−	砂粒含まず	5PB6/1青灰色	同心円タタキ	平行タタキ後カキ目，ヨコナデ	3/8	II区①SX01, II区①SD14, II区①SD15	
41	12	33	B6・C5・C6 SX01	須恵器	甕	15.1	−	−	中粒砂含む	10Y4/1灰色〜5PB7/1明青灰色	同心円タタキ，回転ナデ	格子タタキ目，カキ目，回転ナデ	2/8	II区①SX01④	
44	15		SD40	須恵器	高台付坏	−	−	8.8	粗砂少量	5PB5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	II区②SD05	
46	18		SD47, SD56	土師器	高坏脚部	−	−	−	中粒砂含む	10YR7/2にぶい黄橙色	板ナデ後ナデ，上部しぼり目	板ナデ後ナデ	7/8	III区①SD08, SD12㋐？	
47	20	32	SD55	須恵器	坏	11.3	4.3	7.0	粗砂少量	N6/0灰色	回転ナデ	回転ナデ	8/8	III区①SD04畦②より北へ2mくらい2層	
48	20		SD55	須恵器	壺	10.2	−	−	粗砂含む	5PB7/1明青灰色	回転ナデ，ナデ，同心円タタキ目	回転ナデ，平行タタキ目	2/8	III区①SD04(12)い畦⑤層	
49	20	33	SD55	須恵器	甕	−	−	−	中粒砂含む	10YR2/1黒色	同心円タタキ	平行タタキ後カキ目	8/8	III区①SD04(12)い畦④層	
52	20	33	SD56	須恵器	坏	9.5	4.0	5.9	粗砂少量	N6/0灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	5/8	III区①SD12合流点近く	
53	20	33	SD56	須恵器	高坏	−	−	−	粗砂含む	N4/0灰色	回転ナデ	回転ナデ	3/8	III区①SD12	
54	20	33	SD56	須恵器	甕	−	−	−	粗砂含む	N5/0灰色〜N7/0灰白色	回転ナデ	上部：回転ナデ，下部：回転ヘラ削り	7/8	III区①SD12淡乳橙灰色粘土シルト混じり直上	
55	20	34	SD56	須恵器	甕	14.0	−	−	粗砂多量	N8/0灰白色	同心円タタキ	平行タタキ後カキ目	6/8	III区①SD12	
56	22		SD62	弥生土器	壺	−	−	−	粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	マメツ	マメツ	1/8	III区②市道部分SD04	
57	22	34	SD62	弥生土器	甕	−	−	4.8	長石石英粗砂多量	2.5Y7/3浅黄色	ナデ	板ナデ	7/8	III区②SD04東肩か？	
58	22		SD62	須恵器	横瓶	−	−	−	粗砂多量	5PB4/1暗青灰色〜5PB7/1明青灰色	同心円タタキ目	平行タタキ目後カキ目	2/8	III区②SD04	
64	23		SD03、SD06	須恵器	壺	12.5	−	−	砂粒含まず	5PB3/1暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	II区②SD01④	
66	24		SD11	土師器	小皿	6.8	0.9	5.0	中粒砂含む	5Y8/2灰白色	不明	不明，底部：ヘラ切り	1/8	I区②SD01	
67	24	34	SD11	土師器	坏	10.5	3.0	6.8	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色	摩滅	摩滅	6/8	I区②SD01	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (3)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
68	24	34	SD11	土師器	坏	11.6	3.5	6.5	粗砂多量	2.5Y7/3浅黄色	回転ナデ	回転ナデ	3/8	I区②SD01	
69	24	34	SD11	土師器	坏	11.6	3.3	6.8	粗砂含む	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	I区②SD01	
70	24	34	SD11	土師器	坏	12.0	2.8	6.4	細砂含む	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	I区②SD01	
71	24		SD11	土師器	坏	12.9	2.8	7.4	粗砂含む	5YR7/4にぶい橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	1/8	I区②SD01	
72	24	34	SD11	土師器	坏	12.6	3.1	5.8	粗砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	I区②SD01	
73	24		SD11	土師器	坏	—	—	6.2	粗砂含む	2.5YR6/6橙色	不明	不明	3/8	I区②SD01	
74	24		SD11	土師器	坏	—	—	7.1	中粒砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	I区②SD01	
75	24	34	SD11	土師器	坏	—	—	6.7	粗砂含む	10YR8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	7/8	I区②SD01	
76	24		SD11	土師器	坏	—	—	7.0	細砂少量	5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	I区②SD01	
77	24		SD11	土師器	坏	—	—	6.1	細砂含む	5YR8/4淡橙色～2.5Y8/2灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	I区②南SD01	
78	24		SD11	土師器	土釜	26.0	—	—	粗砂多量	2.5Y7/2灰黄色～10YR3/1黒褐色	ハケ目	回転ナデ，指頭痕後横ナデ	1/8	I区②SD01	
79	24		SD11	土師器	甕	24.0	(25.6)	12.0	中粒砂多量	2.5Y8/1灰白色	ナデ，指頭痕	ナデ	2/8	I区②SD01	
80	24	36	SD11	土師器	土錘	—	—	—	細砂含む	10YR3/1黒褐色	不明	ナデ	1/8	I区②SD01	
81	24		SD11	黒色土器A類	碗	—	—	9.2	粗砂少量	2.5YR6/6橙色	不明	不明，貼り付け高台	3/8	I区②SD01	
82	24	35	SD11	須恵器	高台付坏	12.8	4.7	8.5	礫少量	5PB6/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	3/8	I区②SD01	
83	24	35	SD11	須恵器	甕	17.0	—	—	粗砂含む	N7/0灰白色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	I区②南SD01	
84	24		SD11	須恵器	風字硯	—	—	—	粗砂含む	N6/0灰色	—	ハケ目後ヘラ削り	1/8	I区②SD01	
89	25		SD11、SD12	須恵器	皿	—	—	12.7	中粒砂含む	5PB4/1暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	I区②SD01、SD02	
90	25		SD11、SD12	須恵器	高台付坏	—	—	8.7	粗砂少量	N5/0灰白色	回転ナデ，ナデ	回転ナデ	7/8	I区②SD01、SD02	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (4)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
93	28		H14SB02	土師器	土釜	23.6	−	−	粗砂多量	10YR8/3浅黄橙色〜10YR3/2黒褐色	指頭痕後横ナデ,ハケ目	指頭痕後横ナデ,ハケ目後指押さえ,煤付着	1/8	Ⅳ区①SB01土釜ピット	
94	29	35	SD70	土師器	坏	9.9	2.5	6.3	中粒砂多量	10YR5/1褐灰色〜7.5YR8/4浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ,ヘラ切り	7/8	Ⅳ区②SD01トレンチ	
95	29	35	SD70	土師器	土釜	24.6	−	−	粗砂多量	10YR3/2黒褐色	横ナデ,ハケ目,ハケ目後ナデ	横ナデ,ハケ目後横ナデ,指押さえ後ハケ目,タタキ目	2/8	Ⅳ区②SD01トレンチ	
96	29	35	SD70	須恵器	蓋	10.8	2.9	−	粗砂少量	5Y8/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ,回転ヘラ削り,自然釉	2/8	Ⅳ区②SD01上層、下層	
97	29	35	SD70	須恵器	壺	−	−	8.0	粗砂含む	2.5Y7/1灰白色〜7.5Y7/1灰白色	回転ナデ	回転ナデ,ヘラ切り後ナデ	2/8	Ⅳ区②遺構掘削SD01上層	
101	32		A1SK01	須恵器	坏蓋	17.3	−	−	細砂含む	5PB4/1暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅰ区①SK01	
102	32	47	A1SK01	磁器白磁	小碗	−	−	2.6	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉,畳付無釉	4/8	Ⅰ区①SK01	
103	33	47	A1SK02	陶器灰釉	蓋	2.1	−	−	砂粒含まず	釉:5Y7/3浅黄色,胎土:5Y8/1灰白色	無釉	施釉,下部無釉	6/8	Ⅰ区①SK02	
104	33	47	A1SK02	陶器備前焼	擂鉢	−	−	−	粗砂多量	10YR3/2黒褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅰ区①SK02	
105	33	47	A1SK02	磁器染付	碗	11.9	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	Ⅰ区①SK02	
106	34		B1SK03	土師器	大甕	66.0	(88.2)	40.0	粗砂多量	5YR7/6橙色	横ナデ	横ナデ,ナデ状ケズリ,頸部:縄状痕あり	8/8	Ⅰ区SK03	
107	34	47	B1SK03	陶器褐釉	壺	−	−	4.5	粗砂少量	釉:7.5YR3/2黒褐色,胎土:2.5YR8/2灰白色	無釉	施釉,底:糸切り・無釉	4/8	Ⅰ区①SK03	
108	34		B1SK03	陶器褐釉	壺	12.3	−	−	中砂粒含む	釉:10YR2/2黒褐色,胎土:N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅰ区①SK03	
109	34	47	B1SK03	陶器唐津焼灰釉	鉢	−	−	−	砂粒含まず	釉:7.5Y4/2灰オリーブ色,胎土:10R6/6赤橙色	施釉	施釉	1/8	Ⅰ区①SK03	
110	34	47	B1SK03	磁器白磁	小碗	7.3	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	Ⅰ区①SK03	
111	34	47	B1SK03	磁器染付	小坏	5.0	1.6	2.6	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉,畳付無釉	8/8	Ⅰ区①SK03	
112	34	47	B1SK03	磁器染付	碗	−	−	−	砂粒含まず	釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	Ⅰ区①SK03第1層	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (5)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
113	34	47	B1SK03	磁器染付	蓋	−	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉,口縁部無釉	施釉	1/8	I区①SK03	
114	34	47	B1SK03	磁器染付	皿	−	−	8.4	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉,高台部〜外底部無釉	1/8	I区①SK03	
115	34	47	B1SK03	磁器染付	皿	−	−	8.0	砂粒含まず	釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉,畳付無釉	2/8	I区①SK03	
116	38	47	G14SK13	磁器染付	碗	7.6	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK05	
117	41		G14SK14	土師器	大甕	−	−	40.8	粗砂多量	2.5YR5/8明赤褐色	不明	ナデ,ヘラケズリ,板ナデ	3/8	Ⅳ区①SK06	
118	39	47	G14SK14	陶器備前焼	灯明皿	10.6	−	−	砂粒含まず	5B4/1暗青灰色	無釉	無釉	1/8	Ⅳ区①SK06	
119	39	47	G14SK14	磁器染付	碗	9.8	−	−	砂粒含まず	釉:7.5GY明緑灰色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK06	
120	39	47	G14SK14	磁器染付	徳利	−	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	無釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK06	
121	41		G14SK16	土師器	大甕	−	−	32.8	粗砂多量	7.5YR7/3にぶい橙色	指頭痕,ナデ	ハケ目,ヘラケズリ,ナデ	1/8	Ⅳ区①SK07	
122	42		G14SK18	土師器	土鍋	−	−	−	粗砂多量	7.5YR7/6橙色	回転ナデ	回転ナデ,指頭痕,煤付着	1/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
123	42	47	G14SK18	陶器褐釉	瓶	5.8	−	−	砂粒含まず	釉:7.5YR3/4暗褐色,胎土:2.5Y8/2灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK02	
124	42	47	G14SK18	陶器備前焼	灯明皿	10.5	−	−	砂粒含まず	7.5R4/4にぶい赤色	鉄塗	鉄塗	1/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
125	42	47	G14SK18	陶器唐津焼刷毛目	碗	−	−	5.2	砂粒含まず	釉:7.5YR4/1褐灰色,胎土:10R5/4赤褐色	施釉	施釉,畳付無釉	2/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
126	42	47	G14SK18	瀬戸美濃鉄釉灰釉掛分	碗	10.0	−	−	砂粒含まず	釉:2.5GY8/1灰白色〜5YR3/2暗赤褐色,胎土:2.5Y8/2灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK02	
127	42	47	G14SK18	陶器染付	碗	10.3	−	−	細砂含む	釉:7.5GY6/1緑灰色,胎土:N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
128	42	47	G14SK18	陶器染付	碗	10.0	−	−	砂粒含まず	釉:5GY6/1オリーブ灰色,胎土:5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (6)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
129	42	47	G14SK18	陶器染付	碗	10.8	—	—	粗砂少量	釉：7.5GY6/1緑灰色，胎土:10Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
130	42		G14SK18	陶器染付	碗	—	—	4.0	砂粒含まず	釉：5GY6/1オリーブ灰色，胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉，畳付無釉	2/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
131	42	47	G14SK18	陶器染付	碗	—	—	4.8	粗砂少量	釉：5GY6/1オリーブ灰色，胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉，畳付無釉	3/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
132	42	47	G14SK18	陶器備前焼	擂鉢	19.1	—	—	粗砂多量	5YR5/1褐灰色	回転ナデ，卸目	回転ナデ，凹線2条	1/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
133	42	47	G14SK18	陶器備前焼	擂鉢	39.4	—	—	粗砂多量	2.5YR6/6橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
134	42	47	G14SK18	陶器	鉢	—	—	11.0	粗砂少量	7.5YR4/4褐色	無釉	無釉	2/8	Ⅳ区①SK02石とりあげ時	
135	42	47	G14SK18	磁器白磁	そば猪口	—	—	4.8	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	1/8	Ⅳ区①SK02	
136	43		G14SK19	土師器	皿	6.5	—	—	中粒砂含む	10YR8/3浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	Ⅳ区①SK01石とりあげ時	
137	43		G14SK19	土師器	焙烙	—	—	—	粗砂含む	2.5Y5/2暗灰黄色	ナデ	指押さえ後ナデ	1/8	Ⅳ区①SK01	
138	43		G14SK19	土師器	甕	45.0	—	—	粗砂多量	2.5Y7/3浅黄色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	Ⅳ区①SK01	
139	43	47	G14SK19	陶器備前焼	擂鉢	—	—	—	粗砂多量	5PB5/1青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅳ区①SK01石とりあげ時	
140	45	48	I14SK22	陶器	高坏	5.7	—	—	砂粒含まず	2.5YR4/6赤褐色	無釉	無釉	3/8	Ⅳ区②西北SK02	
141	45	48	I14SK22	陶器染付	碗	9.6	—	—	中粒砂含む	釉：5GY6/1オリーブ灰色，胎土：5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
142	45	48	I14SK22	陶器	小鉢	10.5	5.5	10.0	粗砂含む	10R4/4赤褐色	ナデ，回転ナデ	ヘラケズリ，回転ナデ	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
143	45	48	I14SK22	陶器備前焼	擂鉢	—	—	—	粗砂含む	10R6/6赤橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
144	45	48	I14SK22	陶器備前焼	擂鉢	30.0	—	—	中粒砂含む	10R3/4暗赤色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
145	45	48	I14SK22	陶器備前焼	擂鉢	30.8	—	—	粗砂含む	10R5/6赤色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
146	45	48	I14SK22	陶器備前焼	擂鉢	—	—	12.6	粗砂少量	10R6/6赤橙色	摩滅	回転ナデ	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
147	45		I14SK22	陶器備前焼	擂鉢	—	—	15.0	粗砂含む	2.5YR5/6明赤褐色	無釉	無釉，回転ナデ	4/8	Ⅳ区②西北SK02	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (7)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
148	45	48	I 14SK22	陶器	甕	28.8	—	—	粗砂少量	10R4/3赤褐色	無釉	無釉	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
149	45	48	I 14SK22	磁器染付	碗	9.0	—	—	砂粒含まず	釉:5Y8/1灰白色,胎土:5Y8/1灰白色	施釉	施釉	2/8	Ⅳ区②西北SK02	
150	45	48	I 14SK22	磁器染付	碗	11.0	—	—	砂粒含まず	釉:5BG7/1明青灰色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
151	45	48	I 14SK22	磁器染付	皿	—	—	4.4	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉,畳付無釉	3/8	Ⅳ区②西北SK02	
152	45	48	I 14SK22	磁器染付	碗	—	—	3.0	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉,畳付無釉	4/8	Ⅳ区②西北SK02	
153	45	48	I 14SK22	磁器染付	碗	—	—	3.4	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉,畳付無釉	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
154	45	48	I 14SK22	磁器染付	碗	—	—	3.8	砂粒含まず	釉:7.5GY8/1明緑灰色,胎土:白色	施釉	施釉,畳付無釉	2/8	Ⅳ区②西北SK02	
155	45	48	I 14SK22	磁器染付	碗	—	—	4.3	砂粒含まず	釉:5GY8/1灰白色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉,畳付無釉	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
156	45	48	I 14SK22	磁器染付	碗	—	—	—	砂粒含まず	釉:5GY8/1灰白色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
157	45	48	I 14SK22	磁器染付	皿	—	—	6.8	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉,底部:環状釉剝ぎ	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
158	45	48	I 14SK22	磁器染付	皿	—	—	6.6	砂粒含まず	釉:10GY8/1明緑灰色,胎土:7.5Y8/1灰白色	蛇ノ目釉剝ぎ	施釉,畳付無釉	1/8	Ⅳ区②西北SK02	
159	45	48	I 14SK22	磁器白磁	徳利	—	—	5.8	砂粒含まず	釉:5GY8/1灰白色,胎土:10Y8/1灰白色	無釉	施釉,畳付無釉	2/8	Ⅳ区②西北SK02	
160	48	48	H15SK27	陶器備前焼	擂鉢	—	—	15.6	粗砂含む	2.5YR5/6明赤褐色	無釉	回転ナデ,無釉	1/8	Ⅳ区②SK06	
161	49	48	C 5SE01	陶器灰釉	皿	10.6	—	—	砂粒含まず	釉:5Y7/2灰白色,胎土:5Y7/1灰白色	施釉	施釉,底部:無釉	1/8	II区①SE01	
162	49	48	C 5SE01	磁器白磁	皿	12.0	—	—	砂粒含まず	釉:10BG7/1明青灰色,胎土:白色	施釉	施釉,底部:無釉	1/8	II区①SE01	
163	49	48	C 5SE01	磁器白磁	碗	9.8	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	II区①SE01	
164	50	48	E 6SE02	陶器染付	碗	10.0	—	—	砂粒含まず	釉:10Y7/1灰白色,胎土:7.5Y3/1オリーブ黒色	施釉	施釉	1/8	II区③SE01	
165	50	48	E 6SE02	陶器唐津焼刷毛目	長頸壺	—	—	—	礫少量	釉:5Y4/2灰オリーブ色,胎土:10R5/6赤色	上部:施釉,下部:無釉	施釉	8/8	II区③SE01	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (8)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
166	50	48	E6SE02	磁器染付	碗	−	−	4.9	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	1/8	II区③SE01	
167	51	49	H14SX02	陶器染付	碗	9.6	6.8	3.6	砂粒含まず	釉：7.5GY6/1緑灰色，胎土：7.5Y7/1灰白色	施釉	施釉，畳付無釉	3/8	IV区①SX01	
168	51	49	H14SX02	陶器染付	碗	11.0	−	−	砂粒含まず	釉：2.5GY6/1オリーブ灰色,胎土：7.5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	IV区①SX01	
169	51	49	H14SX02	磁器白磁	壺	−	−	−	砂粒含まず	釉：10Y7/1灰白色,胎土：N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	IV区①SX01東 西トレンチ南北	
170	51	49	H14SX02	磁器染付	碗	−	−	−	砂粒含まず	釉：白色,胎土：7.5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	IV区①SX01東 西トレンチ南北	
171	51	49	H14SX02	磁器染付	碗	−	−	−	砂粒含まず	釉：7.5GY8/1灰白色，胎土：白色	施釉	施釉	1/8	IV区①SX01東 西トレンチ南北	
172	52		SD01	土師器	皿	−	−	−	中砂粒含む	2.5Y2/1黒色～2.5Y5/3黄褐色	ハケ目	型離れ	1/8	I区①SD01	
173	52		SD01	土師器	鉢	20.5	−	−	中粒砂多量	10YR7/1灰白色	板ナデ，ハケ目	ナデ	1/8	I区①SD01	
174	52		SD01	土師器	焙烙	37.0	−	−	中砂粒含む	2.5Y4/1黄灰色	ハケ目後横ナデ	指押さえ	1/8	I区SD01	
175	52		SD01	土師器	焙烙	47.6	−	−	中砂粒含む	10YR6/2灰黄褐色	ハケ目後横ナデ，横ナデ	指押さえ，横ナデ	1/8	I区①SD01	
176	52		SD01	土師器	釜	−	−	−	中粒砂多量	5Y4/1灰色～10YR6/3にぶい黄橙色	指頭痕	ナデ	1/8	I区①SD01	
177	52	49	SD01	瀬戸美濃鉄釉灰釉掛分	碗	−	−	3.9	砂粒含まず	釉：7.5Y7/1灰白色・10YR2/2黒褐色,胎土：2.5YR8/1灰白色	灰釉	鉄釉（褐釉）	6/8	I区①SD01	
178	52	50	SD01	陶器唐津焼刷毛目	碗	−	−	4.5	砂粒含まず	釉：7.5YR3/2黒褐色,胎土：10R4/4赤褐色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
179	52	49	SD01	陶器緑彩	碗	−	−	3.0	砂粒含まず	釉：10YR7/2黄 橙色，胎土：2.5Y8/2灰白色	施釉	施釉，底部：無釉	4/8	I区①SD01	
180	52	49	SD01	陶器備前焼	灯明皿	8.0	−	−	細砂少量	釉：10R3/3暗 赤 褐色,胎土：10R6/4にぶい赤橙色	鉄釉	口縁部：鉄釉	2/8	I区①SD01	
181	52	49	SD01	陶器備前焼	小皿	9.2	1.5	6.8	細砂少量	2.5YR4/3にぶい赤褐色	回転ナデ	回転ナデ，回転ヘラ削り	3/8	I区①SD01	
182	52	49	SD01	陶器青緑釉	皿	−	−	4.8	砂粒含まず	釉:10Y4/2オリーブ灰色，胎土：10YR7/1灰白色	蛇ノ目釉剝ぎ	回転ヘラ削り	6/8	I区①SD01	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (9)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
183	52	49	SD01	陶器備前焼	鉢	13.2	6.9	12.7	粗砂多量	10YR6/3にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	2/8	I区①SD01	
184	52	49	SD01	陶器備前焼	鉢	—	—	10.0	粗砂少量	2.5YR6/3にぶい黄色	回転ナデ	回転ナデ	4/8	I区①SD01	
185	52	49	SD01	陶器灰釉	鉢	16.5	—	—	砂粒含まず	釉:5Y5/4オリーブ色，胎土:2.5Y8/2灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
186	52	49	SD01	陶器唐津焼刷毛目	鉢	—	—	11.2	中粒砂含む	釉:5Y7/2灰白色，胎土:10YR7/3にぶい黄橙色	施釉	回転ナデ，無釉	2/8	I区①SD01	
187	52	49	SD01	磁器中国産白磁	坏	11.6	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉,口縁部:無釉	施釉，口縁部:無釉	1/8	I区①SD01	Ⅸ類
188	53	49	SD01	磁器白磁	小皿	10.0	2.5	3.7	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	1/8	I区①SD01	
189	53	49	SD01	磁器白磁	皿	—	—	4.9	砂粒含まず	釉:10GY8/1明緑灰色，胎土:白色	蛇ノ目釉剝ぎ	施釉，畳付無釉	1/8	I区①SD01	
190	53	49	SD01	磁器	徳利	2.3	—	—	砂粒含まず	釉:5GY8/1灰白色，胎土:N8/0灰白色	上部:施釉	施釉	7/8	I区①SD01	
191	53	49	SD01	磁器白磁	壺	—	—	8.0	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	無釉	施釉	2/8	I区①SD01	
192	53	49	SD01	磁器青磁染付	碗	10.9	—	—	砂粒含まず	釉:10GY7/1明緑灰色，胎土:5Y8/1灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
193	53	49	SD01	磁器染付	碗	—	—	4.5	砂粒含まず	釉:5Y8/1灰白色，胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
194	53	50	SD01	磁器染付	碗	8.8	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉，貫入	施釉，貫入	1/8	I区①SD01	
195	53	50	SD01	磁器染付	碗	9.9	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
196	53	50	SD01	磁器染付	碗	10.5	—	—	砂粒含まず	釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色，胎土:10Y8/1灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
197	53	50	SD01	磁器染付	碗	—	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
198	53	50	SD01	磁器染付	碗	12.4	—	—	砂粒含まず	釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色，胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
199	53	50	SD01	磁器染付	碗	12.4	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
200	53	50	SD01	磁器染付	碗	—	—	3.0	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
201	53	50	SD01	磁器染付	碗	—	—	4.0	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	1/8	I区①SD01	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (10)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
202	53	50	SD01	磁器染付	碗	−	−	4.4	砂粒含まず	釉:5GY8/1灰白色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉, 畳付無釉	1/8	I区①SD01	
203	53	50	SD01	磁器染付	碗	−	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	3/8	I区①SD01	
204	53		SD01	磁器染付	碗	−	−	3.9	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉, 畳付無釉	1/8	I区①SD01	
205	53	50	SD01	磁器染付	碗	−	−	5.9	砂粒含まず	釉:N8/0灰白色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉, 畳付無釉	5/8	I区①SD01	
206	53	50	SD01	磁器染付	碗	−	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	2/8	I区①SD01	
207	53	50	SD01	磁器染付	皿	−	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉, 畳付無釉	1/8	I区①SD01	
208	53	50	SD01	磁器染付	皿	−	−	5.8	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉, 畳付無釉	1/8	I区①SD01	
209	53	50	SD01	磁器染付	皿	−	−	5.9	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉, 畳付無釉	2/8	I区①SD01	
210	53	50	SD01	磁器染付	皿	13.4	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
211	53	50	SD01	磁器染付	小皿	10.2	1.8	6.7	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉, 畳付無釉	1/8	I区①SD01	
212	53	50	SD01	磁器染付	皿	13.0	−	−	砂粒含まず	釉:N8/0灰白色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
213	53	50	SD01	磁器染付	皿	−	−	7.0	砂粒含まず	釉:5GY8/1灰白色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉	2/8	I区①SD01	
214	53	50	SD01	磁器染付	皿	−	−	11.0	砂粒含まず	釉:白色,胎土:5Y7/1灰白色	白釉施釉	白釉施釉, 畳付無釉	2/8	I区①SD01	
215	53	50	SD01	磁器染付	皿	−	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01	
216	53	48	SD01	磁器染付	徳利	−	−	5.8	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	無釉	施釉, 畳付無釉	1/8	I区①SD01	
217	53		SD01	磁器色絵	碗	−	−	3.4	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉, 畳付無釉	1/8	I区①SD01	
218	53		SD01	磁器色絵	碗	10.1	5.4	2.9	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉, 畳付無釉	4/8	I区①SD01	
224	54	49	SD01, SD02	陶器染付	香炉	8.4	−	−	砂粒含まず	釉:10Y6/1灰色,胎土:7.5Y7/1灰白色	施釉(口縁部のみ)	施釉	1/8	I区①SD01,02トレンチ	
225	54	49	SD01, SD02	磁器青磁	香炉	7.0	−	−	砂粒含まず	釉:5G7/1明緑灰色,胎土:5Y8/1灰白色	口縁部のみ施釉	施釉	1/8	I区①SD01,02トレンチ	
226	54	50	SD01, SD02	磁器染付	碗	9.0	−	−	砂粒含まず	釉:10YR7/1灰白色,胎土:N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD01, SD02トレンチ	
227	56	36	SD02	土師器	土錘	径1.2	孔径0.7	−	粗砂含む	2.5YR7/6橙色〜2.5YR5/1赤灰色	不明	摩滅	7/8	I区①SD02	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (11)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
228	54	50	SD02	陶器灰釉	碗	8.8	−	−	砂粒含まず	釉:5Y7/2灰白色,胎土:5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
229	54	50	SD02	陶器灰釉	碗	−	−	4.0	砂粒含まず	釉:5Y8/3淡黄色,胎土:2.5Y8/3淡黄色	施釉	施釉，畳付無釉	4/8	I区①SD02	
230	54	50	SD02	陶器染付	碗	13.0	−	−	砂粒含まず	釉：7.5Y6/2灰オリーブ色，胎土：5Y7/2灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
231	54	50	SD02	陶器色絵	碗	9.9	−	−	砂粒含まず	釉:7.5Y7/1灰白色,胎土:5Y8/1灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
232	45	50	SD02	陶器灰釉鉄絵	碗	10.0	−	−	砂粒含まず	釉:5Y7/2灰白色,胎土:5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
233	54	50	SD02	陶器唐津焼灰釉	鉢	−	−	−	砂粒含まず	釉:10Y4/2オリーブ灰色，胎土：10R6/6赤橙色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
234	54	50	SD02	陶器備前焼	擂鉢	−	−	13.8	粗砂多量	10R4/3赤褐色	卸目	回転ナデ	1/8	I区①SD02	
235	54	51	SD02	磁器白磁	小碗	−	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	3/8	I区①SD02	
236	54	51	SD02	磁器白磁	瓶	3.5	−	−	砂粒含まず	釉：N7/0灰白色,胎土：N8/0灰白色	施釉	施釉	3/8	I区①SD02	
237	54	51	SD02	磁器染付	碗	9.8	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
238	54	51	SD02	磁器染付	碗	11.2	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
239	54	51	SD02	磁器染付	碗	11.9	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
240	54	51	SD02	磁器染付	碗	10.4	−	−	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
241	54	51	SD02	磁器染付	碗	12.8	−	−	砂粒含まず	釉:10Y6/1灰色，胎土：N8/0灰白色	施釉	施釉	1/8	I区①SD02	
242	54	51	SD02	磁器染付	碗	12.0	5.0	3.0	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	1/8	I区①SD02	
243	54	51	SD02	磁器染付	碗	−	−	4.0	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	1/8	I区①SD02	
244	54	51	SD02	磁器染付	小坏	5.9	2.0	2.7	砂粒含まず	釉:5G7/1明緑灰色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	4/8	I区①SD02	
245	54	51	SD02	磁器染付	皿	−	−	−	砂粒含まず	釉:5Y7/1灰白色,胎土:7.5Y7/1灰白色	施釉	施釉	2/8	I区①SD02	
246	54	51	SD02	磁器青磁染付	碗	−	−	3.9	砂粒含まず	釉:7.5GY6/1緑灰色,胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉，畳付無釉	6/8	I区①SD02	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (12)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
249	55		SD66	弥生土器	壺	28.7	−	−	長石・石英・中粒砂含む、雲母・中粒砂含む	2.5Y6/8橙色	横ナデ	横ナデ，指頭痕	1/8	Ⅳ区①SD01石組・瓦・土器集中部	
250	55		SD66	土師器	擂鉢	−	−	−	粗砂多量	10YR8/2灰白色	ハケ目後横ナデ	不明	1/8	Ⅳ区①SD01第一層	
251	55	36	SD66	土師器	三足鉢	28.0	10.8	22.8	粗砂多量	2.5YR7/6橙色	回転ナデ，ナデ	指頭痕，ハケ目，ナデ，回転ナデ	5/8	Ⅳ区①SD01	
252	55	35	SD66	土師器	羽釜	22.6	−	−	粗砂多量	2.5Y7/3浅黄色〜2.5Y6/1黄灰色	指頭痕，ナデ	横ナデ，指頭痕，煤付着	1/8	Ⅳ区①SD01第一層	
253	55		SD66	土師器	甕	27.0	−	−	粗砂多量	2.5YR6/8橙色	指ナデ，指押さえ後ハケ目	横ナデ，ナデ	1/8	Ⅳ区①SD01第一層	
254	55	51	SD66	瀬戸美濃鉄釉灰釉掛分	碗	10.0	6.0	3.8	砂粒含まず	釉：2.5GY8/1灰白色〜5YR3/2暗赤褐色，胎土：5Y8/1灰白色	施釉	施釉，畳付無釉	2/8	Ⅳ区①SD01東トレ	
255	55		SD66	陶器染付	碗	11.1	7.1	4.9	砂粒含まず	釉：5PB7/1明青灰色，胎土：5Y7/1灰白色	施釉	施釉，畳付無釉	3/8	Ⅳ区①SD01第一層	
256	55	51	SD66	京焼風陶器	碗	−	−	4.9	砂粒含まず	釉：2.5Y8/3浅黄色，胎土：2.5Y8/2灰白色	施釉	施釉，畳付無釉	8/8	Ⅳ区①SD01第一層	
257	55		SD66	陶器備前焼	灯明皿	7.9	1.0	5.0	中粒砂少量	7.5YR5/4にぶい褐色	回転ナデ	回転ヘラケズリ	7/8	Ⅳ区①SD01東トレ	
258	55	51	SD66	陶器青緑釉	皿	12.8	−	−	砂粒含まず	釉：5G5/1緑灰色，胎土：5Y8/1灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SD01下層	
259	55	51	SD66	陶器唐津焼鉄絵	皿	12.9	−	−	砂粒含まず	釉：7.5Y8/1灰白色，胎土：7.5Y7/1灰白色	施釉	施釉，底部：無釉	1/8	Ⅳ区①SD01第1層	
260	55	51	SD66	陶器備前焼	徳利	−	−	−	砂粒含まず	5YR3/4暗赤褐色	上部鉄塗	鉄塗	2/8	Ⅳ区①SD01東トレ	
261	55	51	SD66	陶器備前焼	小型壺	6.0	−	−	粗砂含む	7.5Y3/1オリーブ黒色	回転ナデ，鉄分付着	回転ナデ，自然釉付着	2/8	Ⅳ区①SD01第1層	
262	55	51	SD66	陶器唐津焼刷毛目	鉢	18.0	−	−	砂粒含まず	釉：10YR6/4にぶい黄橙色，胎土：7.5YR8/3浅黄橙色	施釉，底部：無釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SD01下層	
263	56	51	SD66	陶器唐津焼刷毛目	鉢	25.0	−	−	粗砂少量	釉：5YR4/2灰褐色，胎土：10R4/2灰赤色	口縁部無釉，施釉	口縁部無釉，施釉	1/8	Ⅳ区①SD01第2層	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (13)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
264	56	51	SD66	陶器備前焼	擂鉢	—	—	15.7	粗砂含む	10R5/4赤褐色	回転ナデ後卸目	回転ヘラケズリ，回転ナデ	4/8	Ⅳ区①SD01石組瓦・土器集中部第1層	
265	56	51	SD66	磁器染付	碗	—	—	4.4	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	2/8	Ⅳ区①SD01第1層	
266	56	51	SD66	磁器染付	徳利	—	—	—	砂粒含まず	釉:10YR7/2にぶい黄橙色，胎土：5Y8/1灰白色	無釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SD01第1層	
284	59	51	SD69	陶器備前焼	灯明皿	11.0	—	—	細砂含む	5B4/1暗青灰色	回転ナデ	鉄塗	1/8	Ⅳ区①SD02(西)	
285	59	51	SD69	陶器染付	碗	11.9	—	—	粗砂少量	釉：10Y7/1灰白色，胎土:7.5Y7/1灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SD02	
286	59	51	SD69	陶器鉄塗	壺	—	—	8.0	細砂含む	釉:10YR4/2灰黄褐色，胎土:N8/0灰白色	無釉	鉄塗	4/8	Ⅳ区①SD02重機掘削中	
287	59	51	SD69	磁器染付	皿	22.8	—	—	砂粒含まず	釉:10Y8/1灰白色，胎土：白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SD02東側	
288	59	51	SD69	磁器染付	碗	17.9	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SX01下のSD02	
291	60		SR01	土師器	鉢	17.7	—	—	粗砂多量	10YR8/2灰白色～7.5YR3/1黒褐色	横ナデ，指頭痕	横ナデ	1/8	Ⅳ区①SR01上面精査中（東肩）	
292	60	52	SR01	緑釉陶器	碗	—	—	5.6	砂粒含まず	釉：暗緑色，胎土：N6/0灰色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SR01底砂レキ層	
293	60	52	SR01	陶器唐津焼刷毛目	碗	—	—	—	砂粒含まず	釉：2.5YR4/2灰赤色，胎土：10R6/8赤橙色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SR01（旧河道）	
294	60	52	SR01	陶器灰釉	碗	—	—	4.4	砂粒含まず	釉：5Y5/2灰オリーブ色，胎土:7.5Y8/1灰白色	施釉	施釉	2/8	Ⅳ区①SR01アゼ南カタ	
295	60	52	SR01	陶器唐津焼鉄釉溝縁	皿	12.0	—	—	粗砂少量	釉：2.5YR2/2極暗赤褐色，胎土:2.5YR6/4にぶい橙色	施釉	口縁部のみ施釉	1/8	Ⅳ区①SR01アゼ南カタ	
296	60	52	SR01	陶器唐津焼灰釉溝縁	皿	13.8	—	—	砂粒含まず	釉：7.5Y7/1灰白色，胎土：2.5YR6/2灰赤色	施釉	施釉，底部：無釉	1/8	Ⅳ区①SR01	
297	60	52	SR01	陶器備前焼	擂鉢	34.0	—	—	粗砂多量	10YR7/2にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅳ区①SR01アゼ南東カタ	

川西北・鍛冶屋遺跡土器観察表 (14)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	内面調整	外面調整	残存率	調査時遺構名	備考
298	60	52	SR01	磁器中国産白磁	皿	11.2	—	—	砂粒含まず	釉：7.5Y7/1灰白色，胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SR01アゼ南カタ	
299	60	52	SR01	磁器白磁	碗	—	—	3.1	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	7/8	Ⅳ区①SR01上層重機掘削中及びかべ切り	
300	60	52	SR01	磁器白磁	皿	—	—	3.6	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	蛇ノ目釉剝ぎ	底部：ヘラ削り，無釉	2/8	Ⅳ区①SR01（旧河道）	
301	60	52	SR01	磁器染付	碗	10.7	—	—	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉	1/8	Ⅳ区①SR01アゼ南カタ	
302	60	52	SR01	磁器染付	碗	—	—	4.5	砂粒含まず	釉:白色,胎土:白色	施釉	施釉，畳付無釉	2/8	Ⅳ区①SR01アゼ南カタ	
304	65		E10SK11	須恵器	提瓶	—	—	—	粗砂含む	5PB7/1明青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/8	Ⅲ区①SK01.02か	
305	69	36		土師器	坏	12.6	2.6	6.4	粗砂含む	2.5Y7/2灰黄色	回転ナデ	回転ナデ，底部：ヘラ切り	2/8	Ⅱ区①SD01	
306	69	36		須恵器	高坏	—	—	—	粗砂含む	N7/0灰白色	ナデ	回転ナデ	2/8	Ⅱ区①包含層掘削	
307	69	52		磁器中国産青磁	皿	10.7	—	—	細砂含む	釉：10Y5/2オリーブ灰色，胎土：N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅰ区①ガリカケ中	
308	69	52		磁器青磁	碗	14.8	—	—	砂粒含まず	釉：10GY6/1緑灰色，胎土:N7/0灰白色	施釉	施釉	1/8	Ⅱ区②畦切り時（北）	

川西北・鍛冶屋遺跡瓦観察表

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	長さ(cm)	筒部長(cm)	玉縁長(cm)	筒部径(cm)	玉縁径(cm)	厚さ(cm)	凸面調整	凹面調整	側面調整	端面調整	胎土	色調	調査時遺構名
267	56	−	SD66	軒丸瓦	18.6	−	−	12.5	−	1.7	ナデ	布目・ヘラケズリ・ナデ	−	−	粗砂多量	2.5Y4/1黄灰色	Ⅳ区①SD01第1層石組瓦・土器集中部
268	56	−	SD66	軒丸瓦	7.8	−	−	12.5	−	1.5	摩滅	ヘラケズリ・ナデ	−	−	粗砂多量	N3/0暗灰色	Ⅳ区①SD01中央Tr
269	56	−	SD66	軒丸瓦	1.9	−	−	12.2	−	−	ナデ	ナデ	−	−	中粒砂多量	5Y7/1灰白色	Ⅳ区①SD01第1層石組瓦・土器集中部
270	56	−	SD66	軒丸瓦	1.5	−	−	12.3	−	1.4	ナデ	ナデ	−	−	粗砂多量	N7/0灰白色〜N4/0灰色	Ⅳ区①SD01東トレ
271	56	−	SD66	丸瓦	24.0	19.3	4.6	12.0	10.5	1.3	ナデ	ヘラケズリ	−	−	粗砂多量	10YR8/2灰白色〜10YR3/1黒褐色	Ⅳ区①SD01西トレ
272	56	−	SD66	丸瓦	22.5	19.2	3.3	11.5	9.0	1.5	摩滅	ヘラケズリ	−	−	細砂多量	N4/0灰色	Ⅳ区①SD01下層
273	56	−	SD66	丸瓦	21.5	18.4	3.1	11.1	8.8	1.5	ヘラケズリ後ナデ・ナデ	ヘラケズリ	−	−	中粒砂多量	10YR8/2灰白色	Ⅳ区①SD01
274	57	−	SD66	丸瓦	24.4	20.7	3.7	11.8	9.0	1.6	板ナデ後ナデ	ヘラケズリ	−	−	中〜細砂多量	N5/0灰色	Ⅳ区①SD01第1層石組瓦・土器集中部
275	57	−	SD66	丸瓦	21.7	18.1	3.6	11.3	8.6	1.4	ナデ	ヘラケズリ	−	−	粗砂含む	5Y8/1灰白色	Ⅳ区①SD01下層
276	57	−	SD66	丸瓦	24.3	20.4	3.9	11.5	9.0	1.6	ヘラケズリ・ナデ	ヘラケズリ	−	−	細砂多量	7.5Y3/1オリーブ黒色	Ⅳ区①SD01第1層石組瓦・土器集中部
277	57	−	SD66	丸瓦	19.8	−	3.2	12.4	10.0	1.4	ヘラケズリ・ナデ	ヘラケズリ	−	−	中粒砂多量	5Y4/1灰色	Ⅳ区①SD01東トレ
278	57	−	SD66	軒平瓦	6.8	広端幅24.0	狭端幅−	−	−	1.3	ナデ	ハケメ後ナデ	−	−	粗砂多量	N2/0黒色	Ⅳ区①SD01第1層石組瓦・土器集中部
279	57	−	SD66	軒平瓦	11.9	広端幅−	狭端幅−	−	−	1.3	ナデ	ナデ	摩滅により不明	−	粗砂多量	N5/0灰色	Ⅳ区①SD01中央Tr
289	59	−	SD69	丸瓦	24.3	20.5	3.4	11.6	9.0	1.5	ナデ	ヘラケズリ	−	−	粗砂含む	10YR8/1灰白色	Ⅳ区①SD02石とりあげ時
290	59	−	SD69	平瓦	23.7	広端幅20.8	狭端幅19.5	−	−	1.3	不明	不明	不明	不明	中粒砂多量	7.5YR8/3浅黄橙色	Ⅳ区①SD02北Tr

川西北・鍛冶屋遺跡石器観察表 (1)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告書遺構名	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	調査時遺構名
1	7	37	−	横長剝片	3.4	2.4	0.7	3.2	サヌカイト	Ⅲ区③ ②
2	7	37	−	石核調整剝片	2.4	2.4	0.7	3.3	サヌカイト	Ⅲ区③ ⑦
3	7	37	−	横長剝片石核	5.0	2.7	1.0	13.6	サヌカイト	Ⅲ区③ ④
4	7	36	−	横長剝片石核接合資料	4.9	3.7	1.4	−	サヌカイト	Ⅲ区③ ②④⑦
5	7	37	−	横長剝片	1.6	1.0	0.3	0.4	サヌカイト	Ⅲ区③ ④
6	7	37	−	横長剝片	2.2	1.0	0.4	0.7	サヌカイト	Ⅲ区③ ⑤
7	7	37	−	横長剝片	2.9	1.9	0.3	1.8	サヌカイト	Ⅲ区③ ⑧
8	7	37	−	横長剝片	3.2	1.8	0.3	1.6	サヌカイト	Ⅲ区③ ⑬
9	7	37	−	横長剝片	4.0	2.3	0.6	5.7	サヌカイト	Ⅲ区③ ③
10	7	37	−	横長剝片	3.2	1.7	0.8	4.3	サヌカイト	Ⅲ区③ ⑪
11	7	38	−	二次加工ある剝片	6.4	6.1	1.3	43.4	サヌカイト	Ⅲ区③ ①
12	7	37	−	横長剝片	3.6	2.1	0.8	5.5	サヌカイト	Ⅲ区③
13	7	37	−	縦長剝片	4.7	4.5	0.8	15.2	サヌカイト	Ⅲ区③地山出土
14	7	38	−	二次加工ある剝片	7.3	4.6	1.7	53.8	サヌカイト	Ⅲ区③地山出土
15	7	38	−	使用痕ある剝片	7.2	6.6	1.7	91.6	サヌカイト	Ⅲ区③浄化槽断面
16	9	39	ＳＤ05	石鏃	2.3	1.4	0.4	0.7	サヌカイト	Ⅰ区①ＳＤ05
17	9	39	ＳＤ16	石鏃	2.0	2.0	0.4	1.3	サヌカイト	Ⅱ区③ＳＤ29
18	9	39	ＳＤ34	石鏃	2.9	1.8	0.6	2.9	サヌカイト	Ⅱ区②ＳＤ06(ＳＤ03,04以南)
20	9	40	ＳＤ50	スクレイパー	7.1	5.5	1.5	42.4	サヌカイト	Ⅲ区②ＳＤ01
23	9	41	ＳＤ61	スクレイパー	4.2	5.3	0.8	15.1	サヌカイト	Ⅲ区②ＳＤ05
24	9	40	ＳＤ61, ＳＤ62	スクレイパー	3.2	3.4	0.8	6.7	サヌカイト	Ⅲ区②ＳＤ04,05う北, ＳＤ05暗褐色シルト質細砂
25	10	44	ＳＤ61	柱状片刃石斧	6.9	3.1	2.1	80.0	結晶片岩	Ⅲ区②ＳＤ05, ＳＤ02との合流あたり
26	10	45	ＳＤ61	砥石	1.6	1.8	1.8	4.6	泥岩	Ⅲ区②ＳＤ05市道部分
27	10	45	ＳＤ61, ＳＤ62	砥石	5.5	5.0	3.3	125.3	安山岩	Ⅲ区②ＳＤ04,05畦あ
42	12	−	B6, C5, C6, ＳＸ01	スクレイパー	7.6	6.9	0.9	55.1	砂岩	Ⅱ区①ＳＸ01
45	15	39	ＳＤ41	石鏃	2.6	1.2	0.2	0.7	サヌカイト	Ⅱ区②ＳＤ04
50	20	39	ＳＤ55	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.7	サヌカイト	Ⅲ区①EASTＳＤ04あ
51	20	40	ＳＤ55	石鏃	2.1	1.1	0.4	0.7	サヌカイト	Ⅲ区①EASTＳＤ04
59	22	39	ＳＤ62	石鏃	1.5	1.4	0.4	0.6	サヌカイト	Ⅲ区②ＳＤ04
60	22	39	ＳＤ62	石鏃	2.2	1.5	0.4	1.3	サヌカイト	Ⅲ区②ＳＤ04丸亀市道(ＳＤ02)最下層

川西北・鍛冶屋遺跡石器観察表 (2)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告書遺構名	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	調査時遺構名
61	22	39	SD62	石鏃	2.5	1.2	0.3	0.9	サヌカイト	Ⅲ区②SD04丸亀市道イ畦底部（SD02）
62	22	41	SD62	スクレイパー	4.7	4.4	1.0	16.2	サヌカイト	Ⅲ区③SD02市道部
63	22	41	SD62	スクレイパー	10.7	5.0	1.9	69.7	サヌカイト	Ⅲ区③SD02市道部
65	23	42	SD03, SD06	横長剝片	5.0	3.3	1.0	16.7	サヌカイト	Ⅱ区②SD01③
85	25	39	SD11	石鏃	1.7	1.3	0.2	0.5	サヌカイト	Ⅰ区②SD01
86	25	39	SD11	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.8	サヌカイト	Ⅰ区②SD01
87	25	39	SD11	石鏃	2.5	1.7	0.5	2.1	サヌカイト	Ⅰ区②SD01
88	25	39	SD11	石鏃	2.7	2.0	0.3	1.1	サヌカイト	Ⅰ区②SD01
91	26	39	SD12	石鏃	2.8	1.5	0.3	0.9	サヌカイト	Ⅰ区②南SD02
92	26	39	SD12	石鏃	2.7	1.7	0.4	1.1	サヌカイト	Ⅰ区②南SD02
98	29	39	SD70	石鏃	1.6	1.6	0.3	0.5	サヌカイト	Ⅳ区②SD01下層
99	29	41	SD70	スクレイパー	6.0	4.0	1.0	16.1	サヌカイト	Ⅳ区②SD01上層
100	31	39	H15, SB05, SP52	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.5	サヌカイト	Ⅳ区②SP52
219	54	43	SD01	不明	1.3	1.1	0.7	0.9	チャート	Ⅰ区①SD01
220	54	43	SD01	削片	1.6	1.3	0.4	0.8	チャート	Ⅰ区①SD01
221	54	43	SD01	不明	2.0	0.8	0.6	0.7	チャート	Ⅰ区①SD01
222	54	—	SD01	不明	1.6	1.5	1.0	2.2	チャート	Ⅰ区①SD01
223	54	—	SD01	不明	2.4	1.7	1.8	3.8	チャート	Ⅰ区①SD01
247	54	43	SD02	不明	1.3	1.3	0.5	0.9	チャート	Ⅰ区①SD02
248	54	43	SD02	不明	1.6	1.4	0.5	1.0	チャート	Ⅰ区①SD02
280	57	46	SD66	砥石	5.7	6.0	3.3	180.3	凝灰岩質流紋岩	Ⅳ区①SD01第1層
281	58	46	SD66	砥石	10.3	5.1	1.1	51.4	頁岩	Ⅳ区①SD01第1層
282	58	46	SD66	砥石	7.3	5.4	1.4	60.8	頁岩	Ⅳ区①SD01東トレ，SD01東トレ第2層
283	58	46	SD66	砥石	15.7	7.0	2.6	372.4	泥岩	Ⅳ区①SD01第1層石組瓦・土器集中部
309	69	39	—	石鏃	2.5	2.0	0.4	1.2	サヌカイト	Ⅱ区①北側包含層掘削
310	69	39	—	石鏃	2.4	1.6	0.4	1.2	サヌカイト	Ⅱ区市道部分北側断面①包含層
311	69	39	—	石鏃	3.4	2.2	0.5	2.4	サヌカイト	Ⅱ区①包含層掘削

川西北・鍛冶屋遺跡石器観察表 (3)

報告番号	挿図番号	図版番号	報告書遺構名	器　　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材　　質	調査時遺構名
312	69	39	−	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.7	サヌカイト	不明
313	69	39	−	石鏃	1.3	1.5	0.2	0.4	サヌカイト	不明
314	69	42	−	横長剝片	5.2	2.7	0.8	8.9	サヌカイト	II区①西側花崗土より
315	69	40	−	小型打製石斧	3.0	2.9	1.0	9.1	サヌカイト	I区①飯野山側側溝
316	69	40	−	スクレイパー	4.7	4.1	0.9	14.7	サヌカイト	III区②B暗黄褐色灰色パサ土
317	69	40	−	スクレイパー	3.9	3.9	1.1	14.0	サヌカイト	III区③市道部分側溝掘
318	69	43	−	不明	2.3	1.1	1.0	2.8	チャート	II区①表採
319	69	43	−	不明	1.3	1.1	0.4	0.6	チャート	II区②ベタとり
320	69	43	−	不明	1.3	1.0	0.7	0.5	チャート	II区①北部市道部側溝掘り
321	69	43	−	横長削片	1.3	1.1	0.5	0.6	チャート	不明
322	69	43	−	不明	1.4	1.2	0.9	1.2	チャート	IV区②壁切り
323	69	43	−	不明	1.7	1.6	0.8	2.2	チャート	IV区①壁切り側溝掘
324	70	44	−	摩製石庖丁	12.1	5.1	1.0	80.8	安山岩	I区①機械掘削中包含層出土
325	70	45	−	砥石	13.5	5.2	4.6	450.5	頁岩	II区①西側花崗土から

川西北・鍛冶屋遺跡鉄器観察表

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	調査時遺構名
303	60	−	SR01	刀子	2.4	1.7	0.2	2.2	IV区①SR01（旧河道）

川西北・鍛冶屋遺跡木器観察表

報告番号	挿図番号	図版番号	報告遺構名	種類	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	木取り	調査時遺構名
43	12	−	B6・C5・C6 SX01	曲物	底板	8.0	3.3	5.5	3.2	柾目取り	II区①SX01土層観察用畦②南肩，⑧灰色砂質土層，⑨灰色粘質土層

川西北・鍛冶屋遺跡土坑一覧表

報告遺構名	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	調査時遺構名
A1 SK01	1.63	1.45	0.88	土小片2,須杯蓋1,陶（皿1,色絵碗1),磁白磁碗1・壺1	I区①SK01
A1 SK02	2.20	2.00	0.64	土釜3・ほうろく1・大甕1・小片5,須甕1・高台杯1,陶（備前擂鉢1,灰釉蓋1・碗1,鉄絵徳利1,鉄釉灰釉碗1,緑色釉1,褐釉1),磁（染付碗6・徳利2・小片1,白磁壺1),瓦平瓦1・丸瓦1,石剝片1,ガラス2	I区①SK02
B1 SK03	1.63	1.44	0.76	土ほうろく2・大甕15,須小片1,瓦平瓦3,陶（唐津刷毛目鉢1,黄釉鉢1,備前甕1,褐釉小壺1・壺1,色絵碗1,灰釉碗1),磁(染付皿2・椀1・蓋1・小皿1,白磁椀1・小椀1),石安山岩5,貝2,木1	I区①SK03
C5 SK04	1.40	1.32	0.48	須小片1	I区②北 SK01
C5 SK05	1.44	1.30	0.58	土ほうろく1・小片1,須甕1	I区②北 SK02
C5 SK06	3.64	−	1.16	陶京焼風陶器1,磁染付2	I区②SK03
B6 SK07	2.60	0.85	0.50	−	II区①SK02
C6 SK08	0.59	0.45	0.40	−	II区①SK03
E6 SK09	1.78	1.22	0.58	−	II区③SK01
F9 SK10	1.30	1.12	0.99	土小片1,石砂岩2	III区①SK02
E10 SK11	0.96	0.53	0.10	弥小片3,須提瓶1	III区①SK01
G13 SK12	0.79	−	0.45	−	−
G14 SK13	1.00	0.87	0.38	土小片1・大甕1,陶（鉄釉灯明皿1,小片1),磁（染付碗2・徳利1,白磁碗1),瓦平瓦5	IV区①SK05
G14 SK14	0.78	0.78	0.22	土ほうろく1・小片2・大甕1,陶備前擂鉢1,磁染付碗1,瓦平瓦3,石剝片1	IV区①SK06
G14 SK15	2.70	1.70	0.17	土皿杯1・擂鉢1・大甕1・小片2,西碗1	IV区①SK04
G14 SK16	0.53	−	0.16	土ほうろく3・大甕1・小片29	IV区①SK07
G14 SK17	1.54	1.42	0.29	土皿杯4・小片11,須杯1,陶備前皿1,瓦丸瓦1・平瓦1	IV区①SK08
G14 SK18	1.62	1.40	−	土鉢9・大甕4・ほうろく45・小片17,須小片1,陶（唐津刷毛目碗1・灰釉皿1,備前擂鉢3,京焼風碗1,褐釉壺1,黄釉碗2,無釉鉢1,灰釉皿1,染付碗7,鉄釉灯明皿1・瓶1・壺1,青緑釉皿1,褐釉灰釉碗1,褐釉瓶1,灰釉碗2,小片13),磁白磁杯1,瓦丸瓦7・平瓦23,石礫2	IV区①SK02
G14 SK19	1.60	1.52	1.04	土皿1・鉢2・ほうろく11・羽釜1・大甕3・小片6,陶（唐津刷毛目碗1,備前擂鉢2,染付碗2,灰釉碗1,褐釉壺1),磁染付碗1・徳利1,瓦平瓦5・軒丸1・丸瓦1	IV区①SK01
H14 SK20	0.94	0.61	0.28	土小片3	IV区①SK03
I14 SK21	1.19	−	0.35	瓦平瓦2	IV区②SK01
I14 SK22	−	−	−	土鉢2・壺1・大甕12・小片2,陶（備前杯1・火入れ1・擂鉢6・甕2,鉄釉甕3,灰釉壺1・碗1,染付碗3),磁（白磁徳利1,染付皿3,碗12),瓦丸瓦1・平瓦10	IV区②SK02
G15 H15 SK23	−	−	−	−	−
H15 SK24	1.34	1.07	0.21	土杯3・小片5,鉄不明4	IV区②SK03
H15 SK25	0.68	0.63	0.29	土杯1・釜1・小片1,須甕1	IV区②SK05
H15 SK26	0.76	0.70	0.31	土ほうろく1・小片1,磁白磁壺1	IV区②SK04
H15 SK27	1.44	1.36	0.39	土釜1・小片5,陶（灰釉皿1,備前焼1)	IV区②SK06
H15 SK28	−	1.52	0.46	土杯1・小片2・土釜1,陶（唐津刷毛目鉢1,灰釉碗1)	IV区②SK07
H15 SK29	−	−	−	土杯1・小片1	IV区②SK08
H15 SK30	0.68	0.56	0.15	土大甕3	IV区②SK09

川西北・鍛冶屋遺跡遺構出土遺物一覧 (1)

報告遺構名	調査時遺構名	出　土　遺　物
H14SB02	Ⅳ区①SB01土釜ピット	土釜1
H15SB03SP35	Ⅳ区②SP35	土鉢1
H15SB04SP81	Ⅳ区②SP81	土杯1・小片1
H15SB05SP52	Ⅳ区②SP52	石石鏃1,骨片2
H15SB05SP53	Ⅳ区②SP53	土大甕1・小片1
H15SB06SP57	Ⅳ区②SP57	土小片1
G14SP01	Ⅳ区①SK01内のピット	土ほうろく5,石剝片1
H15SP05	Ⅳ区②SP05	土小片1
H15SP18・19	Ⅳ区②SP18・19	陶灰釉皿1
H15SP30	Ⅳ区②SP30	土杯2
H15SP58	Ⅳ区②SP58	土甕1・小片1
H15SP59	Ⅳ区②SP59	土皿1
H15SP86	Ⅳ区②SP86	土皿杯1
H15SP90	Ⅳ区②SP90	土杯7
C5SE01	Ⅱ区①SE01	土大甕2・小片1,陶灰釉皿1・椀1,磁白磁皿1・椀1,瓦平瓦2,木片3
E6SE02	Ⅱ区③SE01	土大甕1・小片2,陶(唐津刷毛目碗1・壺1,染付碗1・小片2),磁(青磁1,染付碗2,鉄絵1),瓦平瓦3
B6C5C6 SX01	Ⅱ区①SX01	弥小片1,土皿1・杯17・皿杯8・鉢1・擂鉢2・土釜14・甕2・大甕1・小片1袋,須杯2・高杯1・杯蓋21・提瓶1・横瓶1・壺3・甕2袋・小片1袋,黒A碗1,陶(備前焼小片1,黄色釉小片1),瓦平瓦2・丸瓦1,石砂岩スクレイパー1
B6・C5・C6 SX01,SD13	Ⅱ区①SX01,SD14	土小片6,須甕5
H14SX02	Ⅳ区①SX01	土大甕8・鉢105・擂鉢2・皿杯2・ほうろく110・釜5・小片84,須甕2,陶(染付碗5,鉄釉甕4,鉄絵1,唐津刷毛目壺3・鉢2,褐釉壺1,京焼風碗1,黄色釉壺4,備前壺1・小片4),磁(染付碗2・皿1,白磁壺1・碗2・小片2,青磁香炉1),瓦軒丸1・平瓦25・丸瓦4
SD01	Ⅰ区①SD01	土皿杯1・鉢17・釜12・鍋3・羽釜4・ほうろく19・竈2・大甕7・小片1袋,須杯1・甕5,陶(緑彩碗2,唐津刷毛目鉢6・碗2・壺1,染付13,青緑釉皿3,備前擂鉢11・火入れ2・皿1・灯明皿1・甕2,京焼風碗1,黄色釉鉢1・碗7,紺色釉皿1,鉄絵碗5,鉄釉徳利1・杯1・鉢1・小片1,鉄塗4,黒色釉碗1,黒色釉灰色釉碗4,緑色釉瓶1,灰釉皿2・碗1,色絵1,小片10),磁(染付碗45・皿11・大皿4・杯2・徳利15・小片4,白磁皿5・椀2・徳利1・壺2・置物3・小片1,中国産白磁Ⅸ類杯1,青磁皿2,青磁染付碗3,色絵碗2),瓦1箱,石塊29・剝片2・珪化木1・結晶片岩1・チャート剝片5,ガラス4,銅製キセル2,木片
SD01・SD02	Ⅰ区①SD01・02トレンチ	土小片14・鉢1,須小片1・甕1,陶(染付香炉1,青緑釉皿1,京焼風1・小片1),磁(青磁香炉1,染付碗1・杯2),軒丸瓦1・石剝片1
SD02	Ⅰ区①SD02	土土錘1・大甕5・釜8・鍋1・鉢3・小片29・擂鉢2・皿5・ほうろく13,須壺1,陶(備前擂鉢5,唐津刷毛目鉢1,京焼風4,青緑釉皿1,染付碗3,黒釉灰釉1,鉄絵碗1・碗2),磁(染付皿3・碗12・杯2・壺1・小片5,白磁2,青磁1,青磁染付2),瓦丸瓦22・平瓦45・軒丸1・さん瓦1,石チャート剝片2・剝片6
SD03	Ⅰ区③SD03	土小片6,須壺1・甕1
SD03	Ⅰ区①SD03	土皿1・杯6・小片13,須高杯1,鉄釘1
SD03,06	Ⅱ区②SD01	弥小片23,土皿杯1・土釜1・小片14,須壺1,西碗1,石横長剝片1・剝片1
SD04	Ⅰ区①SD04	土杯2
SD05	Ⅰ区①SD05	弥小片14,陶小片1,石石鏃1
SD06	Ⅱ区③SD18	土小片1,須小片1
SD06	Ⅰ区③SD04	土小片2
SD06	Ⅰ区②SD04	弥小片3
SD06	Ⅰ区①SD06	土杯3・碗2・鍋1・小片3,須杯1
SD07	Ⅰ区①SD07	須甕1
SD08	Ⅰ区①SD08	土杯1
SD09	Ⅰ区①SD09	土杯1

川西北・鍛冶屋遺跡遺構出土遺物一覧 (2)

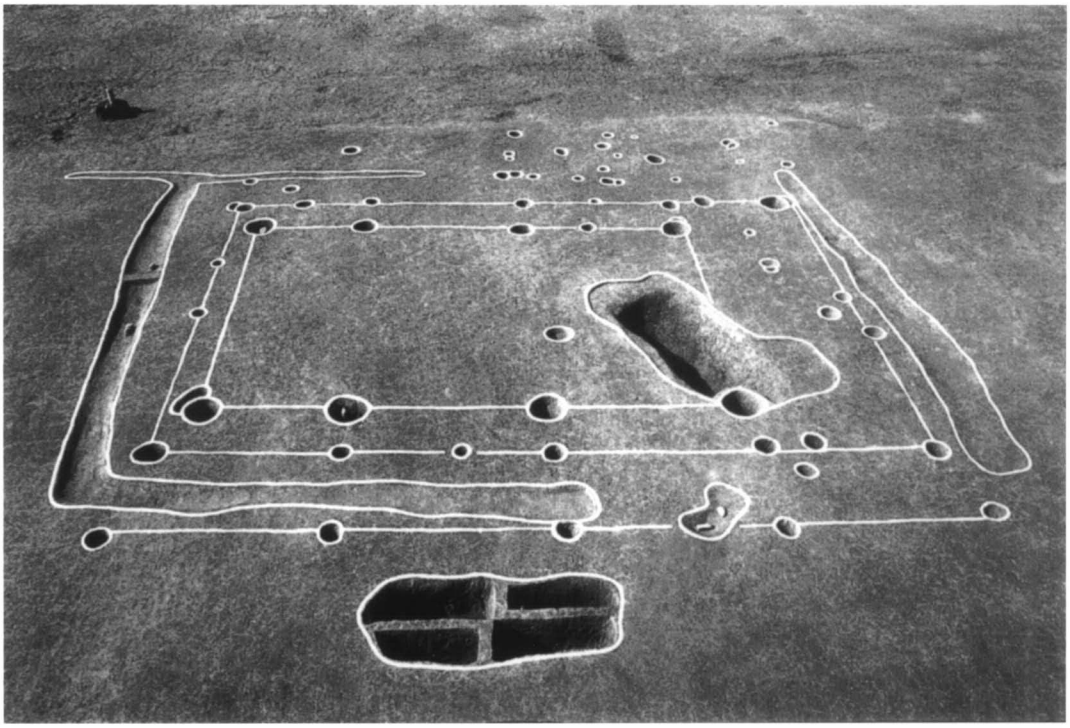
報告遺構名	調査時遺構名	出　土　遺　物
SD11	I区②SD01	土杯35・皿杯1袋・皿1・釜1・羽釜2・釜鍋1袋・甕1・土錘1・小片7,須杯20・台杯2・杯蓋2・壺4・甕13,黒A碗6,磁白磁碗1,石剝片1・石鏃4,骨18
SD12	II区③SD21	土小片7,石剝片1
SD12	I区②SD02	土小片14,磁白磁小片1,石石鏃2
SD13	II区①SD05	須甕1・横瓶1
SD13	II区③SD23	須平瓶1(SX01出土のものと接合)
SD13	II区①SD14	弥小片2,須壺1・小片1
SD16	II区③SD29	石石鏃1
SD18	II区①SD04	弥小片16,須壺1・杯1
SD21	II区③SD17	土皿杯1・釜1,須杯蓋,緑釉陶器1
SD22	II区①SD15	土皿杯1・小片9,須杯蓋2・甕2
SD29	II区①SD07	須杯1
SD31	II区③SD07	石剝片1
SD33	II区②SD08	土小片1
SD34	II区②SD06	石石鏃1
SD38	II区③SD03	弥小片1
SD38	II区③SD24	土杯1,石剝片1
SD39	II区②SD25	土小片1
SD40	II区②SD05	土小片1,須台杯1・甕1,石剝片1
SD41	II区②SD04	弥小片2,土小片40,須甕1,瓦質2,石石鏃1・剝片3
SD41	II区③SD26	土小片1
SD42	II区③SD02	スレート,平瓦2(現代の撹乱部分よりの出土と考えられる)
SD44	II区③SD10	弥小片4
SD47	III区①SD08	弥小片28,土高杯1・小片1,須提瓶1・甕4,陶小片1
SD50	III区①SD01,SD12,SD04	弥甕1,石スクレイパー1
SD53	III区①SD03	石剝片2
SD55	III区①SD04	弥小片41,須杯1・壺1・提瓶1・甕3,石剝片3・石鏃1
SD56	III区①SD12	弥小片48,須杯1・高杯1・甕1・甕16,石剝片4
SD59	III区②SD02	弥小片4
SD61	III区②SD05	弥小片14,須杯1・甕11,石結晶片岩柱状片刃石斧1・スクレイパー1・剝片8・泥岩砥石1・安山岩砥石1
SD62	III区②SD04	弥壺1・甕1・小片13,須横瓶1・小片1,石石鏃3・剝片6・塊1
SD62	III区③SD02	弥小片1,須甕1,石スクレイパー2
SD66	IV区①SD01	弥壺1,土杯7・ほうろく20・土釜8・擂鉢4・羽釜1・大甕4・小片76・皿2・鉢2・釜鍋4,須甕4,陶(唐津刷毛目鉢4・碗2,備前小皿1・瓶2・小壺1・灯明皿1・擂鉢3・甕3・壺2,灰釉皿3・壺1,褐釉瓶1・小片1,京焼風碗2,青緑釉皿2,染付碗1,灰釉鉄絵皿1,褐釉灰釉碗1,鉄釉瓶1),磁(白磁瓶1・皿1,染付碗5・瓶1,青磁染付碗1),瓦平瓦183・丸瓦93・軒平瓦8・軒丸瓦15,石砥石2・剝片1・泥岩砥石1・粘板岩砥石2・安山岩礫1・剝片1・凝灰岩質流紋岩砥石1,焼土塊17,青銅キセル1
SD69	IV区①SD02	土杯2・皿杯4・鉢7・羽釜1・擂鉢1・ほうろく15・大甕10・小片43,須甕1,陶(唐津刷毛目鉢2,備前灯明皿1・壺1・小片1,灰釉碗2・壺1・小片1,染付1),磁(染付碗2・鉢1・大皿1),瓦丸瓦54・平瓦40・軒丸1,鉄滓1,青銅キセル1
SD70	IV区②SD01	土杯3・釜1・釜鍋7・かまど1・小片26,須杯7・杯蓋4・壺7・甕40,石石鏃1・スクレイパー1
SR01	IV区①SR01	弥小片5,土皿1・杯26・皿杯3・鉢7・擂鉢3・鍋6・釜31・鍋釜2・大甕1・小片172,須杯蓋2・鉢1・壺1・甕9・小片4,陶(備前甕6・擂鉢5,唐津刷毛目碗2・緑溝皿2,灰釉碗5,鉄釉皿1・瓶1・小片1,天目碗1,京焼風碗1,染付碗1),磁(白磁皿1・碗2,中国産白磁皿1,染付杯1・碗5,赤絵碗1),緑近江産碗1,瓦平瓦14・丸瓦10,石剝片4,鉄刀子1・釘1・不明1,鉄滓1,骨1

図　版

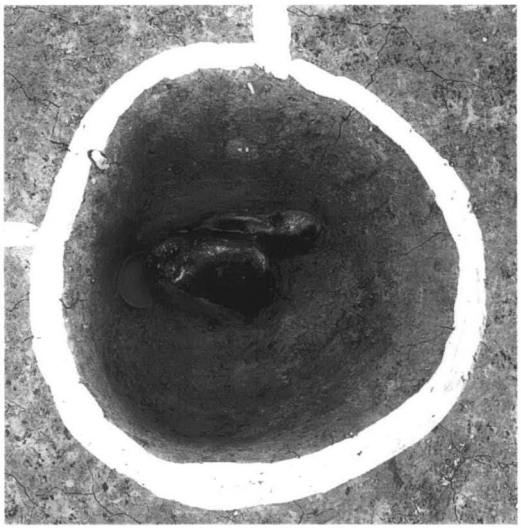
川西北・七条Ⅱ遺跡

（1）調査区全景（西より）

（2）調査区全景（南より）

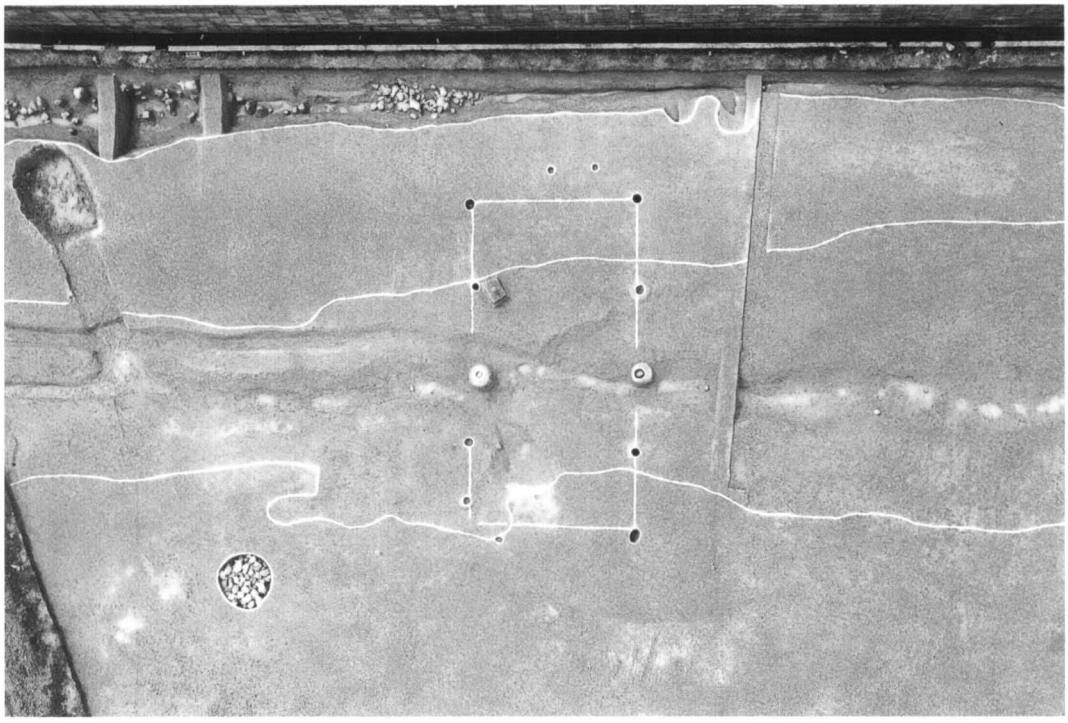


（1）Ⅱ区ＳＢ０１・ＳＴ０１ 検出状況（南より）

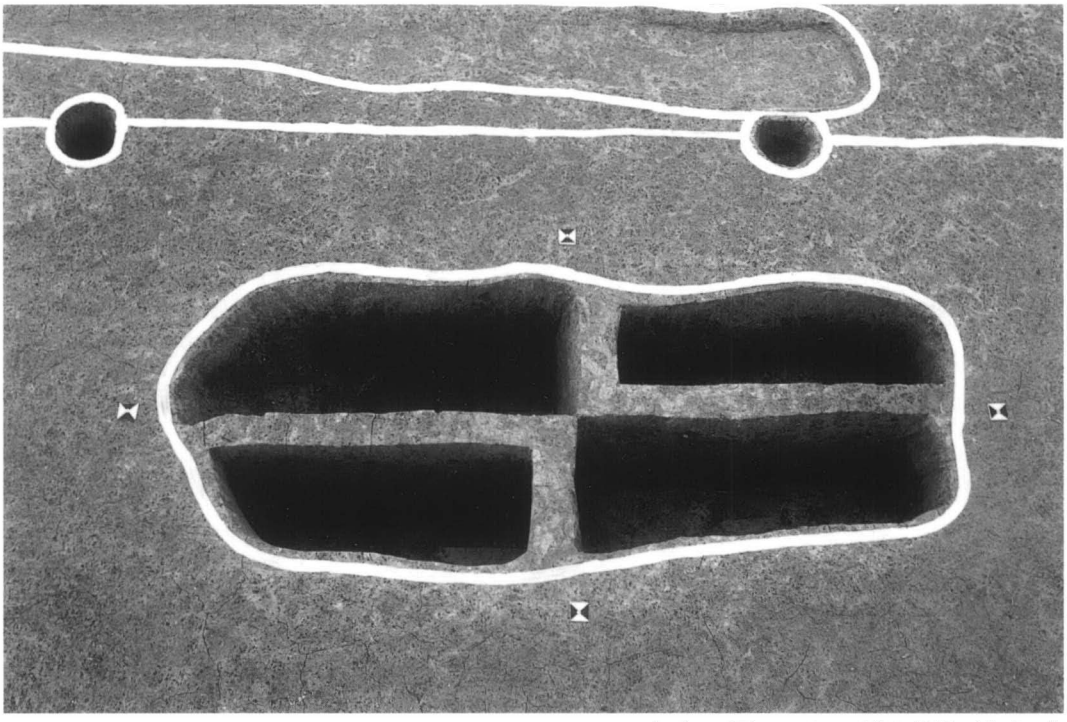


（2）Ⅱ区ＳＢ０１柱穴 遺物出土状況①

（3）Ⅱ区ＳＢ０１柱穴 遺物出土状況②



（1） Ⅰ区 遺構検出状況（真上より）



（2） Ⅱ区ＳＴ０１ 検出状況（南より）

（1）Ⅰ区ＳＫ０１　出土状況

（2）Ⅱ区ＳＤ０５　馬骨出土状況

（1）Ⅱ区ＳＤ０７　検出状況（北より）

（2）Ⅱ区ＳＤ０７　検出状況（南より）

（1）Ⅱ区ＳＤ０７　検出状況（近景）

（2）Ⅱ区ＳＤ０７　検出状況（北より）

（1）Ⅱ区ＳＤ０７ 検出状況（北より）

（2）Ⅱ区ＳＤ０７ 土層断面

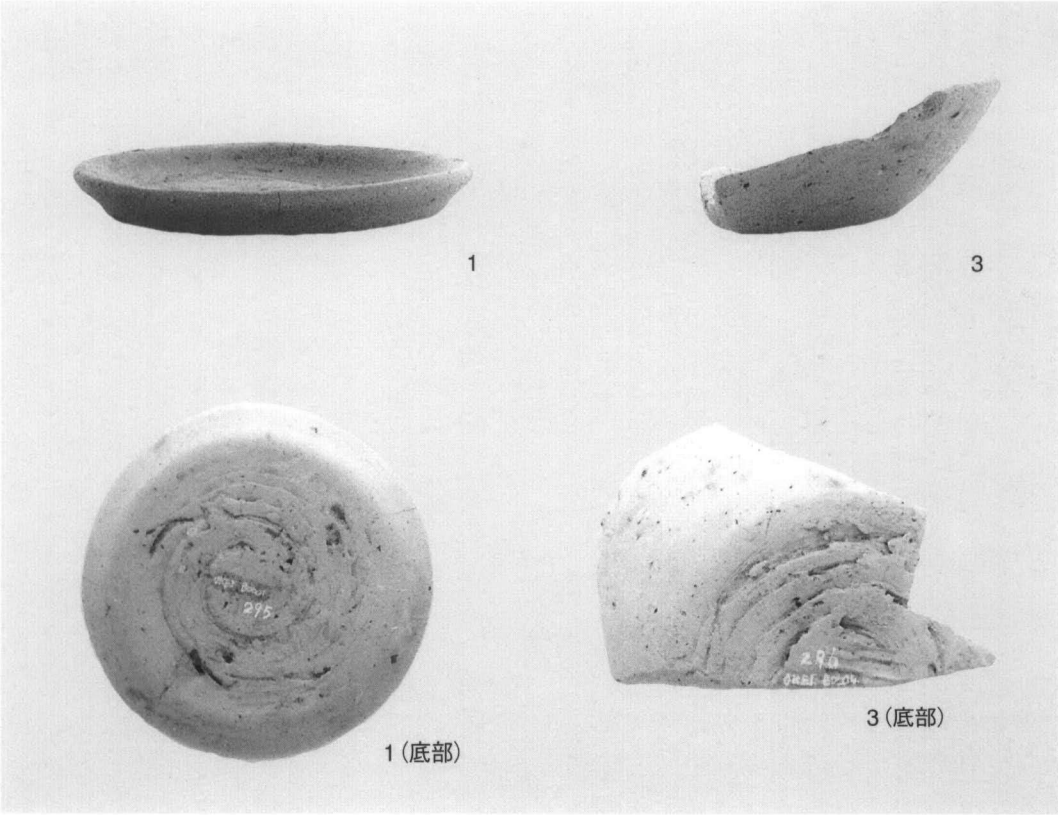
（1） Ⅰ区 遺構検出状況（南より）

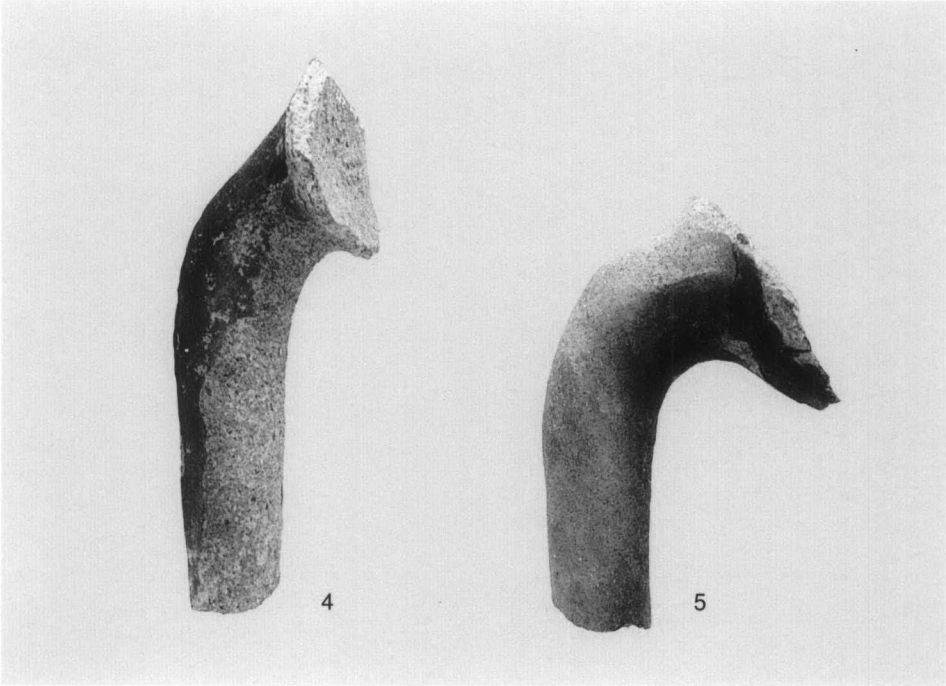
（2） Ⅰ区ＳＤ１１ 土層断面

（1）Ⅰ区ＳＤ１３ 土層断面

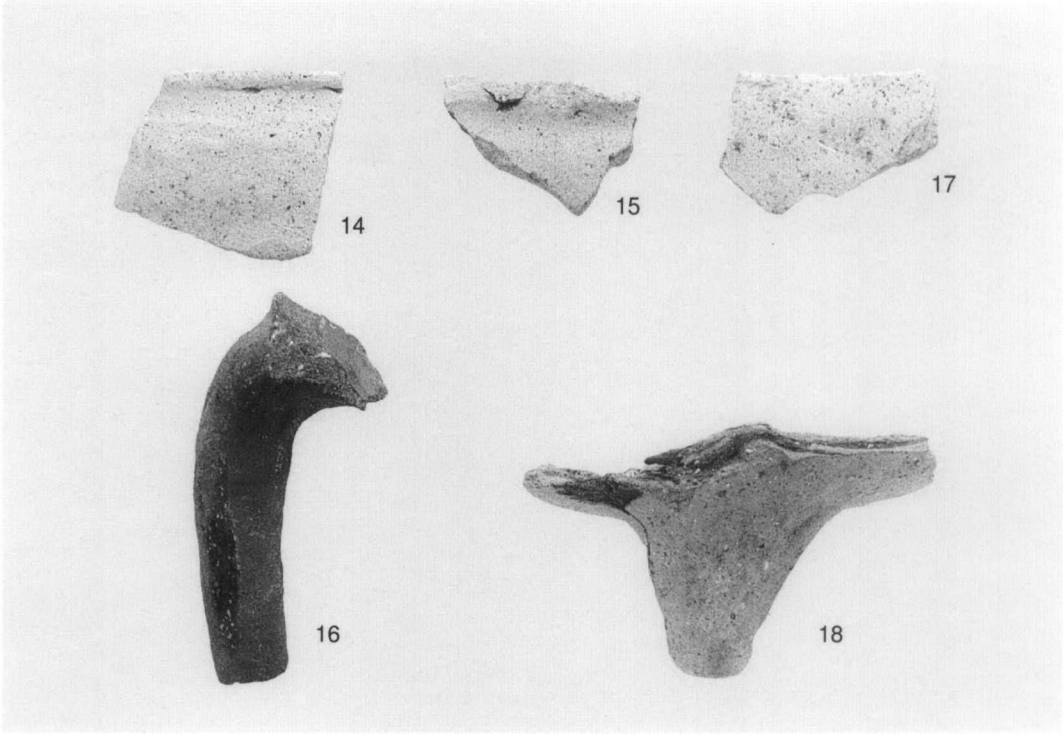
（2）Ⅰ区ＳＤ１４ 土層断面

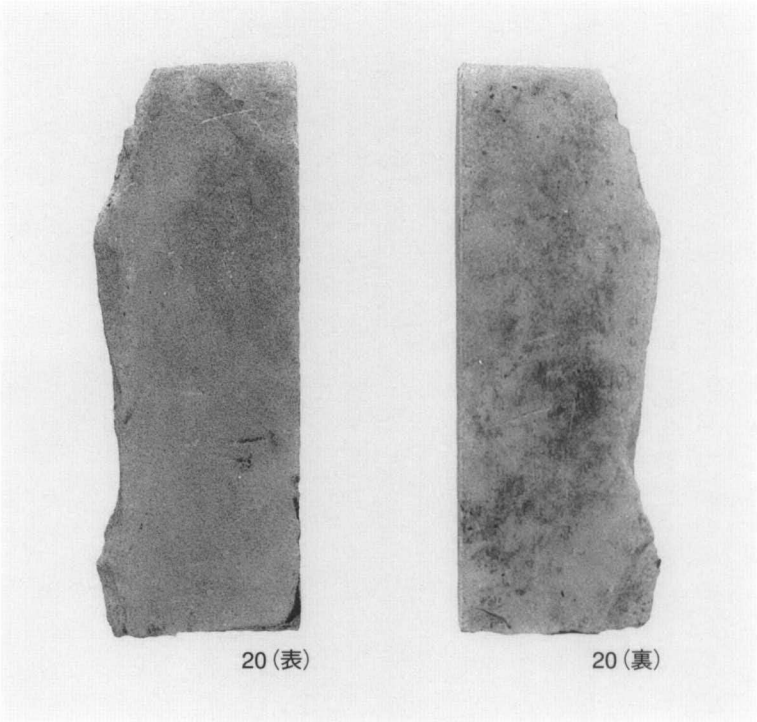
（1）Ⅰ区ＳＤ１４ 検出状況（近景）



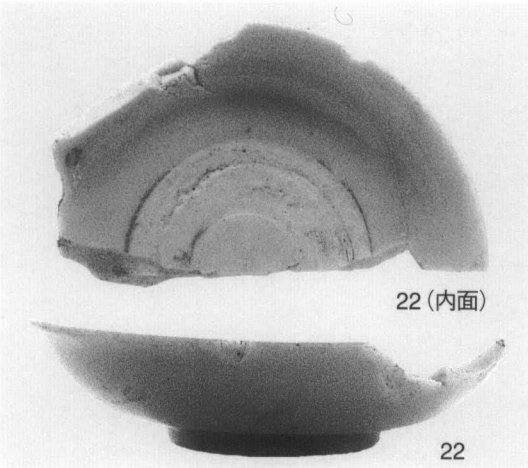


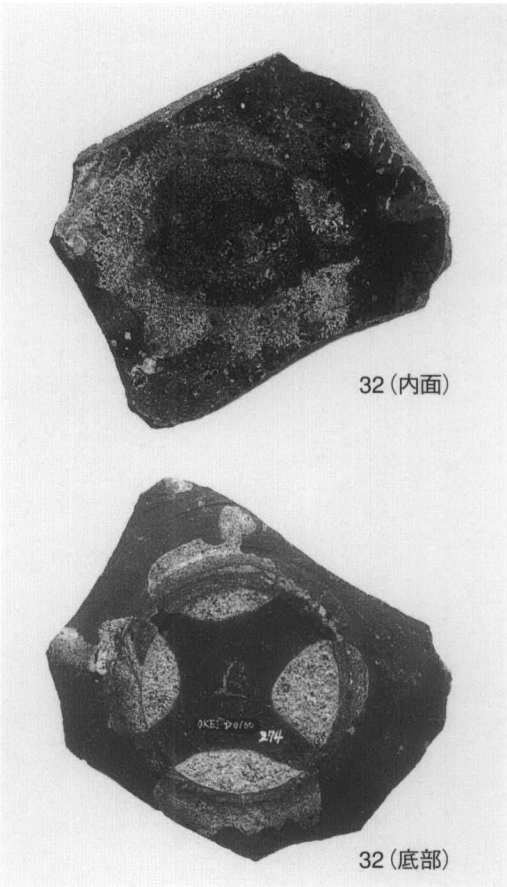
ＳＢ０１　出土遺物

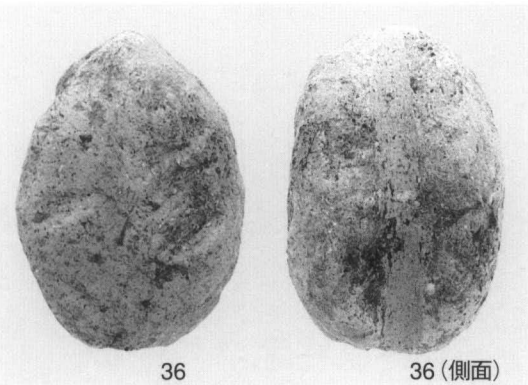


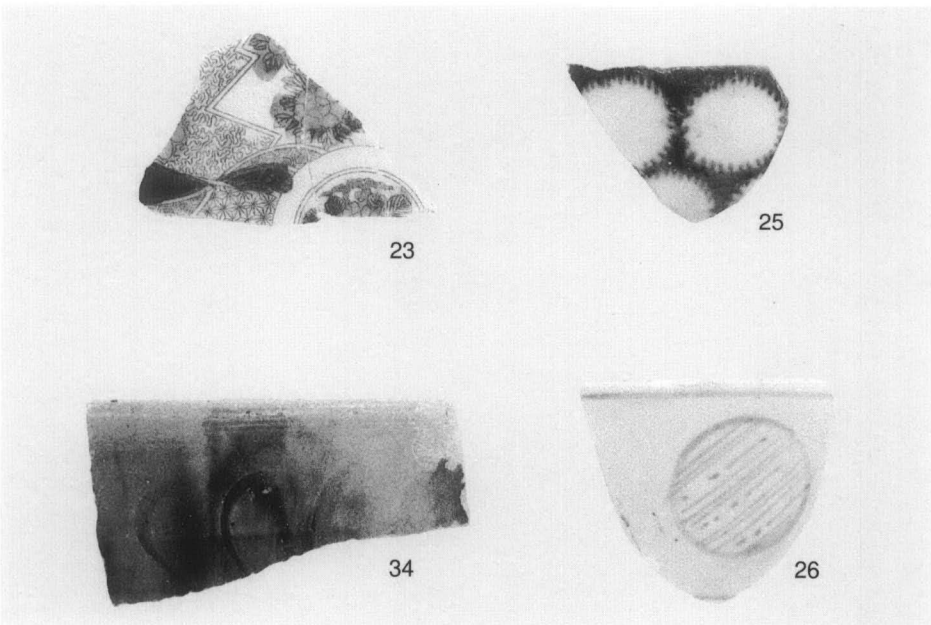


ＳＤ０１　出土遺物

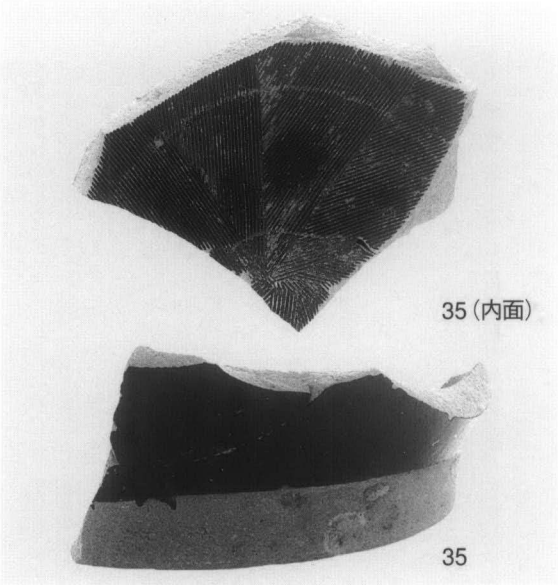




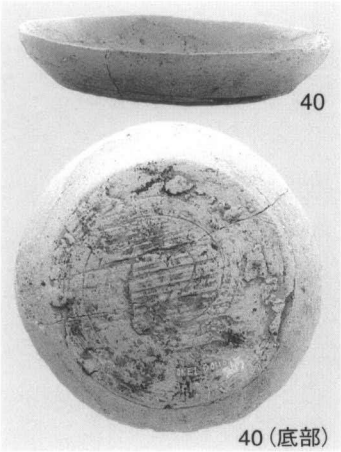


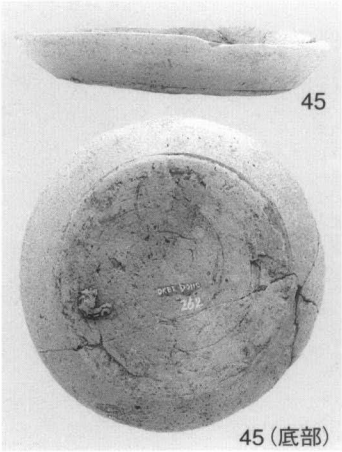


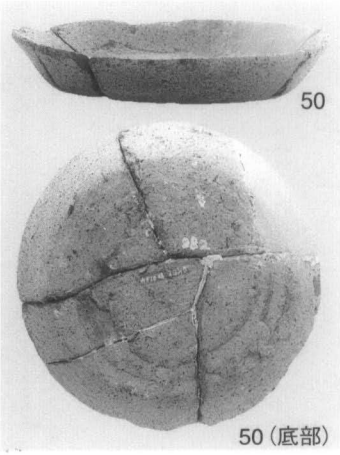
ＳＤ０４　出土遺物

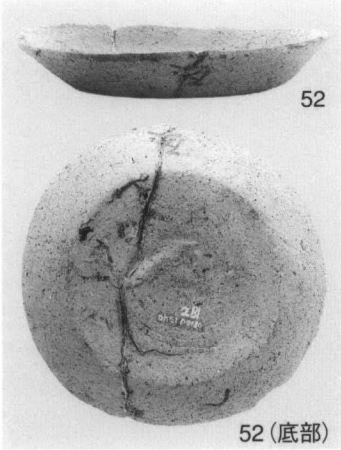


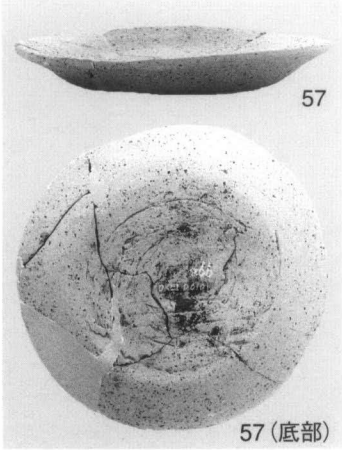
（1）ＳＤ０４　出土遺物



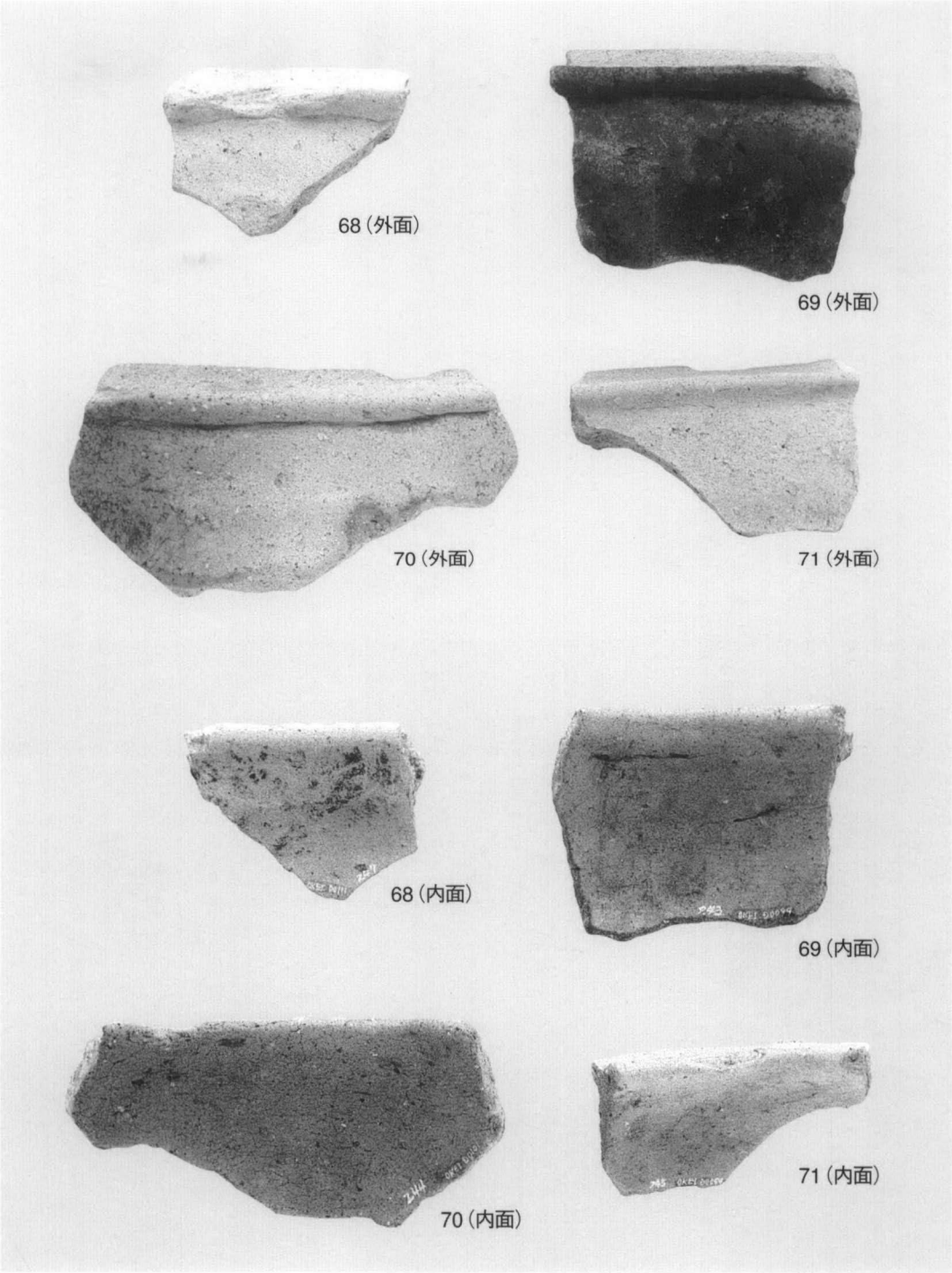




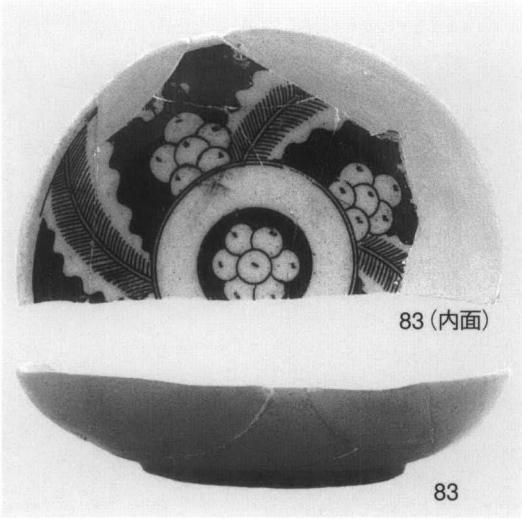


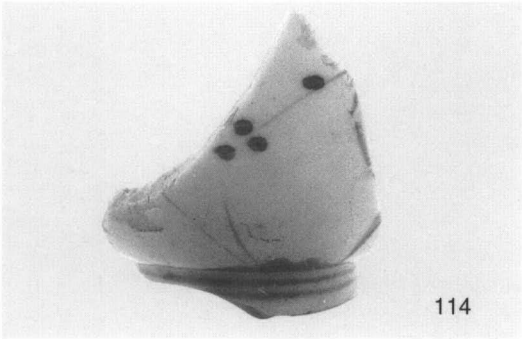


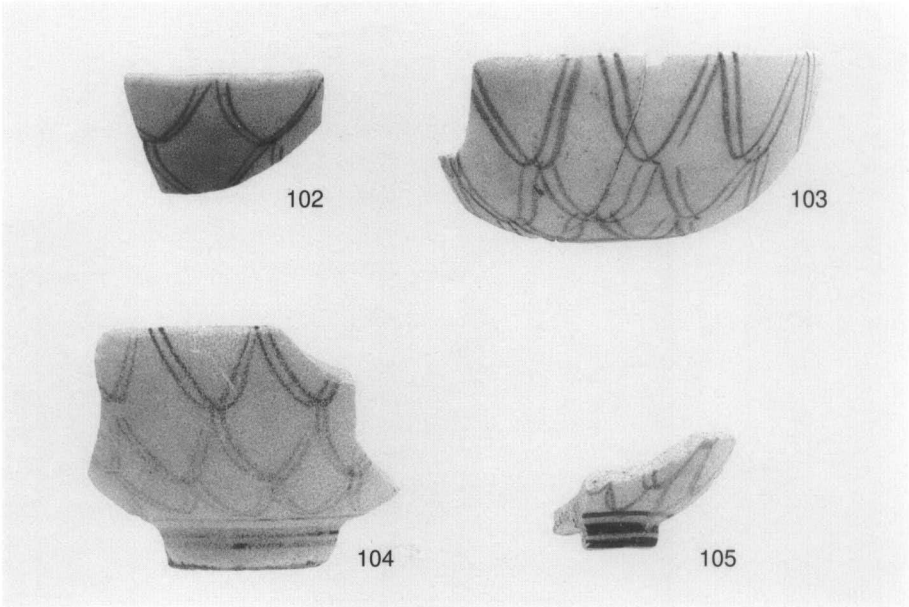
（2）ＳＤ０５　出土遺物



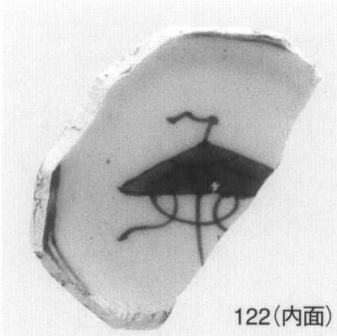
ＳＤ０５　出土遺物

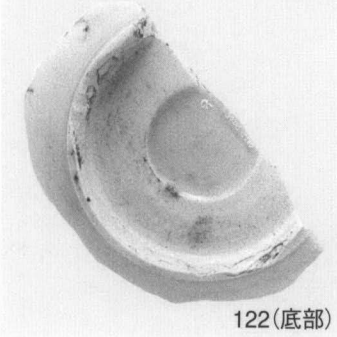


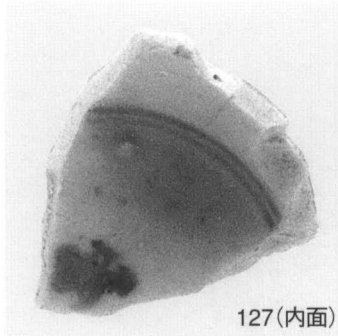


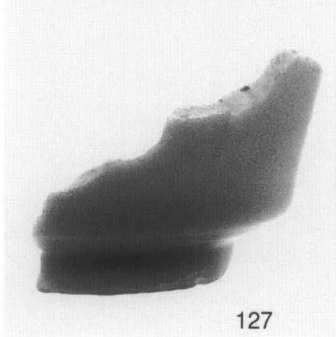


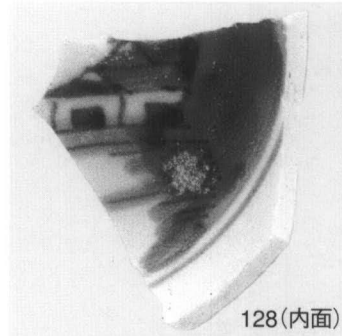
ＳＤ０７　上層出土遺物①


122（内面）

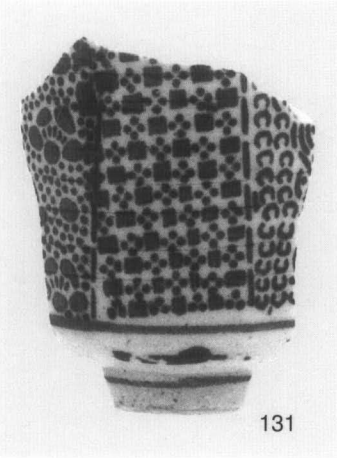

122（底部）

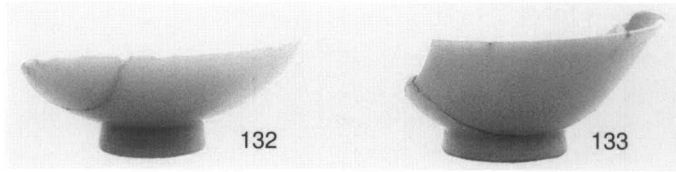

127（内面）

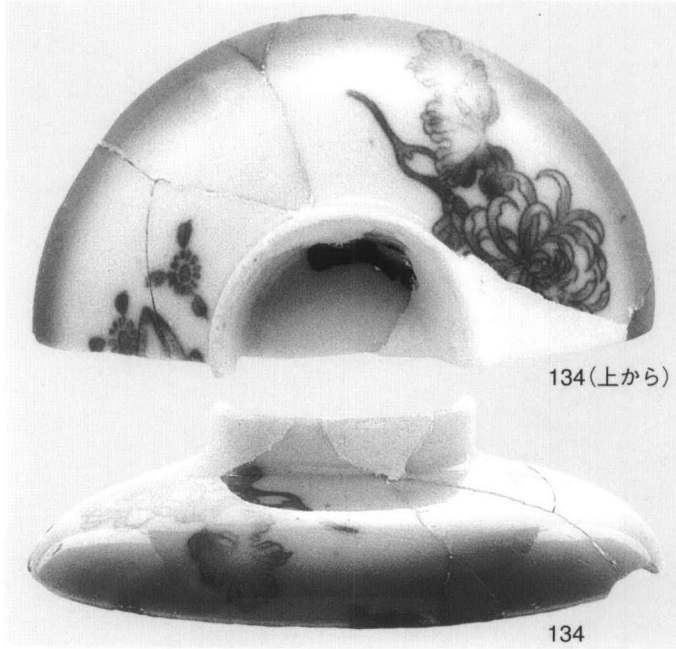

127


128（内面）

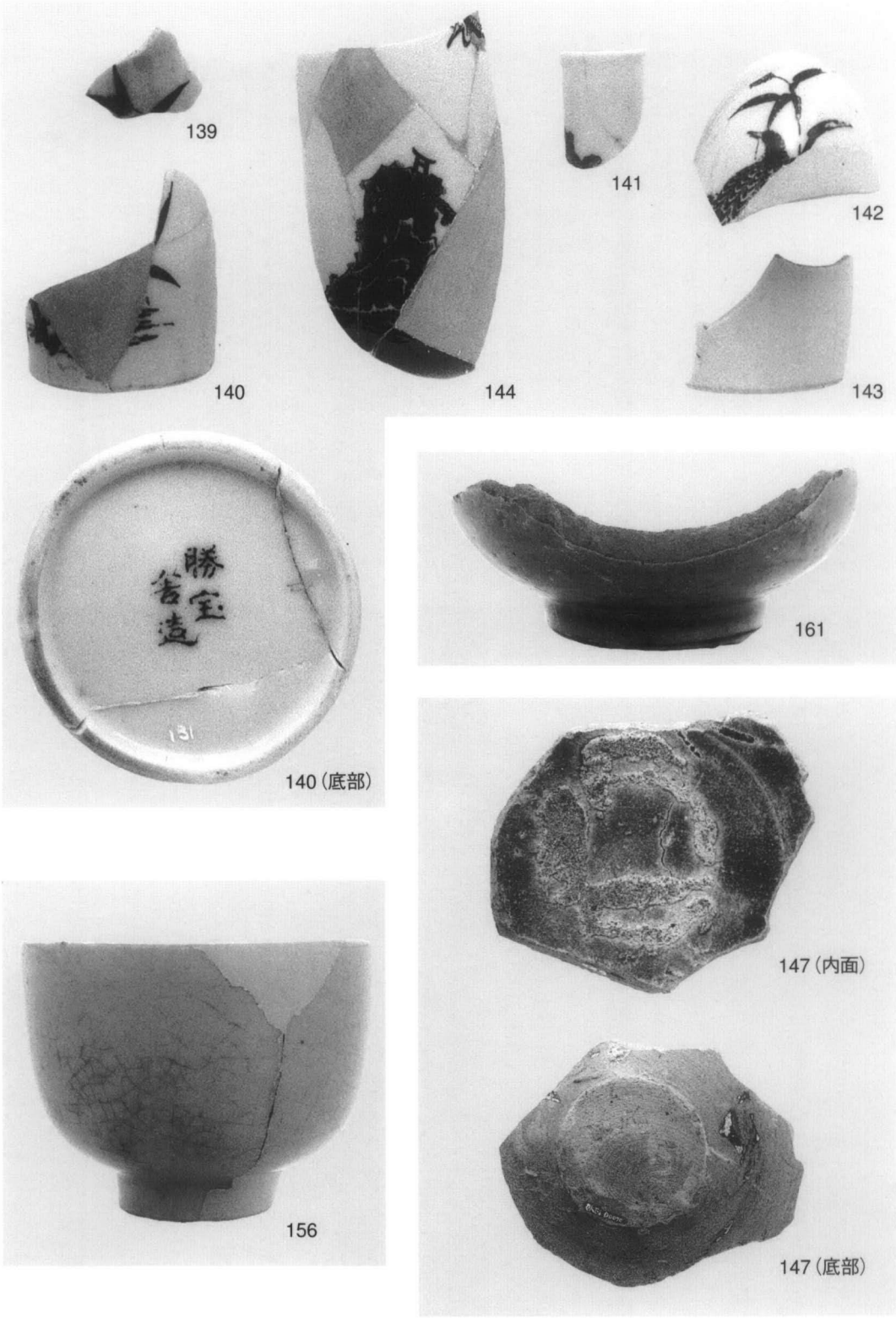
128（底部）


131

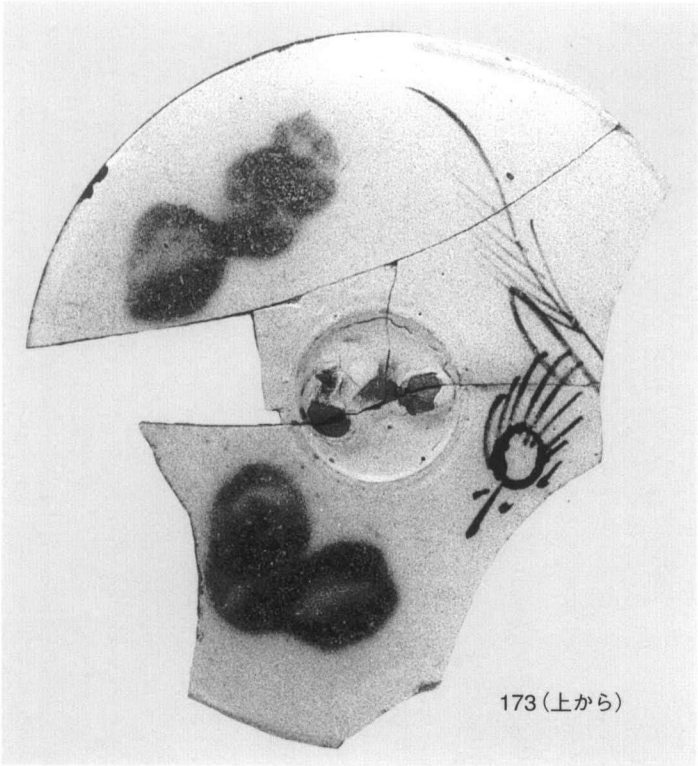

132　133

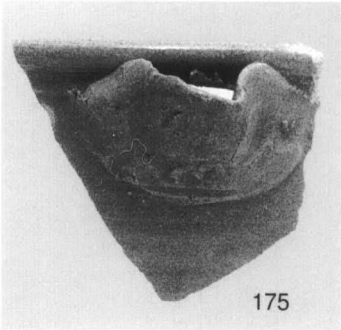

134（上から）
134

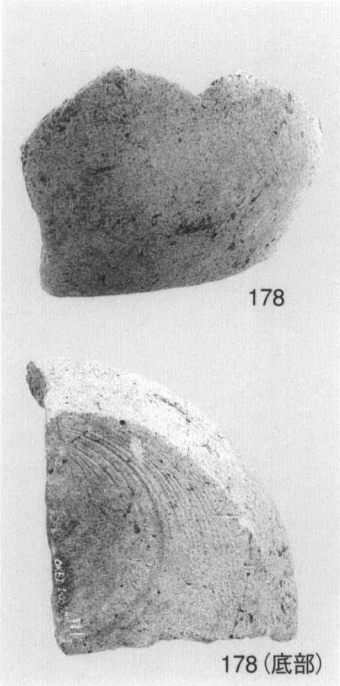
ＳＤ０７　上層出土遺物②



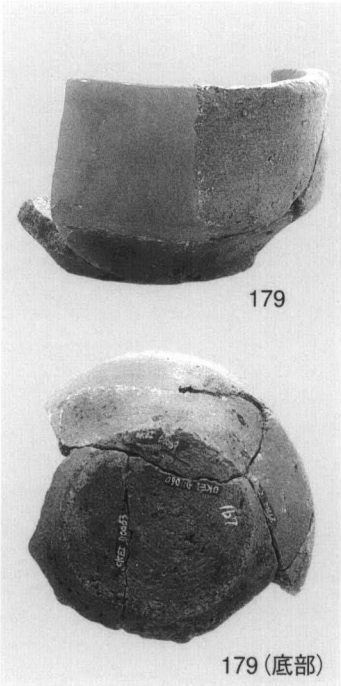
ＳＤ０７　上層出土遺物③


173（上から）

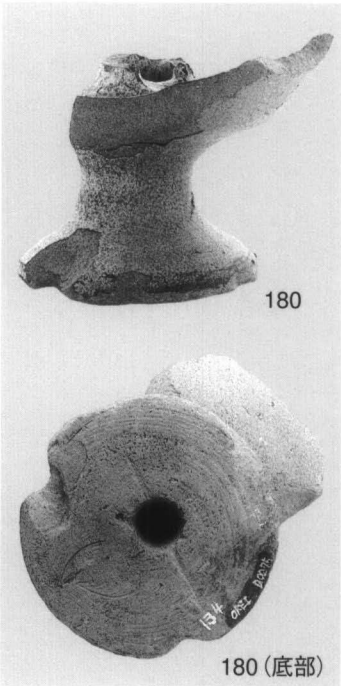

175


178

178（底部）

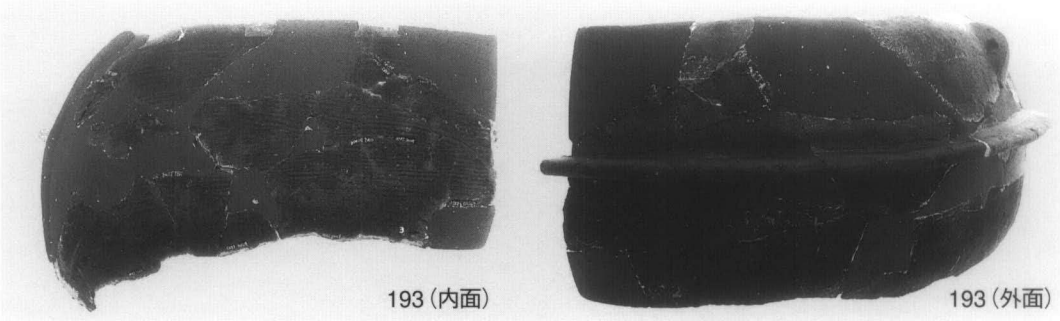

179

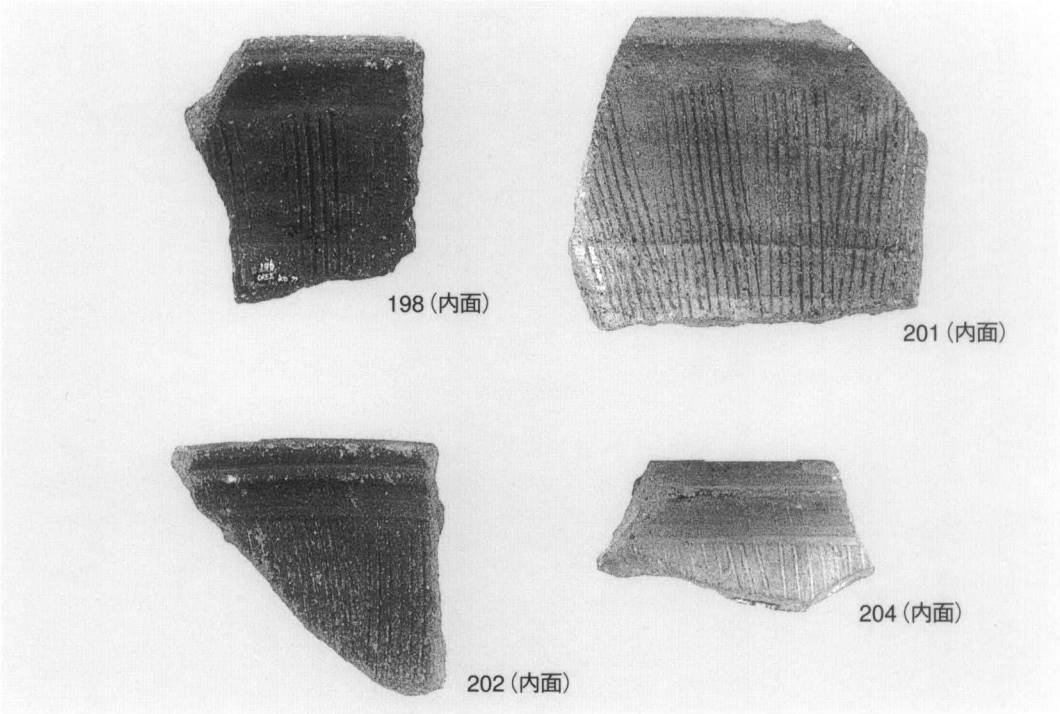
179（底部）

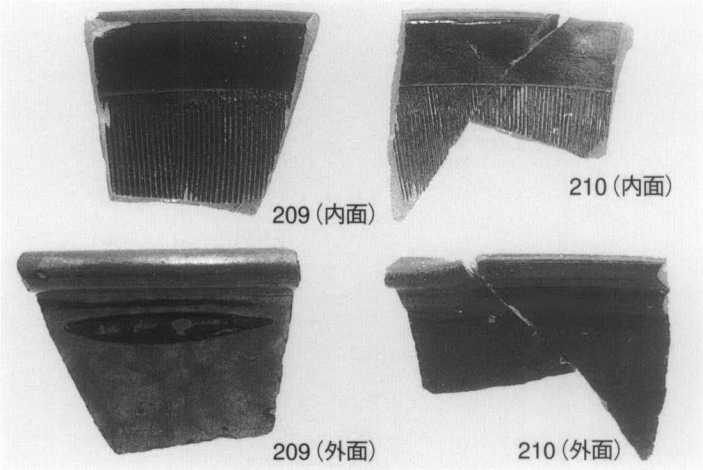

180

180（底部）

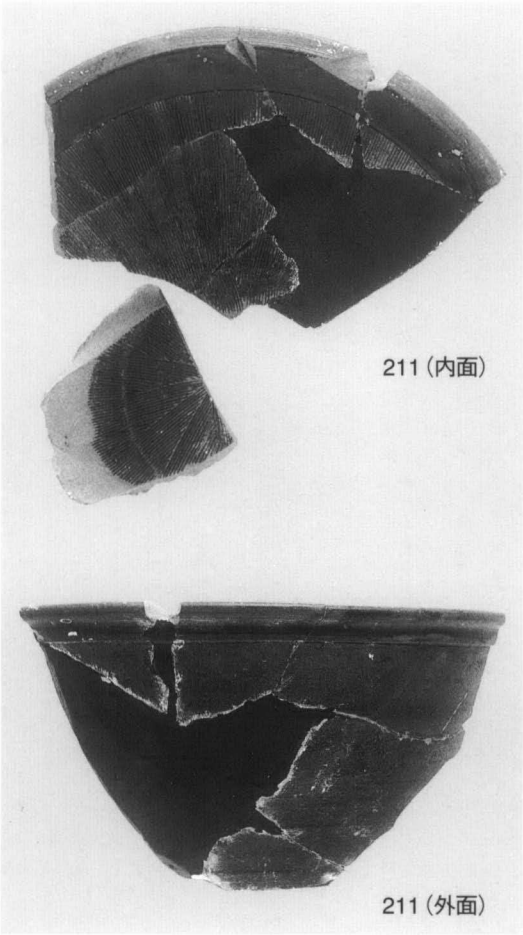
ＳＤ０７　上層出土遺物④

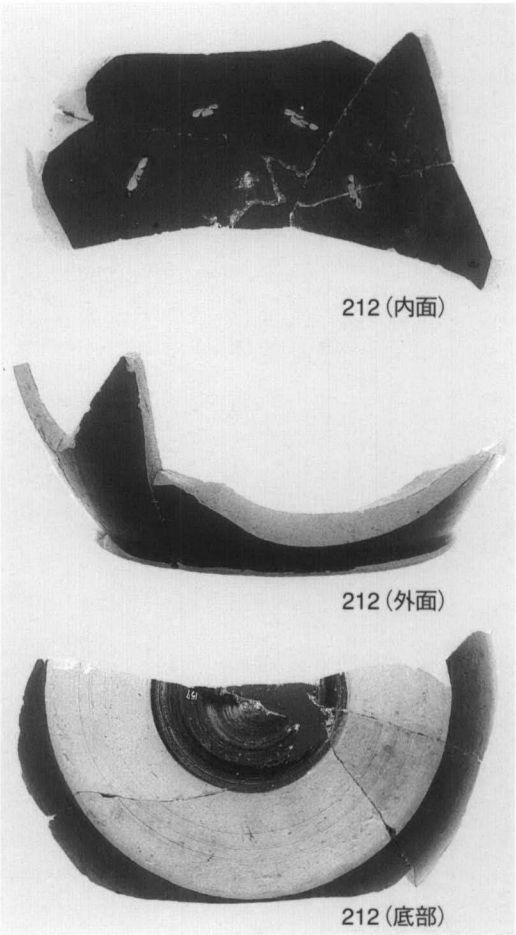




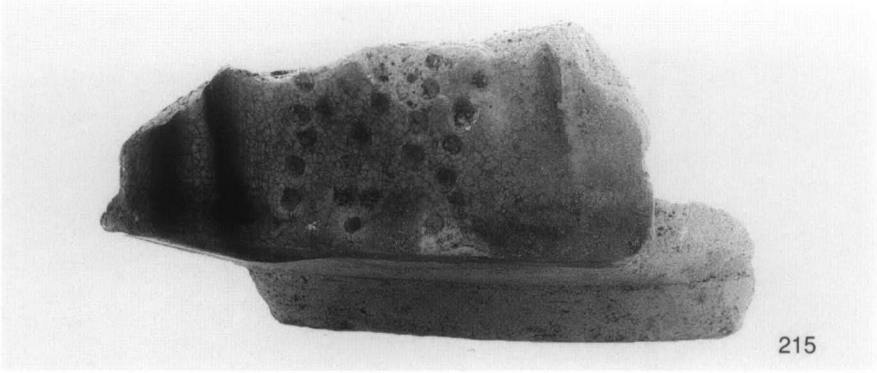


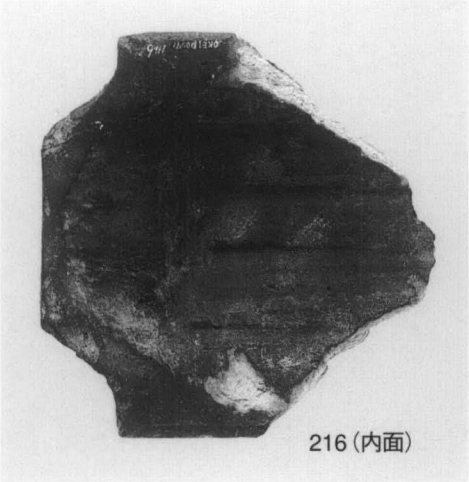
ＳＤ０７　上層出土遺物⑤



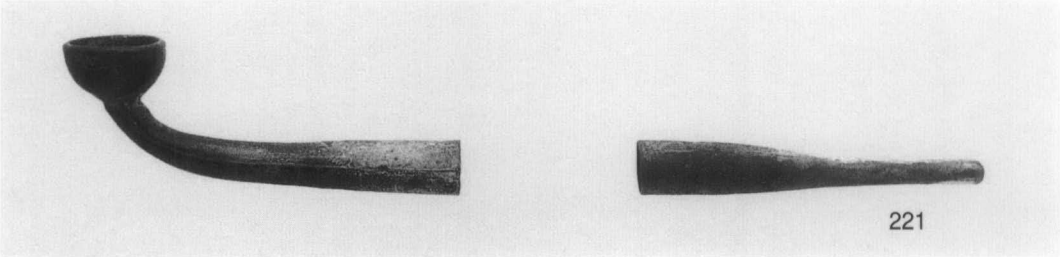


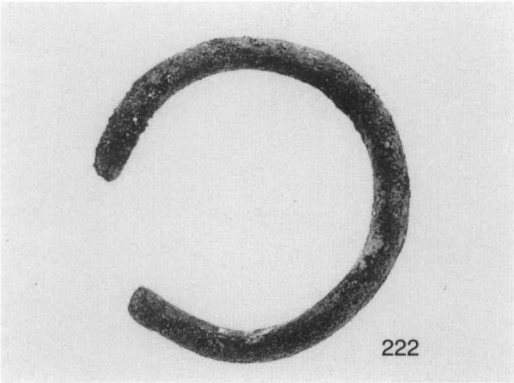
ＳＤ０７　上層出土遺物⑥


215


216（内面）

217（内面）

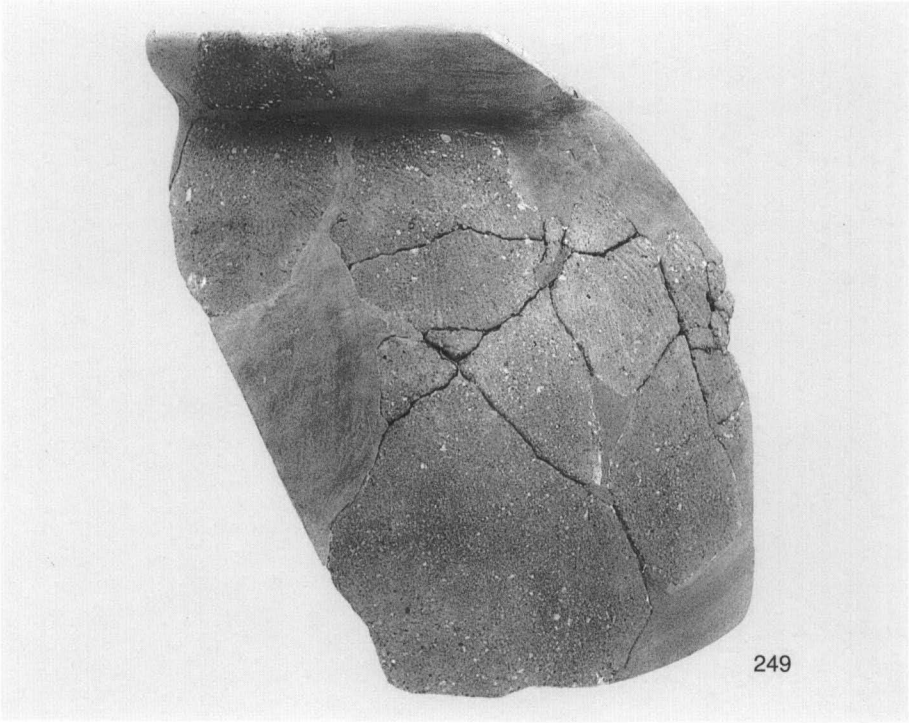

221


222

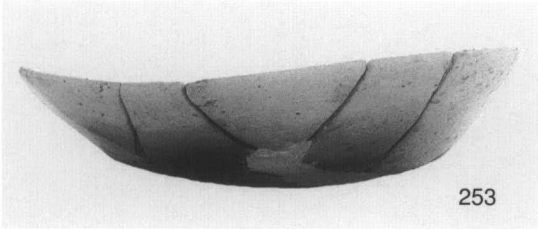
223

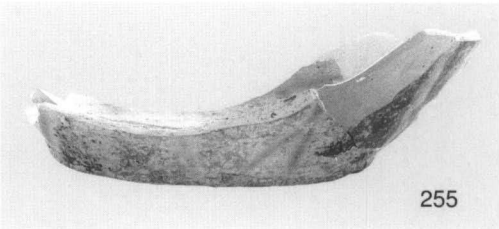
ＳＤ０７　上層出土遺物⑦

（1）ＳＤ０７　下層出土遺物

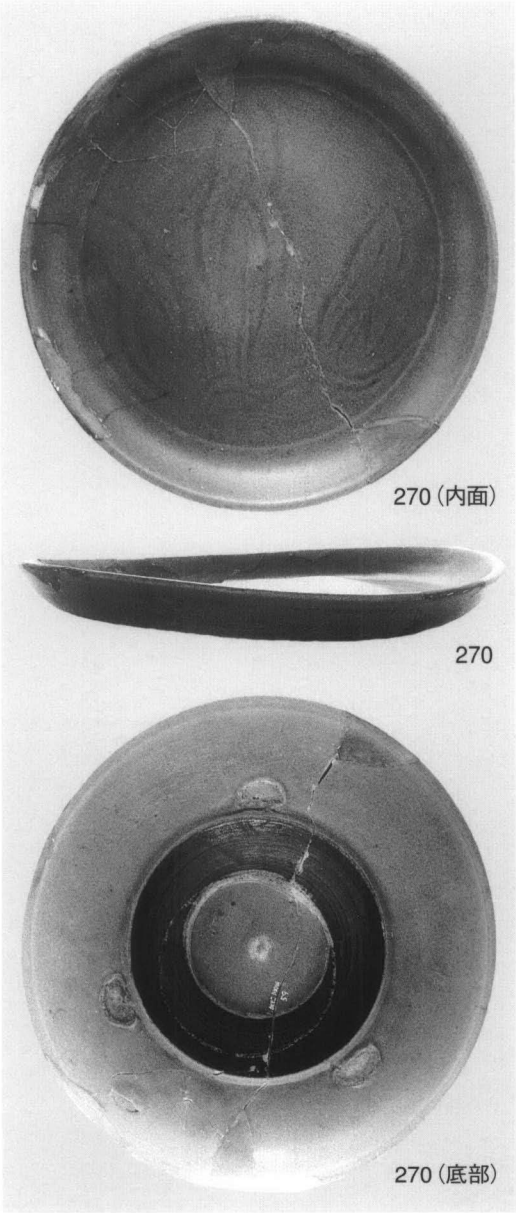


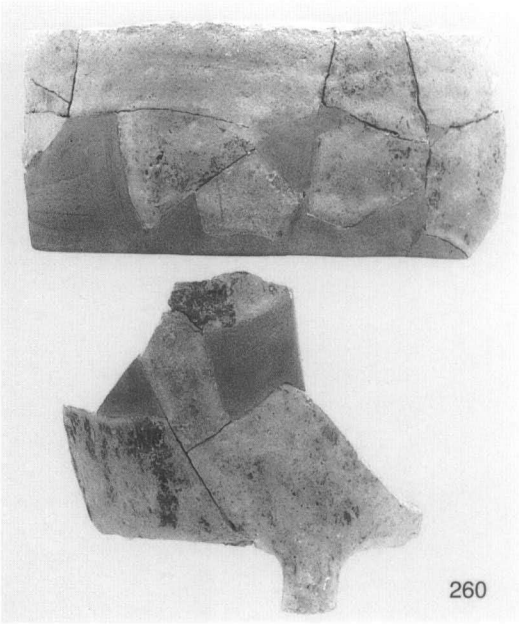
（2）ＳＤ１１　出土遺物

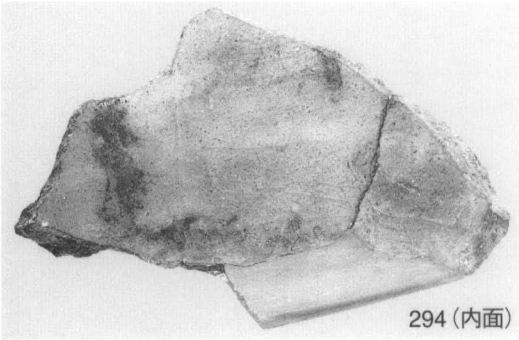


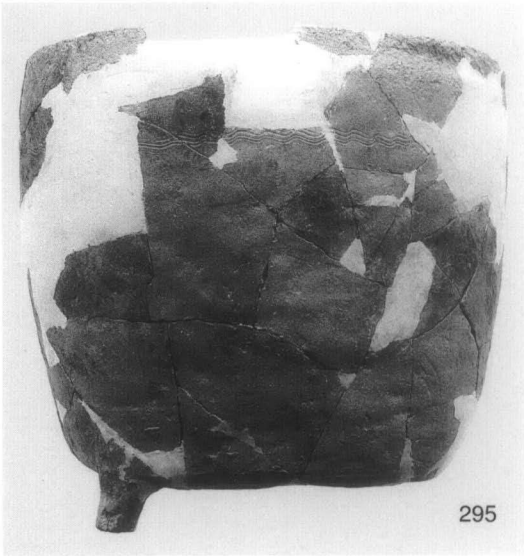


（3）ＳＤ１３　出土遺物

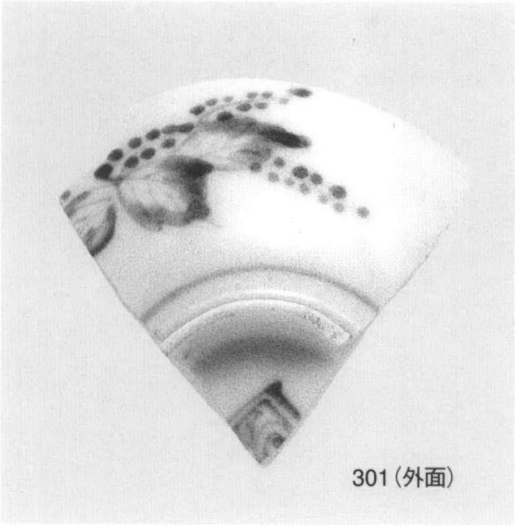


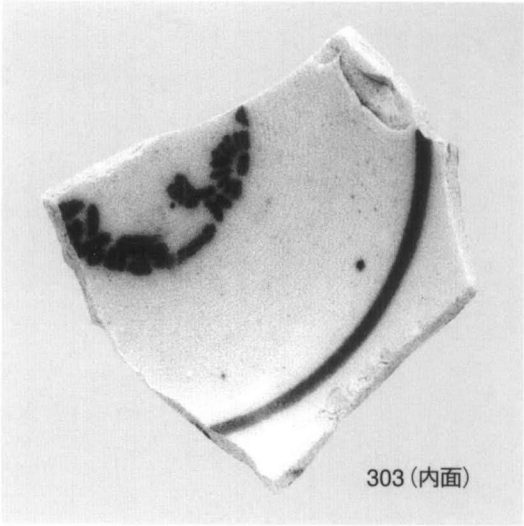


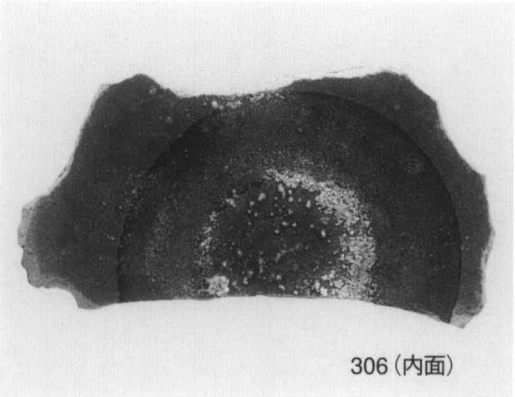


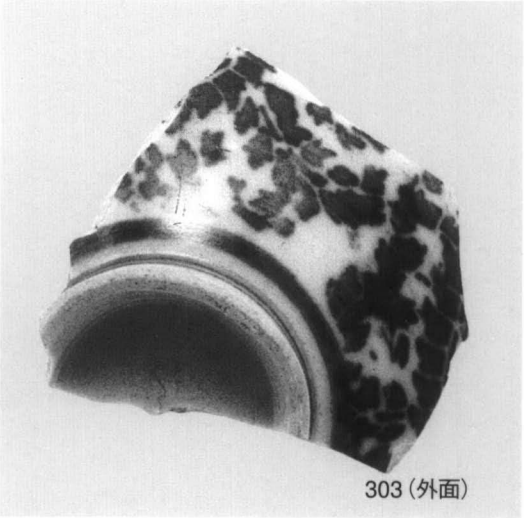


ＳＤ１４　上・下層出土遺物


301（外面）


303（内面）


306（内面）


303（外面）

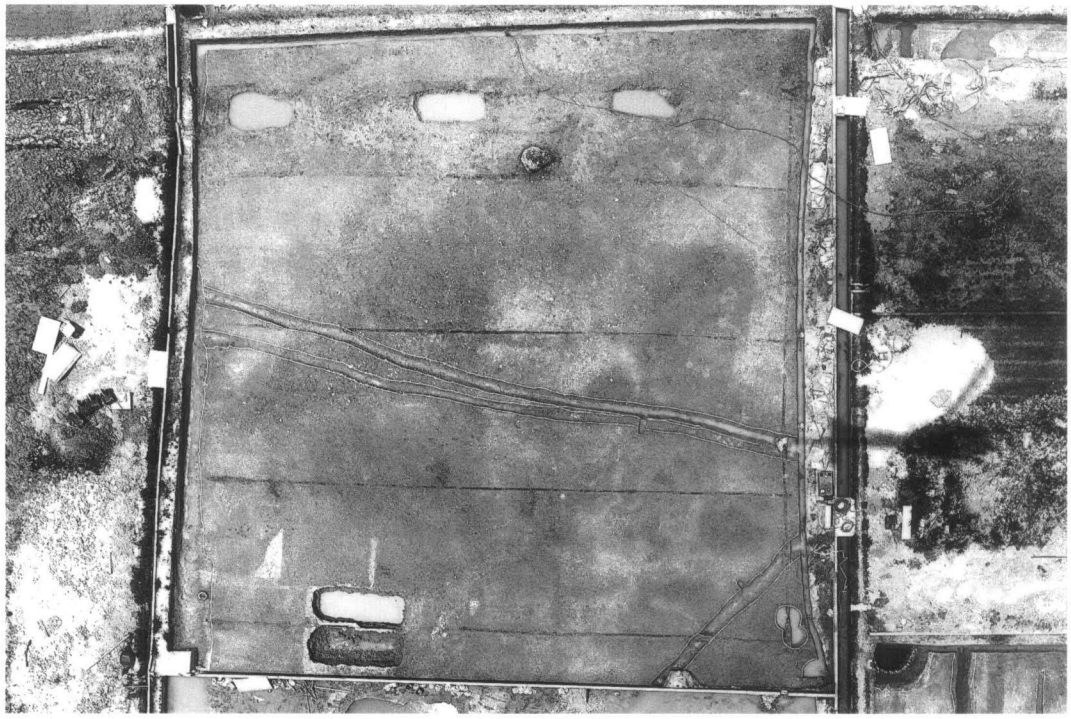
包含層出土遺物

川西北・鍛冶屋遺跡

調査前全景（西から）

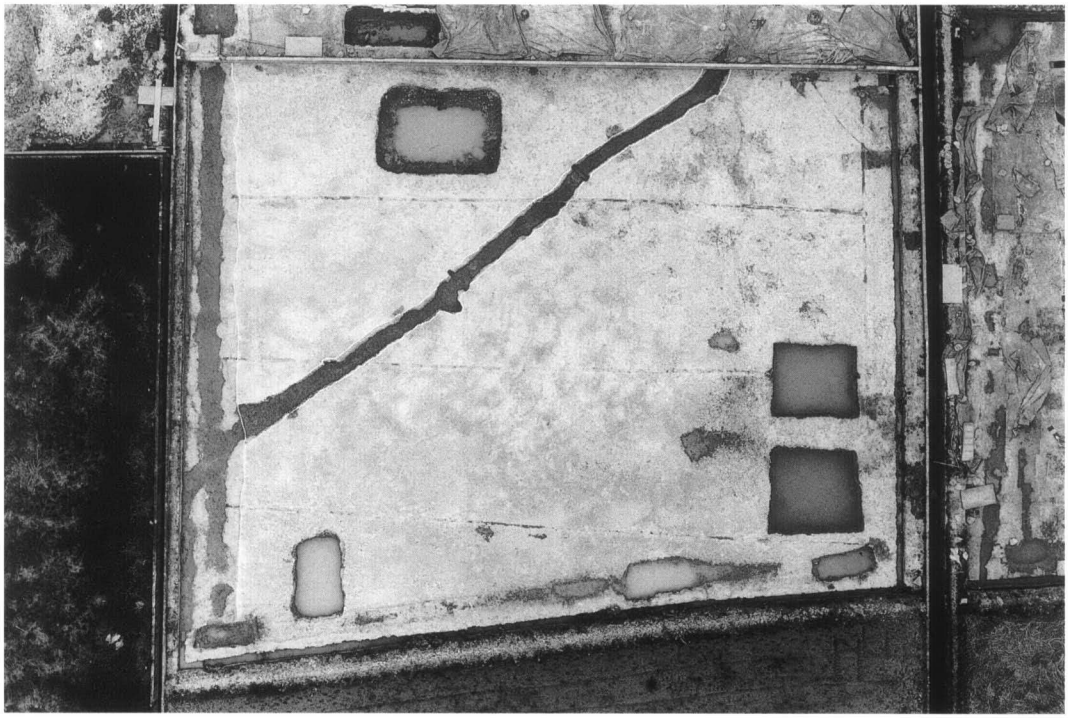
調査前全景（東から）

Ⅰ区① 全景（東から）



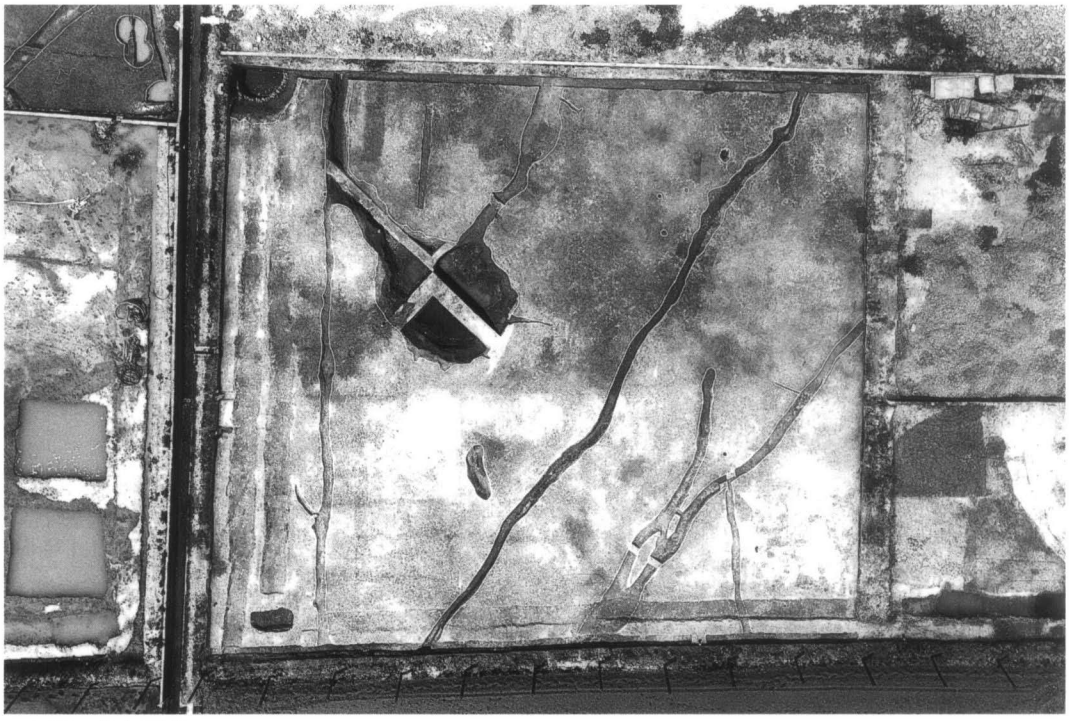
Ⅰ区② 北半空中写真

Ⅰ区② 北半全景（東から）

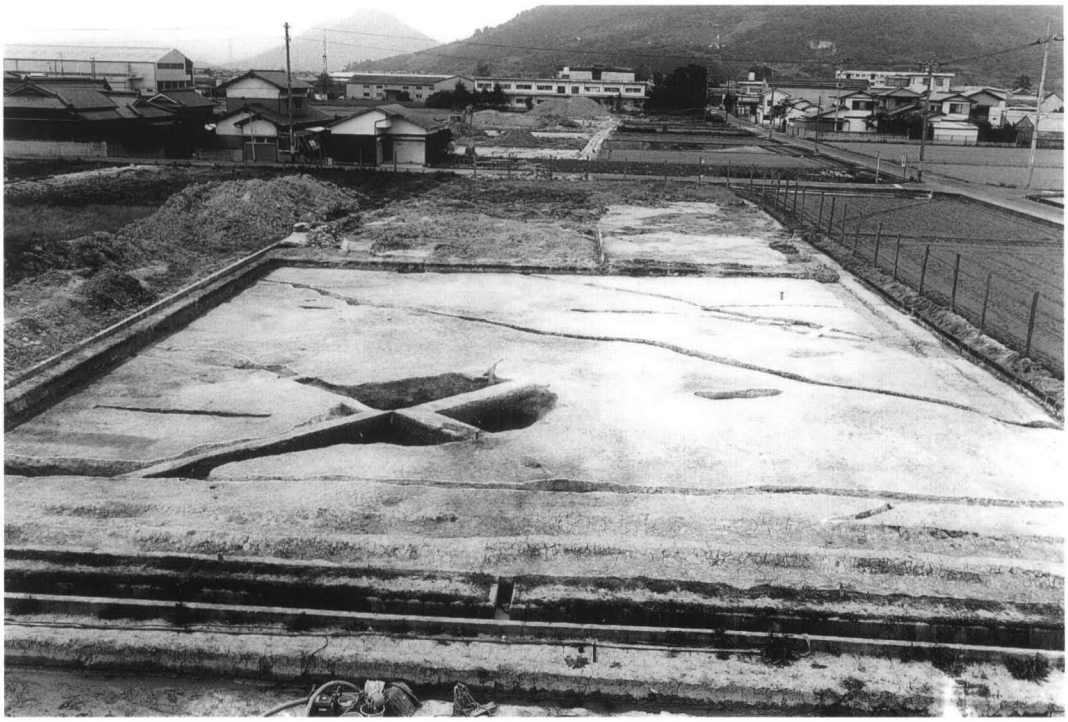


Ⅰ区② 南半空中写真

Ⅰ区② 南半全景（北から）

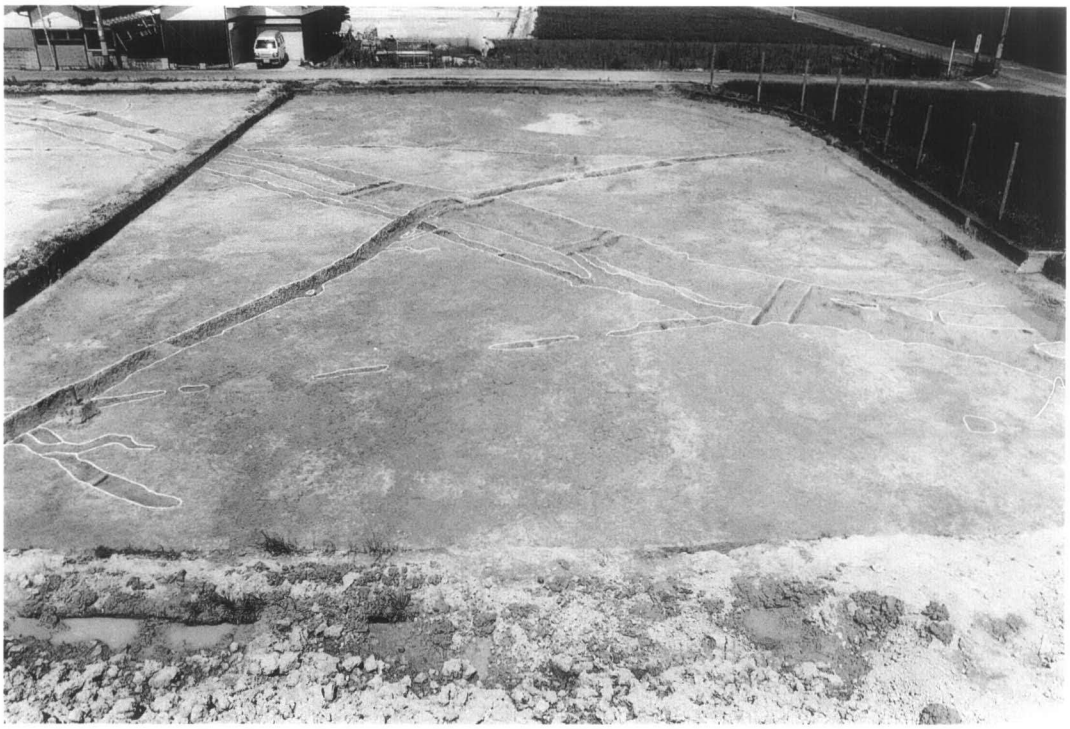


Ⅱ区① 空中写真



Ⅱ区① 全景（西から）

Ⅱ区②③ 空中写真



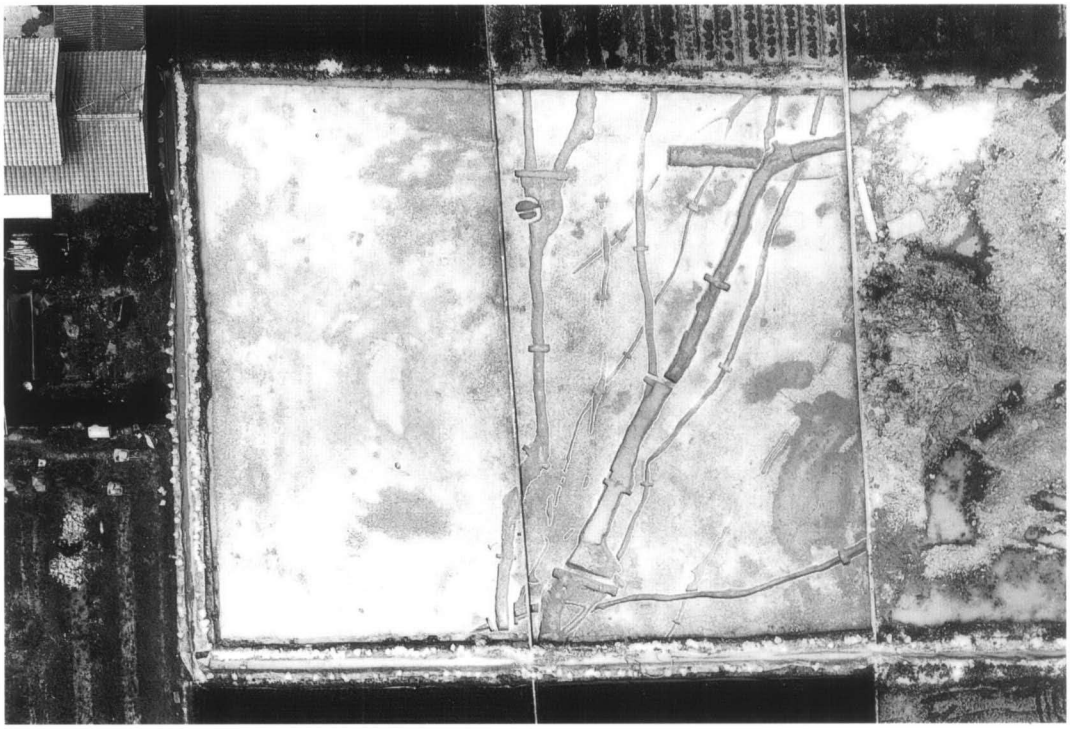
Ⅱ区② 全景（西から）

Ⅱ区②③ 全景（南西から）

Ⅱ区②③ 全景（南西から）

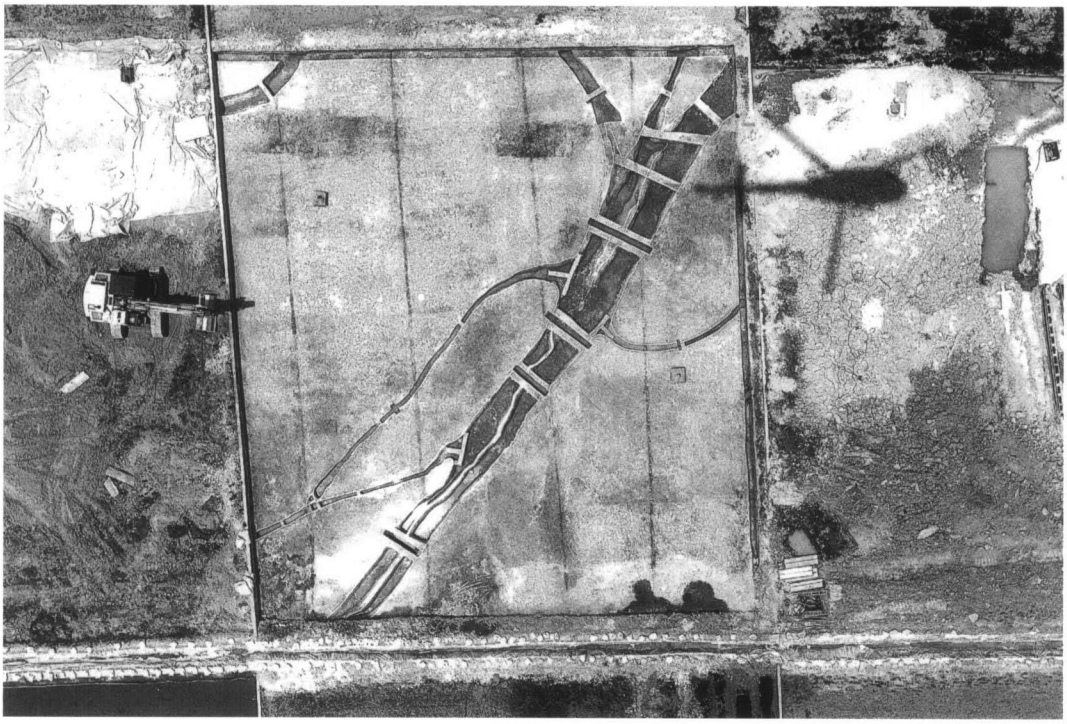
Ⅱ区③ 全景（南から）

川西北・鍛冶屋遺跡

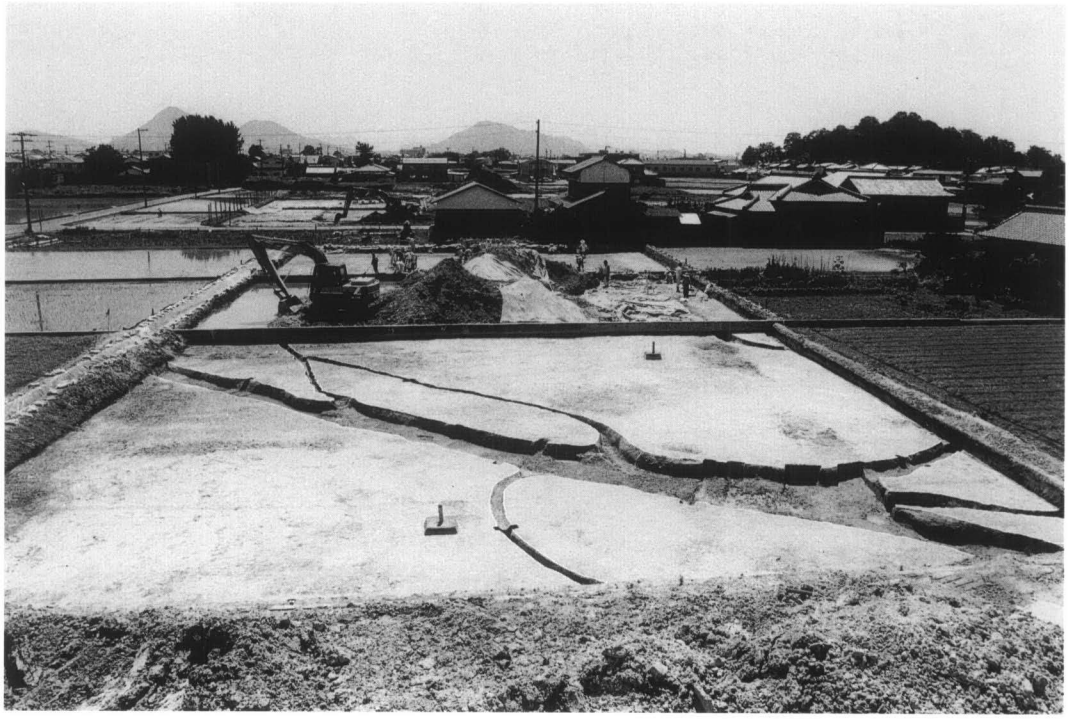


Ⅲ区① 空中写真

Ⅲ区① 全景（東から）

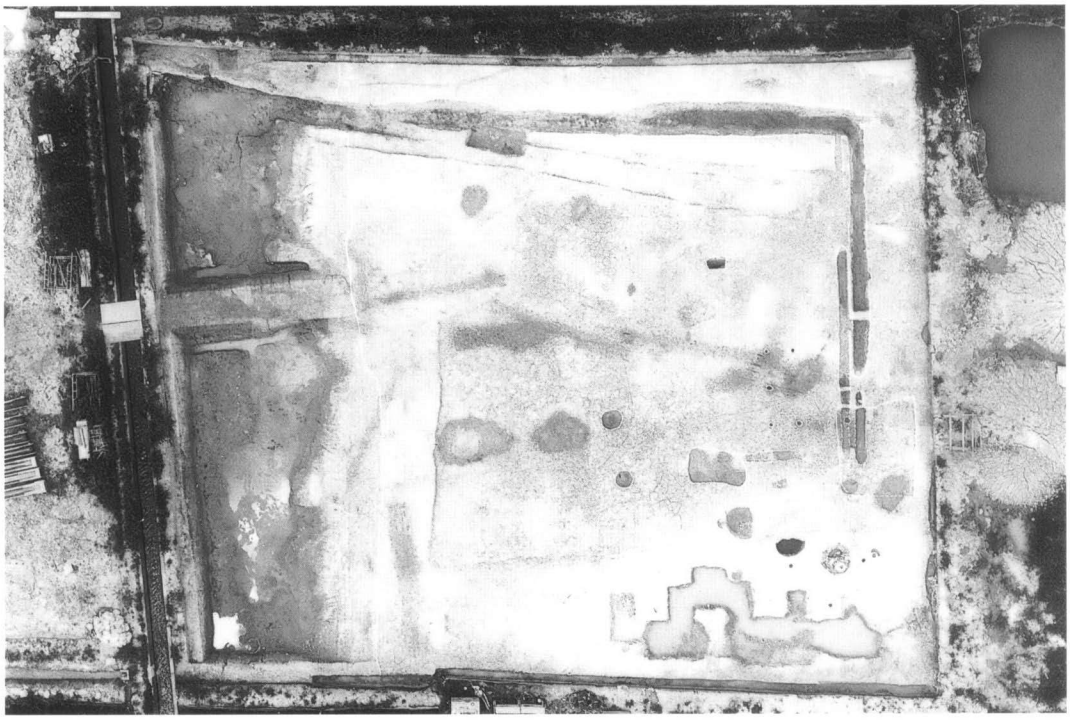


Ⅲ区② 空中写真

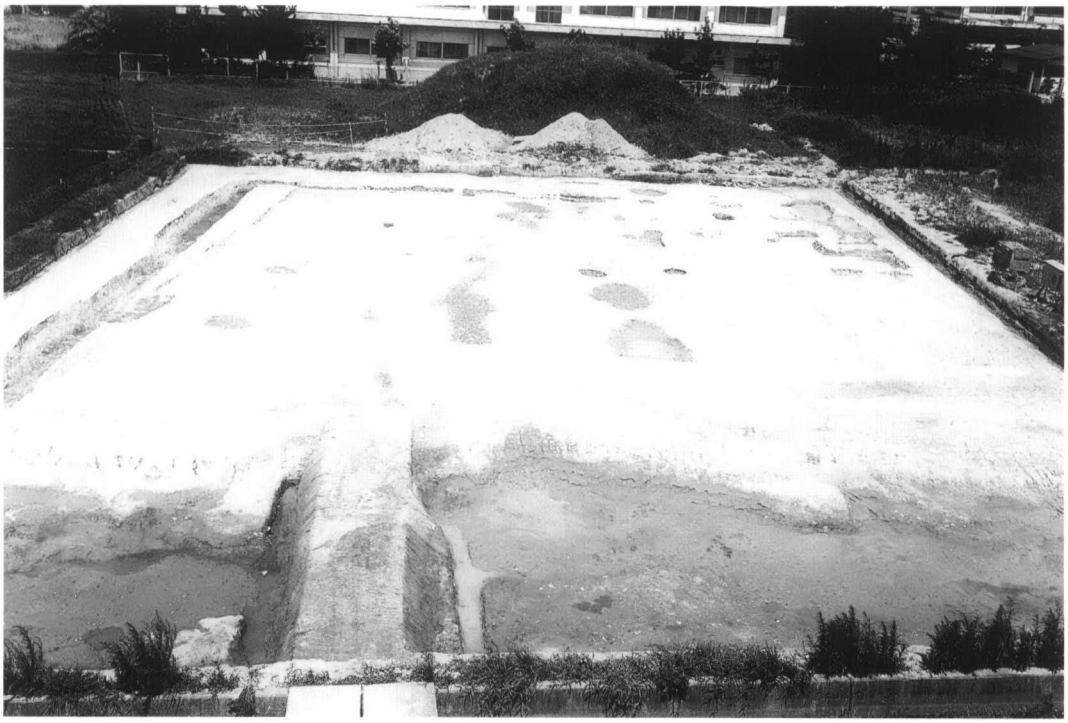


Ⅲ区② 全景（東から）

Ⅲ区③ 全景（東から）

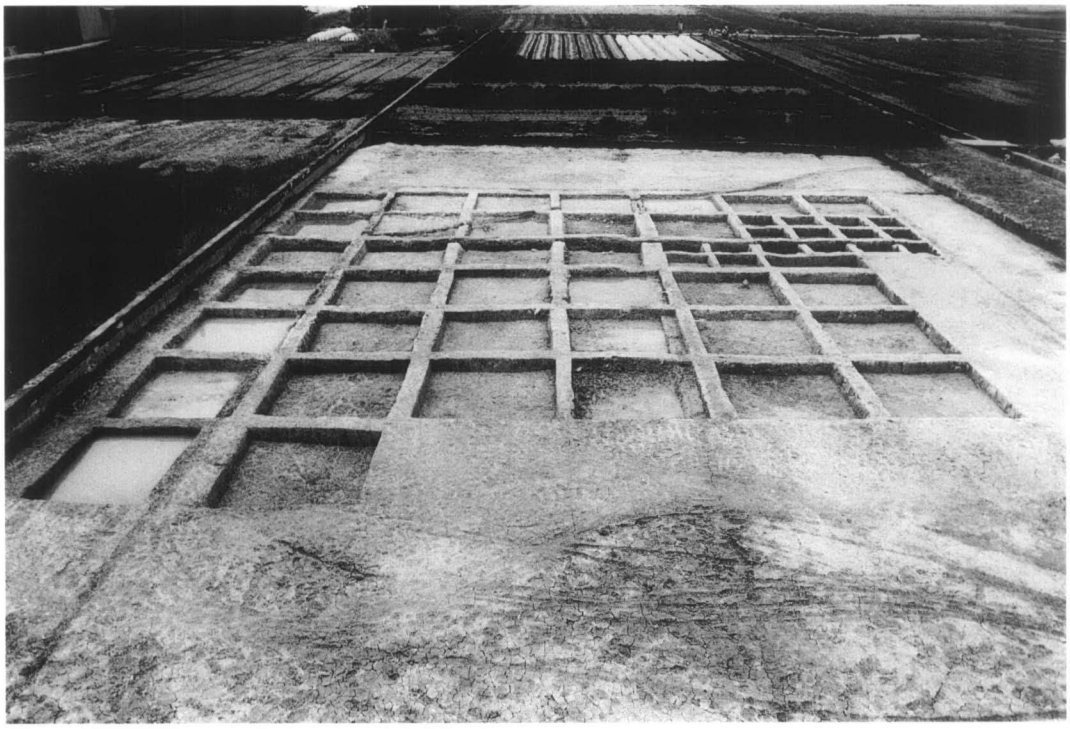


Ⅳ区① 空中写真

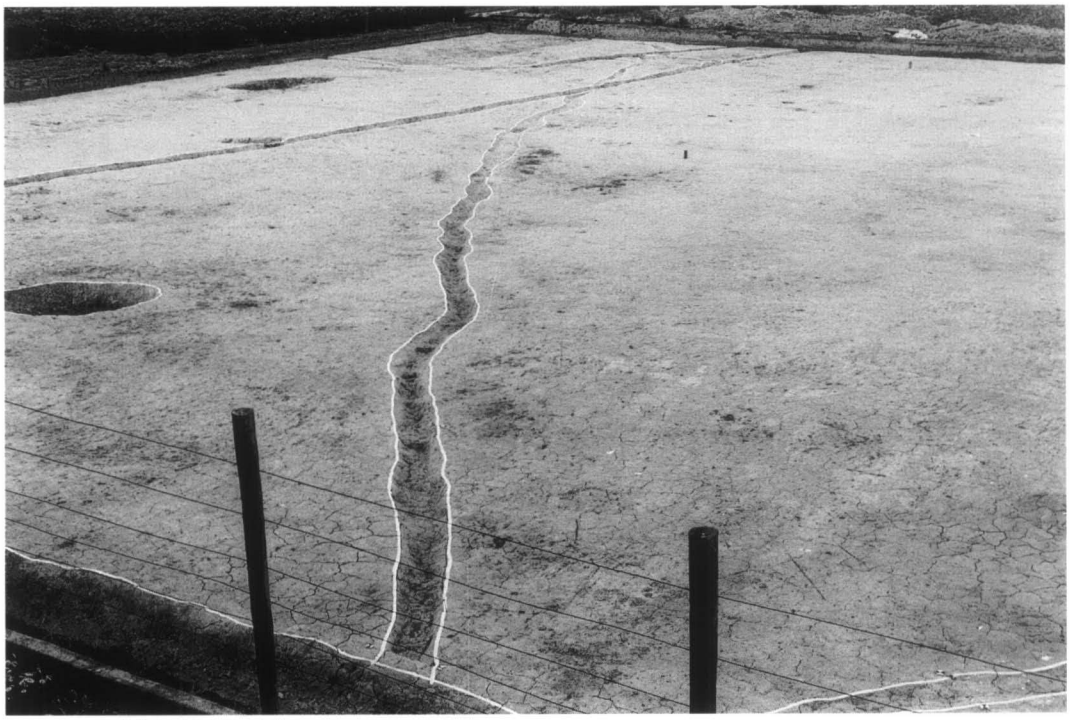


Ⅳ区① 全景（西から）

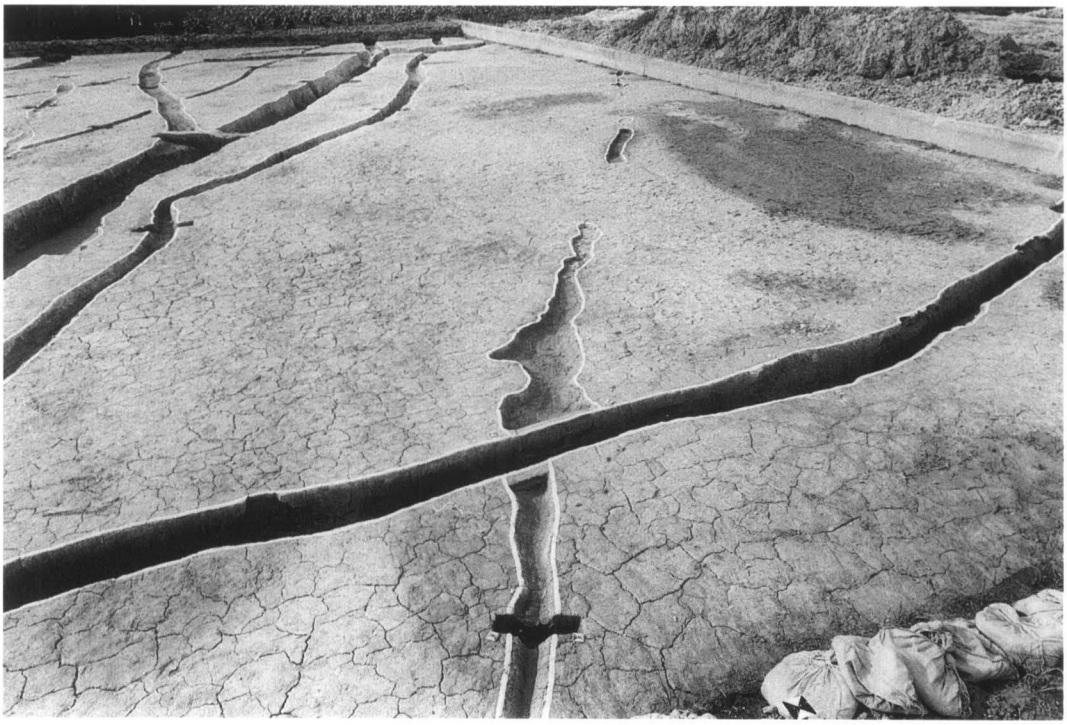
Ⅳ区② 全景（北から）



Ⅲ区③ サヌカイト剝片出土調査区（南から）



ＳＤ０５ 完掘（南西から）



ＳＤ５０・５４　完掘（南から）

ＳＤ５０・５９　完掘（南から）

ＳＤ６４　完掘（北東から）

ＳＸ０１（南から）